

伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡

—仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ—

2013年3月

仙台市教育委員会

伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡

—仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ—

2013年3月

仙台市教育委員会



伊古田遺跡 1区 V層全景（南西より）



伊古田遺跡 1区 SI18 全景（南より）



伊古田道路2B区V層全景（南より）



伊古田道路2B区S19a全景（西より）



伊古田遺跡 2B区S19掘り方カマド周辺・SK4内遺物出土状況（西より）



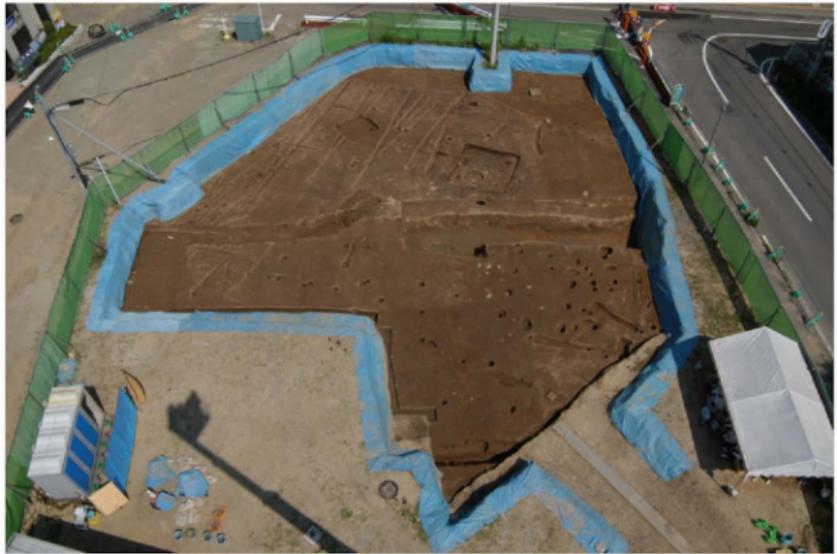
大野田古墳群10区全景（東より）



下ノ内遺跡 6区 V層全景（南より）



下ノ内遺跡 6区 SI458・459 全景（南より）



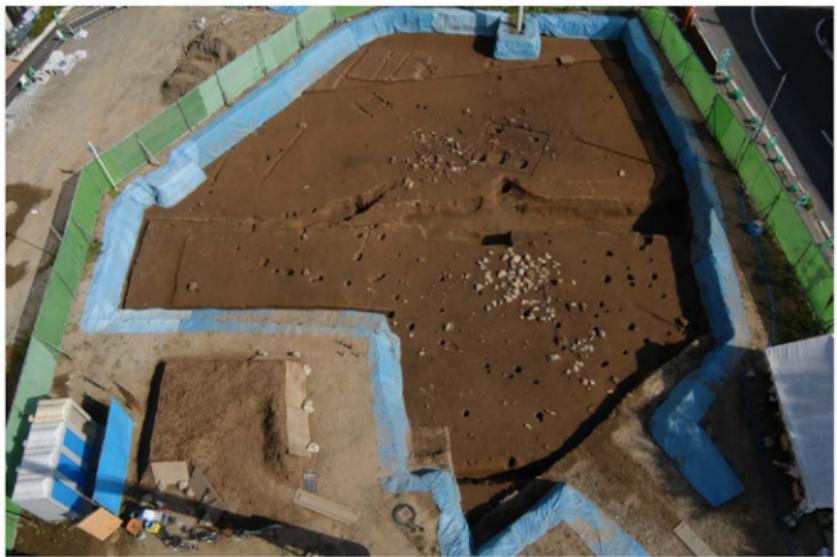
下ノ内遺跡 7 A 区 V 層全景（西より）



下ノ内遺跡 7 A 区 S15 全景（南より）



下ノ内遺跡 7 A 区 S129 炭化材・遺物出土状況（南西より）



下ノ内遺跡 7 A 区 VII 層集石検出状況（西より）



下ノ内道路 7 A 区 VII 層全景（西より）



下ノ内道路 7 B 区 V 層全景（南東より）

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃から多大なご理解とご協力を賜り、まことに感謝にたえません。

富沢駅周辺地区は仙台市東南部、太白区大野田に広がる田園地帯でありましたが、地下鉄南北線の開業を契機として、道路網の整備や宅地化が急速に進む様相がみられる地域がありました。そのような中で、平成6年度から進められてまいりました富沢駅周辺土地区画整理事業につきましても、関係する遺跡が14遺跡に上り、平成25年度を最終調査年度として、発掘調査を実施してまいりました。

今回刊行いたします発掘調査報告書Ⅲは、平成17年度から平成18年度にかけて実施した3遺跡の調査の成果をまとめたものです。

先人達の残した貴重な文化遺産をこれから「まちづくり」の中で保護し、保存活用を図りながら市民の宝として永く後世に伝えていくことが、現代に生きる私たちの責務であると考えております。

平成11年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅰ、同じく23年度に刊行いたしました発掘調査報告書Ⅱと共に、ここに報告する調査成果が広く活用され、地域の歴史を解明していくための貴重な資料となり、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、仙台市では、平成23年3月11日の東日本大震災からの復興に向け、「ともに、前へ仙台～3・11からの再生～」を掲げて、復興計画を進めているところです。未曾有の大震災から2年を迎えたが復興はまだ道半ばといえます。

そうした中、本報告書の刊行にあたりまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

平成25年3月

仙台市教育委員会

教育長 青沼 一民

例 言

1. 本書は仙台市教育委員会による「仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う、伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡の発掘調査報告書である。区画整理事業に伴う本調査は平成7年4月より開始され、現在（平成25年）も継続中である。本書では平成17年度から平成18年度までの調査成果の一部について報告する。
2. 報告書作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、国際文化財株式会社が行った。
3. 調査区のグリッド配置は測量基準線の設定にあたり、事業地内の測量基準点（X=-198.400km・Y=3.800km）を原点とし、東西・南北両方向に10×10mグリッドを組んだ。各調査区の測量はこの基準線上に設定した杭をもとに実行した。測量杭には原点からの方向と距離を組み合わせた数値を「E100・S100」のように表示した。E100は測量基準点から東に100m、S100は南に100mを意味し、国家座標上ではX=-198.500km・Y=3.900kmとなる。なお、遺構図上に表示したグリッドの数値も同様の値を示している。
4. 本書の作成及び編集は仙台市教育委員会文化財課調査指導係 結城慎一、主濱光朗、荒井 格、工藤信一郎、渡部 紀、鈴木 隆、水野一夫、庄子裕美の監理のもと、国際文化財株式会社が行った。
5. 本書の執筆は下記のとおりである。

第1章第1節・第3節・第4節 主濱光朗
第1章第2節・第2章第1節 水上匡彦（国際文化財株式会社）
第2章第2節～第4節 水上匡彦・辻本 彩・佐藤公保（国際文化財株式会社）
第3章 水上匡彦
6. 石器・石製品の石材鑑定については東北大名誉教授蟹澤聰史氏に依頼し、肉眼で鑑定を行った。
7. 調査成果はすでに現地説明会資料、遺跡見学会資料、宮城県遺跡調査成果発表会資料等で一部紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
8. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は仙台市教育委員会で一括保管している。

凡 例

1. 本書の土色については「新版標準土色図」（小山・竹原：1975、1997）を使用した。
2. 国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した場合は図中に示した。
3. 圖中及び本文中に記載の方針の北は、座標北を示している。なお、圖中でE・Sを付した座標値は区画整理事業地内に設定された測量基準点（X=-198.400km・Y=3.800km）からの距離（m）を示し、EはY座標値・SはX座標値に対応する。
4. 圖版中のレベルは海拔標高を示す。
5. 座標値及び海拔標高については、平成23年3月11日の東日本大震災前のものを使用している。
6. 層位名は基本層位をローマ数字、遺構内堆積土については算用数字を使用し、さらに細分される場合はアルファベットを付した。
7. 圖版・表等の番号は伊古田遺跡・大野田古墳群・下ノ内遺跡の報告毎に付している。
8. 本書の検出遺構については次の略号を使用し、遺跡毎に発見順に番号を付した。

SB=掘立柱建物跡	SD=溝跡	SI=竪穴住居跡	SK=土坑
SR=河川跡	SX=性格不明遺構・その他の遺構	P=ピット・柱穴	

なお、小溝状遺構についてはローマ数字と算用数字の組み合わせで示した。
9. 遺構図に使用したスクリーン・トーンは以下の通りである。これ以外については、その都度図中に示した。



柱痕跡



焼土範囲・焼面

10. 本書の出土遺物の分類と登録には次の略記号を使用し、分類毎に登録番号を付した。

A = 繩文土器 C = 土師器（非ロクロ） D = 土師器（ロクロ） E = 須恵器 Ka = 打製石器 Kc = 碰石器
Kd = 石製品 N = 金属製品 P = 土製品

11. 遺物観察表において（ ）は復元値を示している。なお、器高の計測は原則として断面とした。

12. 遺構一覧表において（ ）は推定、〔 〕は検出長を示している。

13. 土器の実測図に使用したスクリーン・トーンは、以下のとおりである。これ以外については、その都度図中に示した。



地文部分(縄文土器展開図)



黒色処理

14. 土製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは、その都度図中に示した。

15. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーン・トーンは以下のとおりである。



節理



マメツ



敲打痕



火ハネ



付着物



被熱による変色



二重バティナ



光沢

16. 石器の分類と登録記号は次ページのとおりである。

石器分類

石器	K	打製石器 Ka	石鏟	有茎 平基 凹基 その他	Ka-a1 Ka-a2 Ka-a3 Ka-a4	牽石匙、不定形石器、二次加工のある剝片、微細剝離痕のある剝片、剝片については、石刃状の縱長剝片に分類番号の後ろに I (ローマ数字の I) を入れる。	
			尖頭器	有茎 無茎 その他	Ka-b1 Ka-b2 Ka-b3		
		石錐	棒状 つまみ付き その他	Ka-c1 Ka-c2 Ka-c3			
		石匙	複型 模型 その他	Ka-d1,Ka-d11 Ka-d2,Ka-d21 Ka-d3,Ka-d31			
		不定形	削器 (石器の側縁に鋭角の刃部を持つもの)		Ka-e1,Ka-e11		
		石器	錘器 (石器の側縁に鈍角の刃部を持つもの)		Ka-e2,Ka-e21		
			鉛衝縁石器 (鉛衝状の刃部を持つもの)		Ka-e3,Ka-e31		
			ノッチ (抉入状の刃部を持つもの)		Ka-e4,Ka-e41		
			円形錘器 (石器の全周縁に刃部を持つもの)		Ka-e5,Ka-e51		
			RF (石器の一部に刃部加工が見られるもの)		Ka-e6,Ka-e61		
			UF (石器の刃部に使用痕 [摩滅、光沢] が見られるもの)		Ka-e7,Ka-e71		
		石製	半両面加工 両面加工	Ka-f1 Ka-f2			
		打製石斧		Ka-g			
		楔形石器 (両極削離による二次加工が明瞭に認められるもの)			Ka-h		
		異形石器			Ka-i		
		二次加工のある剝片 (刃部加工を目的としていない二次加工)			Ka-j,Ka-jl		
		微細剝離痕のある剝片 (微細な剝離痕を有する剝片)			Ka-k,Ka-kl		
		剝片		Ka-l,Ka-ll			
		石核		Ka-m			
		磨製石器 Kb	磨製石斧 船形石斧 石鑿 環状石斧 磨製石鑿 石底丁	Kb-a Kb-b Kb-c Kb-d Kb-e Kb-f			
		縫石器 Kc	磨 磨+凹 磨+嵌 磨+凹+嵌 凹 凹+嵌 嵌 砾石	Kc-a1 Kc-a2 Kc-a3 Kc-a4 Kc-b1 Kc-b2 Kc-c Kc-d			
		石製品 Kd	砥石 石棒 重飾 玉類 (管玉・勾玉・小玉) 石製模造品 石製紡錘車 石臼 容器 石錐 石皿 浮子 不明	Kd-a Kd-b Kd-c Kd-d Kd-e Kd-f Kd-g Kd-h Kd-i Kd-j Kd-k Kd-x			
		その他 Ke					

本文目次

巻頭カラー写真

序文

例言

凡例

第1章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡周辺の環境.....	1
1. 遺跡の位置と地理的環境	1
2. 遺跡周辺の歴史的環境	1
第3節 調査経過.....	4
第4節 報告書の作成	4
第2章 本調査報告.....	6
第1節 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡の基本層序.....	6
第2節 伊古田遺跡.....	8
1. 調査要項.....	8
2. 1区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	8
3. 2 A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	20
4. 2 B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	21
5.まとめ	32
写真図版	35
第3節 大野田古墳群	45
1. 調査要項.....	45
2. 10区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	45
3.まとめ	48
写真図版	49
第4節 下ノ内遺跡	52
1. 調査要項.....	52
2. 6区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	52
2. 7 A区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	78
(3) VII層検出の遺構と遺物	114
4. 7 B区の調査 (1) V層検出の遺構と遺物	130
5.まとめ	146
写真図版	177
第3章 総括	

引用参考文献

報告書抄録

挿図目次

第1章

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡と
周辺の遺跡 2

- 第2図 グリッド及び調査区配置図 3

第2章

第1節

- 第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡
基本層序位置図 6

- 第2図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡
基本層序 7

第2節

- 第1図 伊古田遺跡1区V層遺構配置図 9・10

- 第2図 SI16竪穴住居跡平面図・断面図 11

- 第3図 SI16竪穴住居跡出土遺物 12

- 第4図 SI18竪穴住居跡平面図・断面図 13

- 第5図 SI18竪穴住居跡出土遺物 14

- 第6図 SB1掘立柱建物跡平面図・断面図 15

- 第7図 SK3・6・9土坑平面図・断面図 16

- 第8図 SR22河川跡断面図 16

- 第9図 SD2・4・5・7・8・10・12～15・

- 19・21溝跡断面図 18

- 第10図 SD20溝跡平面図・断面図 19

- 第11図 SD14・15溝跡出土遺物 19

- 第12図 伊古田遺跡2A区V層遺構配置図・

- SD1溝跡断面図 20

- 第13図 伊古田遺跡2B区V層遺構配置図 21

- 第14図 SI1竪穴住居跡・1区SX11・17

- 性格不明遺構平面図・断面図 22

- 第15図 SI1竪穴住居跡出土遺物 23

- 第16図 SI9b竪穴住居跡平面図・断面図 25

- 第17図 SI9b竪穴住居跡平面図 26

- 第18図 SI9a・b竪穴住居跡出土遺物 27

- 第19図 SI9a・b竪穴住居跡出土遺物 28

- 第20図 SB16掘立柱建物跡平面図・断面図 29

- 第21図 SK2～5・12・18～20土坑平面図・

- 断面図 30

- 第22図 SD6～8・10・13～15・17溝跡

- 断面図 32

第3節

- 第1図 大野田古墳群10区V層遺構配置図 46

- 第2図 SK515・516・518土坑平面図・

- 断面図 47

- 第3図 小溝状遺構群断面図 47

- 第4図 遺構外出土遺物 48

第4節

- 第1図 下ノ内遺跡6区V層遺構配置図 53

- 第2図 SI417a・b竪穴住居跡平面図・断面図 55

- 第3図 SI417b・c竪穴住居跡平面図 56

- 第4図 SI417a・b竪穴住居跡出土遺物 58

- 第5図 SI458竪穴住居跡平面図(1) 59

- 第6図 SI458竪穴住居跡平面図(2)・断面図 60

- 第7図 SI458竪穴住居跡平面図(3) 61

- 第8図 SI458竪穴住居跡出土遺物(1) 63

- 第9図 SI458竪穴住居跡出土遺物(2) 64

- 第10図 SI459竪穴住居跡平面図・断面図(1) 65

- 第11図 SI459竪穴住居跡平面図・断面図(2) 66

- 第12図 SI459竪穴住居跡出土遺物 68

- 第13図 SK409・410・422・457土坑平面図・

- 断面図 69

- 第14図 SK423土坑平面図・断面図・出土遺物 70

- 第15図 SR408河川跡断面図 71

- 第16図 SR408河川跡出土遺物 71

- 第17図 SD412・413・418・421・467溝跡

- 断面図 72

- 第18図 SD413・416溝跡出土遺物 72

- 第19図 SD470溝跡平面図・断面図 72

- 第20図 SD416・424・443・461溝跡

- 溝状遺構群 73

- 第21図 P1879出土遺物 75

- 第22図 深窓区配置図 76

- 第23図 IX層出土遺物 76

- 第24図 VI層出土遺物 77

- 第25図 V層出土遺物 77

- 第26図 古墳時代～古代出土遺物 78

- 第27図 下ノ内遺跡7A区V層

- 遺構配置図 79・80

- 第28図 SI5竪穴住居跡平面図・断面図 81

- 第29図 SI5竪穴住居跡出土遺物 82

- 第30図 SI29竪穴住居跡平面図・断面図 83

- 第31図 SI29竪穴住居跡出土遺物 84

- 第32図 SB21掘立柱建物跡平面図・断面図 85

- 第33図 SK3・4・6・35～38・41

- 土坑平面図・断面図 87

- 第34図 SK35土坑出土遺物 88

第35図 SR1・2河川跡断面図	88
第36図 SX43性格不明遺構平面図・断面図	89
第37図 SX43性格不明遺構出土遺物	89
第38図 SD11～13・15・16・19・22・23・ 31～34・39・40・42溝跡断面図	91
第39図 小溝状遺構群断面図	92
第40図 下ノ内遺跡7A区VI層遺構配置図、 SX18・45遺物包含層断面図	93・94
第41図 SX44性格不明遺構平面図・断面図	95
第42図 SX18遺物包含層出土土器(1)	96
第43図 SX18遺物包含層出土土器(2)	97
第44図 SX18遺物包含層出土土器(3)	98
第45図 SX18遺物包含層出土土器(4)	99
第46図 SX18遺物包含層出土土器(5)	100
第47図 SX18遺物包含層出土土器(6)	101
第48図 SX18遺物包含層出土土器(7)	102
第49図 SX18遺物包含層出土土器(8)・ 土製品	103
第50図 SX18遺物包含層出土石器(1)	105
第51図 SX18遺物包含層出土石器(2)	106
第52図 SX18遺物包含層出土石器(3)	107
第53図 SX18遺物包含層出土石器(4)	108
第54図 SX18遺物包含層出土石器(5)	109
第55図 SX45遺物包含層出土土器(1)	110
第56図 SX45遺物包含層出土土器(2)	111
第57図 SX45遺物包含層出土土器(3)	112
第58図 SX45遺物包含層出土土器(4)・ 土製品	113
第59図 SX45遺物包含層出土石器(1)	113
第60図 SX45遺物包含層出土石器(2)	114
第61図 下ノ内遺跡7A区VII層 遺構配置図	115・116
第62図 SK46・48～55土坑平面図・断面図	118
第63図 SK56～65・69～71・75土坑 平面図・断面図	120
第64図 SK66～68・72～74・76・ 78～80土坑平面図・断面図	122
第65図 SK81～90土坑平面図・断面図	124
第66図 VII層土坑出土遺物(1)	125
第67図 VII層土坑出土遺物(2)	126
第68図 SX47・94性格不明遺構平面図・ 断面図	127
第69図 SX47出土遺物	127
第70図 VI・V層出土層位不明土器・土製品	127
第71図 V層出土石器・出土層位不明石器(1)・ 2	128
第72図 出土層位不明石器(2)	129
第73図 古代出土遺物	130
第74図 下ノ内遺跡7B区V層遺構配置図	131
第75図 SI2a竪穴住居跡平面図・断面図(1)	132
第76図 SI2a竪穴住居跡平面図・断面図(2)	133
第77図 SI2b竪穴住居跡平面図・断面図	134
第78図 SI2a・b竪穴住居跡出土遺物(1)	136
第79図 SI2a竪穴住居跡出土遺物(2)	137
第80図 SK1・3～11・13土坑平面図・ 断面図	138
第81図 遺構外出土遺物	139

表 目 次

第1章	
第2節	
第1表 周辺の遺跡一覧表	2
第4節	
第2表 富沢駅周辺 調査区一覧	5
第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査次数	5
第2章	
第2節	
第1表 遺構一覧表	33

第3節	
第1表 遺構一覧表	48
第4節	
第1表 遺構一覧表(1)	141
第2表 遺構一覧表(2)	142
第3表 遺構一覧表(3)	143

写 真 図 版 目 次

第2章	
第2節	
写真図版1	伊古田遺跡（1） 37
写真図版2	伊古田遺跡（2） 38
写真図版3	伊古田遺跡（3） 39
写真図版4	伊古田遺跡（4） 40
写真図版5	伊古田遺跡（5） 41
写真図版6	伊古田遺跡（6） 42
写真図版7	伊古田遺跡出土遺物（1） 43
写真図版8	伊古田遺跡出土遺物（2） 44
第3節	
写真図版1	大野田古墳群、出土遺物 51
第4節	
写真図版1	下ノ内遺跡（1） 147
写真図版2	下ノ内遺跡（2） 148
写真図版3	下ノ内遺跡（3） 149
写真図版4	下ノ内遺跡（4） 150
写真図版5	下ノ内遺跡（5） 151
写真図版6	下ノ内遺跡（6） 152
写真図版7	下ノ内遺跡（7） 153
写真図版8	下ノ内遺跡（8） 154
写真図版9	下ノ内遺跡（9） 155
写真図版10	下ノ内遺跡（10） 156
写真図版11	下ノ内遺跡（11） 157
写真図版12	下ノ内遺跡（12） 158
写真図版13	下ノ内遺跡（13） 159
写真図版14	下ノ内遺跡（14） 160
写真図版15	下ノ内遺跡（15） 161
写真図版16	下ノ内遺跡（16） 162
写真図版17	下ノ内遺跡（17） 163
写真図版18	下ノ内遺跡（18） 164
写真図版19	下ノ内遺跡（19）、出土遺物（1） 165
写真図版20	下ノ内遺跡出土遺物（2） 166
写真図版21	下ノ内遺跡出土遺物（3） 167
写真図版22	下ノ内遺跡出土遺物（4） 168
写真図版23	下ノ内遺跡出土遺物（5） 169
写真図版24	下ノ内遺跡出土遺物（6） 170
写真図版25	下ノ内遺跡出土遺物（7） 171
写真図版26	下ノ内遺跡出土遺物（8） 172
写真図版27	下ノ内遺跡出土遺物（9） 173
写真図版28	下ノ内遺跡出土遺物（10） 174
写真図版29	下ノ内遺跡出土遺物（11） 175
写真図版30	下ノ内遺跡出土遺物（12） 176

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

仙台市南部地域でも都市化の進展に伴って、副都心構想をはじめとする都市環境の整備事業が進展しつつある。大野田地区周辺は高速鉄道南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域であった。このような中、土地区画整理事業を具体化する協議が始まり、平成5年10月13日付で「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業」(以下、本報告書では「本事業」とする。)に係わる埋蔵文化財の調査依頼が都市整備局より提出された。本事業は同年12月14日付で都市計画決定がなされた。調査依頼に対する回答は、平成6年2月8日付で本事業地内の都市計画道路及び区画道路の部分等を対象に発掘調査を実施することを回答した。

本事業予定地は市内でも特に多くの遺跡が集中して分布する地域で、大野田遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、春日社古墳、王ノ壇古墳、鳥居塚古墳、大野田古墳群、下ノ内遺跡、王ノ壇遺跡、皿屋敷遺跡、袋前遺跡の12遺跡が知られており、遺跡の時代も縄文時代から近世まで広範囲に及んでいた。

平成6年9月から平成7年11までの期間、本事業地内で試掘調査を実施し、六反田遺跡の範囲を北東側へ拡大し、伊古田遺跡の南東に伊古田B遺跡を新規に登録した。春日社古墳は、大野田古墳群では王ノ壇古墳と並んで、墳丘の残存する古墳であったが、都市計画道路「郡山・折立線」のルート変更により、路線敷きに入り、試掘調査の結果を受けて、本調査後墳丘は消滅することとなった。本発掘調査は試掘調査と並行して平成7年5月から実施した。

また、袋前遺跡の平成13年度の2A・B区の調査以降、古代の大型掘立柱建物跡や大溝が発見され、更に平成16年度の大野田古墳群9A区、平成19年度の六反田遺跡4B区で、大型掘立柱建物跡が検出され、大溝が方形に巡る範囲内に大型掘立柱建物跡が規則的に配置された状況が明らかになった。さらに平成21年度に国庫補助事業による遺構確認調査が実施され、多賀城以前の陸奥国府である郡山遺跡に関連する重要な古代官衙の遺構群であることが明らかになったとして、同年7月に大野田官衙遺跡として、新規に登録し、本事業地内の遺跡数は14遺跡となった。

第2節 遺跡周辺の環境

1. 遺跡の位置と地理的環境

伊古田遺跡、大野田古墳群、下ノ内遺跡を含む大野田地区は、仙台市の南部、名取川下流の北岸部にあたる。河口から約8.8kmに位置し、太白区富沢四丁目、大野田字元袋・袋前・イコタ・千刈田・塚田・宮・宮脇・王ノ壇・五反田・六反田・竹松・皿屋敷に所在する。これらの地点はJR長町駅の南西～南南西約1～1.7kmにあたり、遺跡は東西約800m・南北約450mの範囲に分布する。

仙台市域の地形は、西部の丘陵地帯と東部の海岸平野に二分され、海岸平野の中で大野田地区を含む地域は郡山低地と呼称されている。南縁を名取川、北縁を広瀬川に囲まれた沖積地で、北西縁は青葉山丘陵で画されているほか、太白山に源を発する笊川などの小河川が低地内を曲流している。このため、これら河川の影響を強く受け、沖積地の中でも自然堤防・旧河道・後背湿地が複雑に入り組んだ地形となっている。

標高は約12mで、遺跡の構成土壤はシルト・粘土質シルト・砂質シルトが主体をしめる。調査以前の土地利用は水田畠地もしくは宅地である。

2. 遺跡周辺の歴史的環境

大野田地区を中心とした名取川下流域は仙台市内でも数多くの遺跡が分布する地域であり、近年の土地開発に伴い発掘調査例も増加している。

大野田地区の周辺には、先史時代では後期旧石器時代の湿地林や焚き火跡のほか、弥生時代中期の水田跡が発見された富沢遺跡、縄文時代早期の堅穴住居跡や縄文時代後期・弥生時代後期の墓域が発見された下ノ内浦遺跡、縄文時代中期～後期の遺構・遺物が多数発見された伊古田遺跡・六反田遺跡・下ノ内遺跡がある。古墳時代では大野田古墳群で春日社古墳や王ノ壇古墳、前方後圓墳の鳥居塚古墳をはじめとし、40基以上の円墳が確認されている。また、

第2節 遺跡周辺の歴史的環境



※ ●は古墳

第1図 富士駅周辺土地区域面整理事業関係遺跡と周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	説教跡	自然堤防	集落跡	獨立・古墳・歩道・平安	23	北日城跡	自然堤防	城跡・集落跡	獨立・歩道・古墳・平安・中世・近世
2	伊古田北遺跡	自然堤防	耕作地	古墳・歩道・平安	24	喜光城跡	自然堤防	城跡	中世
3	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡・堤跡	獨立 (歩)・歩道・古墳・奈良・平安・中世	25	小日城跡	丘陵	城跡	近世
4	大野田古墳群	古墳・集落跡	獨立・歩道・古墳・平安・中世	26	磐梯山城跡	丘陵	城跡・古墳	古墳・歩道	
5	上ノ内古墳	自然堤防	古墳	古墳	27	八木子城跡	丘陵	城跡・古墳	古墳
6	春日井古墳	自然堤防	古墳	古墳	28	御身守城跡	丘陵	城跡・古墳	古墳・歩道
7	白石原古墳	自然堤防	古墳	古墳	29	さき城跡	丘陵	城跡	中世
8	大野田古墳跡	自然堤防	古跡	古墳・奈良	30	さき城跡	丘陵	城跡・古墳	古墳・歩道
9	王ノ堀遺跡	自然堤防	集落跡・水路跡	獨立 (歩)・歩道・古墳・奈良・平安・中世	31	鬼塚古墳跡	丘陵	古墳	古墳
10	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	獨立 (歩)・歩道・古墳・奈良・平安・近世	32	二ツ河内城跡	丘陵	城跡	古墳・奈良
11	五反田古墳	自然堤防	古墳	古墳	33	一塙古墳跡	丘陵	古墳	古墳
12	五反田石塚墓	自然堤防	石塚	古墳	34	二塙古墳	丘陵	古墳	古墳
13	五反田木塚墓	自然堤防	石塚	古墳	35	砂野古墳	丘陵	古墳	古墳
14	伊古田遺跡	自然堤防	集落跡	獨立・平安	36	上ノ内城跡	丘陵	集落跡	獨立・歩道・古墳・奈良・平安
15	下ノ内城遺跡	自然堤防	集落跡・堤跡	獨立 (歩)・前 (後)・歩道・古墳・奈良・平安・中世	37	上ノ内六幡城跡	丘陵	城跡	古墳・奈良
16	山口遺跡	自然堤防	耕作地	古跡	38	今井内六幡	丘陵	古跡	古墳
17	益母遺跡	耕作地	集落跡・水田跡	独立 (歩)・獨立 (歩)・歩道・古墳・奈良・平安・中世・近世	39	御町古墳	丘陵	古墳	古墳
18	恩賜塗遺跡	自然堤防	水田跡	獨立 (歩)・歩道・古墳・平安	40	御町御跡	丘陵斜面	古跡	古墳・奈良・平安
19	元気遺跡	自然堤防	集落跡・堤跡	奈良・平安・中世・近世	41	山田上・山田遺跡	丘陵	集落跡	独立 (歩)・獨立 (歩)・歩道・古墳・平安・中世・近世
20	大野田遺跡	自然堤防	集落跡	獨立 (歩)・独立 (歩)・古墳・奈良・平安・平安	42	山田新守遺跡	丘陵	城跡	獨立・平安・近世
21	郡山遺跡	自然堤防	集落跡	古跡開拓跡・寺跡跡	43	上野遺跡	丘陵	古跡	獨立・平安・近世
22	西子柴遺跡	自然堤防	集落跡	獨立 (歩)・古墳・奈良・平安・中世・近世	44	古川遺跡	丘陵	古跡	獨立・平安・近世
					45	御身塚古墳	丘陵	古跡	古墳
					46	7林城跡	丘陵	自然堤防	古墳・古跡・集
					47	法螺塚古墳	丘陵	自然堤防	古墳
					48	柳ヶ丘古墳跡	丘陵	自然堤防	開拓地
					49	木戸遺跡	丘陵	自然堤防	集落跡
					50	美野寺城跡	丘陵	城跡	古墳・奈良

伊古田遺跡、下ノ内遺跡、袋前遺跡では古墳時代前期～中期の集落跡が確認されている。古代では本事業に伴う発掘調査により大野田古墳群、袋前遺跡、六反田遺跡の3遺跡にまたがる大野田官衙遺跡が発見されている。中世～近世では屋敷跡や奥大道と推定される道路跡が検出された王ノ塙遺跡、近世では堀跡や屋敷跡が検出された元袋遺跡がある。

このように、本事業地内だけをみても各時代の遺構・遺物が多数確認されており、発掘調査の結果、大野田地区を含む周辺地域で先史時代から近世にいたるまで連続と統いていた人々の活動の痕跡が明らかになりつつある。なお、大野田地区及び周辺地域の歴史的環境の詳細は『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか-仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II』(仙台市教委 2011b)を参照されたい。



第2図 グリッド及び調査区配置図

第3節 調査経過

本事業に伴う本調査は、平成7年5月、大野田古墳群1A区から着手し、平成10年度までに調査を終了した大野田古墳群1～4区(2・3区で鳥居塚古墳第2次調査を実施)、王ノ墳遺跡1区、六反田遺跡1区、伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区のうち、平成10年度に着手した伊古田B遺跡、袋前遺跡を除く調査成果は平成10年度に「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I(第243集)」として刊行した。平成11年度から下ノ内遺跡1～5区、12年度から大野田古墳群5～9区、13年度から袋前遺跡2・3区、14年度から伊古田B遺跡2・3区の調査を16年度までに実施し、15年度には王ノ墳古墳の第2次調査を行った。王ノ墳古墳は公園として整備されることから一部を除いて遺構の確認調査にとどめ、振り込み調査は実施していない。以上の平成11～16年度の調査成果に伊古田B遺跡1区、袋前遺跡1区と平成19年度に主体部から革盾が出土した春日社古墳、平成21年度までに明らかとなった大野田官衙遺跡の成果を加えて、平成23年度に「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II(第390集)」として報告した。平成17年度から元袋遺跡1・2区、六反田遺跡2～4区、伊古田遺跡1・2区、大野田古墳群10～12区、下ノ内遺跡6～8区、袋前遺跡5区の調査を行った。この大野田古墳群12D区の調査に春日社古墳2次調査が含まれ、革盾が発見された。この革盾は、保存処理され、一般に公開されている。これらの平成17・18年度の調査成果のうち、伊古田遺跡1・2区、大野田古墳群10区、下ノ内遺跡6・7区の調査成果を本書にまとめて「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書III(第413集)」として報告する。平成19～21年度の調査成果の一部は「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書IV(第414集)」として報告し、平成22～24年度の調査成果はまとめて報告する予定である。

第4節 報告書の作成

本報告書は「仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書」の第3冊目となり、第2表、第3表に示した、網掛けの部分を対象としている。各発掘調査の要項は、第2章の各節に記述している。当初、報告書の作成は平成22・23年度の予定であったが、平成23年3月11日の東日本大震災により、滞った22年度の業務を平成23年度に実施し、報告書の刊行は24年度とした。報告書の作成体制は以下のとおりである。

・平成22年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

専門員 結城慎一 主査 主演光朗 主任 工藤信一郎 渡部 紀

主事 鈴木 降 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 田村典雄 調査員 繼 実 調査補助員 内田恭司 長内礼二

整理期間：平成22年10月8日～平成23年3月31日

・平成23年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主演光朗 主任 工藤信一郎 主事 鈴木 降 水野一夫 庄子裕美

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 前川雅夫 調査員 佐藤 洋

整理期間：平成23年9月22日～平成24年3月30日

・平成24年度

整理担当：仙台市教育委員会文化財課調査指導係

主査 主演光朗 荒井 格

整理組織：国際文化財株式会社

主任調査員 前川雅夫 水上匡彦 調査員 田中美穂 辻本 彩 調査補助員 佐藤公保

整理期間：平成24年6月4日～平成25年3月29日

第2表 富沢駅周辺 調査区一覧

調査年度	大野田 3次調査	元袋 4次調査	六反田 5次調査	伊古田 3次調査	春日社古墳 2次調査	王ノ塙古墳 2次調査	鳥居塚古墳 2次調査	大野田 古墳群 5次調査	下ノ内 6次調査	王ノ塙 2次調査	組屋敷 2次調査	袋前 1次調査	伊古田B 1次調査
H 7									1				
H 8								2次・1	2		1		
H 9				1				2次・2	3		道路踏査		
H 10									4			1	1
H 11										1			
H 12									5	2			
H 13									6	3		2	
H 14									7	4			2
H 15							2次		8	5		3	
H 16									9			4	3
H 17	1	2	1						10	6			
H 18		3	2						11	7			
H 19		2	4		2次				12+11D	8		5	
H 20	1	3	5						13	9		1	
H 21		6A+B+E～G	3						14	10			4
H 22		6B-5-6C-6D-7	4						15			6	5
H 23		7F-2*8D	4A-5						16				
H 24		8B-8C-9	6						16A+17				

※斜掛け部分が本報告書掲載調査区。大野田官道跡に関する調査は、六反田道路2B・5C・6A区、大野田古墳群5A・9A・13B・13C・14B区、袋前道路2A・2B・3区で、その他の調査事務による調査がある。それらの成果を合わせて報告書Ⅱ(第390集)で報告した。

第3表 富沢駅周辺 遺跡別調査次数

調査次数	大野田	元袋	六反田	伊古田	春日社古墳	王ノ塙古墳	鳥居塚古墳	大野田 古墳群	下ノ内	王ノ塙	組屋敷	袋前	伊古田B
1次	癒創膏・型枠	羽根毛・30集	羽根毛・34集	羽根毛・38集	羽根毛・39集	癒創膏・28集	点置・18集	羽根毛・30集	癒創膏・26集	羽根毛・30集	癒創膏・28集	羽根毛・30集	癒創膏・型枠
2次	羽根毛・20集	羽根毛・18集	羽根毛・18集	羽根毛・18集	羽根毛・18集	羽根毛・18集	羽根毛・20集						
3次	羽根毛・18集	羽根毛・22集	羽根毛・22集	羽根毛・22集	羽根毛・22集	羽根毛・22集	羽根毛・22集						
4次		羽根毛・18集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・28集
5次		羽根毛・30集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集
6次		羽根毛・34集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集
7次		羽根毛・38集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集
8次		羽根毛・38集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集
9次		羽根毛・38集						羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集	羽根毛・38集
10次								羽根毛・30集					
11次									羽根毛・30集				
12次										羽根毛・30集			
13次										羽根毛・30集			
14次											羽根毛・30集		
15次											羽根毛・30集		
16次											羽根毛・30集		
17次											羽根毛・30集		
18次											羽根毛・30集		
19次											羽根毛・30集		

※第2・3表のアミ掛け表示は、本報告書で報告があることを示す。

第2章 本調査報告

第1節 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の基本層序

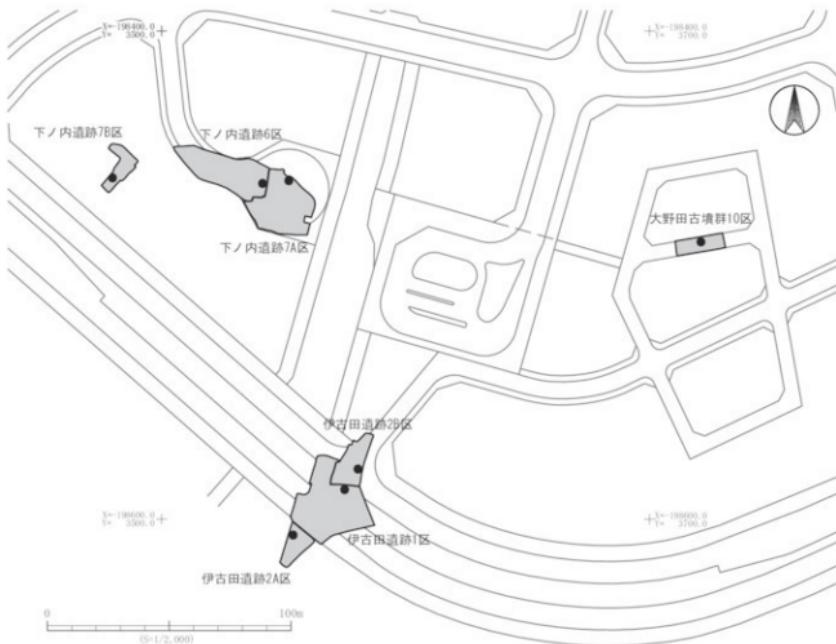
本報告書における富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡の調査は、3遺跡7調査区に及ぶ。これらの調査区は、いずれも近・現代の土地造成や畑・水田耕作によって少なからず削平されているものの、各調査区で遺存状況の良好な地点の土層を基本層序とし、検討した。以下、各層の特徴について記載する。

I層：現代の畑・水田耕作土である。色調は黒褐色や黄褐色等の褐色系や灰黄色で、土質はシルトや粘土質シルト等、土色および土質とともに各調査区において様相が異なる。下ノ内遺跡6・7B区、大野田古墳群10区では層下部に酸化鉄を含む。層厚は9～47cmである。

II層：色調は暗褐色または黄灰色、土質はシルト質粘土・シルト・粘土質シルトと調査区により様相が異なる。I層と同じく層下部に酸化鉄を多く含む。層厚は2～10cmである。

III層：に赤い黄褐色シルトでマンガン粒を斑状に多く含む。大野田古墳群10区北側で僅かに確認され、層厚は2～6cmである。

IV層：伊古田遺跡2B区、下ノ内遺跡6・7A区は褐色シルト・シルト質粘土、大野田古墳群10区及び下ノ内遺跡7B区では、暗褐色シルトないし粘土質シルトである。いずれも酸化鉄やマンガン粒を含む点で共通する。層厚は



第1図 富沢駅周辺土地区画整理事業関係遺跡基本層序位置図

3～22cmである。

V層：古墳時代～古代の遺構検出面である。色調はにぶい黄褐色ないし暗褐色で概ね共通するが、土質はシルトないし砂質シルト・シルト質粘土と調査区で様相が異なる。層厚は3～24cmである。

VI層：色調はにぶい黄褐色・暗褐色など褐色系を基調とするが、土質はシルト・砂質シルト・粘土質シルト・シルト質粘土と調査区により様相が異なる。下ノ内遺跡7A区では縄文時代後期中葉の遺物包含層である。層厚は11～17cmである。

VII層：色調は褐色ないし暗褐色、土質はシルト・砂質シルト・シルト質粘土である。層厚は11～46cmである。伊古田遺跡2B区では色調の違いにより2層に細分される。VIIa層はにぶい黄褐色シルトで灰色砂質シルトを含み、層厚は4～21cm、VIIb層は灰黃褐色シルトで層厚は5～22cmである。下ノ内遺跡7A区では縄文時代後期中葉の遺構検出面である。

VIII層：色調は褐色や黒褐色等の褐色系もしくは暗オリーブ黒色で、土質はシルトや砂質シルト・シルト質粘土等、土色および土質とともに各調査区において様相が異なる。大野田古墳群10区では炭化物粒を多く含む。下ノ内遺跡6区では調査区東側で部分的に確認される。層厚は7～44cmである。

IX層：伊古田遺跡2B区、大野田古墳群10区、下ノ内遺跡6・7B区で確認された。灰黃褐色シルトないし褐色シルトである。層厚は6～35cmである。

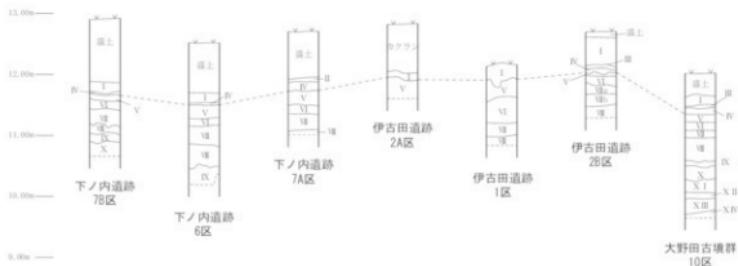
X層：伊古田遺跡2B区、大野田古墳群10区、下ノ内遺跡7B区で確認された。暗褐色のシルトないし粘土質シルトで、伊古田遺跡2B区、大野田古墳群10区では酸化鉄を斑状に含む。層厚は13～23cmである。

XI層：大野田古墳群10区で確認された。にぶい黄褐色シルトで、層厚は17～31cmである。

XII層：大野田古墳群10区で確認された。マンガンを多く含む暗褐色シルト質砂で、層厚は13～28cmである。

XIII層：大野田古墳群10区で確認された。褐色砂質シルトで、層厚は14～25cmである。

XIV層：大野田古墳群10区で確認された。拳大の円礫等を含む砂礫層で、層厚は不明である。



第2図 富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡基本層序

第2節 伊古田遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：伊古田遺跡（宮城県遺跡登録番号01191）
(2) 所在地：仙台市太白区大野田字塚田
(3) 調査面積：約976m²
 ・平成17年度：約646m² (1区)
 ・平成18年度：約330m² (2A・2B区)
(4) 調査主体：仙台市教育委員会
(5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
(6) 担当職員
 ・平成17年度：荒井 格・佐々信行（派遣調査員：青嶋邦夫・村井毅史・脇本博康／国際文化財）
 ・平成18年度：荒井 格・門馬有希（派遣調査員：青嶋邦夫・朝日向忠久／国際文化財）
(7) 調査期間
 (野外調査)・平成17年度：平成17年10月11日～平成18年1月11日
 ・平成18年度：平成18年11月14日～平成19年1月23日
 (整理作業) 各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。
 ・平成22年度：平成22年10月8日～平成23年3月31日
 ・平成23年度：平成23年9月22日～平成24年3月30日
 ・平成24年度：平成24年6月4日～平成25年3月29日

2. 1区の調査

1区の調査では、V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、河川跡1条、性格不明遺構2基、溝跡13条、ピット135基を検出した。

(1) V層検出の遺構と遺物（第1図、図版1）

1) 竪穴住居跡

S116 竪穴住居跡（第2図、図版2）

[位置] W230・S170～180 グリッドに位置し、西側の調査区外に延びる。

[規模・形態] 検出した規模は、東西2.09m、南北3.88mで、平面形は方形ないしは長方形と考えられる。

[主輪方位] カマド基準でN-50°-Eである。

[堆積土・構築土] 20層に分層した。1～9層は住居跡堆積土、10～13・15～17層はカマド関連層位、14層は周溝内堆積土、18～20層は掘り方理土である。P1～4の堆積土は21～25層に分層した。

[壁面] 周溝底面から急角度に立ち上がる。壁高は床面から47cmである。

[床面] 18層上面を床面としている。ほぼ平坦で、特に目立った硬化面等はみられない。

[柱穴] 床面下で4基（P1～4）のピットを検出した。配置・規模からP3・4は主柱穴と考えられ、P3では径8cmの柱痕跡が検出された。柱穴の掘り方は、径29～37cm、深さ24～39cmである。

[周溝] カマド付設箇所を除いて全周する。断面形はU字形で、規模は幅11～25cm、深さ13～20cmである。

[カマド] 北壁に付設されている。袖の規模は、東袖が長さ84cm、幅10～25cm、床面からの高さ19cm、西袖が長さ61cm、幅3～17cm、床面からの高さ15cmである。東袖は弯曲する。燃焼部の規模は、奥行き58cm、幅54cmである。煙道部は長さ1.69m、幅34～41cm、深さ14～21cmで、底面は先端部から緩やかに傾斜し、先端から25cmの位置に1辺30cm、深さ15cmのピットが認められる。

[掘り方] 深さ14～41cmで、底面はほぼ平坦である。

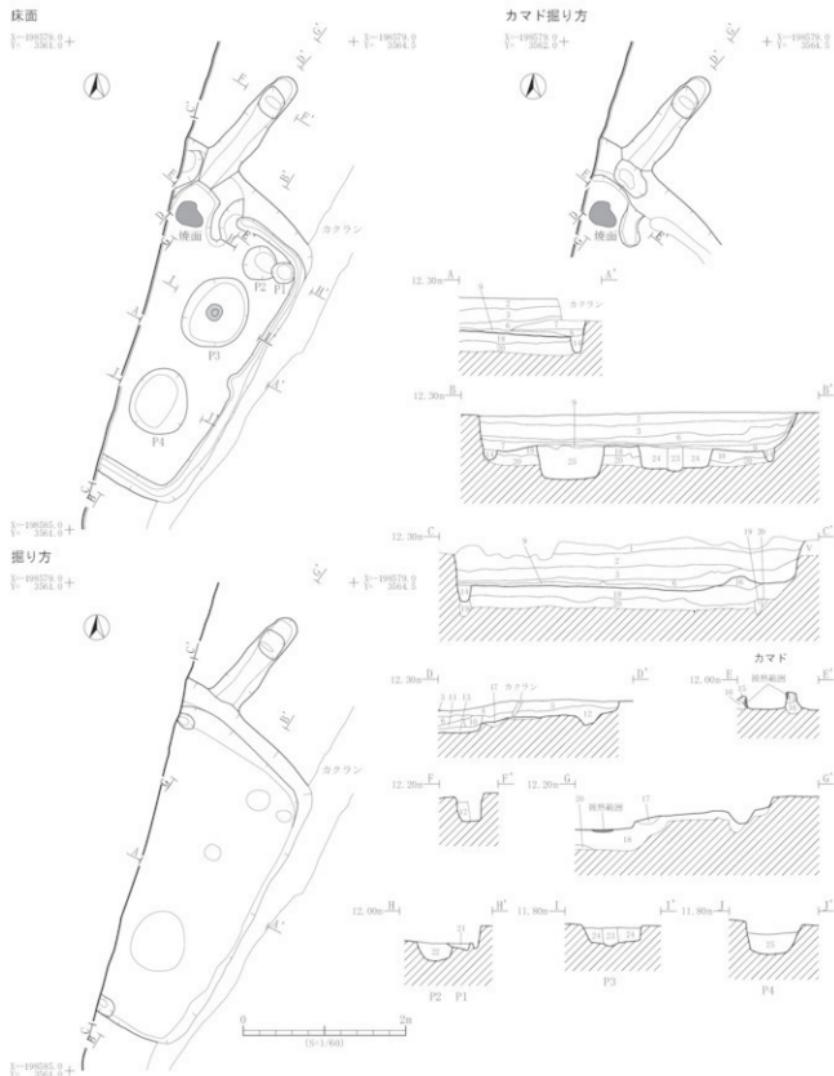
[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器が出土している。そのうち土師器2点、須恵器5点を、第3図に図示した。

1は土師器の有段丸底坏である。2は土師器塊の口縁部片である。3～4は須恵器甕の胴部片である。いずれも外面



第1図 伊古田遺跡1区V層遺構配置図

に平行タタキ目が見られ、4の内面には当て具痕がみられる。7は須恵器瓶の把手片である。本住居跡の時期は不明であるが、煙道内堆積土から出土した1の年代は、8世紀前半～中頃と考えられる。



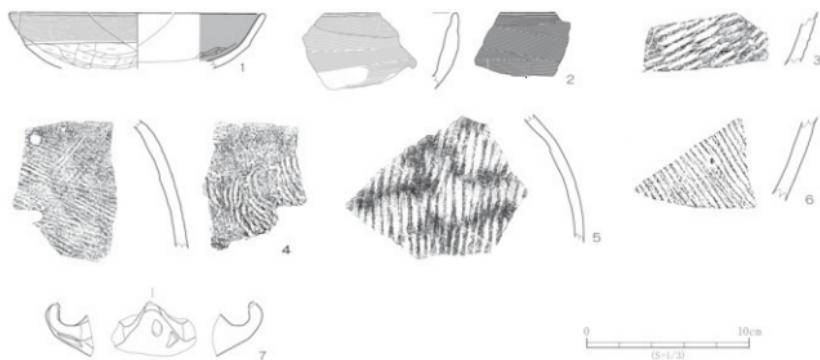
第2図 S1 16 整穴住居跡平面図・断面図

第2節 伊古田遺跡1区

S116 土面記述表

番号	部位	土色	土性	備考	
1	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	灰白色砂利をわずかに含む。		
2	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	灰白色砂利（約1～2mm）をわずかに含む。		
3	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	泥化物（# 1m）を多量含む。泥化物（# 5～15m）をわずかに含む。		
4	10YR5/1 壁側面	砂質シルト	灰白色シルトブロックを少量含む。泥化物が少く含む。		
5	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	灰白色シルトブロックを少量含む。泥化物（# 3～6m）を多量含む。		
S116	6	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	泥化物（# 2m）を多量含む。	
7	10YR4/2 壁側面	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを多量含む。泥化物を少量含む。		
8	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	泥化物（# 2～5m）を多量含む。		
9	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	泥化物が少く含む。		
10	2.5YR4/6 砂質地	砂土	泥化物（# 2～5m）を多量含む。		
11	2.5YR4/6 砂質地	砂土	泥化物シルトブロック・泥化物（# 10～20m）を多量含む。		
12	10YR4/1 有機層	砂質シルト	明るい赤褐色土壤（# 10～20m）を多量含む。		

番号	部位	土色	土性	備考	
13	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	砂質シルト		
14	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	泥化物（# 2～5m）を多量含む。（周溝内壁側）		
15	10YR4/4 壁側面	シルト	砂質シルトを少量含む。		
S116	16	10YR4/4 壁側面	粘土質シルト	泥化物（# 10～20m）を多量含む。	
17	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	灰白色の質シルトブロックを少量含む。（握り方）		
18	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	握り方（握り方）		
19	10YR3/4 壁側面	シルト	灰白色砂質シルトブロックを少量含む。18 稲より粘性強度（握り方）		
20	10YR4/1 壁側面	砂質シルト	灰白色砂質シルトブロックを少量含む。18 稲より粘性強度（握り方）		
P1	21	10YR4/1 壁側面	粘土質シルト	泥化物（# 1～2m）を少量含む。	
P2	22	10YR4/1 壁側面	粘土質シルト	泥化物（# 2～4m）を多量含む。機工土（# 2～4m）を少量含む。	
P3	23	2.5YR7/6 機工土	粘土質シルト	泥化物（# 2～3m）を少量含む。（科田）	
P4	24	10YR4/2 壁側面	粘土質シルト	泥化物（# 2～3m）を少量含む。	
	25	10YR4/2 壁側面	粘土質シルト	軽石あり。	



No.	付跡番号	区	遺構・グリッド	部位	種	形	寸法×底径×壁高(cm)	外表面調	内部調	備考	写真回数
1	C-2	1	S116	12	土槽	円筒	Φ15.5cm × H3.4	ヨコナデ+ヘラケズリ	ハマモキ+黒色処理	-	7-1
2	C-3	1	S116	3	土槽	円筒	× × × H4.8	ナダ+黒色処理	-	-	
3	E-1	1	S116	下層	土槽	圓	× × × H3.1	平行タタキ	平行	-	
4	E-2	1	S116	中層	土槽	圓	× × × H7.3	平行タタキ+ロクロナデ	当て具輪（青海波文）+ロクロナデ	-	
5	E-3	1	S116	下層	土槽	圓	× × × H7.9	平行タタキ	ロクロナデ	-	
6	E-4	1	S116	下層	土槽	圓	× × × H5.1	平行タタキ	ロクロナデ	外周自然輪行筋	-
7	E-6	1	S116	上層	土槽	圓	× × × H3.2	ヘラケズリ+ナダ	外周摩滅	7-2	

第3図 S 116 穴住居跡出土遺物

S118 穴住居跡（第2図、図版2）

[位置] W230・S170～180 グリッドに位置し、北側の調査区外に延びる。

[重複関係] SR22、SD14 と重複関係にあり、本遺構が新しい。

[規模・形態] 平面形は、東西 4.81m、南北 3.58m 以上の方形を基調としたものである。

[主軸方位] 東・西壁を基準とすると N-17°E である。

[堆積土・構築土] 15 層に分層した。1～7 層は住居跡堆積土、8 層は周溝内堆積土、9・10 層はカマド関連層位、11～15 層は掘り方埋土である。P1～4 の堆積土は 16～20 層に分層した。

[壁面] 周溝底面から外傾しながら立ち上がる。壁高は床面から 28cm である。

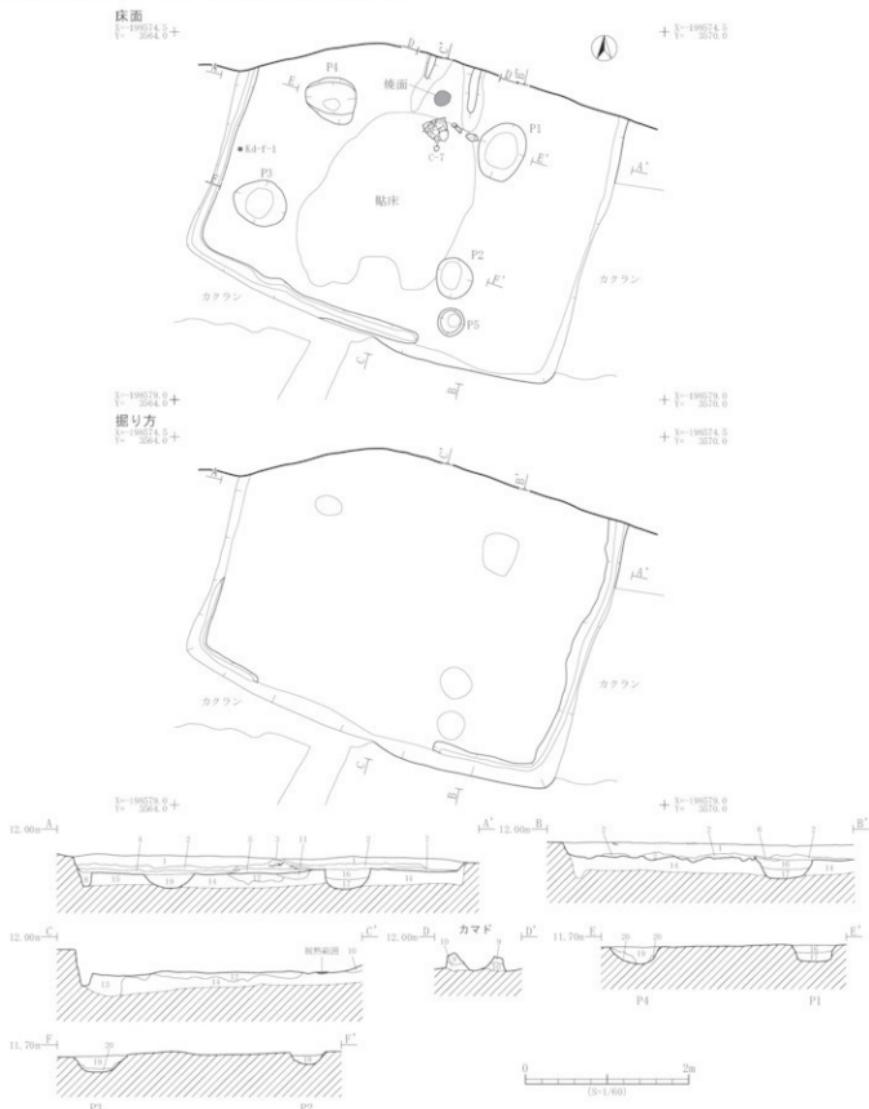
[床面] 掘り方埋土上面を床面としている。ほぼ平坦である。床面中央で、東西 1.75m、南北 2.10 m の範囲で貼床を検出した。

[柱穴] 床面で 5 基のビット（P1～5）を検出した。配置・規模から P1～4 は主柱穴と考えられるが、柱痕跡は検出されなかった。柱穴の掘り方は、径 44～72cm で、深さ 24～39cm である。

[周溝] 西壁の全て及び南壁中央から西側で検出された。断面形は U 字形で、規模は幅 9～14cm、深さ 16cm である。

[カマド] 調査区壁際で両袖を検出した。袖の規模は、東袖が長さ81cm、幅22~25cm、床面からの高さ17cm、西袖が長さ74cm、幅15~31cm、床面からの高さ23cmである。

[掘り方] 深さ15~24cmで、底面はほぼ平坦である。



第4図 S.I. 18 整穴住居跡平面図・断面図

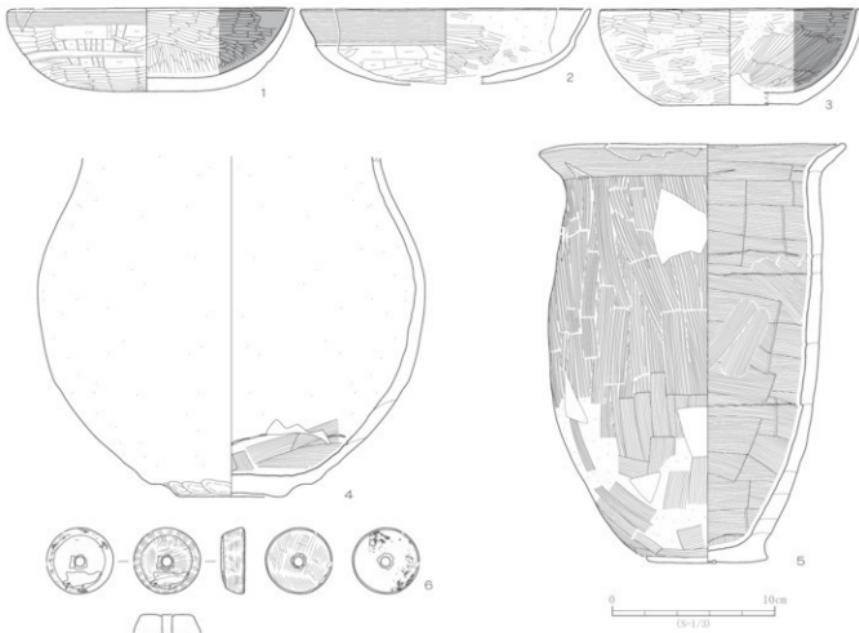
第2節 伊古田遺跡1区

SI18 土壤日記表

樹種	種位	上・色	特徴	性質	備考
紫蘇	1.	0.0794/2 黄葉化	葉質硬	前引の側枝葉をブロック的に含む。	
	2.	0.0794/2 黄葉化	葉質硬	前引の側枝葉をブロック的に含む。	
	3.	0.0795/1 暗赤色	葉質柔	葉化度 ($\phi = 1-2\text{mm}$) を少量含む。	
	4.	0.0794/1 暗赤色	葉質硬	葉 ($\phi \sim 5-10\text{mm}$) を多量含む。	
	5.	0.0795/1 暗赤色	葉質柔	葉質柔	
	6.	0.0796/1 暗赤色	葉質柔	葉質柔	
	7.	0.0794/1-2 暗赤色	葉質硬		
	8.	0.0795/1 暗赤色	葉質柔	葉質柔	葉質柔
	9.	0.0796/1 暗赤色	葉質硬		
	10.	0.0796/2 暗赤色	葉質硬		
	11.	0.0794/1 暗赤色	葉質柔	葉化度 ($\phi = 1-4\text{mm}$) を含む。(厚)	

樹種	解説	上木	上木	参考
SIR	12. OYRIV-6 鮎川地帯	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物（ $\phi \geq 4$ m）を少なめ含む。（廻り方上木）
	13. OYRIV-7 鮎川地帯	鰐耳シントル	鰐耳シントル	廻り方上木
	14. OYRIV-8 鮎川地帯	鰐耳シントル	鰐耳シントル	廻り方上木
	15. OYRIV-3 云見 桜庭	鰐耳シントル	鰐耳シントル	鰐耳シントルと實木を部分的に含む。（廻り方上木）
PI1	2. 2SYE-2 丹波高地	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物、樹木（ $\phi \geq 4$ m）を含む。確（ $\phi \geq 4$ m）を多量含む。
	2. 1OYRIV-2 丹波高地	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物、樹木（ $\phi \geq 4$ m）を含む。
P2	1. 1OYRIV-2 H. 鮎川地帯	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物（ $\phi \geq 4$ m）+樹木（ $\phi \geq 4$ m）を含む。
P3 +	2. 2SYE-2 丹波高地	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物（ $\phi \geq 4$ m）+樹木（ $\phi \geq 4$ m）を含む。小標（ $\phi \geq 4$ m）を多量含む。
	2. 1OYRIV-2 丹波高地	鰐耳シントル	鰐耳シントル	固定物（ $\phi \geq 4$ m）+樹木（ $\phi \geq 4$ m）を含む。

[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器・石製品等が出土している。そのうち土師器5点、石製品1点を、第5図に示した。1・2は土師器の有段丸底壺である。1は、段が形骸化していると考えられる。いずれも内面を黒色処理されているが、2は摩滅が著しく確認が困難である。3は平底の土師器壺で、内面黒色処理されている。4は球胴の土師器壺、5は長胴の土師器壺である。6は石製鋸鉋である。研磨により整形され、漆の付着が見られる。1～3の土師器の有段丸底壺および平底壺から、本件居跡の年代は8世紀前半～中頃と考えられる。



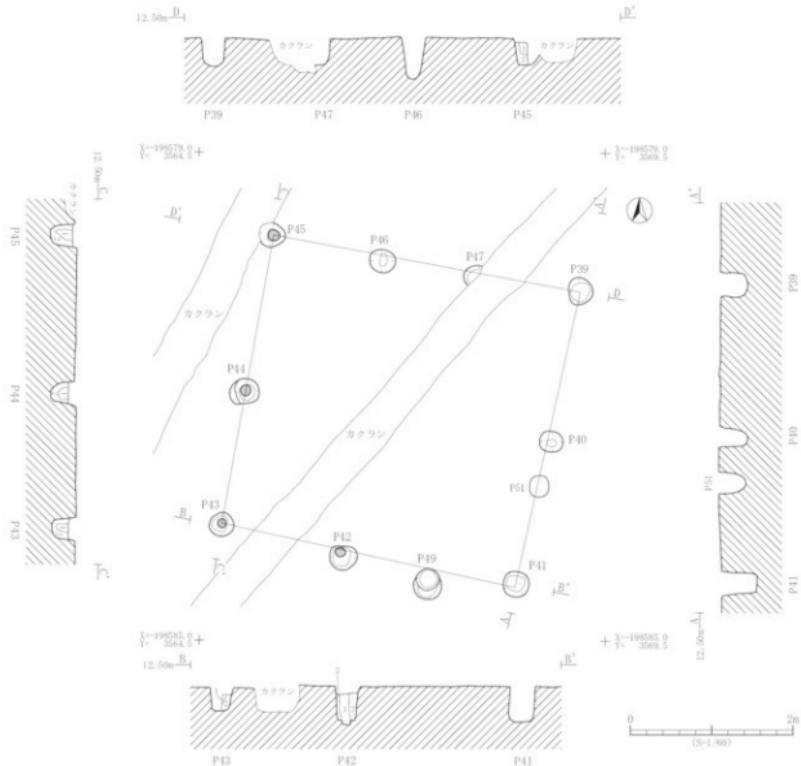
第5図 S.I.18 塗穴住居跡出土遺物

No.	種類番号	区	造樹・グリッド	樹種	樹別	苗種	口径×底径×高さ(cm)	外観調整		内面調整	備考	写真回数
								左側	右側			
1	C-4	1	SIIIB	下層	土壌器	球	17.7 × × 5.1	ヨコナデ・ヘラケツリ・ハラミガニ	ヘルミガニ・黒色処理		7-3	
2	C-6	1	SIIIB	下層	土壌器	球	17.0 × × 4.6	ヨコナデ・ヘラケツリ	ヘルミガニ・黒色処理用		7-4	
3	C-5	1	SIIIB	下層	土壌器	球	16.0 × 8.0 × 5.9	ハラミガニ	ヘルミガニ・黒色処理		7-5	
4	C-8	1	SIIIB	下層	土壌器	球	× 8.4 × 20.9	ナガサキ	ヘルミガニ	内外面感度	7-6	
5	C-7	1	SIIIB	下層	土壌器	球	18.7 × 7.4 × 25.8	ヨコナデ・ハケメ・ペラオ	ヨコナデ・ヘルナデ・ナデ	底部木製型	7-7	

No.	種類番号	区	造樹・グリッド	樹種	樹別	苗種	口径×底径×高さ(cm)	長さ×幅×厚さ(cm)		備考	写真回数	
								左側	右側			
6	K-6	1	SIIAB	下層	石塑品	防草幕	縫合部	4.1 × 4.1 × 1.5	39.40	孔径 0.6cm、耐水性	7-8	

2) 掘立柱建物跡

SB1 挖立柱建物跡（第6図、図版2）W230・S180 グリッドに位置する。SR22、SD14と重複関係にあり、本遺構が新しい。規模は桁行3間（北列西から 1.38m+1.20m+1.27m、総長 3.85m、南列西から 1.50m+1.15m+1.07m、総長 3.72m）、梁行2間（西列北から 1.93m+1.65m、総長 3.58m、東列北から 1.90m+1.82m、総長 3.72m）の側柱建物であり、桁行柱列方向は N-78°-W である。柱穴掘り方の規模は、径 25～36cm の円形もしくは梢円形で、検出面からの深さは 25～36cm である。P42～45 で径 9～13cm の柱痕跡を検出した。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。



第6図 SB1 挖立柱建物跡平面図・断面図

3) 土坑

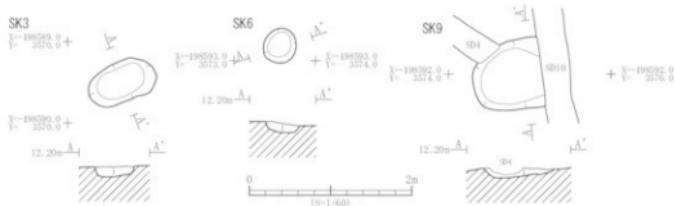
SK3 土坑（第7図、図版2）W220・S180 グリッドで検出した。SD4 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向は N-62°-E である。規模は長軸 85cm、短軸 49cm、深さ 13cm で、壁面は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK6 土坑（第7図、図版2） W220・S190 グリッドで検出した。SD5 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平

第2節 伊古田遺跡1区

面形は円形で、規模は径44cm、深さ12cmである。壁面はやや外に開きながら立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

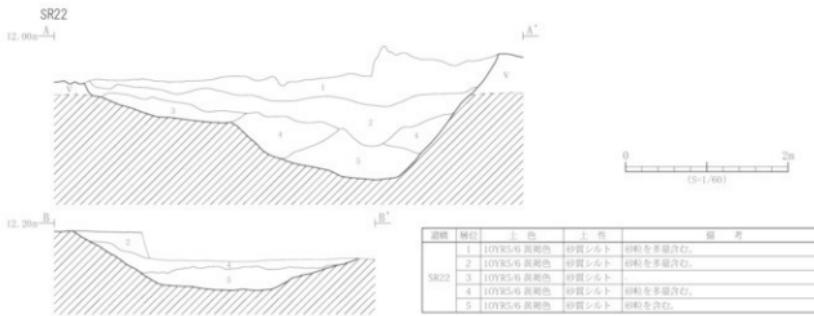
SK9 土坑（第7図、図版2）W220・S190 グリッドで検出した。SD4・5・10と重複関係にあり、SD5より新しく、SD4・10より古い。東側をSD10に削平されるが、平面形は梢円形と考えられる。長軸方向はN-72°-Eである。検出した規模は長軸86cm、短軸84cm、深さ10cmで、壁面は底面から、大きく外に開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第7図 SK3・6・9土坑平面図・断面図

4) 河川跡

SR22 河川跡（第1・8図、図版1・3）W220～230・S170～210 グリッドで検出した。SI18、SB1、SD5・12～14、P24・48・50～53と重複関係にあり、本遺構が古い。南北両側の調査区外に延びる。方向はN-4°-Eで、検出長は35.20m、幅2.80～4.90m、深さ0.68mで、断面形は不整U字形である。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器・土師器の小片が出土した。



第8図 SR22河川跡断面図

5) 性格不明遺構

SX11 性格不明遺構（第15図、図版3）W220・S170～180 グリッドで検出した。平成17年度の調査では、調査区壁際で検出したため性格不明遺構として調査したが、次年度調査を行った隣接する2B区でSI1を検出し、本遺構がSI1の一部であることを確認した。そのため、伊古田遺跡2B区のSI1として合わせて報告する。

SX17 性格不明遺構（第15図、図版3）W220・S170～180 グリッドで検出した。本遺構もSX11と同様、調査区壁際で検出し、次年度調査を行った隣接する2B区で検出した、SI1の一部であることを確認したため、伊古田遺跡2B区のSI1として合わせて報告する。

6) 溝跡（第1図）

SD2溝跡（第1・9図、図版3）W220・S180グリッドで検出した。SD4と重複関係にあり、本遺構が新しい。東西両側を搅乱に削平される。方向はN-69°-Eで、検出長3.97m、幅44～64cm、深さ8～12cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

SD4溝跡（第1・9図、図版3）W220・S180～190グリッドで検出した。SK3・9、SD2・5・10と重複関係にあり、本遺構がSK9、SD5・10より新しく、SK3、SD2より古い。北西側をSD2に削平される。方向はN-53°-Wで、検出長5.90m、幅28～43cm、深さ5～8cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD5溝跡（第1・9図、図版3）W210～240・S180～200グリッドで検出した。SK6・9、SR22、SD4・7・10と重複関係にあり、本遺構がSR22より新しく、他より古い。W230・S190～200グリッドで搅乱に削平される。北東・南西側の調査区外に延び、南西側は2A区SD1に連続する。方向はN-55°-Eで、検出長27.77m、幅2.39～3.03m、深さ0.90～1.30mである。断面形は漏斗形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD7溝跡（第1・9図、図版3）W240・S190～200グリッドで検出した。SD5と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-28°-Eで、長さ3.72m、幅30～50cm、深さ4～10cmである。断面形は不整形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD8溝跡（第1・9図、図版3）W210・S190～200グリッドで検出した。本遺構の北西側上端と、SD20の同位上端が同じ形状をしていることから、本遺構はSD20の掘り直しの溝跡の可能性も考えられる。また、本遺跡における平成21年度調査の3区で検出されたSD5と同一の溝跡と考えられる。ただし、3区検出のSD5が本遺構とSD20、どちらに連続するか不明である。SD12・20・21と重複関係にあり、本遺構がSD20・21より新しくSD12より古い。南西側はSD12に削平され、北東側の調査区外に延びる。方向はN-34°-Eで、検出長4.75m、幅1.38～2.14m、深さ25～36cmである。断面形は不整な逆台形もしくはU字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から、縄文土器・土師器・須恵器の小片が出土している。

SD10溝跡（第1・9図、図版3）W220・S180～190グリッドで検出した。SK9、SD4・5と重複関係にあり、本遺構がSK9、SD5より新しくSD4より古い。北側は搅乱に削平される。方向はN-8°-Wで、検出長5.96m、幅33～48cm、深さ19cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土している。

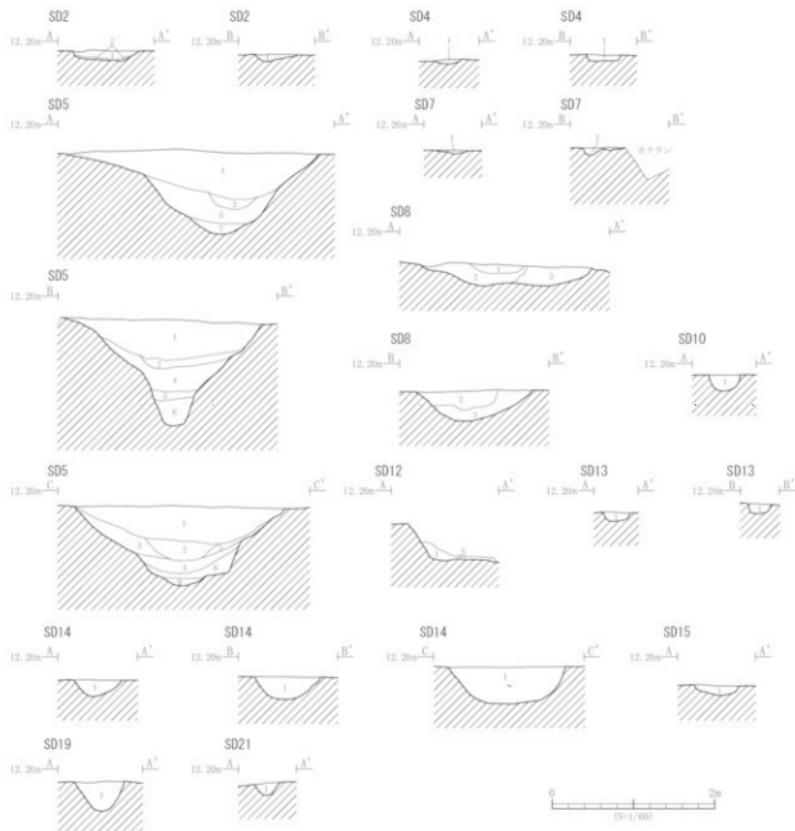
SD12溝跡（第1・9図、図版3）W210～220・S200グリッドで検出した。SD8・20と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側の調査区外に延び、南側は搅乱に削平される。方向はN-79°-Eで、検出長16.39m、幅0.57～1.12m、深さ48cmである。断面形は不明である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土している。

SD13溝跡（第1・9図、図版3）W230～240・S180～190グリッドで検出した。SR22、SD14と重複関係にあり、本遺構が新しい。南西側の調査区外に延び、北東側は搅乱に削平される。方向は南西から北東へN-41°-Eで延び、N-57°-E方向へ屈曲して延びる。検出長17.30m、幅25～37cm、深さ10～12cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土している。

SD14溝跡（第1・9図、図版3）W230～240・S170～190グリッドで検出した。SI18、SR22、SD13と重複関係にあり、本遺構がSR22より新しくSI18、SD13より古い。南西側の調査区外に延び、北東側はSI18に削平される。方向は南西から北東へN-51°-Eで延び、N-22°-E方向へ屈曲して延びる。検出長17.42m、幅0.49～1.18m、深さ20～45cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器が出土した。第11図に2点を図示した。1は土師器壺で、底部中央が窪む。2は、土師器壺口縁部片で、内外面ともに摩滅が顕著で調整の観察は困難である。遺物の年代は、ともに4世紀頃と考えられる。

SD15溝跡（第1・9図、図版3）W210～220・S190～200グリッドで検出した。本遺跡平成21年度に調査した3区で検出されたSD25と同一の溝跡である。SD21、P96～101・108・109・114と重複関係にあり、本遺構がSD21より新しくP96～101・108・109・114より古い。北東側の調査区外に延び、3区SD25に連続する。

第2節 伊古田遺跡1区



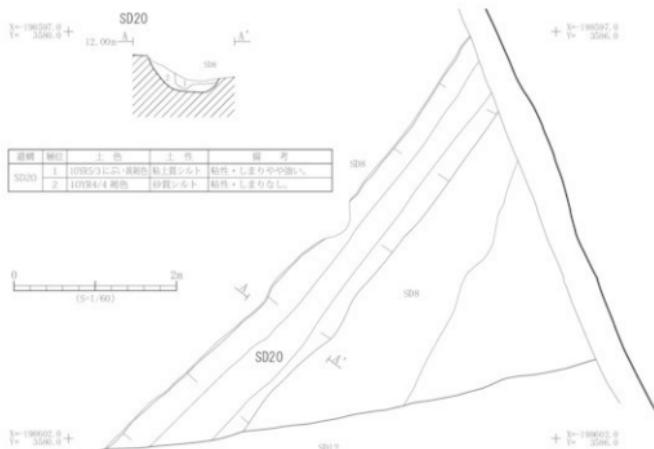
番号	断面	土色	土性	断面
SD2	1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	10YR4/4に近い黄褐色	シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
SD4	1	10YR4/1褐色	砂質シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
SD5	1	10YR4/3に近い黄褐色	堆積土	12. 20m- <u>B</u> -4
	2	10YR4/4に近い黄褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	3	10YR4/4褐色	シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
	4	10YR4/2.3褐色	シルト	12. 20m- <u>C</u> -4
SD12	1	10YR4/1褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	2.5Y 4/2褐色	砂質シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
SD13	1	10YR4/4褐色	砂質シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	10YR4/4褐色	シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
SD14	1	10YR4/1褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	10YR4/3褐色	砂質シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
SD19	1	10YR4/1褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	10YR4/3褐色	シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
SD21	1	10YR4/1褐色	シルト	12. 20m- <u>A</u> -4
	2	10YR4/3褐色	シルト	12. 20m- <u>B</u> -4
0 (S=1/60) 2m				

第9図 SD 2・4・5・7・8・10・12～15・19・21溝断面図

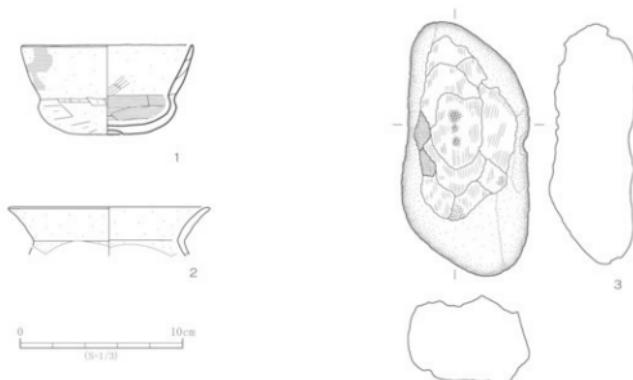
方向は N49°-E で、検出長 10.70m、幅 34 ~ 56cm、深さ 12cm である。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から上土器の小片・礫石器が出土しており、そのうち礫石器 1 点を第 11 図の 3 に図示した。片面にのみ研磨痕や窪み、敲打痕が観察される。

SD19 溝跡（第1・9図、図版3） W210～220・S190～200 グリッドで検出した。本遺跡平成21年度に調査した3区で検出されたSD24と同一の溝跡である。SD21、P115・139と重複関係にあり、本遺構がSD21、P139より新しくP115より古い。北東側の調査区外に延び、3区SD24に連続する。方向はN-50°Eで、検出長7.96m、幅46～87cm、深さ36cmである。断面形はU字形である。堆積土は单層である。遺物は土師器の小片が出土している。

SD20 溝跡（第1・10図、図版3） W210・S190～200 グリッドで検出した。本遺構の北西側上端と、SD8の同位上端が同じ形状をしていることから、SD8は本遺構の掘り直しの溝跡と考えられる。また、SD8の項で記した



第10図 SD 20 溝跡平面図・断面図



第11図 SD 14・15 溝跡出土遺物

No.	登録番号	区	遺構・グリッド	部位	種 別	器 物	口径×底径×高さ(cm)	外面調査	内部調査	備 考	写真回数
2	C-9	1	SD14	1	土師器	壺	11.0×3.0×5.4	ヨコナリ・ヘラス入り	ヘラナリ・ヘラス入り	内外面摩滅	7-9
2	C-11	1	SD14	1	土師器	壺	11.2×3.0×5.0			内外面摩滅	-
3	Kc-a4-1	1	SD15	1	硬石器	網・目子・組	石頭兜岩質凝灰岩	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真回数
							15.6×7.9×5.7	429.28		網目1, 目子2, 組4:	7-10

第2節 伊古田遺跡2A区

ようすに本遺跡平成21年度に調査した3区で検出されたSD5と同一の溝跡と考えられるが、本遺構とSD8、どちらに連続するか不明である。SD8と重複関係にあり、本遺構が古い。北東・南西側の調査区外に延びる。方向はN41°Eで、検出長5.73m、幅77~96cm、深さ45cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は土器片の小片が出土している。

SD21溝跡（第1・9図、図版4）W210・S190~200グリッドで検出した。SD8・15・19、P111と重複関係にあり、本遺構が古い。北西側はSD15に削平され、南東側の調査区外に延びる。方向はN52°Wで、検出長5.50m、幅24~37cm、深さ15cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

7) ピット（第1図、図版1）

135基のピット（P1~35・38~123・125~129・131・133~140）を検出した。遺構配置図のみに表示した。遺物は堆積土から土器片の小片が出土した。

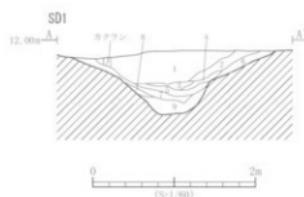
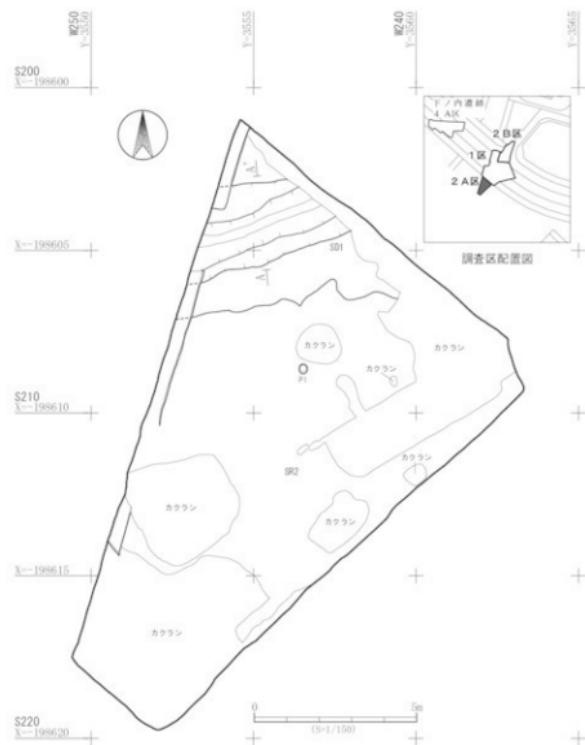
3.2 A区の調査

A区の調査では、基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、河川跡1条、溝跡1条、ピット1基を検出した。平面図は遺構配置図のみ表示している。

(1) V層検出の遺構（第12図、図版4）

1) 河川跡

SR2河川跡（第12図、図版4）W230~240・S200~210グリッドで検出した。P1と重複関係にあり、本遺構が古い。上面のみの検出である。北側上端は検出されたが、南側の調査区外に延びる。北側上端の



遺構	解説	上 地	上 土	固 考
1	10YR5/2灰褐色(粘土質シルト)	灰褐色地質シルトを多量含む。		
2	10YR5/2灰褐色(粘土質シルト)	灰褐色地質シルトを少量含む。		
3	2.5Y6/2灰褐色	粘土質シルト	灰褐色地質土を幾箇所含む。	
4	10YR5/2灰褐色	粘土質シルト	灰褐色地質土を含む。暗灰褐色地質上質シルトを少額含む。	
5	5Y6/1灰色	粘土	灰褐色地質上質シルトをわずかに含む。暗灰褐色地質上質シルトを含む。	
6	10YR5/2灰褐色	粘土質シルト	灰褐色地質をわずかに含む。	
7	2.5Y5/2暗灰褐色	粘土質シルト	灰オリーブ色地質シルトを少量含む。	
8	3Y5/2灰オリーブ色	砂質シルト		
9	2.5Y5/2暗灰褐色	シルト質粘土	暗灰褐色土と灰オリーブ色砂をわずかに含む。	

第12図 伊古田遺跡2A区V層遺構配置図・SD1溝跡断面

検出長は6.86mである。隣接する1区で検出されたSR22と連続する河川跡である。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

2) 溝跡

SD1溝跡（第12図、図版4）W220・S180グリッドで検出した。西側の調査区外に延び、東側は隣接する1区のSD15に連続する溝跡である。方向はN-72°-Eで、検出長5.34m、幅2.13～2.64m、深さ78cmである。断面形は逆台形である。堆積土は9層に分層される。遺物は堆積土から土器師表の口縁部片が出土した。

3) ピット(第12図、図版4)

1基のピット（P1）を検出した。遺物は堆積土から近世の陶器片が出土した。

4. 2B区の調査

2B区の調査では、基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、堅穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑8基、溝跡8条、ピット79基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。



第13図 伊古田遺跡2B区V層遺構配置図

第2節 伊古田遺跡2B区

(1) V層検出の遺構と遺物 (第13図、図版5)

1) 壁穴住居跡

SII 積穴住居跡 (第14・15図、図版3・5)

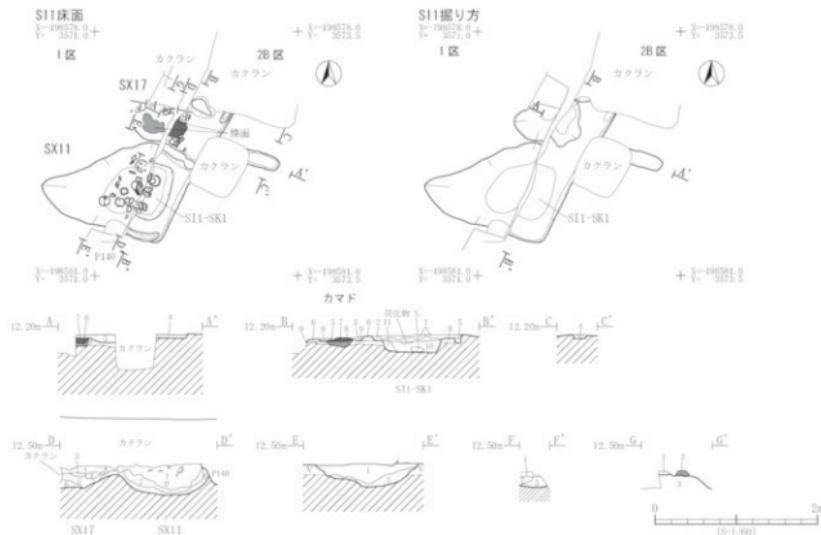
平成17年度において、本調査区の西に隣接する1区を調査した際、調査区壁際で堆積土中に遺物を多く含むSX11と被熱範囲を確認したSX17を検出したが、遺構の性格を把握するにはいたらば性格不明遺構として調査を行った。平成18年度の本調査区においてSX11・17に隣接する箇所で、SI1を検出した。これにより、これらSXがSI1に連続する遺構であることを確認した。そのため、SX11・17は本項において報告する。なお、SX11はSK1と、SX17はSI1のカマドの一部である。

[位置] W220・S170～180 グリッドに位置する。

[重複関係] SX11がP140と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 検出した規模は、東壁1.83m、南壁0.43mである。遺構の残存状況が悪いため判然とはしないが、平面形は方形を基準としたものと思われる。

[主軸方位] カマド基準でN-69°-Wである。



遺構	種類	土 色	土 性	備考
1	1203.3場オーバーレイシルト	褐色シルトブロック・固化物類・埴土粒をわずかに含む。		
2	10YR3/3暗褐色	シルト		
3	10YR3/3暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物類をわずかに含む。埴土粒を斑状にわずかに含む。	
4	10YR3/2暗褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物類をわずかに含む。埴土粒を斑状にわずかに含む。	
5	10YR3/2暗褐色	シルト	埴土粒を多量含む。固化物類をわずかに含む。(周溝内埋蔵)	
6	25Y4/4オリーブ褐色	シルト	(カマド隔壁壁上)	
7	10R3/6暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。固化物類・埴土粒をわずかに含む。(表面)	
8	10YR3/2暗赤色	シルト	(傾曲)	
9	10YR3/2黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物類をわずかに含む。灰黑色シルトブロックを多量含む。(振りり方)	

遺構	層位	土 色	土 性	備考
SK1	10	2.5Y3/2黒褐色	シルト	褐色シルト・埴土ブロック・粘土をわずかに含む。固化物を軽くに多量含む。
	11	10YR4/2黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。固化物類を多量含む。埴土粒をわずかに含む。
SI1	1	10YR4/1褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトを多量含む。固化物（φ1～2mm）を多量含む。
	2	10YR5/1褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトを少量含む。
SK17	1	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐色粘土・黄シルトを多量含む。固化物（φ4～14mm）を傾斜に含む。
	2	10YR4/1褐色	粘土質シルト	褐色粘土を多量含む。
SI17	3	2.5YR6/8灰褐色	埴土	灰白色砂をわずかに含む。埴土粒（φ2～4mm）を少量含む。
	4	10YR2/2 黑褐色	砂質シルト	砂質（φ2～4mm）を多量含む。埴土粒（φ4～10mm）を多量含む。
	5	2.5YR6/8灰褐色	砂質シルト	固化物（φ2～4mm）を多量含む。埴土粒（φ2～4mm）を少量含む。
	6	2.5YR6/8灰褐色	砂質シルト	

第14図 S II1 積穴住居跡・1区 SX 11・17 性格不明遺構平面図・断面図

[堆積土・構築土] 9層に分層した。1～4層は住居跡堆積土、5層は周溝内堆積土、6～8層はカマド関連層位、9層は掘り方理土である。貯蔵穴の堆積土は2層に分層した。SX11・17の堆積土は6層に分層した。

[壁面] 周溝底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面からの高さは6cmである。

[床面] 9層上面を床面としている。床面はほぼ平坦で、特に目立った硬化面などはみられなかった。

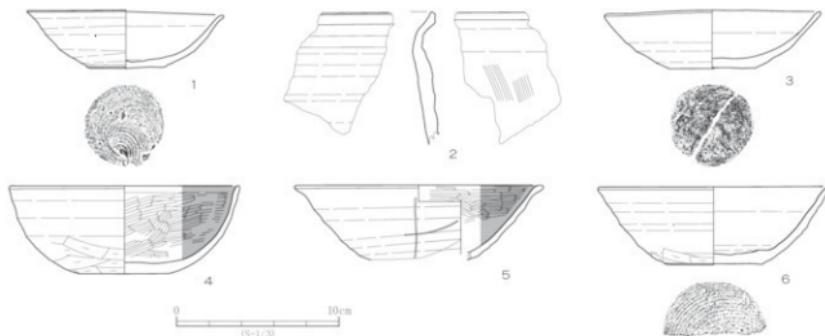
[周溝] 南壁と東壁北端で検出した。断面形はU字形で、規模は幅6～10cm、深さ6cmである。

[カマド] 東壁に位置する。袖の規模は、北袖が長さ34cm、幅15～27cm、床面からの高さ3cm、南袖が長さ44cm、幅16～18cmである。床面からの高さ7cmである。燃焼部の規模は、奥行き83cm、幅45cmである。煙道部は長さ40cm、幅17cm、深さ4cmで、底面は平坦である。

[その他の施設] カマドの南側に位置するSK1は、貯蔵穴と考えられる。平面形は方形もしくは長方形と思われ、規模は南北69cm、東西29cm、深さ15cmである。

[掘り方] 深さ4～11cmである。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 堆積土からロクロ使用の土師器・須恵器が出土しており、そのうち土師器5点、須恵器1点を、第15図に図示した。1・3は赤焼土器の环である。底部は回転糸切りである。2はロクロ使用の土師器甕の口縁部片である。4・5はロクロ使用の土師器環で、いずれも内面を黒色処理されている。4は外面底部付近に、手持ちヘラケズリの調整がみられる。5は外面に「十」字状の刻書がみられる。6は須恵器环で、底部付近に手持ちヘラケズリと底部に回転糸切りがみられる。1～6の遺物から、本住居跡の年代は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。



No.	住居番号	区	遺構	グリッド	層位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外周調整	内面調整	備考	写真箇数
1	9-5	2B	SX1	2	赤焼土器	环		12.1 × 4.9 × 3.6	ロクロナデ・底面回転糸切り	ロクロナデ		8-1
2	9-6	2B	SX1	2	土師器	甕	×	× × 高 8.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ		-
3	D-1	1	SX11	上層	赤焼土器	环	13.3 × 5.3 × 3.6	ロクロナデ	底面回転糸切り	ロクロナデ		8-2
4	D-2	1	SX11	下層	土師器	甕	(14.2) × 5.4 × 5.4	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	底面切り離し接法不可用	8-3	
5	D-3	1	SX11	下層	土師器	甕	(15.6) × 5.4 × 4.6	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	全体外部に划痕	8-4	
6	E-5	1	SX11	下層	須恵器	环	(14.3) × (6.0) × 4.8	ロクロナデ・手持ちヘラケズリ	ロクロナデ	底面回転糸切り	8-5	

第15図 S11竪穴住居跡出土遺物

SI9a・b 竪穴住居跡（第16～19図、図版5・6）

2時期のカマドを検出した新旧2時期の竪穴住居跡である。新しい段階をSI9a、古い段階をSI9 bとして報告する。カマドの作り替えは行っているが、住居範囲拡張の痕跡は確認されなかった。

SI9a 竪穴住居跡

[位置] W210～220・S180 グリッドに位置する。

[重複関係] SB16、SK2～5、SD6・7、P5・31・58・70・82と重複関係にあり、本遺構が古い。

第2節 伊古田遺跡2B区

[規模・形態] 東西 3.67m、南北 4.71m である。平面形は長方形である。

[主軸方位] カマド基準で N-59°-W である。

[堆積土・構築土] 11 層に分層した。1・2 層は住居跡堆積土、3～6・8・10～13 層はカマド関連層位、7 層は周溝内堆積土、9 層は SI9b の床面を埋めた土である。

[壁面] 周溝底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面からの高さは 12cm である。

[床面] 9 層上面を床面としている。ほぼ平坦で、特に目立った硬化面などはみられなかった。

[柱穴] 床面で 3 基のピット (P1・2・61) を検出した。配置や規模等から 3 基のピットは主柱穴と考えられ、径 10～19cm の柱痕跡が検出された。柱穴の掘り方は、径 36～50cm で、深さ 19～33cm である。

[周溝] 東・西・南壁で断続的に検出した。断面形は U 字形で、規模は幅 11～15cm、深さ 11cm である。

[カマド] 東壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。袖の規模は、北袖は長さ 75cm、幅 14～32cm、床面からの高さ 25cm、南袖は長さ 70cm、幅 18～32cm である。床面からの高さは 22cm である。燃焼部の規模は、奥行き 49cm、幅 32cm である。北袖寄りに焼成面を検出した。煙道部は東側の調査区外に延びる。検出長は 73cm、幅 12～27cm、深さ 9cm で、検出長 85cm、幅 20～35cm、深さ 10cm の掘り方を持つ。底面は先端部から住居跡側へ傾斜している。

[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器が出土している。そのうち土師器 3 点を、第 18 図に図示した。1 はロクロ使用の土師器環で、内面は黒色処理されており、底部には回転糸切りがみられる。2 はロクロ使用の土師器甕で、内面に輪積み痕跡がみられる。3 はロクロ使用の土師器瓶である。

SI9b 積穴住居跡

[位置] SI9a と同じ。

[重複関係] SI9a より古い。

[規模・形態] SI9a と同じ。周溝は検出されていない。

[主軸方位] SI9a と同じ。

[堆積土・構築土] 9 層に分層した。9 層は本期の床面を埋めた土で、上面が a 期の床面である。14～19 層はカマド関連層位、20 層は掘り方理土である。

[壁面] 床面からやや外に広がるように立ち上がる。床面からの高さは 14cm である。

[床面] 繰りや硬化面等は検出していない。作り替えの際に削平されている可能性も考えられる。

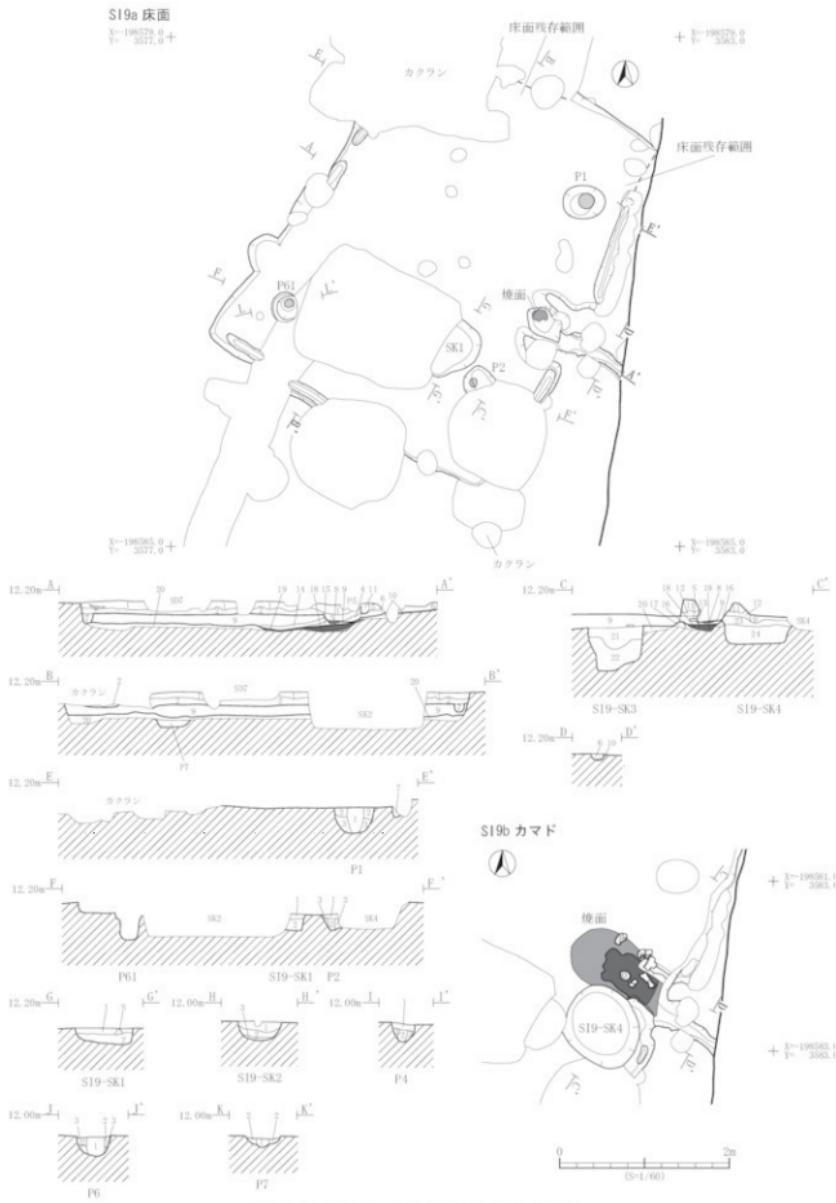
[柱穴] 床面で 4 基のピット (P4～7) を検出した。ピットの掘り方は、径 30～46cm で、深さ 14～25cm、そのうち、P6・7 では径 14～22cm の柱痕跡を検出した。P7 は掘り方の底面で検出した。

[カマド] 東壁に位置し、壁のほぼ中央に付設されている。袖は北袖が残存しており、規模は長さ 36cm、幅 13～16cm、床面からの高さ 4cm である。燃焼部の規模は、奥行き 1.27m、幅 68cm である。燃焼部付近でロクロ使用の土師器甕や甕、須恵器甕等が出土した。

[その他の施設] カマド南に位置する SK4 の平面形は梢円形で、規模は長軸 94cm、短軸 84cm、深さ 32cm である。配置状況や遺物が多く出土していることから、貯蔵穴とも考えられるが、SI9 b のカマド南袖を削平していることや、SI9a の掘り方理土である 9 層の下部、カマド南袖の下に在ることから、SI9 b 廃棄後から SI9a 改築前に掘られた穴と考えられる。

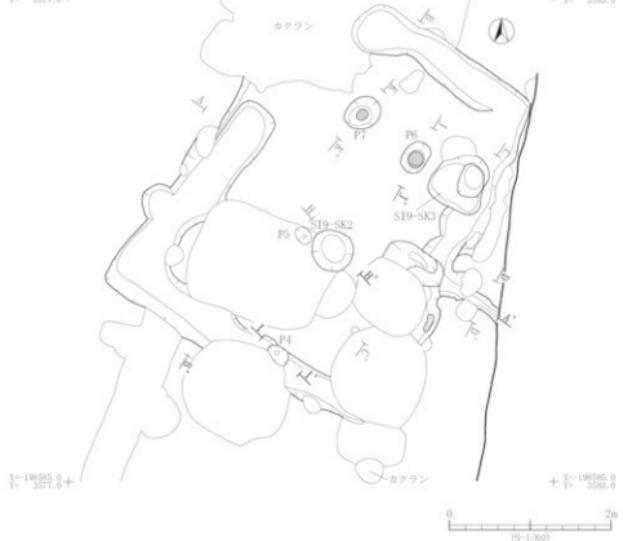
[掘り方] 残存する深さは 3～9cm である。検出した住居跡の範囲で、西壁北部を除いた範囲を溝状に深く掘り窄めている。

[出土遺物] 堆積土から土師器・須恵器等が出土している。そのうち土師器 12 点、須恵器 1 点を、第 18・19 図に図示した。第 18 図 4 は土師器甕である。内面に輪積み痕跡がみられる。5～8 はロクロ使用の土師器環で、いずれも内面が黒色処理されている。また、5・6・8 の底部は回転糸切りである。9・10 及び第 19 図 1 は、ロクロ使用の土師器甕である。2 はロクロ使用の土師器瓶である。3 は須恵器の甕で、底部は回転糸切りで、口径に対し底径比が小さい。第 18 図 5～8 及び第 19 図 3 から、本住居跡の年代は 9 世紀後半～10 世紀前半と考えられる。



第16図 S19a・b 穏穴住居跡平面図・断面図

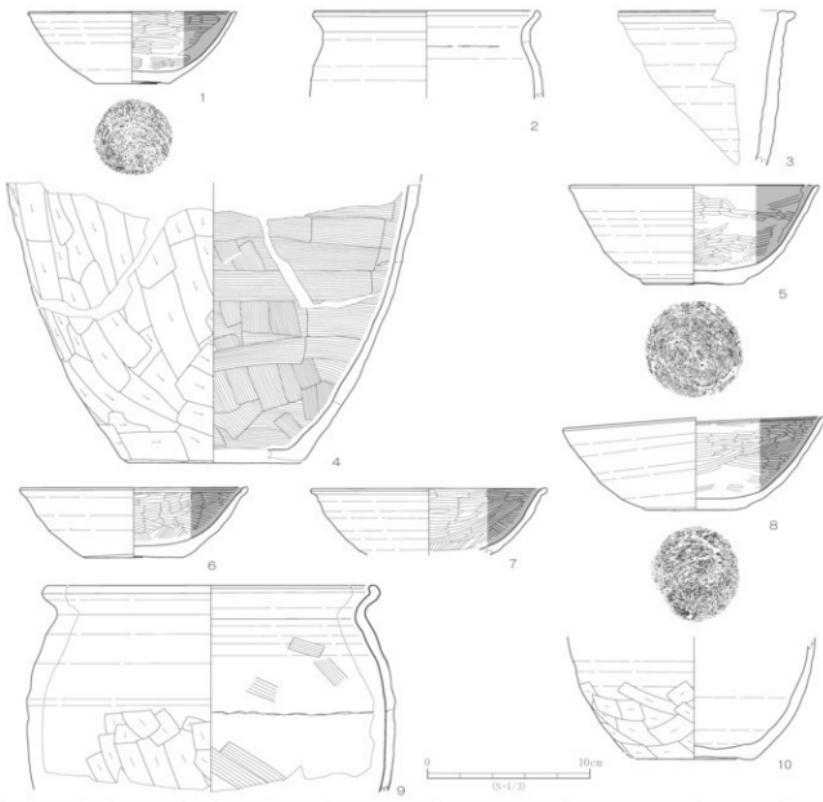
SI9b 挖り方

S=196279.0
E=2557.0S=196279.0
E=2553.0

遺構	編位	土 色	土 性	備 考
	1	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・黒褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マングン粒をわずかに含む。
	4	10YR3/4 黑褐色	シルト	炭化物粒を多量含む。埴上粒を含む。
	5	10YR3/2 黑褐色	シルト	埴上ブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	6	10YR3/4 黑褐色	シルト	炭化物粒・埴上粒をわずかに含む。
	7	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	8	10YR3/6暗赤色	シルト	(偽造)
	9	10YR4/0に近い黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック・炭化物粒・埴上ブロックを多量含む。
	10			目記なし。(廻避掘り方)
	11	10YR4/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・マングン粒・炭化物粒をわずかに含む。
	12	10YR4/1に近い黄褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	13	10YR3/1 黑褐色	シルト	に近い黄褐色シルト・黒褐色シルトブロックを含む。黒褐色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	14	10YR3/1 黑褐色	シルト	に近い黄褐色シルト・黒褐色シルトブロックを含む。黒褐色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	15	10YR3/2 黑褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを含む。黒褐色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	16	10YR3/2 黑褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを含む。黒褐色粘土ブロック・炭化物粒をわずかに含む。
	17	10YR4/4 黑褐色	シルト	炭化物粒をわずかに含む。
	18	10YR4/4 暗赤色	シルト	(偽造)
	2	2.5YR3/0 暗赤褐色	シルト	(偽造)
	20	10YR4/3に近い黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。黒褐色シルトブロックを含む。カマド前壁は焼く細。
	21	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・埴上粒をわずかに含む。炭化物粒を多量含む。
	22	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・埴上粒をわずかに含む。

遺構	編位	土 色	土 性	備 考
SK4	23	10YR4/3に近い黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。縫隙あり。
	24	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マングン粒・炭化物粒を多量含む。
P1	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・黒褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3に近い 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	3	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
P2	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR4/3に近い 黑褐色	シルト	褐褐色シルト・泥化粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗赤色	シルト	褐色シルト・泥化粘土ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐褐色シルト・泥化粘土ブロックをわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P5	1	10YR3/3 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・泥化粘土ブロックをむずかに含む。炭化物粒を多量含む。
P6	2	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	3	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P7	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒をわずかに含む。
	2	10YR3/4 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物粒を含む。
SK1	1	10YR3/3 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。埴上粒をむずかに含む。
	2	10YR3/3 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックを含む。黒褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。埴上粒をむずかに含む。
SK2	1	10YR4/3に近い 黑褐色	シルト	褐灰色粘土ブロックを含む。黒褐色シルトブロック・炭化物粒を多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐灰色粘土ブロック・炭化物粒をむずかに含む。
	3	10YR3/3 暗赤色	シルト	褐色シルトブロックをむずかに含む。

第17図 SI9b 穴住居平面図

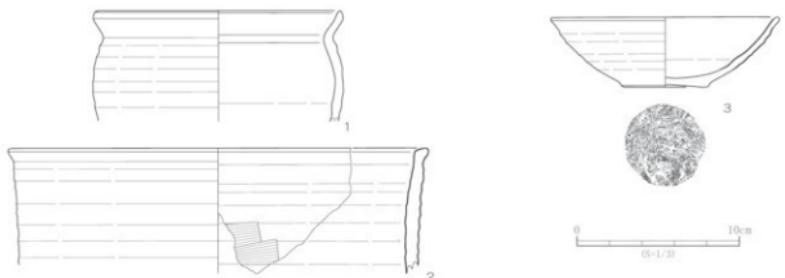


No.	標記番号	区	遺構・グリッド	層位	種	形	面	種	口径×底径×高さ(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真回数
3	D-10	2B	S09a	1 上部	手	(12.8×4.6×4.4	ロクロナデ	底部回転形切り	ヘラミガキ・黒色処理			B-6	
2	D-17	2B	S09a	2 上部	裏	(14.0×4.0×5.4	ロクロナデ			外面部熱。		B-7	
3	D-18	2B	S09a	1 上部	裏	× × × 9.5	ロクロナデ			内面部熱。			
4	C-10	2B	S09-SK4	2 上部	裏	× (10.8) × 高 17.2	ハラケズリ	底部ナデ	ヘラナデ			B-8	
5	D-11	2B	S09	カマド	上部	(15.2×6.2×6.1	ロクロナデ	底部回転形切り	ヘラミガキ・黒色処理			B-9	
6	D-8	2B	S09-SK4	2 上部	手	(14.0×6.0×4.3	ロクロナデ	底部回転形切り	ヘラミガキ・黒色処理			B-10	
7	D-9	2B	S09-SK4	2 上部	手	(14.6×4.0×4.1	ロクロナデ		ヘラミガキ・黒色処理			B-11	
8	D-7	2B	S09-SK4	2 上部	手	16.0×6.3×5.7	ロクロナデ	底部回転形切り	ヘラミガキ・黒色処理	-+持ち立ちケズリ		B-12	
9	D-14	2B	S09	カマド	上部	(20.2×4.0×12.7	ロクロナデ・ハラケズリ			ロクロナデ・ヘラナデ		B-13	
10	D-15	2B	S09	カマド	上部	× 7.5 × 高 7.5	ロクロナデ・ハラケズリ		ロクロナデ			B-14	

第18図 S19-a・b 壁穴住居跡出土遺物（1）

2) 挖立柱建物跡

SB16 挖立柱建物跡（第20図、図版6）W210～220・S180 グリッドに位置する。SI9、SD7・17、P9・46・74と重複関係にあり、本遺構がSI9、SD7・17、P46・74より新しく、P9より古い。検出規模は桁行3間（北列西から2.20m+2.19m+1.97m、総長6.36m、南列西から2.20m+1.98m+2.15m、総長6.33m）、梁行2間（西列北から2.60m+2.26m、総長4.86m、東列北から2.65m+2.10m、総長4.75m）の建物であり、桁行柱列方向はN-71°-Wである。柱穴掘り方の規模は、径30～69cmの円形もしくは梢円形である。検出面からの深さは35～78cmである。



No.	目録番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	断面	口径×底径×深度(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真回数
1	D-16	2B	S19b-SK4	2	土塁部	圓	(15.25 × ×) 6.8	ロクロナデ	ロクロナデ	8-15	
2	D-13	2B	S19b-SK4	2	土塁部	圓	(26.00 × ×) 7.7	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	8-16	
3	E-7	2B	S19b	9・カマド	火葬坑	円	(14.00 × 5.2 × 4.3)	ロクロナデ 底部刃物切り	ロクロナデ	8-17	

第19図 SK19b 穴住居跡出土遺物（2）

P4・12・20・35・72・73で径7～20cmの柱痕跡を検出した。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

3) 土坑

SK2 土坑（第21図、図版6） W220・S180 グリッドで検出した。SK5と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は長方形で、長軸方向はN-72°-Wである。規模は長軸 1.84m、短軸 1.33m、深さ 42cm で、壁面は、底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

SK3 土坑（第21図、図版6） W220・S180 グリッドで検出した。SK5と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-69°-Wである。規模は長軸 1.34m、短軸 1.14m、深さ 64cm で、壁面は南側が底面からわずかに外へ広がりながら立ち上がり底面から 15cm 付近で屈曲し、そこから垂直に立ち上がる。北側の壁面も同様の立ち上がりをみせるが、底面から 45cm 付近で屈曲し、外へ開くように立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は12層に分層される。2層及び4～12層では焼土粒・炭化物がわずかに含まれており、4～12層まで黒褐色シルト、オリーブ黒色砂質シルトが互層状に堆積する。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

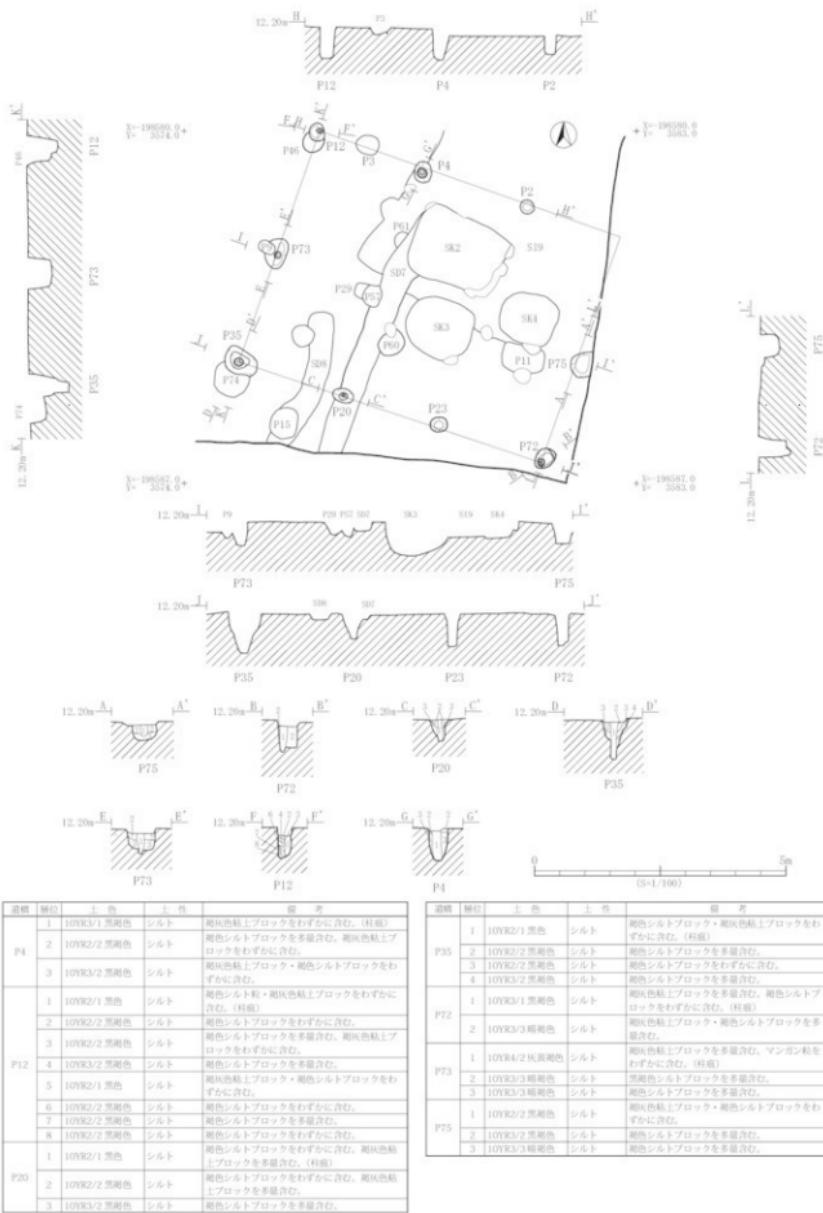
SK4 土坑（第21図、図版6） W210・S180 グリッドで検出した。SD6と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸方形である。規模は一辺 1.10m、深さ 25cm で、壁面は底面から大きく外へ開くように立ち上がり、底面から 5cm 付近で屈曲しそこから垂直に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

SK5 土坑（第21図） W220・S180 グリッドで検出した。SK2・3、SD6と重複関係にあり、本遺構がSD6より新しく、SK2・3より古い。平面形は不明である。検出した規模は南北約 1.30m、東西 98cm、深さ 22cm で、壁面は底面から緩やかに立ち上がる。断面形は不明であるが底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK12 土坑（第21図） W210・S170 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-46°-Eである。規模は長軸 94cm、短軸 40cm、深さ 27cm で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

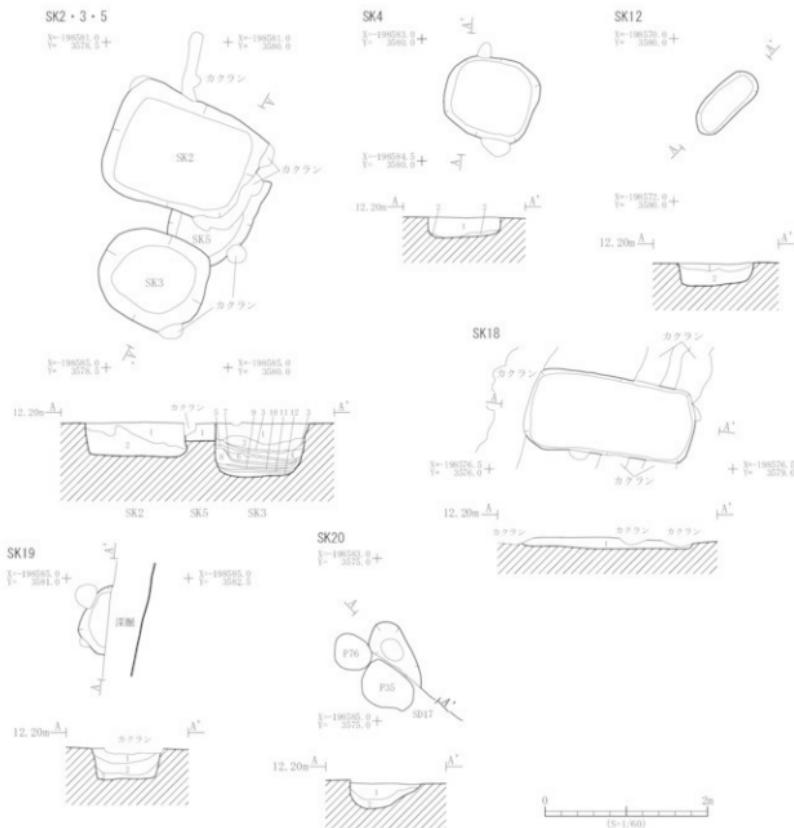
SK18 土坑（第21図） W220・S170 グリッドで検出した。平面形は長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。規模は長軸 2.06m、短軸 98cm、深さ 13cm で、壁面は底面からやや外へ開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK19 土坑（第21図） W210・S180 グリッドで検出した。東側は削平され、平面形は不明だが、残存部から円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は南北 85cm、東西 30cm、深さ 39cm で、壁面は底面からわずか



第20図 S B 16 挖立柱建物跡平面図・断面図

第2節 伊古田遺跡2B区



遺構	部位	土 色	工 作	構 築
SK2	1	10YR2/1 黒色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類をわずかに含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	4	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	5	SY2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
SK3	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	4	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	5	SY2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
	6	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	7	SY2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
	8	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	9	SY2/2 オリーブ黒色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
	10	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
遺構	部位	土 色	工 作	構 築
SK4	1	SY2/2 オリーブ黒色		褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
	2	SY2/2 オリーブ黒色		褐色シルトブロック・炭化物類・焼土を含む。
SK5	1	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	2	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	3	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
SK12	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物類・焼土を含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
	3	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
SK18	1	10YR4/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。炭化物類を含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。炭化物類を含む。
	3	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。炭化物類を含む。
SK19	1	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
SK20	1	SY2/2 オリーブ黒色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。

第21図 SK2～5・12・18～20 土坑平面図・断面図

に外へ開くように立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK20 土坑（第21図） W220・S180 グリッドで検出した。SD17、P76と重複関係にあり、本遺構が古い。南側をSD17に削平され、平面形は不明であるが梢円形を基調としたものと考えられ、長軸方向はN-9°-Wである。検出した規模は長軸56cm、短軸40cm、深さ35cmで、北西側壁面は底面から緩やかに立ち上がり、底面から10cm付近で垂直に立ち上がる。南東側壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整なU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

4) 溝跡

SD6 溝跡（第13・22図、図版4） W210・S180 グリッドで検出した。SI9、SK4・5と重複関係にあり、本遺構がSI9より新しくSK4・5より古い。西側はSK5に削平される。方向はN-75°-Wで、検出長1.18m、幅16～24cm、深さ6cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD7 溝跡（第13・22図、図版4） W210～220・S180 グリッドで検出した。SI9、SK2、SD17、P20・47・57・60と重複関係にあり、本遺構がSI9、SD17より新しく他より古い。南側の調査区外に延びる。方向は南から北へN-24°-Eで延び、途中N-53°-Eへ屈折して延びる。検出長6.68m、幅48～64cm、深さ15cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD8 溝跡（第13・22図、図版4） W220・S180 グリッドで検出した。SD17、P6・15と重複関係にあり、本遺構がSD17より新しくP6・15より古い。南側の調査区外に延びる。方向はN-18°-Eで、検出長2.75m、幅45～62cm、深さ12cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD10 溝跡（第13・22図、図版4・6） W210・S170 グリッドで検出した。P43・44と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側の調査区外に延びる。方向はN-76°-Wで、検出長2.98m、幅53～85cm、深さ50cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD13 溝跡（第13・22図、図版4） W220・S180 グリッドで検出した。P80と重複関係にあり、本遺構が新しい。南側の調査区外に延びる。方向はN-4°-Eで、検出長1.34m、幅39～45cm、深さ19cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器の小片が出土した。

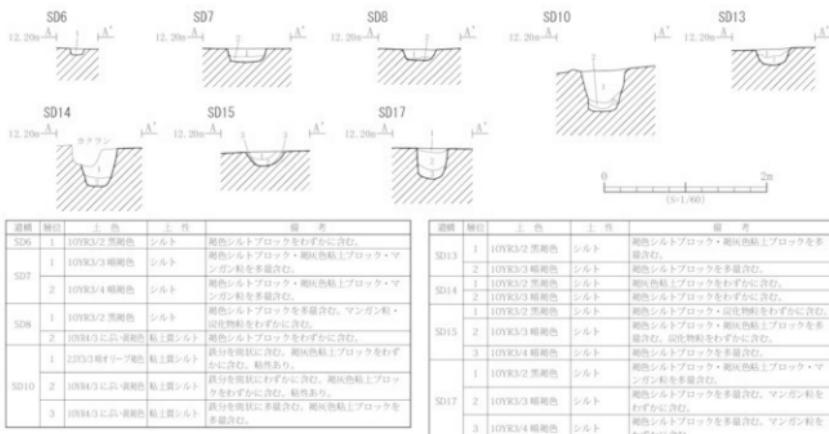
SD14 溝跡（第13・22図、図版4・6） W210・S170 グリッドで検出した。P51と重複関係にあり、本遺構が古い。東側の調査区外に延びる。方向はN-46°-Wで、検出長3.30m、幅24～43cm、深さ45cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD15 溝跡（第13・22図、図版4） W220・S170 グリッドで検出した。東西両側を、擾乱に削平される。方向はN-55°-Wで、検出長は3.65m、幅34～49cm、深さ17cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から須恵器の小片が出土した。

5) ピット（第13図、図版4）

79基のピット（P1～6・8～53・55～57・59～82）を検出した。遺物は堆積土から土師器・須恵器の小片が出土した。

第2節 伊古田遺跡



第22図 SD6~8・10・13~15・17溝跡断面図

5.まとめ

伊古田遺跡は、仙台市太白区大野田字塚田にあり自然堤防に立地する縄文時代～平安時代の遺跡である。平成17年度に1区、平成18年度に2A・B区で計976㎢の調査を行い、古墳時代～古代及び近世の遺構を検出した。

(1) 遺構について

- 1区 横穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基、河川跡1条、性格不明遺構1基、溝跡13条、ピット135基

2A区 河川跡1条、溝跡1条、ピット1基

2B区 横穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑8基、溝跡8条、ピット79基

- 1区で検出したSI16・18は、いずれも横穴住居跡の北壁にカマドを付設している。

- 3区で検出したSI18は、出土遺物から8世紀前半～中頃の横穴住居跡と考えられる。同じく、1区で検出されたSD14はSI18より古く、4世紀頃の遺物が出土していることから4世紀以降に機能していたと考えられる。

- 4) 2B区で検出したSI1・9は、出土遺物からいずれも9世紀後半～10世紀前半の横穴住居跡と考えられ、東壁にカマドを付設している。

- 5) 2B区で検出されたSB16は、SI9より新しいことから、10世紀以降の掘立柱建物跡と考えられる。

- 6) 2B区で検出されたSD7は、SI9より新しくSB16より古いことから、SI9廃絶後からSB16機能以前の溝跡である。

(2) 遺物について

出土遺物は、平箱11箱である。

1) 古墳時代

SD14からロクロ不使用の土師器甕や、4世紀頃と考えられるロクロ不使用の土師器壺が出土している。

2) 古代

1区のSI16・18から土師器の有段丸底壺や長胴・球形の甕が出土している。2B区のSI1・9からロクロ不使用の土師器壺や甕、櫃、赤焼土器、須恵器壺が出土している。

3) 近世

2A区のP1から近世の陶器片が出土している。

第1表 遺構一覧表

1区V層 窓穴の出現跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	カマド	時 期
SI16	W230・S170～180	N 50° E	東西 [2.09] ×南北 3.68	北壁	
SI18	W230・S170～180	N 17° E	東西 4.81 ×南北 [3.58]	北壁中央	8世紀前半～中頃
新立柱跡物跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	主軸方向	柱間数	建物面積 (m)	時 期
SB1	W230・S180	N 78° W	柱行 3 棟×梁行 2 棟	3.85 × 3.72	
土坑					
遺構番号	位置 (グリッド)	基軸方向	面 積 (cm)	平面形・断面形	時 期
SK3	W220・S180	N 62° E	長軸 85 × 短軸 49 × 深さ 13	横円・逆台形	
SK6	W220・S190		径 44 × 深さ 12	円形・逆台形	
SK9	W220・S190	N 72° E	長軸 [86] × 短軸 84 × 深さ 10	(4輪)形・逆台形	
性状不明遺構					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (cm)	平面形・断面形	時 期
SK11	W220・S170～180	N 85° E	長軸 [132] × 短軸 79 × 深さ 38		9世紀後半～10世紀前半
SK17	W220・S170	N 65° E	長軸 [57] × 短軸 42 × 深さ 38		9世紀後半～10世紀前半
井戸跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	平面形・断面形	時 期
SW22	W220～230・S170～210	N 4° E	長さ [35.20] × 幅 2.80～4.90 × 深さ 0.68	注溝形・不整U字形	
溝跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	平面形・断面形	時 期
SD2	W220・S180	N 69° E	長さ [3.97] × 幅 0.44～0.64 × 深さ 0.08～0.12	注溝形・逆台形	
SD4	W220・S180～190	N 53° W	長さ [5.90] × 幅 0.28～0.43 × 深さ 0.05～0.08	直線・逆台形	
SD5	W210～240・S180～200	N 55° E	長さ [27.77] × 幅 2.39～3.03 × 深さ 0.90～1.30	注溝形・扇形	
SD7	W240・S190～200	N 28° E	長さ 3.72 × 幅 0.30～0.50 × 深さ 0.04～0.10	直線・不整形	
SD8	W210・S190～200	N 34° E	長さ [4.73] × 幅 1.38～2.14 × 深さ 0.25～0.36	直線・不整逆行形 or U字形	
SD10	W220・S180～190	N 8° W	長さ [5.96] × 幅 0.33～0.48 × 深さ 0.19	直線・U字形	
SD12	W210～220・S200	N 79° E	長さ [16.39] × 幅 0.57～1.21 × 深さ 0.48	注溝形・不明	
SD13	W230～240・S180～190	N 41° E, N 57° E	長さ [17.30] × 幅 0.25～0.37 × 深さ 0.10～0.12	弧曲・逆台形	
SD14	W230～240・S170～190	N 51° E, N 22° E	長さ [17.42] × 幅 0.49～1.18 × 深さ 0.20～0.45	弧曲・逆台形	4世紀頃
SD15	W210～220・S190～200	N 49° E	長さ [10.70] × 幅 0.34～0.56 × 深さ 0.12	注溝形・逆台形	
SD19	W210～220・S190～200	N 50° E	長さ [7.96] × 幅 0.46～0.87 × 深さ 0.36	注溝形・U字形	
SD20	W220・S190～200	N 41° E	長さ [5.73] × 幅 0.77～0.96 × 深さ 0.45	注溝形・逆行形	
SD21	W210・S190～200	N 52° W	長さ [5.50] × 幅 0.24～0.37 × 深さ 0.15	小半船形・U字形	
2A区V層 井戸跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	平面形・断面形	時 期
SW2	W230～240・S200～210				
溝跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	平面形・断面形	時 期
SD1	W240・S200	N 72° E	長さ [5.34] × 幅 2.13～2.64 × 深さ 0.78	注溝形	
2B区V層 窓穴の出現跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	カマド	時 期
SI1	W230・S170～180	N 69° W	南壁 [1.83] × 南壁 [0.43]	南壁	9世紀後半～10世紀前半
SI2	W210～220・S180	N 59° W	東西 3.67 × 南北 4.71	南壁中央	9世紀後半～10世紀前半
新立柱跡物跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	主軸方位	柱間数	建物面積 (m)	時 期
SB16	W210～W220・S180	N 71° W	柱行 3 棟×梁行 2 棟	6.36 × 4.96	10世紀後半
土坑					
遺構番号	位置 (グリッド)	基軸方向	面 積 (cm)	平面形・断面形	時 期
SK2	W220・S180	N 72° W	長軸 [164] × 短軸 133 × 深さ 42	長方形・窓形	
SK3	W220・S180	N 69° W	長軸 [134] × 短軸 114 × 深さ 64	楕円形・窓形	
SK4	W220・S180		一沿 110 × 深さ 25	楕円形・窓形	
SK5	W220・S180		東西 98 × 南北 [1.30] × 深さ 22	楕円形	
SK12	W210・S170	N 46° E	長軸 94 × 短軸 40 × 深さ 27	横円形・逆行形	
SK18	W220・S170	N 82° W	長軸 [206] × 短軸 98 × 深さ 13	長方形・逆行形	
SK19	W220・S180	N 7° E	長軸 85 × 短軸 [30] × 深さ 39	円形・逆行形	
SK20	W220・S180	N 9° W	長軸 [56] × 短軸 40 × 深さ 35	不明・不整U字形	
溝跡					
遺構番号	位置 (グリッド)	方 向	面 積 (m)	平面形・断面形	時 期
SD6	W210・S180	N 75° W	長さ [1.18] × 幅 0.16～0.24 × 深さ 0.06	注溝形・逆行形	
SD7	W210～220・S180	N 24° E, N 53° E	長さ [6.68] × 幅 0.48～0.64 × 深さ 0.15	直線・逆行形	
SD8	W220・S180	N 18° E	長さ [12.34] × 幅 0.45～0.62 × 深さ 0.12	直線・逆行形	
SD10	W210・S170	N 76° W	長さ [12.96] × 幅 0.53～0.85 × 深さ 0.50	注溝形・逆行形	
SD13	W220・S180	N 4° E	長さ [11.34] × 幅 0.39～0.45 × 深さ 0.19	直線・U字形	
SD14	W210・S170	N 46° W	長さ [3.93] × 幅 0.24～0.43 × 深さ 0.45	注溝形・逆行形	
SD15	W220・S170	N 55° W	長さ [3.65] × 幅 0.34～0.49 × 深さ 0.17	直線・逆行形	
SD17	W220・S180	N 54° W	長さ [6.19] × 幅 0.38～0.48 × 深さ 0.39	注溝形・U字形	

伊古田遺跡写真図版



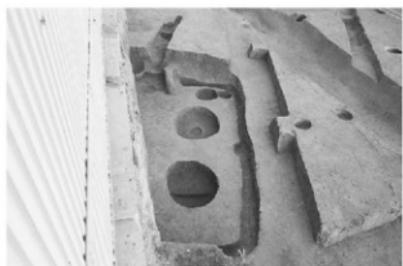
1区V層全景（南より）



1区V層全景（南西より）

写真図版1 伊古田遺跡（1）

第2節 伊古田遺跡



1区 V層 SI16 (南より)



1区 V層 SI16 カマド (南より)



1区 V層 SI18 (南より)



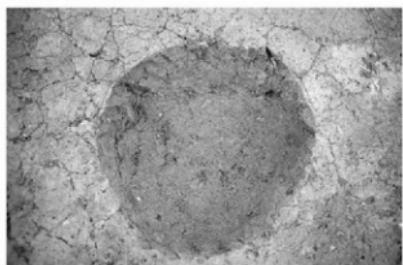
1区 V層 SI18 カマド出土物状況 (南より)



1区 V層 SB1 (南より)



1区 V層 SK3 (西より)



1区 V層 SK6 (東より)



1区 V層 SK9 (南より)

写真図版2 伊古田遺跡 (2)



1区V層 SR22 断面（南より）



1区V層 SX11・17 遺物出土状況（南西より）



1区V層 SD4（北西より）



1区V層 SD5（南西より）



1区V層 SD5BB' 断面（南西より）



1区V層 SD10（南より）



1区V層 SD13・14（南西より）



1区V層 SD15・19・20（南西より）

写真図版3 伊古田遺跡（3）

第2節 伊古田遺跡



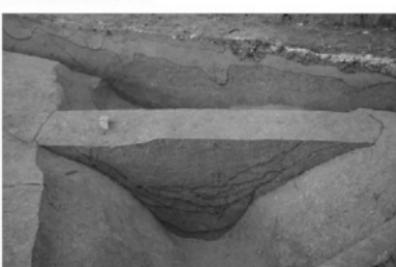
1区V層SD21（南西より）



2A区V層全景（南より）



2A区V層SD1（東より）



2A区SD1断面（東より）



2B区V層全景（南より）

写真図版4 伊古田遺跡（4）



2B 区V層 SI1 遺物出土状況（西より）



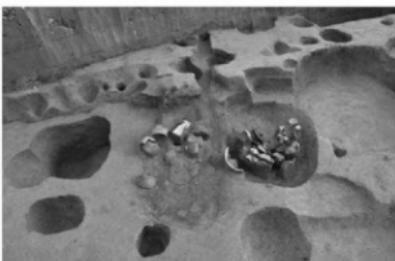
2B 区V層 SI1（西より）



2B 区V層 SI9a（西より）



2B 区V層 SI9a カマド（西より）



2B 区V層 SI9b カマド・SI9b-SK4 遺物出土状況（西より）

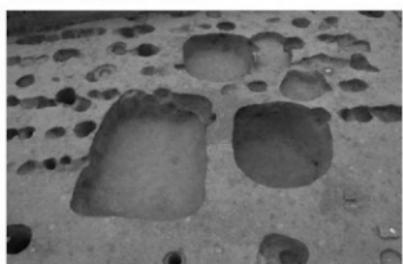
写真図版5 伊古田遺跡（5）



2B区V層 SI9b 摂り方（西より）



2B区V層 SB16（西より）



2B区V層 SK2～4（西より）



2B区V層 SK2 画面（西より）



2B区V層 SK3 断面（西より）



2B区V層 SD10（西より）



2B区V層 SD14（北西より）



2B区V層 SD17（南東より）

写真図版6 伊古田遺跡（6）



1
(第3図1)



2
(第3図7)

1区V層 SI16 (1・2)



3
(第5図1)



4
(第5図2)



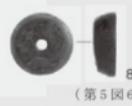
5
(第5図3)



6
(第5図4)



7
(第5図5)



8
(第5図6)

1区V層 SI18 (3～8)



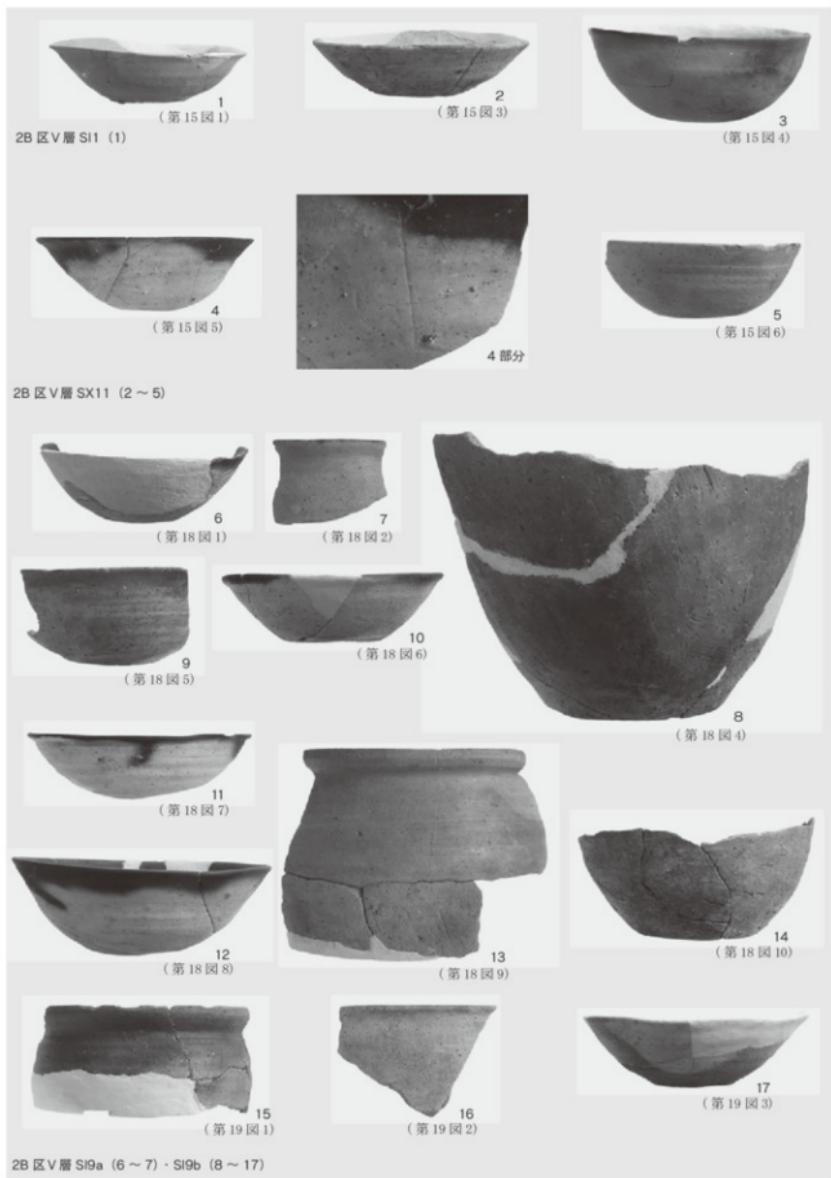
9
(第11図1)



10
(第11図3)

1区V層 SD14・15 (9～10)

写真図版7 伊古田遺跡出土遺物（1）



写真図版8 伊古田遺跡出土遺物（2）

第3節 大野田古墳群

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：大野田古墳群（宮城県遺跡登録番号 01361）
- (2) 所在地：仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田
- (3) 調査面積：約 130m² (10 区)
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員：荒井 格・門馬有希（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
- (7) 調査期間

（野外調査）・平成 17 年 6 月 1 日～7 月 20 日

（整理作業）各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

- ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
- ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
- ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 4 日～平成 25 年 3 月 29 日

2. 10 区の調査

10 区の調査では、基本層 V 層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、土坑 3 基、小溝状遺構群 2 群、ピット 15 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、V 層上面の調査が終了した後、下層の状況を確認するため調査区北壁際 (W70 ~ 80・S80) に深掘区を設定し下層調査を行った。遺構は検出されず繩文土器の破片数点が出土したのみである。

（1）V 層検出の遺構と遺物（第 1 図、図版 1）

1) 土坑

SK515 土坑（第 2 図、図版 1） W80・S90 グリッドで検出した。小溝状遺構 II-2 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不明である。西側の調査区外に延びる。検出した規模は東西 28cm、南北 1.36m、深さ 52cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は南側が一段高くなっている。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK516 土坑（第 2 図、図版 1） W80・S80 グリッドで検出した。小溝状遺構 II-7・8・29 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整長方形で、長軸方向は N-43°-E である。規模は長軸 1.12m、短軸 73cm、深さ 14cm で、壁面は底面から急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は北東から南西へ傾斜する。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK518 土坑（第 2 図、図版 1） W80・S80 グリッドで検出した。平面形は削丸長方形で、長軸方向は N-46°-E である。規模は長軸 54cm、短軸 38cm、深さ 19cm で、壁面は北側が急角度、南側は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は北東から南西へ傾斜する。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

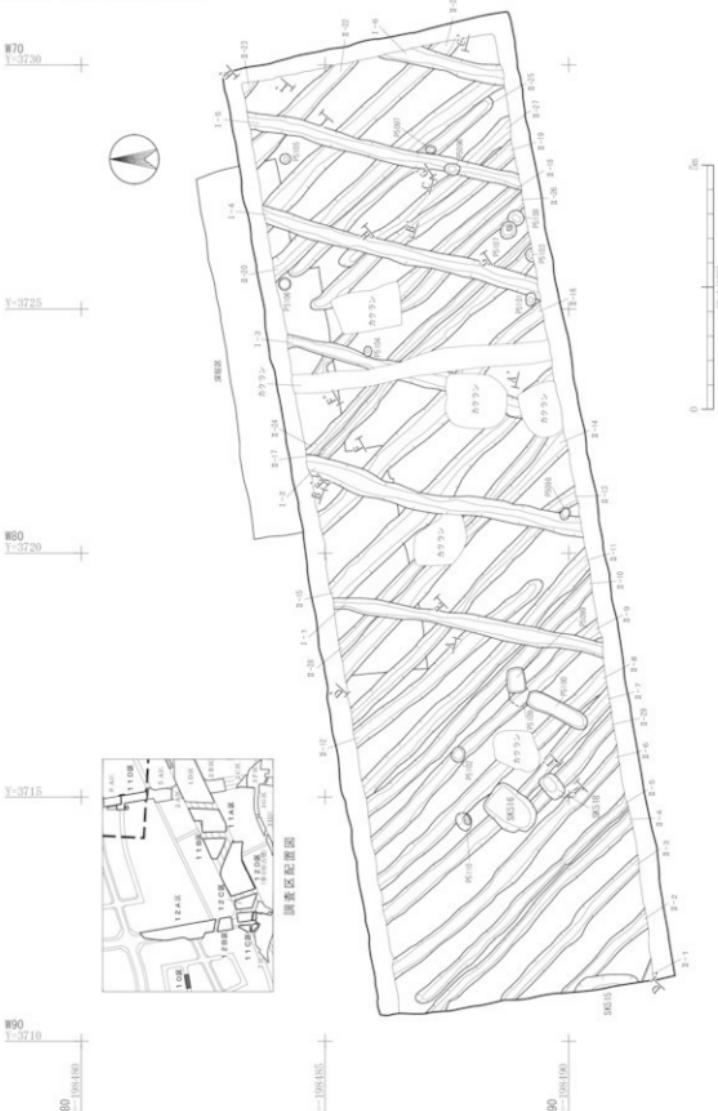
2) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向から I・II 群に分けられる。また、重複関係から II 群→I 群の変遷がたどれる。

I 群（第 1・3 図、図版 1） W60～80・S80～90 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、6 条の小溝で構成される。方向は N-10～16°-E で、検出長 2.10～5.84m、幅 20～54cm、深さ 8～25cm である。小溝の間隔は、1.70～2.00m である。堆積土は、1～2 層に分層される。遺物は堆積土から土器小片が出土している。

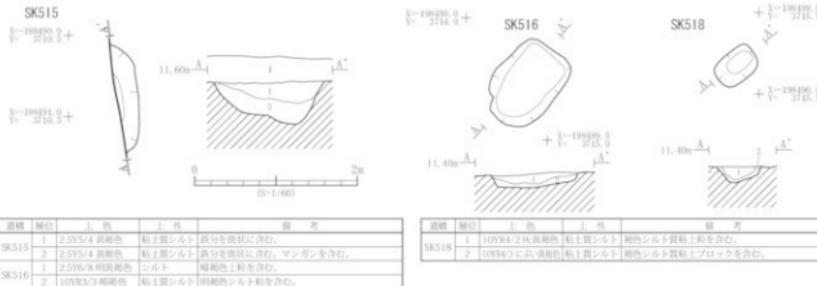
II 群（第 1・3 図、図版 1） W60～80・S80～90 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、29 条の小溝で構成される。一部に掘り直しと思われる重複がみられる。方向は、II-1 が N-68°-W それ以外は N-38～

第3節 大野田古墳群 10区

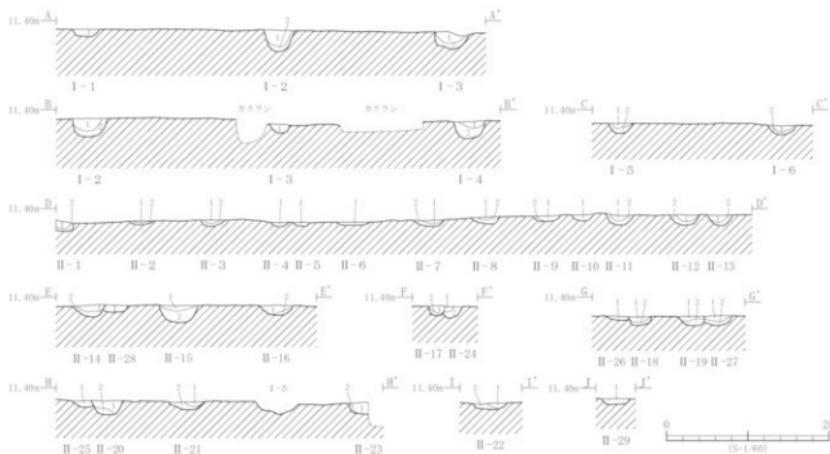


第1図 大野田古墳群 10区V層遺構配置図

46°Wで、検出長0.22～6.60m、幅8～56cm、深さ4～17cmである。小溝の間隔は、接しているものを除けば、2～85cmである。堆積土は、1～2層に分層される。遺物はII-10・13・15～20・24から土師器の小片が出土している。



第2図 SK515・516・518土坑平面図・断面図



番号	種類	土色	土性	備考
I - 1	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 2	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 3	2	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 4	1	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 5	2	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 6	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 7	2	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 8	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 9	2	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 10	1	10YR3/4 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 11	2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 12	2	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 13	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 14	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 15	2	10YR4/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 16	1	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 17	2	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 18	1	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 19	2	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 20	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 21	2	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 22	1	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 23	2	10YR4/4 黄褐色	シルト質粘土	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 24	1	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 25	2	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 26	1	10YR3/2 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 27	2	10Y4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 28	2	10YR4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。
I - 29	2	10Y4/2 に、10Y4/3 黄褐色	粘土質シルト	褐色シルト質粘土ブロックを含む。

第3図 小溝状遺構群断面図

第3節 大野田古墳群10区

3) ピット(第1図)

15基のピット(P5096～5110)を検出した。遺物は出土していない。

(2) 遺構外出土遺物

第4図に深堀区のVII層から出土した縄文土器1点を図示した。LR縄文+L縄文の結束第1種縄文が施文される。



第4図 遺構外出土遺物

3.まとめ

大野田古墳群は、仙台市太白区大野田字宮、宮脇、竹松、千刈田にあり、自然堤防上に立地する古墳時代～古代の遺跡である。平成17年度に10区の調査が行われ、古墳時代～古代の遺構が検出された。

(1) 遺構について

1) 古墳時代～古代の遺構はV層上面で検出された。

土坑3基、小溝状遺構群2群、ピット15基

2) 小溝状遺構群が検出されていることから、当調査区周辺には畠が広がっていたと考えられる。

(2) 遺物について

出土遺物は平箱2箱である。土師器と縄文土器の小破片が多い。小溝状遺構群から土師器片が、VII層から縄文土器片が数点出土した。

第1表 遺構一覧表

10区V層

柱

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 横(cm)	平面形・断面形	特 用
SK5-15	W80・S90	N-10° E	長さ15.80×幅0.25×深さ0.25	不明・逆台形	
SK5-16	W80・S90	N43° E	長さ15.80×幅0.25×深さ0.25	不整三方形・逆台形	
SK5-18	W80・S90	N-46° E	長さ15.84×幅0.32×深さ0.21	圓柱形・逆台形	

小溝状遺構群

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 横(m)	平面形・断面形	特 用
I-1	W80・S80～90	N-10° E	長さ15.00×幅0.25×0.40×深さ0.08	ほぼ直線・U字形	
I-2	W70・S80～90	N-13° E	長さ15.80×幅0.25×0.54×深さ0.25	ほぼ直線・U字形	
I-3	W70・S80	N-16° E	長さ15.00×幅0.20×0.39×深さ0.1～0.2	ほぼ直線・U字形	
I-4	W70・S80	N-15° E	長さ15.84×幅0.32×0.39×深さ0.21	ほぼ直線・U字形	
I-5	W70・S80	N-12° E	長さ15.70×幅0.28×0.39×深さ0.12～0.17	ほぼ直線・U字形	
I-6	W60～70・S80	N-16° E	長さ12.10×幅0.32×0.42×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-1	W80・S90	N-68° W	長さ10.35×幅0.19×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-2	W80・S80～90	N-43° W	長さ12.20×幅0.26×0.35×深さ0.06	ほぼ直線・U字形	
II-3	W80・S80～90	N-45° W	長さ13.84×幅0.28×0.35×深さ0.09	ほぼ直線・U字形	
II-4	W80・S80～90	N-44° W	長さ15.73×幅0.23×0.35×深さ0.06	ほぼ直線・U字形	
II-5	W80・S80～90	N-43° W	長さ15.94×幅0.09×0.28×深さ0.05	ほぼ直線・U字形	
II-6	W80・S80～90	N-44° W	長さ16.36×幅0.28×0.45×深さ0.04	ほぼ直線・U字形	
II-7	W80・S80～90	N-44° W	長さ16.45×幅0.24×0.39×深さ0.08	ほぼ直線・U字形	
II-8	W80・S80～90	N-42° W	長さ16.30×幅0.29×0.39×深さ0.09	ほぼ直線・U字形	
II-9	W80・S80	N-44° W	長さ16.42×幅0.26×0.35×深さ0.07	ほぼ直線・U字形	
II-10	W80・S80～90	N-45° W	長さ16.46×幅0.28×0.35×深さ0.07	ほぼ直線・U字形	
II-11	W80・S80	N-46° W	長さ16.60×幅0.29×0.42×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-12	W80・S80	N-40° W	長さ14.98×幅0.30×0.44×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-13	W70～80・S80～90	N-45° W	長さ16.52×幅0.20×0.34×深さ0.13	ほぼ直線・U字形	
II-14	W70～80・S80～90	N-46° W	長さ16.16×幅0.22×0.43×深さ0.15	ほぼ直線・U字形	
II-15	W70～80・S80	N-43° W	長さ16.30×幅0.39×0.53×深さ0.2	ほぼ直線・U字形	
II-16	W70・S80	N-44° W	長さ16.18×幅0.34×0.55×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-17	W70・S80	N-44° W	長さ16.43×幅0.19×0.38×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-18	W70・S80	N-42° W	長さ13.22×幅0.28×0.35×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-19	W70・S80	N-38° W	長さ15.26×幅0.30×0.37×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-20	W70・S80	N-40° W	長さ16.16×幅0.36×0.45×深さ0.17	ほぼ直線・U字形	
II-21	W60～70・S80	N-44° W	長さ15.18×幅0.42×0.53×深さ0.1	ほぼ直線・U字形	
II-22	W60～70・S80	N-45° W	長さ12.21×幅0.35×0.38×深さ0.08	ほぼ直線・U字形	
II-23	W70・S80	N-46° W	長さ10.22×幅0.25×0.38×深さ0.13	ほぼ直線・U字形	
II-24	W70・S80	N-44° W	長さ16.42×幅0.26×0.38×深さ0.13	ほぼ直線・U字形	
II-25	W70・S80	N-41° W	長さ5.48×幅0.32×0.35×深さ0.07	ほぼ直線・U字形	
II-26	W70・S80	N-43° W	長さ15.96×幅0.17×0.35×深さ0.04	ほぼ直線・U字形	
II-27	W70・S80	N-39° W	長さ14.52×幅0.34×深さ0.12	ほぼ直線・U字形	
II-28	W70～80・S80	N-46° W	長さ15.98×幅0.33×深さ0.08	ほぼ直線・U字形	
II-29	W70・S80～90	N-46° W	長さ12.30×幅0.20×0.34×深さ0.07	ほぼ直線・U字形	

大野田古墳群写真図版



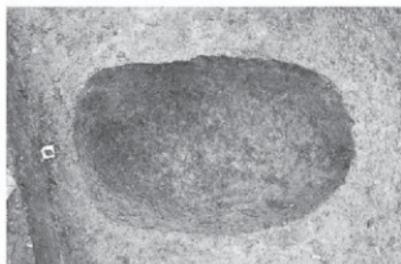
10区V層全景（東より）



10区V層SK515断面（東より）



10区V層SK516（南東より）



10区V層SK518（南東より）



出土遺物

写真図版1 大野田古墳群、出土遺物

第4節 下ノ内遺跡

1. 調査要項

- (1) 遺跡名：下ノ内遺跡（宮城県遺跡登録番号 01425）
- (2) 所在地：仙台市太白区富沢四丁目、大野田字五反田
- (3) 調査面積：約 1097m²
 - ・平成 17 年度：約 463m² (6 区)
 - ・平成 18 年度：約 634m² (7 A・7 B 区)
- (4) 調査主体：仙台市教育委員会
- (5) 調査担当：仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員
 - ・平成 17 年度：荒井 格・門馬有希（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
 - ・平成 18 年度：荒井 格・門馬有希（派遣調査員：青嶋邦夫／国際文化財）
- (7) 調査期間
 - (野外調査) ・平成 17 年度：平成 17 年 9 月 1 日～12 月 22 日
 - ・平成 18 年度：平成 18 年 4 月 21 日～12 月 1 日

(整理作業) 各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で最終整理を実施した。

 - ・平成 22 年度：平成 22 年 10 月 8 日～平成 23 年 3 月 31 日
 - ・平成 23 年度：平成 23 年 9 月 22 日～平成 24 年 3 月 30 日
 - ・平成 24 年度：平成 24 年 6 月 4 日～平成 25 年 3 月 29 日

2. 6区の調査

6区では、基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡 3軒、土坑 5基、河川跡 1条、溝跡 10条、小溝状遺構群 3群、ピット 144 基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区北側と東側に深掘区を設定し、北側深掘区のⅩ層上面で河川跡を 1条検出した。

(1) V層検出の遺構と遺物（第 1 図、図版 1）

1) 竪穴住居跡

S1417a～c 竪穴住居跡（第 2～4 図、図版 2）

3時期の建て替えを確認した。新しい時期から a～c 期として報告する。

S1417a 竪穴住居跡

[位置] W270・S50～60 グリッドに位置する。

[重複関係] S1417b・c、SR408、小溝状遺構 III-6～8、P1888～1890 と重複関係にあり、S1417b・c、小溝状遺構群 P1890 より新しく、他より古い。

[規模・形態] 東西 4.07m、南北 4.14m である。平面形は方形である。建て替え前の b 期から拡張・縮小された痕跡は認められない。

[主軸方位] カマド基準で N-65°-W である。

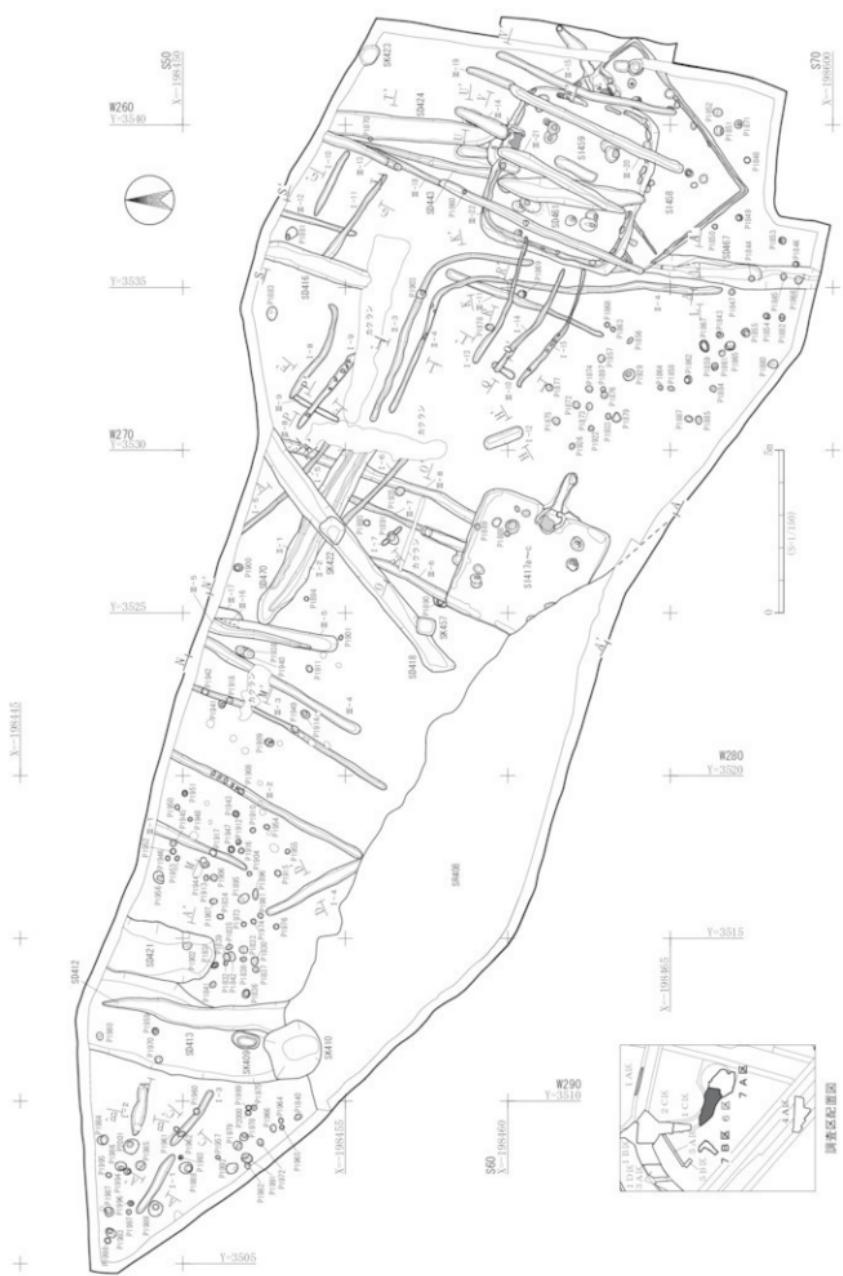
[堆積土・構築土] 18 層に分層した。1～2 層は住居跡堆積土、3～11 層はカマド内堆積土、12 層は周溝内堆積土である。a 期のカマドは b 期の新カマドを再利用しているため、14～19 層は a・b 期共通のカマド関連層位である。

[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がり 7～10cm 付近で外傾する。壁高は床面から 10～16cm である。

[床面] 13 層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で 2 基のピット（P10・11）を検出した。規模は径 15～18cm、深さ 4～12cm である。周溝に接していることから、補助的な柱の可能性があるが主柱穴は確認できなかった。

[周溝] 西・北・東南壁際で検出した。断面形は U 字形で、規模は幅 10～28cm、深さ 9～25cm である。


 第1図 下ノ内道跡6区V施設配管図
 地区配管図

第4節 下ノ内遺跡 6区

[カマド] 東壁に位置し、壁の中央に付設されている。b期に機能していたものを継続して使用している。袖の規模は、南袖が長さ80cm、幅29~40cm、床面からの高さ10cm、北袖が長さ70cm、幅25~33cm、床面からの高さ10cmである。燃焼部の規模は、奥行80cm、幅60cmである。a期の貼床によって焚口と燃焼部の境に約10cmの段がある。煙道部は長さ1.29m、幅26~37cm、深さ5~10cmで、底面は平坦で、先端部南側に長さ42cm、幅24cm、底面からの深さ8cmのピット状に落ち込む部分があり、煙出しのピットと考えられる。

[出土遺物] 堆積土及び床面から縄文土器・土師器・須恵器・打製石器が出土している。このうち土師器6点、須恵器2点、礫石器1点を第4図に図示した。1・2は土師器甕で底部に木葉痕がある。3は単孔の土師器甕で把手が付く。4~6はロクロ使用の土師器甕である。7~8は須恵器甕で、8は外面に櫛描波状文が施される。11は磨面に光沢が観察される礫石器である。ロクロ使用と不使用の土師器が混在していることから、本竪穴住居跡の年代は8世紀後葉~9世紀初頭頃と考えられる。

SI417b 竪穴住居跡

[位置] a期と同じ。

[重複関係] SI417cより新しく、SI417aより古い。また、本住居機能時に北壁から東壁にカマドを造り替えており、b期の段階でも2時期に細分される。

[規模・形態] a期と同じ。建て替え前のc期から拡張・縮小された痕跡は認められない。

[主軸方位] 新カマド基準でN-65°-W、旧カマド基準でN-22°-Eである。

[堆積土・構築上] 14層に分層した。13層は本期の床面を埋めた土で、上面がa期の床面である。14~19層は新カマド関連層位、20・21層は旧カマド内堆積土、22~26層は旧カマド関連層位である。

[壁面] 底面から直立気味に立ち上がり、壁高は床面から14~24cmである。

[床面] 27層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で11基のピット(P1~3・5~9・12~14)を検出した。規模は径13~44cm、深さ5~36cmである。北西側はP5~7、北東側はP8・9、南西側はP3・12、南東側はP1・2のいずれかが主柱穴として組み合う可能性がある。

[カマド] 2時期の造り替えがある。新カマドは東壁に位置し、壁の中央に付設されている。新カマド袖部は溝状の掘り方を持ち、袖の規模は、南袖は長さ56cm、幅21~31cm、床面からの高さ17cmで、北袖は長さ65cm、幅20~45cm、床面からの高さ10cmである。燃焼部の規模は、奥行80cm、幅60cmで、長軸95cm、短軸83cm、深さ12cmの掘り方を持つ。煙道部は長さ1.29m、幅26~37cm、深さ5~10cmで、長さ1.20m、幅47~84cm、深さ10cmの掘り方を持つ。旧カマドは残存する燃焼部の掘り方と煙道部のみを検出した。北壁に位置し、壁の中央に付設されている。燃焼部の掘り方の規模は、長軸64cm、短軸34cm、深さ10~14cmで、底面には凹凸がある。煙道部は、長さ1.43m、幅25~32cm、深さ10~24cmで、長さ1.47m、幅39~50cm、深さ3~15cmの掘り方を持つ。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 堆積土、ピット内堆積土から土師器・須恵器が出土している。このうち土師器1点、須恵器1点を第4図9・10に図示した。9はP1から出土したロクロ不使用の土師器甕である。10は須恵器甕の口縁部である。出土遺物の特徴とカマドが再利用されていることから、a期と大きな時間差は無いとみられ、本竪穴住居跡の年代も8世紀後葉~9世紀初頭頃と考えられる。

SI417c 竪穴住居跡

b期床面の下層の埋土除去後に掘り方底面の凹凸とは異なる面を検出したため、b期より古いc期の床面とした。

[位置] a期と同じ。

[重複関係] SI417a・bより古い。

[規模・形態] a期と同じ。

[主軸方位] 西壁基準でN-65°-Wである。

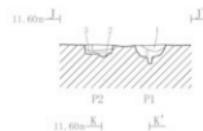
[堆積土・構築上] 3層に分層した。27層は本期の床面を埋めた土で、上面がb期の床面である。28・29層は掘り方埋土である。

[壁面] 底面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は底面から27cmである。

SI417a床面

 $\text{E}^{\circ}-199453.0$
 $11-3524.0 +$  $+ \text{E}^{\circ}-199453.0$
 $11-3524.0 +$

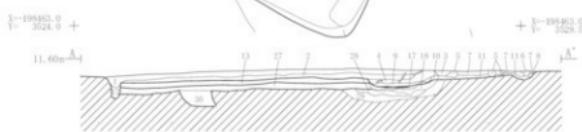
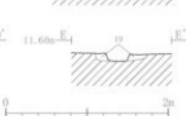
旧カマド煙道

 $11.60m-0.4$
 $11.60m-0.1$

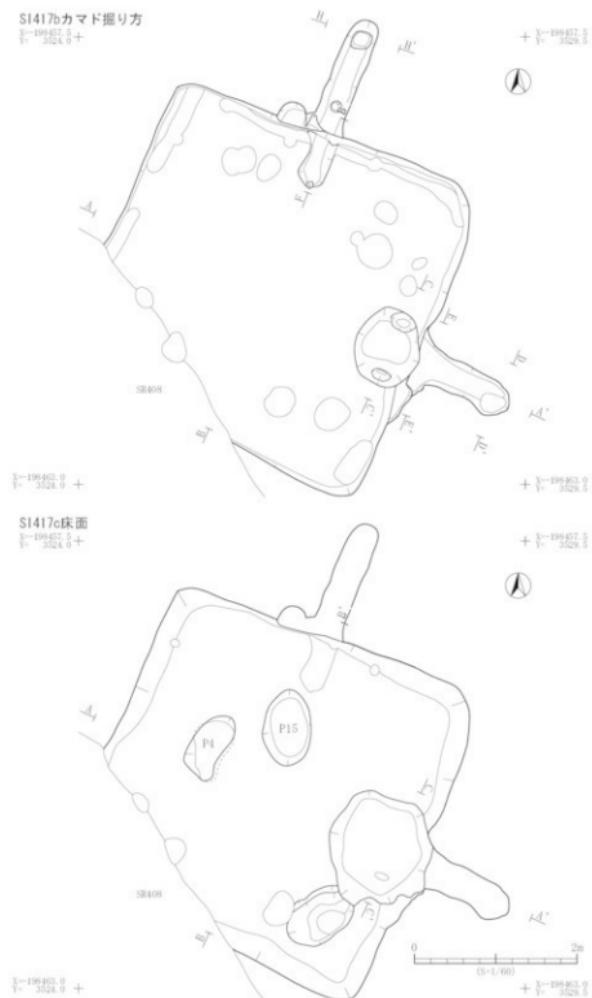
SI417b床面

 $\text{E}^{\circ}-199453.0$
 $11-3524.0 +$  $+ \text{E}^{\circ}-199453.0$
 $11-3524.0 +$ $11.60m-0.4$
 $11.60m-0.1$  $11.60m-0.4$
 $11.60m-0.1$

P12

 $+ \text{E}^{\circ}-199453.0$
 $11-3524.0 +$  $11.60m-0.4$
 $11.60m-0.1$

第2図 S I 417a・b 積穴住居平面図・断面図



第3図 S I 417b-c 壁穴住居跡平面図

[床面] b期のカマド掘り方により床面の一部が削平されるが、東壁の中央部を除いて掘り方の底面を直接床面としている。

[柱穴] 床面で2基のピット(P4・15)を検出した。規模は径40～94cm、深さ20～30cmである。配置関係から柱穴とは考えられない。

S4141a - b - c 土壌性記者				道機					
道機	耕種	上 地	土 質	道機	耕種	上 地	考 察		
S4141a	1	10YK3/3 暗褐色	私上質シルト	灰オリーブ色砂質シルトを含む多量含む。炭化物をわずかに含む。	S4141c	27	10YB4/1 黒褐色	私上質シルト	赤褐色シルトブロック、炭化物層、機上土を多量含む。鉄分を含む。機上土をわずかに含む。(C期
	2	10YK3/3 暗褐色	私上質シルト	マダラ色シルト・炭化物を含む。灰オリーブ色シルトをわずかに含む。	P4	30	2.5YV/2 暗褐色	シルト	赤褐色シルトブロック、機上ブロックを多量含む。炭化物を含む。
	3	2.5YR/2 沢褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P15	31	10YK3/4 暗褐色	シルト	機上ブロックを多量含む。鉄分、炭化物をわずかに含む。
	4	2.5YR/2 沢褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P2	32	10YK3/4 暗褐色	シルト	機上ブロックを多量含む。鉄分、炭化物をわずかに含む。
	5	10YK3/1 黒褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P1	33	10YK3/2 黑褐色	砂質シルト	機上ブロックで炭化物を多量含む。鉄分を含む。
	6	10YK3/45 沢褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P1	1	10YK3/2 黑褐色	砂質シルト	鉄分を含む。日光反射色をわずかに含む。
	7	2.5YR/2 沢褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P1	2	10YK3/2 黑褐色	砂質シルト	鉄分を含む。炭化物を含むをわずかに含む。
	8	7.5YR/2 黒褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P1	10	10YK3/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。機上ブロックを多量含む。
	9	7.5YR/4 黒褐色	シルト	機上ブロックをわずかに含む。	P2	11	10YK3/2 黑褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分、鉄を多量含む。
	10	10YK4/1 暗褐色	私上質シルト	機上ブロックを多量含む。	P2	12	10YK2/2 黑褐色	砂質シルト	機上ブロックを含む。鉄分、炭化物をわずかに含む。
	11	10YK3/4 沢褐色	シルト	黑褐色シルトブロックを含む。	P3	13	10YK3/4 暗褐色	シルト	暗褐色シルトブロック、鉄分、炭化物をわずかに含む。
	12			土壤記入。土壤性の特徴(性)	P3	1	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。
S4141b	13	10YK3/4 暗褐色	シルト	部分が墨緑色。灰オリーブ色砂質シルトを含む。鉄分を含む。暗褐色シルトブロック・炭化物を含むをわずかに含む。(b. 領域上界)	P3	2	10YK3/3 沢褐色	砂質シルト	暗褐色シルトブロックを含む。鉄分を多量含む。
	14	10YK3/3 沢褐色	シルト	機上土を含む。黑褐色シルトブロックを含むをわずかに含む。	P5	1	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分、炭化物を含むをわずかに含む。
	15	10YK4/3 沢褐色	シルト	機上土を多量含む。黒褐色シルトブロックを含む。	P5	2	10YK3/3 沢褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分、炭化物を含むをわずかに含む。
	16	10YK4/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。	P6	3	10YK3/3 沢褐色	砂質シルト	鉄分、炭化物を含むをわずかに含む。
	17	10YK4/4 暗褐色	私上質シルト	機上土を含む。	P7	4	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含むをわずかに含む。
	18	10YK4/4 暗褐色	私上質シルト	機上シルト・粘土シルト・機上ブロック・鉄分を多量含む。	P8	5	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	19	10YK3/4 沢褐色	私上質シルト	機上シルト。	P8	6	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	20	10YK3/15 沢褐色	シルト	赤黒シルト・黒褐色シルト・若干暗褐色シルトの混合。黄褐色シルト・黒褐色シルト・暗褐色シルト・トルコイド・粘土を多量含む。	P9	7	10YK3/2 黑褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	21	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・赤黒シルト・暗褐色シルト・トルコイド・粘土を多量含む。	P9	8	10YK3/1 沢褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
S4141b	22	10YK3/4 深褐色	私上質シルト	カマド埋造通り万、鉄分を含む。炭化物を含むをわずかに含む。	P9	9	10YK3/4 沢褐色	砂質シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	23	10YK4/4 深褐色	私上質シルト	カマド埋造通り万、鉄分を含む。炭化物を含むをわずかに含む。	P10	10	10YK3/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	24	10YK3/2 黑褐色	私上質シルト	赤黒シルト・黒褐色シルト・トルコイドを含む。	P11	11	10YK3/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。鉄分を含む。
	25	10YK3/2 黑褐色	シルト	機上ブロックと多量含む。マンゴン・鉄・炭化物を含む。	P12	12	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含む。炭化物を含む。
	26	10YK4/1 暗褐色	シルト	機上ブロックを多量含む。鉄分・炭化物を含む。	P12	13	10YK3/4 暗褐色	砂質シルト	鉄分を含む。炭化物を含む。
	27	10YK4/1 暗褐色	砂質シルト	機上ブロック・鉄分・炭化物を含むをわずかに含む。(b. 領域下限)	P13	1	10YK3/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。
	28	10YK4/1 暗褐色	私上質シルト	鉄分を含む。機上シルト・粘土シルト・機上シルト。	P13	2	10YK3/4 暗褐色	シルト	鉄分を含む。

[掘り方] 深さ 16 ~ 20cm である。底面はほぼ平坦である。

〔出土遺物〕本期に属する遺物は出土しなかつた。

SI458 積穴住居跡（第5～9図 図版2・3）

[位置] W250 ≈ 260; S60 グリッドに位置する

「重複関係」SI459・SD467・小瀬状遺構III-15・20・22と重複関係にあり、SD467より新しく、他より古く。

[規模・形態] 東西 5.93m、南北 4.31m である。北西から中央部を SI459 に削平されるが、平面形は長方形と考えられる。

[主軸方位] カヌド基準で N-56°E である。

[堆積土・構築土] 38層に分層した。1~3層は住居跡堆積土、4~13層は新カマド内堆積土、14層は周溝内堆積土、15~31層は新カマド関連層位、32~35層は旧カマド内堆積土、36・37層は旧カマド関連層位、38層は掘り方理土である。3層中の床面直上から多くの炭化材・焼土が出土している。炭化材は住居の壁に平行または直行した状態で出土したものが多く、火災で倒壊した部材と考えられる。

[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から 20 ~ 34cm である。

【床面】38層上面を床面としている。ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で 17 基のビット (P1 ~ 12・14 ~ 17・19) を検出した。配置・規模から P1・16・17・19 が主柱穴の可能性があり、規模は径 21 ~ 31 cm、深さ 20 ~ 72 cm である。P1・16・19 では径 10 ~ 15 cm の柱痕跡が認められた。その他のビットの規模は径 11 ~ 43 cm、深さ 5 ~ 86 cm で、P8 では径 10 cm、P11 では径 8 cm の柱痕跡が認められた。それらは住居の隅や壁際に位置するものが多く、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

[周溝] カマド周辺と西隅を除き検出範囲を全周する。断面形はU字形で、規模は幅10~13cm、深さ5~41cmである。

〔カマド〕東壁に位置し、壁の中央に付設されている。新旧2時期あり、同位置で造り替えが行われている。新カマド

第4節 下ノ内遺跡 6区

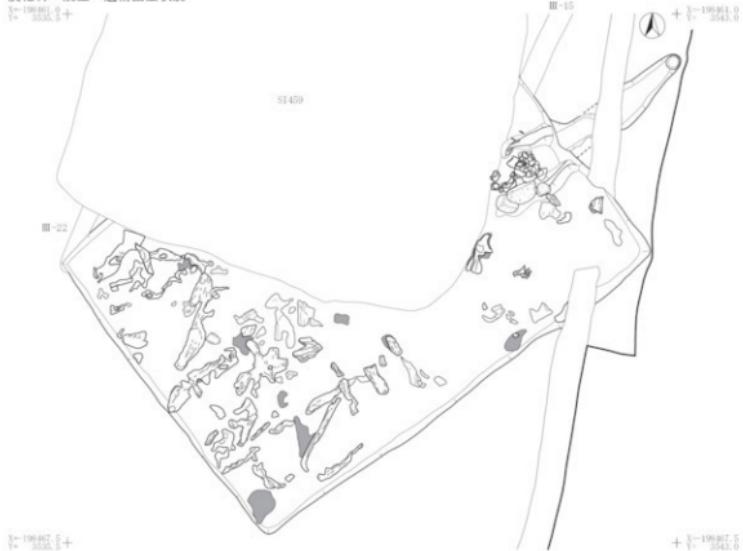


0
(5~10cm)

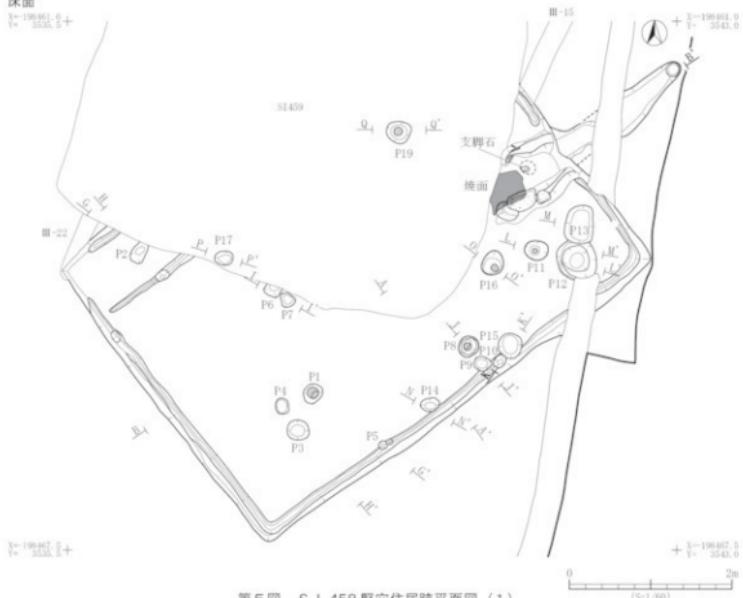
名	遺跡番号	区	遺構・グリッド	断面	種別	断面種	口径×底径×高さ(cm)	外底部調整	内部調整	備考	写真図版
1	C-15	6	SI417a	カマド	土器器	廣	- × 既扁 × 高1.9	ヘラケズリ	ナデ?	底部木型板、内外面 均熱。	-
2	C-16	6	SI417a	床面	土器器	廣	- × 8.0 × 高2.7	-	-	底部木型板、内外面 均熱。	-
3	C-13	6	SI417a	床面	土器器	廣	- × 9.4 × 高14.5	把手付・ヘラケズリ・ナデ	ヘラナデ・ヘラケズリ	単孔、内外面均熱。	19-1
4	B-6	6	SI417a	2	土器器	廣	- × 8.8 × 高1.9	口ヨロナデ・回転・ヘラケズ リ・底部ナデ?	ロクロナデ	-	19-2
5	B-3	6	SI417a	カマド	土器器	廣	(23.8) × - × 高25.2	ハラナデ	ロクロナデ・回転・ヘラナデ ・ハラナデ	-	19-4
6	D-5	6	SI417a	床面	土器器	廣	(24.8) × - × 高6.6	ロクロナデ	ロクロナデ・ヘラナデ	内部削除。	19-3
7	E-17	6	SI417a	2	土器器	廣	- × - × 高5.7	平行タタキ	当て具板(青海波文)	-	-
8	E-16	6	SI417a	1	土器器	廣	- × - × 高5.6	ロクロナデ・櫛編成状文	ロクロナデ・ヘラナデ	-	-
9	C-14	6	SI417b-P1	2	土器器	坪	(16.5) × (7.0) × 6.7	ヘラケズリ・ハラスガキ	ヘラスガキ・黒色処理	-	19-6
10	E-15	6	SI417b-P3	1	土器器	廣	- × - × 高6.9	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ	-	19-7
11	伊995-2	区	邊構・グリッド	断面	種別	断面種	口径×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真図版	
11	Kc-a1-1	6	SI417a	床面	土器器	廣	石英安息粉	12.6 × 5.6 × 4.8 794.59	側1、火炎あり。	-	19-5

第4図 S-417a・b 穴内居住跡出土遺物

炭化材・焼土・遺物出土状況

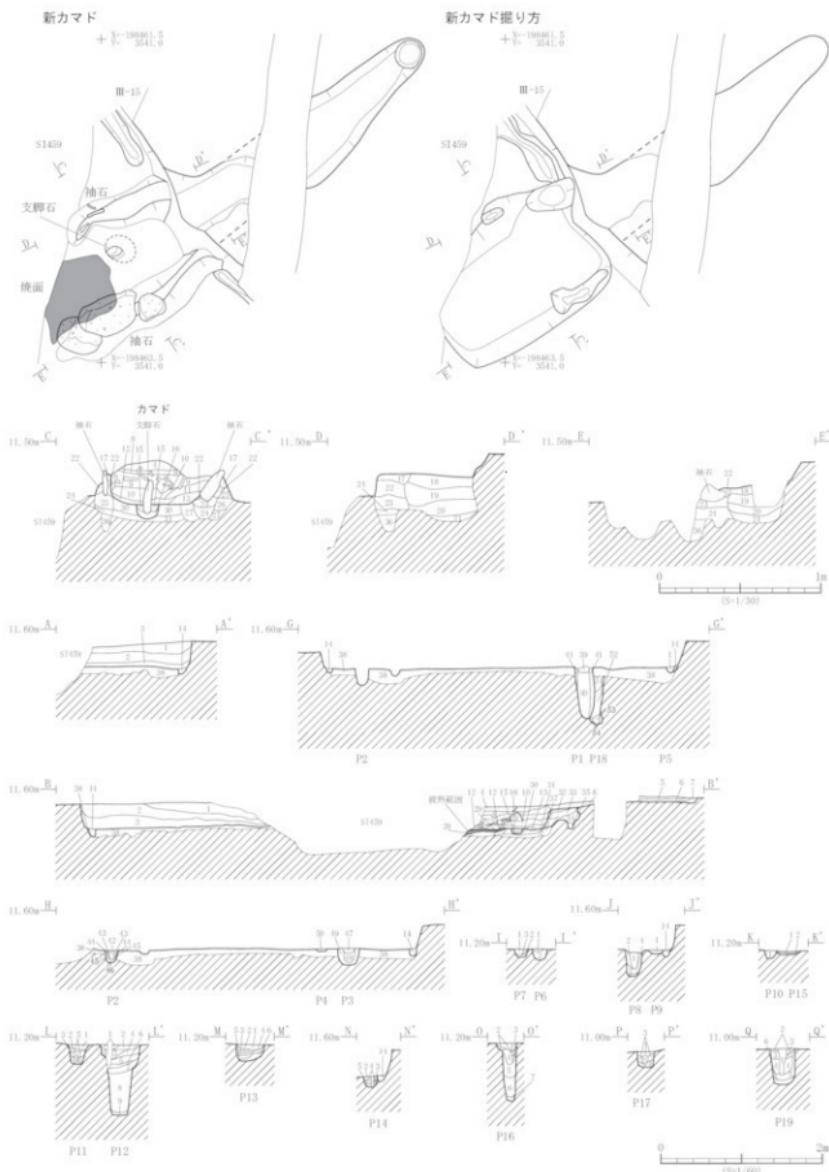


床面

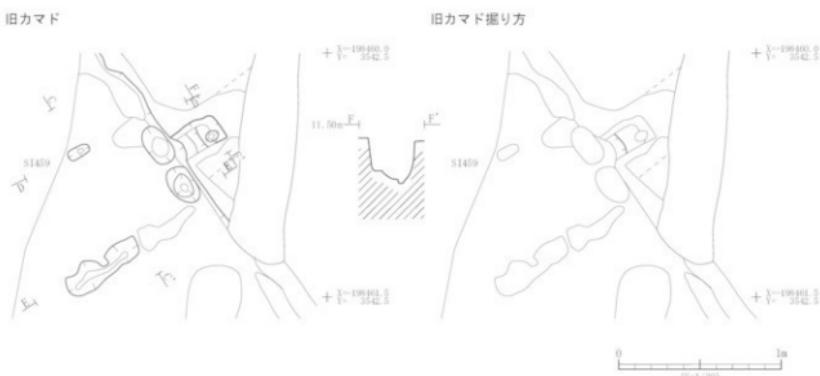
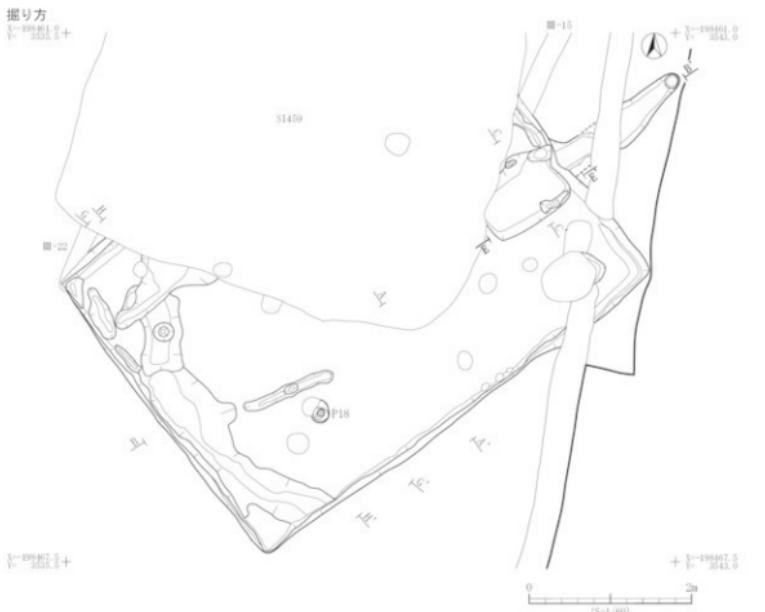


第5図 SI 458 積穴住居跡平面図（1）

第4節 下ノ内遺跡 6区



第6図 SAI 458 整穴住居跡平面図(2)・断面図



第7図 S I 458 整穴住居跡平面図（3）

下袖部は溝状の掘り方を持ち、凝灰岩が構築材として用いられている。規模は、南袖が長さ 118cm、幅 20 ~ 28cm、床面からの高さ 18cm で、北袖は長さ 71cm、幅 13 ~ 30cm、床面からの高さ 14cm である。燃焼部の規模は、奥行 1.00m、幅 46cm である。燃焼部のほぼ中央で自然礫を使用した支脚を検出した。支脚は径 20cm、深さ 10cm の円形の掘り方を持つ。煙道部は長さ 1.83m、幅 25 ~ 32cm、深さ 5 ~ 7cm である。旧カマドは燃焼部の一部が残存するのみで、規模は奥行 45cm、幅 36cm、深さ 14 ~ 27cm である。

第4節 下ノ内遺跡6区

SI456 土質性記表

遺構	被付	土色	土性	備考
1	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	マンガン粒を多量含む。炭化物類を含む。褐色シルト・白堊土をわずかに含む。	炭化物類を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
2	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。マンガン粒を含む。褐色シルトブロックを含む。	炭化物類を多量含む。褐色シルトブロックを含む。炭化物類をわずかに含む。
3	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	下部に炭化材を多量含む。褐色シルトと・炭化物・土質に含む。	炭化物類を含む。
4	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	土質に含む。炭化物類を含む。	炭化物類を含む。褐色シルトブロックを含む。
5	7.5YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。マンガン粒を含む。褐色シルトブロックを含む。	炭化物類を含む。褐色シルトブロックを含む。炭化物類を含む。
6	7.5YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルト・マンガン粒・炭化物類を含む。	褐色シルト・マンガン粒・炭化物類を含む。
7	7.5YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルト・マンガン粒を含む。	褐色シルト・マンガン粒を含む。
8	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。褐色シルトを含む。	炭化物類を多量含む。褐色シルトを含む。
9	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類・土質を多量含む。	炭化物類・土質を多量含む。
10	0H94.0に- 黒褐色	シルト	炭化物・土質を多量含む。	炭化物・土質を多量含む。
11	2.5YR4.0に 黑褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
12	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	土質に含む。土質を含む。	土質に含む。土質を含む。
13	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	土質に含む。土質を含む。	土質に含む。土質を含む。
14	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・炭化物類を含む。(周縁部・地盤上)	褐色シルト・炭化物類を含む。(周縁部・地盤上)
15	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物・土質を含む。土質(支脚力)	炭化物・土質を含む。土質(支脚力)
16	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
17	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
18	0H94.0に- 黑褐色	シルト	褐色シルト・土質を含む。	褐色シルト・土質を含む。
19	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
20	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・土質・粘土質を含む。	褐色シルト・土質・粘土質を含む。
21	10YR3/3 黑褐色	シルト	注記なし。	注記なし。
22	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	炭化物・土質を含む。	炭化物・土質を含む。
23	10YR3/3 喀喇色	シルト	土質を含む。	土質を含む。
24	10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	土質を含む。	土質を含む。
25			注記なし。	注記なし。
26	10YR3/4 喀喇色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
27	10YR3/4 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物類を含む。	褐色シルトブロックを含む。炭化物類を含む。
28	10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
29	10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色地下質シルトブロックを含む。	褐色地下質シルトブロックを含む。
30	10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物・土質を含む。	褐色シルトブロックを含む。炭化物・土質を含む。
31	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物類を含む。	褐色シルトブロックを含む。炭化物類を含む。
32	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物・土質を含む。	炭化物・土質を含む。
33	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
34	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・土質を含む。	褐色シルトブロック・土質を含む。
35	10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物・土質を含む。	褐色シルトブロックを含む。炭化物・土質を含む。
36			注記なし。	注記なし。
37	10YR3/3 喀喇色	粘土質シルト	炭化物・土質を含む。	炭化物・土質を含む。
38	0H94.0に- 黑褐色	シルト	炭化物・土質を含む。	炭化物・土質を含む。
P1	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	褐色シルト・粘土質シルト・炭化物類を多量含む。(柱跡)	褐色シルト・粘土質シルト・炭化物類を多量含む。
41	0H94.0に- 黑褐色	シルト	褐色シルト・土質・粘土質を含む。	褐色シルト・土質・粘土質を含む。
42	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	褐色シルト・粘土質シルト・炭化物類を多量含む。	褐色シルト・粘土質シルト・炭化物類を多量含む。
43	0H94.0に- 黑褐色	シルト	褐色シルト・土質・粘土質を含む。	褐色シルト・土質・粘土質を含む。
44	10YR3/4 喀喇色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。
45	10YR3/4 喀喇色	砂質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。
46	0H94.0に- 黑褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
47	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。	炭化物類を多量含む。
48	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
49	10YR3/4 喀喇色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P4	10YR3/2 黑褐色	砂質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
51	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。	炭化物類を多量含む。
52	10YR3/3 黑褐色	砂質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
53	10YR4.0 黑褐色	砂質シルト	泥分を含む。	泥分を含む。
54	0H94.0に- 黑褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P5	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	泥分・炭化物類を含む。	泥分・炭化物類を含む。

遺構	被付	土色	土性	備考
P6	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
2	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P7	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P8	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。
3	10YR4.0 黑褐色	砂質シルト	泥分を多量含む。	泥分を多量含む。
P9	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を多量含む。褐色シルト・粘土質シルトを含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
P10	1	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	炭化物類を含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P11	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
2	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
P12	1	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
3	7.5YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
4	10YR4.3-3 黃褐色	シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P13	1	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
2	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
3	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
4	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
5	NA/0 黑褐色	シルト		
P14	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を多量含む。
2	10YR4.3-3 黃褐色	シルト		
P15	4	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。
5	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを多量含む。	褐色シルト・粘土質シルトを多量含む。
6	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを多量含む。	褐色シルト・粘土質シルトを多量含む。
P16	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。
2	10YR4.1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
P17	1	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
2	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。	褐色シルトブロック・炭化物類を含む。
3	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物類を含む。	炭化物類を含む。
P18	1	10YR3/4 喀喇色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
2	10YR3/3 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
P19	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
4	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
5	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。
6	10YR4.3-3 黃褐色	シルト	褐色シルト・粘土質シルトを含む。	褐色シルト・粘土質シルトを含む。

[その他の施設] 住居跡北東隅で検出したP13が貯蔵穴と考えられる。平面形は梢円形で、規模は長軸48cm、短軸35cm、深さ21cmである。また、南西部で長さ1.16m、幅8~13cm、深さ5~13cmの溝を1条検出した。間仕切り溝の可能性がある。

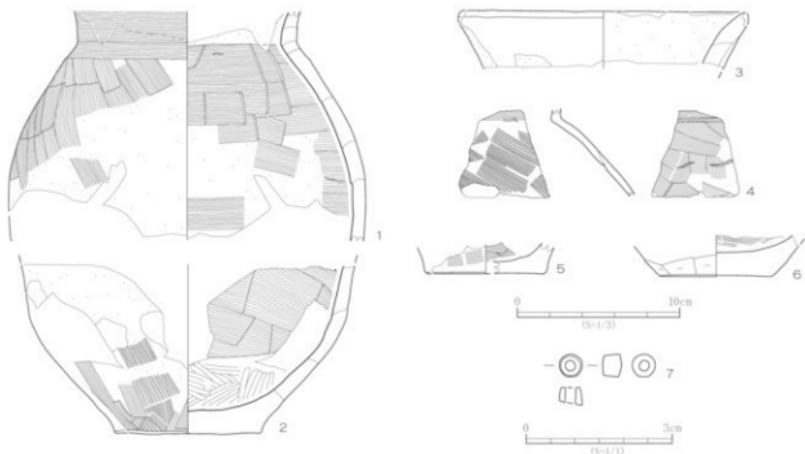
[掘り方] 深さ5~14cmである。底面は凹凸があり、南側は溝状に掘り込まれている。掘り方底面で検出したP18の規模は径28cm、深さ59cmで、径10cmの柱痕跡が認められた。



番号	井戸番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真回数
1	C-11	6	SII458	カマド	土窯器	环	(18.0) × (8.0) × 高さ 5.6	ヨコナデ・ハラケズリ	ヨコナデ・ハラミガキ	内外面被熱、内外面 タル状物質付着 (柱明瞭に転用?)、 内面墨漬。	19-8
2	C-12	6	SII458	カマド	土窯器	环	(13.0) × (4.0) × 6.6	ヨコナデ・ハラケズリ	ハラナデ・ハラミガキ	内外面被熱、内外面 タル状物質付着 (柱明瞭に転用?)、 内面墨漬。	19-9
3	C-7	6	SII458	3	土窯器	环	(12.0) × (4.0) × 4.7	-	-	-	19-10
4	C-9	6	SII458	3	土窯器	环	(9.0) × (4.0) × 4.3	ヨコナデ・ハナデ・ハラケズ リ	ヨコナデ・ハナデ・ハラケズ リ	内外面被熱、内外面 タル状物質付着 (柱明瞭に転用?)、 内面墨漬。	19-11
5	C-1	6	SII458	カマド	土窯器	廣	(17.0) × (8.0) × 18.3	ヨコナデ・ハラナデ	ヨコナデ・ハケメ・ハラナ デ・指オサエ	内外面被熱、 内面墨漬。	19-12
6	C-3	6	SII458	カマド	土窯器	廣	16.5 × 17.5 × 8.5 × 35.5	ヨコナデ・ハケメ・ハラナ デ・武部・ラケズリ	ヨコナデ・ハラナデ・ハラ ケズリ	内外面被熱。	20-1
7	C-17	6	SII458	2	土窯器	廣	(23.0) × (8.0) × 17.7	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハラナデ・ハラ ケズリ・ハラミガキ	内外面被熱。	20-2
8	C-19	6	SII458	2	土窯器	廣	(24.0) × (8.0) × 13.3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハラナデ・ハラ ケズリ	内外面被熱。	20-3

第8図 S.I. 458 穴住居跡出土遺物 (1)

第4節 下ノ内遺跡 6区



No.	件名	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外周調整	内周調整	備考	写真回数
1	C-20	6	S1458	カマド	土器器	甕	×××現14.0	ヨコナデ・ヘラナデ	ハラナデ	-	20-4
2	C-21	6	S1458	-	土器器	甕	×8.2×現10.4	ハダメ・ヘラナデ 底部へ タケズリ	ハラナデ・ヘラミガキ	-	-
3	C-8	6	S1458	3	土器器	甕	(17.9)××現3.5	-	-	内外面磨滅、 外周側底面著。	-
4	C-18	6	S1458	3	土器器	甕	×××現5.4	ヨコナデ・ハナメ	ヨコナデ・ヘラナデ	-	-
5	C-22	6	S1458	削り方	土器器	甕	×6.8×現2.5	ハラケズリ	ナデ	-	-
6	C-10	6	S1458	1	土器器	甕	×(7.2)×現1.9	ナデ	ハラナデ	底部木製痕?	-
No.	件名	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	石・材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
Kd-d-2	6	S1458	床面	石製品	小玉	滑石	0.46×0.46×3.6	0.11	1.8~2.0cm	-	20-5

第9図 S1458 穩穴住居跡出土遺物 (2)

[出土遺物] 堆積土、カマド及び床面から縄文土器片・土師器・打製石器・石製品が出土している。このうち土師器14点、石製品1点を第8・9図に図示した。第8図1~4は土師器環である。1は丸底で内外面とも部体と口縁部の境に段を持つ。2は平底で部体は外傾しながら立ち上がり口縁部が短く外反する。3は部体から口縁部にかけて内窪しながら立ち上がる。4は丸底で口縁部は外傾しながら立ち上がる。第8図5~8、第9図1~6は土師器甕である。第8図5・6、第9図1・2は胴部の長胴化がみられる球胴甕、第8図7・8は口径と胴部の最大径がほぼ同じ広口甕である。第9図7は滑石製の小玉である。出土遺物の特徴から本住居跡の年代は5世紀後半~6世紀初頭頃と考えられる。

S1458 穗穴住居跡 (第10~12図、図版2・3)

[位置] W250~260・S50~60グリッドに位置する。

[重複関係] S1458、SD424・443・461・467、小溝状遺構I-15・17、III-14・20~22と重複関係にあり、S1458、SD467より新しく、他より古い。

[規模・形態] 東西5.15m、南北4.70mである。平面形は方形である。

[主軸方位] 新カマド基準でN-36°-E、旧カマド基準でN-5°-Eである。

[堆積土・構築土] 37層に分層した。1~4層は住居跡堆積土、5~15層は新カマド内堆積土、16層は周溝内堆積土、17~22層は新カマド関連層位、23~30層は旧カマド内堆積土、31~33層は旧カマド関連層位、34~37層は掘り方埋土である。

[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から50~56cmである。

[床面] 34層上面を床面としている。多少の凹凸はあるが、ほぼ平坦で特に目立った硬化面などはみられない。

[柱穴] 床面で15基のピット(P1~5・7~16)を検出した。配置・規模・柱痕跡から主柱穴と考えられるピット

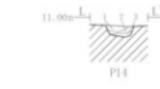
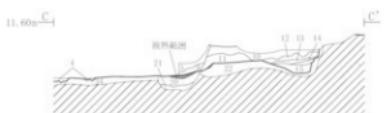
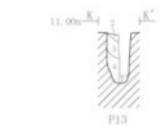
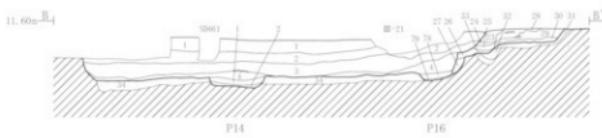
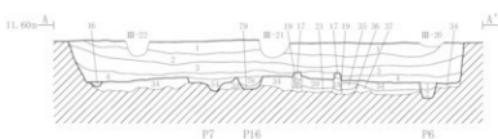
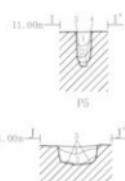
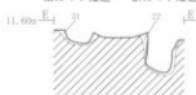
床面

Y-199455.0 +
5555.5

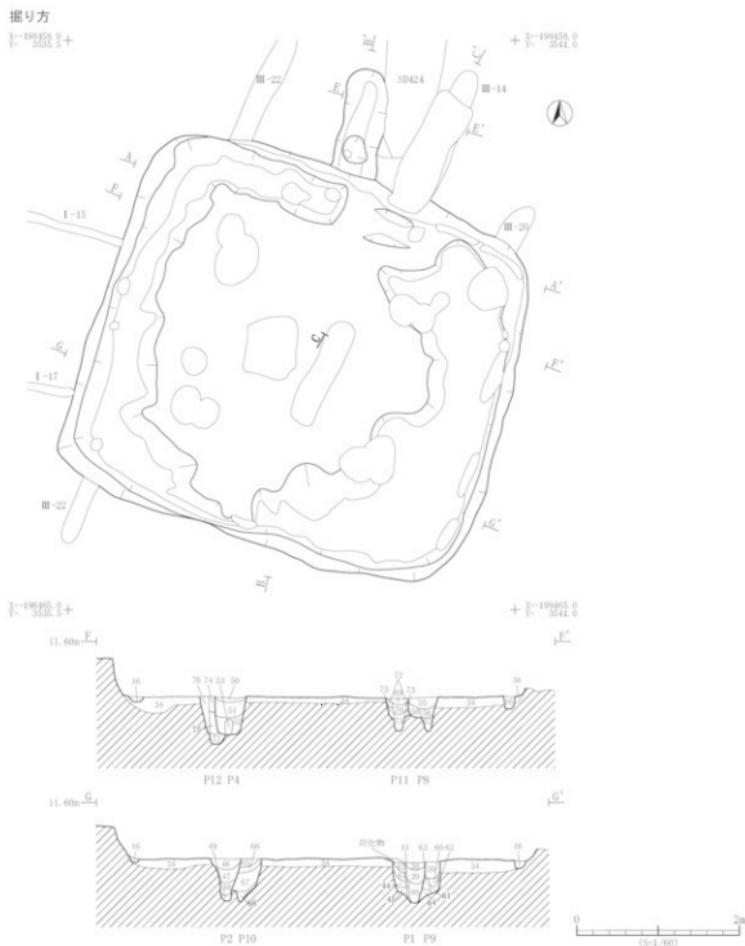
旧カマド平面図

Y-199456.0 +
5535.5Y-199459.0 +
5539.5

旧カマド煙道 新カマド煙道



第10図 S I 459 壁穴住居跡平面図・断面図 (1)



第11図 SI 459 積穴住居跡平面図・断面図（2）

には重複が認められ、同一床面で建て替えが行われている。新段階の主柱穴はP1・2・4・8で、規模は径36～69cm、深さ44～51cmで、すべての柱穴に径12～25cmの柱痕跡が認められた。古段階の主柱穴はP9～12で、規模は36～60cm、深さ40～59cmで、すべての柱穴に径10～17cmの柱痕跡が認められた。その他のピットの規模は径24～60cm、深さ15～60cmで、P5・13では径10cmの柱痕跡が認められた。それらは補助的な柱あるいは内部施設に伴うものとみられる。

[周溝] カマド周辺を除き断続的に全周する。断面形はU字形で、規模は幅10～18cm、深さ5～15cmである。

[カマド] 新旧2時期ある。いずれも北壁に位置し、古段階は壁の中央に、新段階は中央東寄りに付設されている。新カマド煙道と壁が接する部分の西側に、幅90cm、深さ25cmのくぼみがあり、中に約10cmの段がある。新カマ

SA459 土壁目録表

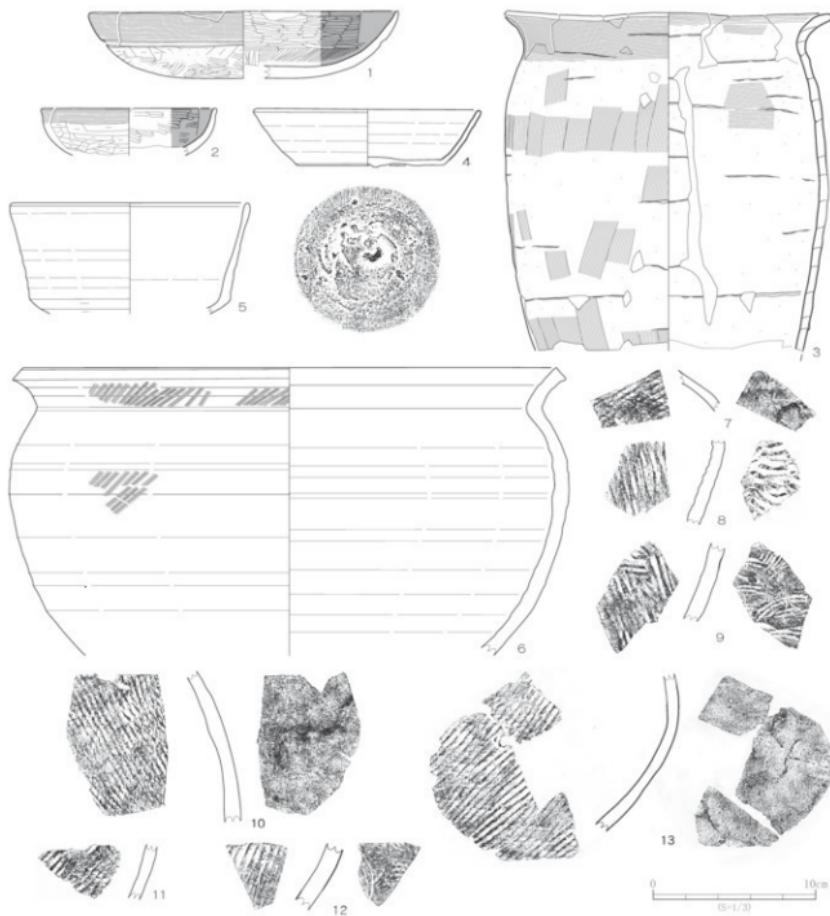
番号	種類	土色	土性	備考	番号	種類	土色	土性	備考
1	HOYK3/2 黒褐色	シルト	白色砂粒・マンガを含む。白色砂粒・褐色シルト類、炭化物をわずかに含む。		43	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。	
2	HOYK3/2 黒褐色	シルト	マンガを含む。白色砂粒・褐色シルト類、炭化物をわずかに含む。		44	10YK3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。	
3	HOYK3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。マンガシルトをわずかに含む。		45	10YK3/1 喙褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
4	HOYK3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。マンガシルトをわずかに含む。		46	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。(柱頭)	
5	HOYK3/4 喙褐色	シルト	高黑色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。土を含む。		47	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。	
6	HOYK3/4 喙褐色	シルト	高黑色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。土を含む。		48	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。	
7	HOYK3/2 黒褐色	シルト	土を含む。		49	10YK4/3 黄・黄褐色	砂質シルト	部分多量含む。繊りあり。	
8	7.5Y4/4 黑色	シルト	土を含む。		50	10YK4/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。	
9	HOYK4/2 黒褐色	シルト	土を含む。		51	10YK4/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
10	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		52	10YK4/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。(柱頭)	
11	HOYK3/2 黒褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		53	10YK4/4 喙褐色	砂質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
12	HOYK3/2 黑褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。土を含む。		54	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
13	HOYK4/0 にご・黒褐色	粘土質シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		55	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
14	HOYK3/2 黑褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。土を含む。		56	10YK4/4 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。(柱頭)	
15	HOYK4/0 にご・黒褐色	粘土質シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		57	10YK3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
16	HOYK3/3 喙褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。(炭化物堆積)		58	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
17	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。		59	10YK3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
18	HOYK4/6 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。		60	10YK4/4 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
19	HOYK4/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。		61	10YK4/6 黑褐色	砂質シルト	部分多量含む。繊りあり。	
20	HOYK4/0 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。		62	10YK4/3 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
21	HOYK3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・土を含む。		63	10YK4/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
22	HOYK4/0 にご・黒褐色	砂質シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		64	10YK3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
23	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。		65	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
24	HOYK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルト・高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。		66	10YK4/4 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
25	HOYK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。		67	10YK3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
26	HOYK3/4 喙褐色	シルト	褐色粘土・シルト・高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。土を含む。		68	10YK4/6 黑褐色	シルト	部分多量含む。	
27	HOYK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。高黑色シルトブロックを含む。		69	10YK2/1 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。土を含む。	
28	HOYK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。土を含む。炭化物を含む。		70	10YK2/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
29	HOYK3/2 黑褐色	シルト	高黑色シルト・高黑色シルトブロックを含む。褐色シルト・高黑色シルトブロックを含む。		71	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
30	HOYK3/4 喙褐色	シルト	褐色粘土・シルト・高黑色シルトブロックを含む。炭化物を含む。		72	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
31	HOYK3/2 黑褐色	シルト	褐色粘土・シルトブロック・炭化物を含む。		73				記述なし。
32	HOYK4/4 喙褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。		74	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。	
33	HOYK3/3 喙褐色	シルト	褐色粘土・シルト・高黑色シルトブロックを含む。		75	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
34	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	褐色シルト・褐色シルト・炭化物を含む。		76				記述なし。
35	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	褐色シルト・シルト・炭化物を含む。		77	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
36	HOYK4/0 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。		78	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトシルトブロックを含む。	
37	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	褐色シルト・シルトブロックを含む。炭化物を含む。		79	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
38	HOYK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・シルト・炭化物を含む。(柱頭)		80	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
39	HOYK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルト・シルト・炭化物を含む。		81	2.5Y3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
40	Z.5Y3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。		82	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
41	HOYK4/0 にご・黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。(柱頭)		83	10YK3/4 喙褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
42	HOYK4/0 にご・黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。		84	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
P1					85	10YK3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
					86	10YK3/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					87	2.5Y3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					88	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトシルトブロックを含む。	
					89	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					90	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					91	10YK3/4 喙褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					92	10YK3/4 喙褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					93	10YK3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					94	10YK3/3 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
					95	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
					96	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					97	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					98	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					99	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					100	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					101	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					102	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					103	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					104	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					105	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					106	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					107	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					108	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					109	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					110	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					111	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					112	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					113	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					114	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					115	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					116	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					117	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					118	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					119	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					120	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					121	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					122	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					123	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					124	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					125	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					126	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					127	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					128	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					129	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					130	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					131	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					132	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					133	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					134	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					135	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					136	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					137	10YK3/4 喙褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					138	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					139	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					140	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					141	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					142	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					143	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					144	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					145	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					146	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					147	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					148	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					149	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					150	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
					151	10YK3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	

ド袖部は構状の掘り方を持つ。規模は、東袖が長さ 51cm、幅 20cm、床面からの高さ 10～15cm で、西袖が長さ 56cm、幅 10～30cm、床面からの高さ 5～16cm である。燃焼部の規模は、奥行 45cm、幅 50cm で、掘り方は東西方向の楕円形で、長軸 85cm、短軸 52cm、深さ 20cm である。煙道部は長さ 1.31m、幅 25～35cm、深さ 21～35cm で、掘り方は長さ 1.55m、幅 50～57cm、深さ 5～17cm である。旧カマドは煙道部が残存するのみで、新カマドを構築する際に埋め戻されている。煙道部の規模は長さ 1.24m、幅 35～58cm、深さ 16～28cm で、掘り方は長さ 1.45m、幅 45～52cm、深さ 5～14cm で、ピット状に落ち込む部分がある。

[その他の施設] 住居跡北東隅で検出した P6 が貯藏穴と考えられる。平面形は楕円形で、規模は長軸 57cm、短軸 47cm、深さ 22cm である。

[掘り方] 深さ 5～20cm である。底面は凹凸があり、中央がやや高まる。

第4節 下ノ内遺跡 6区



番号	件名番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外面調査	内部調査	備考	写真回数
1	C-5	6	S4459	3+4	土器部	环	(19.0) × × 4.1	ヨコナデ・ヘラケズリ×ヘラミガキ	ヘラミガキ・黑色包理	-	20.6
2	C-6	6	S4459	4	土器部	环	(10.8) × × 2.9	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ・黑色包理	-	20.7
3	C-2	6	S4459	日ガマフ	土器部	環	19.8 × × 20.9	ヨコナデ・ヘラナデ	ヨコナデ・ナデ	内外面包熱。	20.8
4	E-5	6	S4459	1	土器部	环	14.2 × 9.0 × 3.7	ロクロナデ 茶褐色輪ヘラ 切刃	ロクロナデ	内外面大摩擦。	20.11
5	E-13	6	S4459	4	土器部	瓦台付伴?	(14.8) × × 高6.8	ロクロナデ 茶褐色輪ヘラ ケズリ	ロクロナデ	-	20.10
6	E-4	6	S4459	4	土器部	環	(32.9) × × 高 17.8	平行タタキ・ロクロナデ	ロクロナデ	内外面自然釉付着。	20.9
7	E-7	6	S4459	1	土器部	環	- × × 高 2.5	平行タタキ	当て具輪・ヘラナデ	-	-
8	E-9	6	S4459	土器部	環	- × × 高 5.2	平行タタキ	当て具輪 (青海波文)	-	-	
9	E-11	6	S4459	3	土器部	環	- × × 高 4.8	平行タタキ	当て具輪 (青海波文)	-	-
10	E-6	6	S4459	4	土器部	環	- × × 高 9.2	平行タタキ	当て具輪・マブナデ	-	-
11	E-10	6	S4459	-	土器部	環	- × × 高 3.4	平行タタキ	当て具輪	-	-
12	E-12	6	S4459	4	土器部	環	- × × 高 4.1	平行タタキ	当て具輪 (青海波文)	-	-
13	E-6	6	S4459	2	土器部	環	- × × 高 9.7	平行タタキ	当て具輪	-	-

第12図 S-1 459 整穴住居跡出土遺物

[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土師器・須恵器・打製石器・礫石器が出土している。このうち土師器3点、須恵器10点を第12図に図示した。1～2は土師器壺である。1は有段丸底で内面黒色処理され、2は丸底で口縁部が短く外反する。3は口縁部と胴部の境に段を持たない土師器長胴甕で、内外面に粘土積み上げ痕が明瞭に観察される。4は須恵器壺である。口径に対する底径の比率が大きく、底部の切り離し回転ヘラ切り無調整である。5は須恵器壺でもある。いずれも外面に平行タタキ目がみられる。出土遺物の特徴から、本住居跡の年代は8世紀前半～8世紀中頃と考えられる。

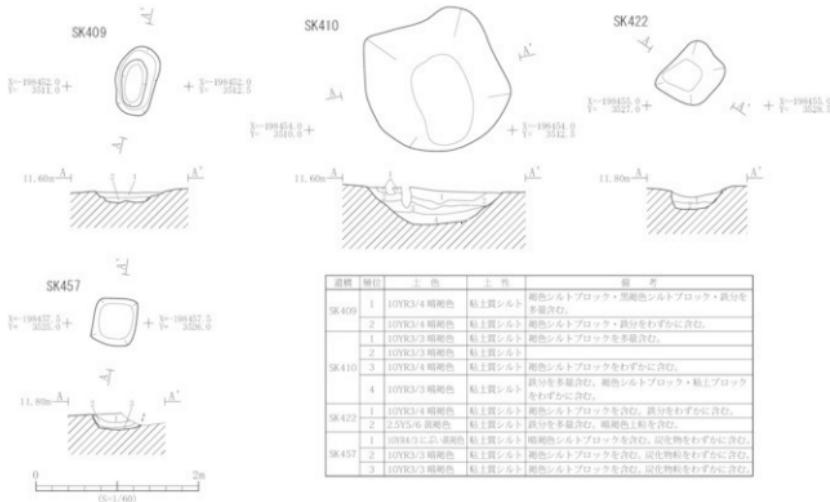
2) 土坑

SK409 土坑 (第13図、図版3) W280・S50 グリッドで検出した。SD413と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は橢円形で中端を持ち、長軸方向はN-14°-Eである。規模は長軸85cm、短軸49cm、深さ12cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央が高まる。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK410 土坑 (第13図、図版3) W280・S50 グリッドで検出した。SR408、SD412・413と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はN-16°-Wである。規模は長軸1.72m、短軸1.68m、深さ44cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SK422 土坑 (第13図、図版3) W270・S50 グリッドで検出した。SD418と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はN-52°-Eである。規模は長軸75cm、短軸61cm、深さ17cmで、壁面は西側が急角度、東側が緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK423 土坑 (第14図、図版3) W250・S50 グリッドで検出した。平面形は橢円形で、長軸方向はN-38°-Wである。北東側を側溝に削平される。検出した規模は長軸66cm、短軸55cm、深さ20cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・打製石器が出土しており、このうち土師器1点を第14図に図示した。ロクロ使用の土師器壺で、底部は欠損しているが



第13図 SK 409・410・422・457 土坑平面図・断面図

第4節 下ノ内遺跡 6区

底部に向かって外反する状況がみられる。胴部には形骸化した把手が付く。出土遺物の特徴から、本遺構の年代は9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

SK457 土坑（第13図、図版4） W270・S50 グリッドで検出した。SD418と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は方形である。規模は一辺 58cm、深さ 22cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

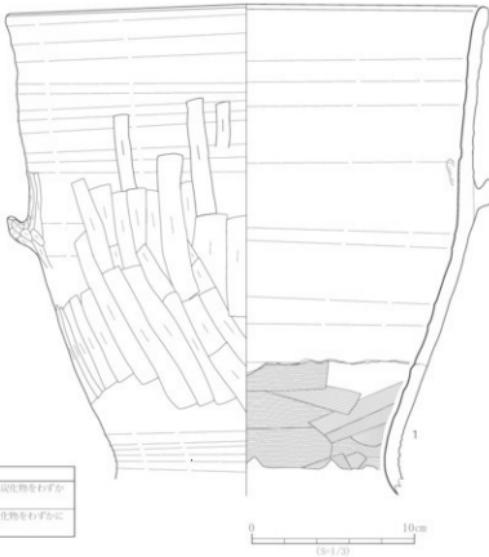
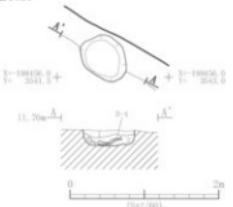
遺物出土状況



下部の遺物出土状況



完掘状況



遺構	解説	土色	土性	備考
SK423	1 T5SYRA/1 剥離色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。	
	2 10VKU/4 剥離色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。	

No.	井筒番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	断面	口径×底径×深度(cm)	外面調査	内面調査	備考	写真回数
1	D-1	6	SK423	2	土器	壺	29.5 × 28.0 × 深 30.1	クロナデ・把手剥離・ヘラケツリ	クロナデ・ハラナデ・削オサエ	内面剥離。	21-1

第14図 SK 423 土坑平面図・断面図・出土遺物

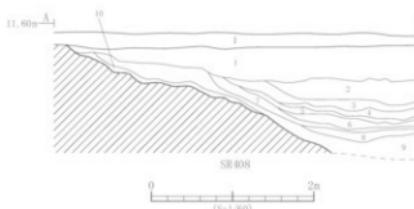
3) 河川跡

SR408 河川跡（第1・15・16図、図版1） W270～290・S50～60 グリッドで検出した。後述する本遺跡7A区 SR1 と連続する河川跡である。SI417、SK410、SD412、小溝状遺構I-4と重複関係にあり、SI417、SD412、小溝状遺構I群より新しく、SK410より古い。トレーンチを設定して調査を行ったが、底面まで完掘していない。検出長 20.80m、幅 5.15m、深さは最深部で 1.30m 以上である。堆積土は10層以上に分層される。遺物は堆積土から縄文土器・土師器・須恵器・打製石器が出土しており、このうち縄文土器深鉢片1点、須恵器壺脛部片1点を第14図に図示した。いずれも河川の時期を示すものではない。

4) 溝跡

SD412 溝跡（第1・17図、図版3） W280・S40～50 グリッドで検出した。SK410、SR408、SD413と重複関係にあり、SD413より新しく、SK410、SR408より古い。北側は調査区内で途切れ、南側はSK410、SR408に削平される。方向はN-6°-Eで、検出長 5.67m、幅 40～84cm、深さ 5cm である。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

SD413 溝跡（第1・17・18図） W280・S40～50 グリッドで検出した。SK409・410、SD412・421と重複関係にあり、SD421より新しく、SK409・410、SD412より古い。南側はSK410に削平され、北側の調査区外に延びる。



層位	土色	土性	備考
1 SR4A/1 暗青灰褐色	砂質シルト	鉄分を含む。 灰色粘土を互層状に含む。	
2 SR4A/1 暗青灰褐色	砂質シルト		
3 SR4A/1 暗青灰褐色	軽土質シルト		
4 NS5.0 黄褐色	砂質シルト		
5 SR4A/1 暗青灰褐色	砂質シルト		
6 SR5/1 黄褐色	砂質シルト		
7 SR4A/1 暗青灰褐色	軽土質シルト		
8 SR4A/1 暗青灰褐色	砂質シルト		
9 NS3.0 暗灰褐色	軽土質シルト	鉄分を含む。 灰色粘土を互層状に含む。	
10 SR5/1 暗灰褐色	砂質シルト	灰色シルト粘土・鉄分を多量含む。 灰色粘土上にロックをわずかに含む。	

第15図 SR 408 河川跡断面図



番号	検査番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	断面	剖面	剖面等	文書等	備考	写真回数
1	A-2	6	SR408	9	縄文土器	深鉢	削形	縄文区系・鉢足部破片			212
2	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	断面	(口径×底径×高さ)cm	断面剖面	内面剖面	備考	写真回数
2	E-1	6	SR408	1	土師器	鉢	× × × 8.2	平行タキ	ヘラナデ	-	-

第16図 SR 408 河川跡出土遺物

方向はN-17°-Eで、検出長7.22m、幅2.27～2.60m、深さ20cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土しており、そのうち須恵器壺胴部片1点を第18図に図示した。外面に平行タキ目、内面に小型の同心円状当具痕がみられる。

SD416溝跡（第1・18・20図）W260・S50グリッドで検出した。小溝状遺構I-11と重複関係にあり、本遺構が新しい。北側の調査区外に延び、南側を亂暴に削平される。方向はN-15°-Eで、検出長3.34m、幅59～63cm、深さ15cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土しており、このうち土師器壺口縁部片1点を第18図に図示した。

SD418溝跡（第1・17図）W280・S40～50グリッドで検出した。SK422・457、SD470、小溝状遺構I-5・6、II-1・2、III-6～8と重複関係にあり、SD470、小溝状遺構I・II・III群より新しく、SK422・457より古い。北側の調査区外に延びる。方向はN-52°-Eで、検出長8.79m、幅65～82cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

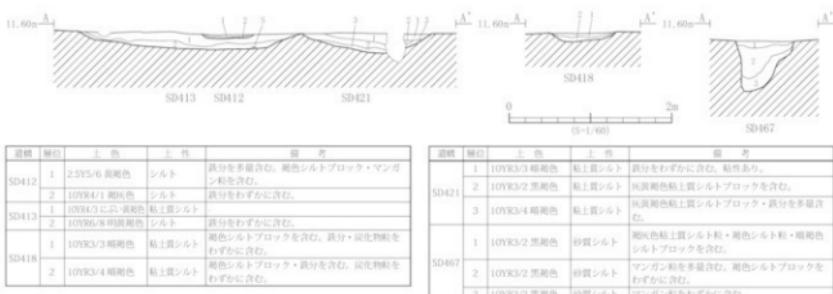
SD421溝跡（第1・17図）W280・S40～50グリッドで検出した。SD413、P1902と重複関係にあり、本遺構が古い。北側の調査区外に延びる。方向はN-7°-Eで、検出長3.06m、幅1.56～1.65m、深さ25cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SD424溝跡（第1・20図、図版4）W250～260・S50グリッドで検出した。SI459、小溝状遺構III-13・14と重複関係にあり、SI459より新しく、小溝状遺構III群より古い。北側の調査区外に延びる。方向はN-4°-Eで、検出長4.84m、幅70～73cm、深さ5cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD443溝跡（第1・20図）W260・S50グリッドで検出した。SI459・小溝状遺構III-13・18と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-13°-Eで、検出長3.97m、幅19～28cm、深さ2cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD461溝跡（第1・20図）W260・S50～60グリッドで検出した。SI459、小溝状遺構III-21と重複関係にあり、SI459より新しく、小溝状遺構III群より古い。方向はN-7°-Eで、長さ4.56m、幅48～74cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

第4節 下ノ内遺跡 6区

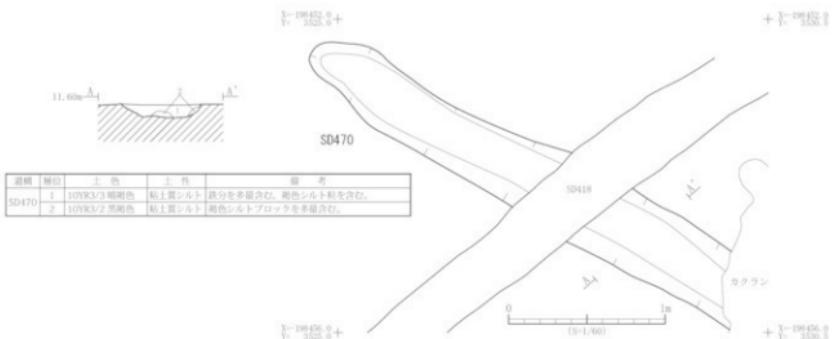


第17図 SD 412・413・418・421・467溝跡断面図



名	発見番号	区	遺構・グリッド	層位	緯度	緯度	断面	口幅×底幅×高さ(cm)	表面調査	内部調査	備考	当面回数
1	E-2	6	SD413	1	40度前	東	×	× × 高 9.0	サトウタカラ	当面地盤	外堀自然地位置	21-3
2	C-4	6	SD416	2	土師器	東	(13.6 × - × 高 4.3)	ヨコナデ・ヘラナデ?	ヨコナデ・ヘラナデ?	口縁部外堀タル状	物質付着。	21-4

第18図 SD 413・416溝跡出土遺物



第19図 SD 470溝跡平面図・断面図

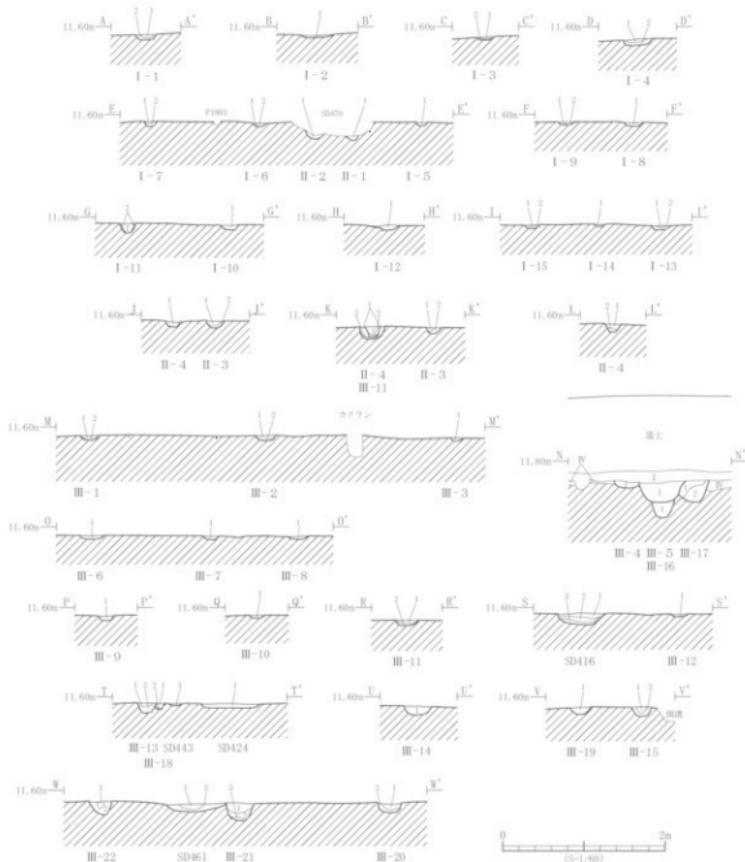
SD467溝跡(第1・17図、図版4) W260・S60 グリッドで検出した。SI458・459、小溝状遺構III-22、P1844～1846・1866と重複関係にあり、本遺構が古い。南側の調査区外に延び、後述する本遺跡7A区SD39と連続する遺構である。方向はN7°-Eで、検出長6.23m、幅69～78cm、深さ62cmである。断面形は不整U字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片、土師器片が出土している。SI458との重複関係から、本遺構の時期は5世紀後半～6世紀初頭以前と考えられ、本調査区内で検出されたV層上面遺構の中で最も古い段階の遺構である。

SD470溝跡（第19図） W260～270・S50グリッドで検出した。SD418、小溝状遺構II-1・2、III-7・8と重複関係にあり、小溝状遺構II・III群より新しく、SD418より古い。東側を搅乱に削平される。方向はN-61°Wで、検出長5.95m、幅74～95cm、深さ15cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

5) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からI～III群に分けられる。また、重複関係からIII群→II群→I群の変遷がたどれる。

I群（第1・20図、図版4） W260～290・S40～60グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、15条の小溝で構成される。方向はN-21～86°Wで、検出長は0.82～4.25m、幅4～44cm、深さ2～13cmである。小溝の間隔は、0.80～10.75mである。堆積土は、2層に分層される。遺物は出土していない。



第20図 S D 416・424・443・461溝跡、小溝状遺構群断面図

第4節 下ノ内遺跡6区

SD416・424・443・461、小溝状遺構群上層目録表

遺構	編號	土 壴	工 作	塗 被	備 考
SD416	1	10Y3/3 黒褐色	粘土質シルト	無分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	地盤砂利・鉄分をわずかに含む。
	2	10Y3/3 4 喰褐色	粘土質シルト	鉄分をわずかに含む。	褐色シルトブロック含む。
	3	10Y3/3 黒褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	褐色シルトブロック含む。
SD424	1	10Y4/4 3-4 黒褐色	粘土質シルト	無分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y4/4 3-4 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
SD443	1	10Y4/4 2-3 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y4/4 2-3 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
SD461	1	10Y4/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分・チタンガーニウムを多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y4/3 2-3 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	3	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	4	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
	5	10Y3/3 2 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロック含む。
I-1	1	10Y3/3 2 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y4/3 2-3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-2	1	10Y3/3 2 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-3	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。白い粒子・砂利を含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-4	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。白い粒子・砂利を含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y4/3 2-3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。白い粒子・砂利を含む。	褐色シルトブロック含む。
I-5	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-6	1	10Y3/3 4 喰褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-7	1	10Y3/3 2 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-8	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-9	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-10	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-11	1	10Y3/3 4 喰褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-12	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-13	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-14	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-15	1	10Y3/3 2 黑褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
	2	10Y3/3 2 黑褐色	砂質シルト	褐色シルトブロック含む。	褐色シルトブロック含む。
I-16	1	10Y3/3 4 喰褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
	2	10Y3/3 4 喰褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-17	1	10Y4/3 2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-18	1	10Y4/3 2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
	2	10Y4/3 2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-19	1	10Y3/3 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-20	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
	2	10Y4/1 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-21	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを多量含む。	褐色シルトブロックを含む。
	2	10Y4/1 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。褐色シルトブロックを含む。	褐色シルトブロックを含む。
I-22	1	2.5Y5/6 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロックを含む。
	2	10Y4/1 黄褐色	シルト	鉄分を多量含む。	褐色シルトブロックを含む。

II群（第1・20図） W260～270・S50～60 グリッドで検出した北西から南東方向に屈曲する遺構群で、4条の小溝で構成される。方向は1・2がN-58°～60°-Wで、3・4は南北正方位で、N-65°～67°-Wに屈曲する。検出長は4.90～12.77m、幅23～44cm、深さ5～24cmである。小溝の間隔は、43～70cmである。堆積土は、2層に分層される。遺物は出土していない。

III群（第1・20図、図版4） W250～280・S40～60 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、22条の小溝で構成される。一部に掘り直しと考えられる重複がみられる。方向はN-8°～32°-Eで、検出長は0.80～6.88m、幅14～52cm、深さ2～44cmである。小溝の間隔は、最大4.00m程である。堆積土は2層に分層される。遺物はIII-14・15から土師器片が出土している。

小溝状遺構群の年代は、SI417、SI459との重複関係からIII群は8世紀後半頃、I・II群が9世紀以降と考えられる。

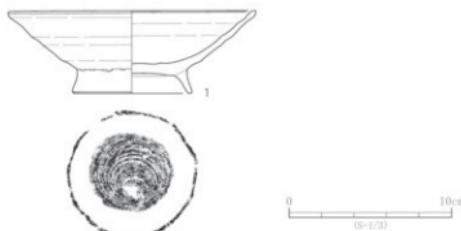
6) ピット（第1・21図）

144基のピット（P1830～1885・1887～1891・1893～1897・1900～1904・1906～1918・1922・1926・1929・1933・1935・1938・1940～1957・1959～1962・1964～1966・1970・1972～1976・1978～1989・1991～2001）を検出した。遺物は縄文土器片・土師器・打製石器が出土している。このうち1点を第21図に示した。1はP1879から出土した赤焼土器高台付环である。

（2）IX層検出の遺構と遺物（第22図）

1) 河川跡

SR471 河川跡（第22図） W260・S50 グリッドで検出した。トレントを設定して調査を行ったが、底面まで完掘しておらず平面確認にとどめた。規模は不明である。遺物は出土していない。



第21図 P1879出土遺物

(3) 遺構外出土遺物（第23～26図、図版21）

基本層V層からは縄文土器・土師器・須恵器・陶器・打製石器・石製品・金属製品、基本層VI・VII・IX層からは縄文土器が出土している。この他に出土位置・層位が不明なものに縄文土器・石製品・金属製品がある。そのうち縄文土器13点、須恵器2点、打製石器1点、石製品1点、金属製品1点を第23～26図に図示した。以下、縄文時代の遺物から説明する。

縄文時代

IX層出土土器（第23図、図版21）

縄文土器2点を第23図に図示した。1はキャリバー形の深鉢で、口縁部に山形小突起を持つ。文様は口縁部に溝巻隆沈線文、頸部は無文、胴部に沈線文が施文される。2は剥落した深鉢の突起である。

V層出土土器（第24図、図版21）

縄文土器3点を第24図に図示した。いずれも縄文土器深鉢片である。1は地文のみ、2は沈線文のみで波状口縁である。3は隆線文上に円形の連続刺突文が施文される。

V層出土遺物（第25図、図版21）

基本層V層または、V層検出遺構の堆積土中から出土した縄文時代の遺物のうち、縄文土器8点、縄文時代の土製品3点、打製石器1点を第25図に図示した。1～6は深鉢片で、1～3は口縁部片、4～6は胴部の破片である。1は山形突起、2は有刻柱状突起、3は波状口縁で波頂部に柱状突起が付く。4は沈線文による区画がみられ、上部にRL縄文、下部にLR縄文が施文される。5はL燃系文が施文される。6は沈線文で区画され、磨消縄文の区画と無文帯が交互にみられる。7は壺の頸部から胴部の破片である。8は注口土器の胴部片で、沈線文の変化点に刺突文が施文される。9～11は土製円盤で、いずれも縄文土器胴部片を素材としている。10は抉りが明瞭である。12は珪質頁岩製の石匙である。

古墳時代～古代（第25・26図、図版21）

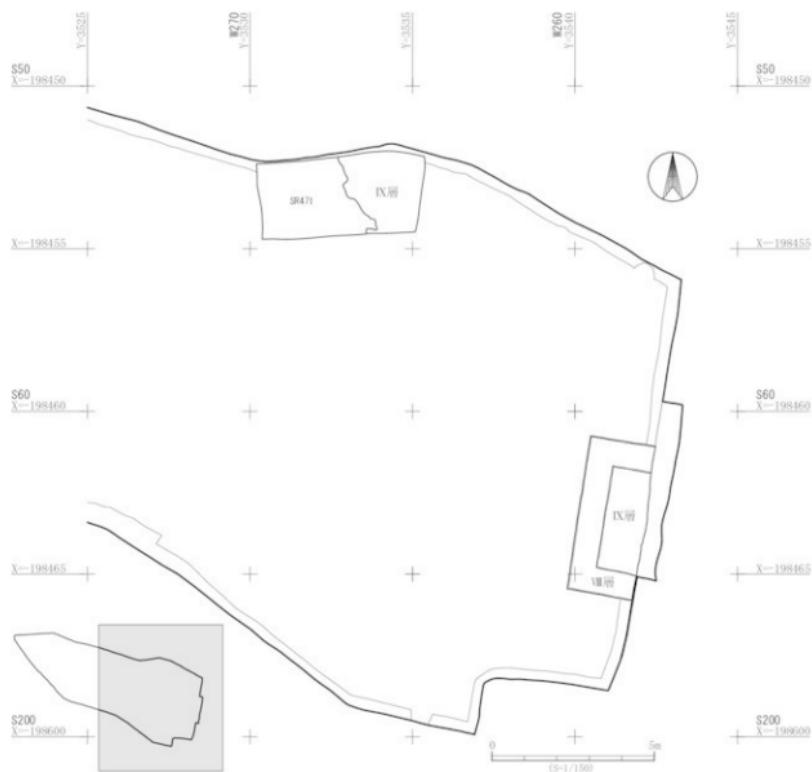
V層出土遺物（第25図、図版21）

須恵器2点を第25図に図示した。13は須恵器壺蓋で口径、丸味を持つ天井、明瞭な稜などから、陶邑古窯跡群田辺編年のTK47型式期と考えられる。14は壺の胴部片である。

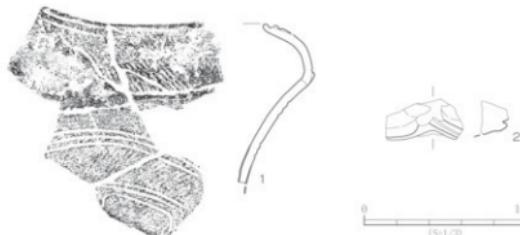
出土位置・層位不明遺物（第24図、図版21）

石製品1点、金属製品1点を第26図に図示した。1は面取り加工された砂岩製の砥石で片面を欠損している。擦痕より古い敲打痕と新しい敲打痕、敲打に伴う剝離痕がある。2は残存状態が悪いが、断面形から鉄製の鎌と考えられる。

第4節 下ノ内遺跡 6区



第22図 深掘区配置図



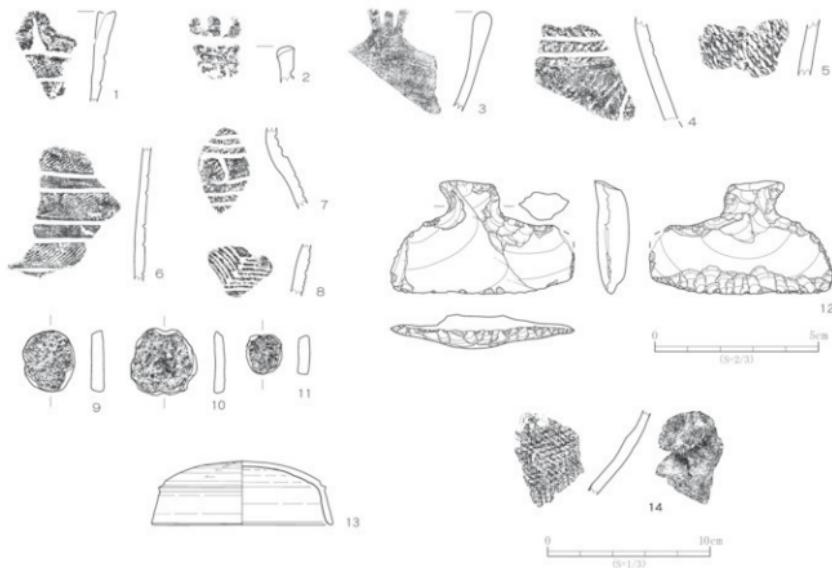
No.	件組番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	文様等	備考	写真回数
1	A-14	6	IX	深削区	鐵文土器	深鉢	口縁部・山形小突起・酒呑隨附鐵文区画・沈腹文・RL・圓文 制部・無文	外周剥落顯著、	21-6
2	A-15	6	IX	深削区	鐵文土器	深鉢・突起	隨附鐵文	炭化物付着、	-

第23図 IX層出土遺物



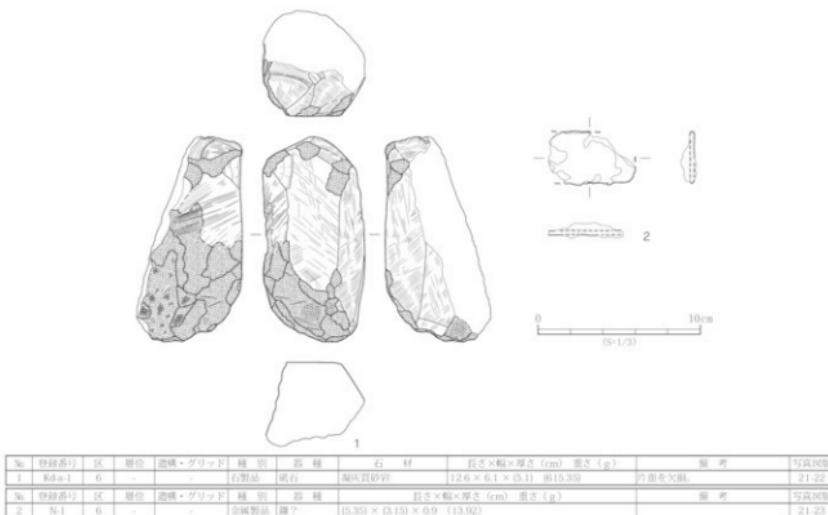
No.	井組番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	断面	文様等	備考	写真回数
1	A-3	6	V1		縞文土器	深鉢	口縁部・LR縞文	内外面黒色付着物。	21-7
2	A-5	6	V1	-	縞文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈縞文		21-8
3	A-6	6	V1	-	縞文土器	深鉢	側部・隨縞文・側突文		21-9

第24図 V1層出土遺物



No.	井組番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	断面	文様等	備考	写真回数	
1	A-17	6	V	SII17-115	縞文土器	深鉢	口縁部・山形突起・波状口縁・沈縞文・L縞文?	外面部擦	21-10	
2	A-19	6	V	SI417	縞文土器	深鉢	口縁部・有刺状突起・斜突文		21-11	
3	A-1	6	V	SD467	縞文土器	深鉢	口縁部・有刺突起・波状口縁・主牛耳・突起部・切れ込み		21-12	
4	A-4	6	V	W270-555	縞文土器	深鉢	側部・沈縞文・Y縞文・L縞文		21-13	
5	A-8	6	V	W260-565	縞文土器	深鉢	側部・L縞文	内外面陶化付着。	-	
6	A-16	6	V	SI417	縞文土器	深鉢	側部・沈縞文・Y縞文		21-14	
7	A-7	6	V	-	縞文土器	鉢	側部・沈縞文・L縞文		21-15	
8	A-18	6	V	SI458	縞文土器	口口土器	側部・沈縞文・斜突文	内外面黒色付着物。	21-16	
9	P-1	6	V	-	土器	土器口縁	無文? 壓滅跡有	38 × 32 × 8mm 11.6g	21-17	
10	P-2	6	V	SI458	土器	土器口縁	RJ縞文? 壓滅跡有	41 × 41 × 7mm 12.0g	21-18	
11	P-3	6	V	III-11	土器	土器口縁	支手穴	22 × 24 × 8mm 4.7g	21-19	
No.	井組番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	断面	石 材	長さ×幅×厚さ(cm) 重さ(g)	備考	写真回数
12	Ka-42-1	6	V	-	打削石器	石器	柱状貝岩	3.5×0.5×1.1 (14.81)	楕型、端面鋸歯。	21-20
No.	井組番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	断面	口徑×底径×高さ(cm)	外面部擦 内面部擦	備考	写真回数
13	E-3	6	V	-	鉢形器	鉢	(11.2) × × 3.9	ロクロナテ・凹凸・ペラケツリ	ロクロナテ	21-21
14	E-14	6	V	-	鉢形器	鉢	× × 5.2	平行タキ子	当て具板	-

第25図 V層出土遺物



第26図 古墳時代～古代出土遺物

3. 7 A区の調査

7 A区では、基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑8基、河川跡2条、性格不明遺構1基、溝跡15条、小溝状遺構群6群、ピット108基を検出した。基本層VI層上面（繩文時代後期の遺構検出面）において、性格不明遺構1基、遺物包含層を検出した。基本層VII層上面（繩文時代後期の遺構検出面）において、集石3群、土坑43基、性格不明遺構2基、ピット5基を検出した。VI層上面、VII層上面のピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区北東側に深掘区を設定してVII層以下の調査を行い、IX層上面で倒木痕（SX93）を検出したところで下層調査を終えた。

（1）V層検出の遺構と遺物（第27図、図版5）

1) 竪穴住居跡

S15 竪穴住居跡（第28・29図、図版6）

[位置] W240～250・S70 グリッドに位置する。

[重複関係] SK4、小溝状遺構IV-5と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 東西3.40m、南北3.35mである。平面形は方形である。

[主軸方位] カマド基準でN-32°・Eである。

[堆積土・構築土] 20層に分層した。1～10層は住居・カマド内堆積土、11層は周溝内堆積土、12～18層はカマド関連層位、19～20層は掘り方理土である。

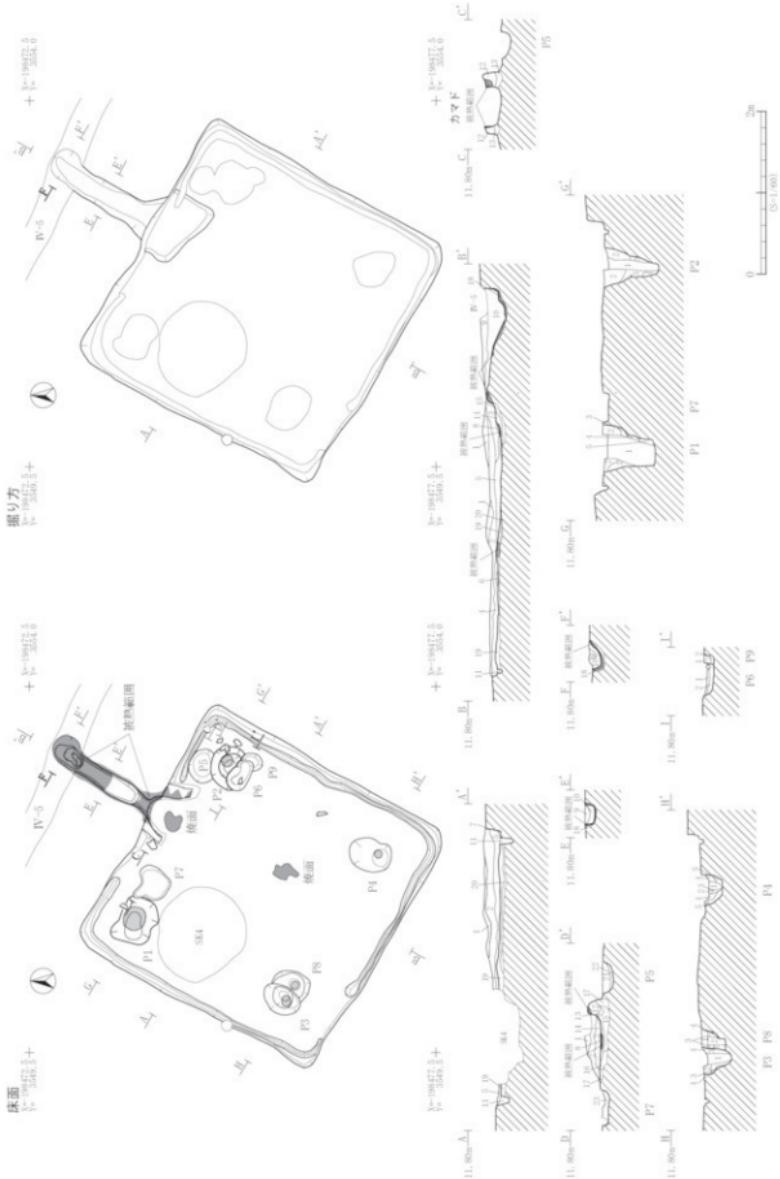
[壁面] 周溝底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から14～21cmである。

[床面] 19層上面を床面としている。特に目立った硬化面はみられないが、やや起伏がある。

[柱穴] 床面で9基のピット（P1～9）を検出した。配置・規模から、北西側はP1、北東側はP2、南西側はP3または8、南東側はP4が主柱穴と考えられ、規模は径35～57cm、深さ28～79cmである。P2～4・8には径10～15cmの柱痕跡が認められた。P1の柱は抜き取られている。その他は住居北側に位置し、補助的な柱やカマドに関連するピットの可能性がある。規模は径29～42cm、深さ8～13cmである。



第27図 下ノ内遺跡7A区V層遺構配置図



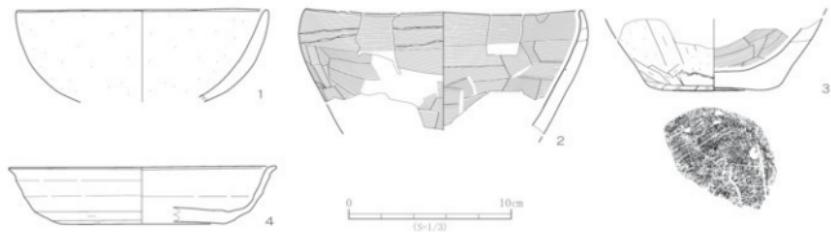
第28図 S15堅穴住居跡平面図・断面図

第4節 下ノ内遺跡7A区

S5 土器目記表

通横	種類	土色	土性	備考	
1	10YR4/4 黒褐色	シルト	褐色シルト粘土。白色粒子を多く含む。マンガン粉を多量含む。炭化物を含む。		
2	10YR3/3 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マンガン粉を含む。炭化物を多量含む。		
3	10YR3/4 褐褐色	シルト	赤黒色シルトブロックをわずかに含む。灰色シルト・土とブロックを多量含む。		
4	10YR3/4 褐褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。炭化物を多量含む。		
5	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。		
6	10YR3/3 褐褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。炭化物を多量含む。		
7	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。		
8			目立たない。		
S5	9	10YR4/3 に、黃褐色	シルト	赤黒色シルトブロック・土と石を多量含む。炭化物をわずかに含む。	
	10	10YR3/2 黑褐色	シルト	赤黒色シルトブロックを多量含む。炭化物・鐵土をわずかに含む。	
	11	10YR3/3 褐褐色	シルト	褐色シルトブロック・白色鉄物を多量含む。	
	12	10YR4/1 に、黃褐色	シルト	炭化物を多量含む。	
	13	10YR3/3 褐褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。	
	14	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物・鐵土をわずかに含む。	
	15	10YR2/3 黑褐色	シルト	鐵土をわずかに含む。	
	16	10YR4/1 に、黃褐色	シルト		
	17	2.5YR4/4 黄褐色	シルト		
	18	10YR4/4 黄褐色	シルト		
	19	10YR4/4 黄褐色	シルト	(振り方上)	
	20	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物多量含む。(振り方上)	
P5	21	10YR4/4 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。鐵土ブロックを多量含む。	
	22	10YR3/4 黄褐色	シルト	鐵土をわずかに含む。	
P7	23	10YR3/3 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。	

通横	種類	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。(目立たない)
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	4	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	5	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
P2	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	灰褐色粘土ブロックを多量含む。鐵土を多量含む。
	2	10YR3/1 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P3	4	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	1	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	(目立たない)
	2	10YR3/1 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/1 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P4	4	10YR4/3 に、黃褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。紅色粘土ブロックをわずかに含む。
P5	2	10YR3/2 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
	5	10YR3/3 に、黃褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
P6	1	10YR4/4 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。鐵土ブロックを多量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	鐵土をわずかに含む。
	1	10YR3/3 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
P8	2	10YR3/1 黑褐色	粘土質シルト	(目立たない)
	3	10YR3/3 褐褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	4	10YR4/3 に、黃褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
P9	1	10YR3/1 黄褐色	シルト	炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/3 に、黃褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。



第29図 S-15堅穴住居跡出土遺物

[周溝] カマド周辺と南西壁の西側を除き全周する。断面形はU字形で、規模は幅5~13cm、深さ6~17cmである。[カマド] 北壁に位置し、壁の中央東寄りに付設されている。袖の規模は、東袖が長さ43cm、幅30cm、床面からの高さ20cmで、西袖が長さ32cm、幅15~20cm、床面からの高さ15cmである。燃焼部の規模は、奥行41cm、幅45cmで、掘り方は東西方向に長軸を持つ不整形で、長軸88cm、短軸44~60cm、深さ10cmである。煙道部は長さ1.40m、幅15~34cm、深さ10~28cmで、底面は先端に向かって傾斜し、先端近くでピット状になっている。掘り方は長さ1.42m、幅34~38cm、深さ5cmである。

[その他の施設] 中央で長軸32cm、短軸22cmの不整形な焼面を1箇所検出した。

[掘り方] 深さ2~10cmである。底面は凹凸がある。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土師器・須恵器・打製石器が出土している。そのうち土師器3点、須恵器1点

を第29図に図示した。1は土師器壺で底部から口縁部まで緩やかに内湾しながら立ち上がる。2は土師器鉢で体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部で内湾する。3は土師器甕で底部に木葉痕がある。4は須恵器壺で体部下端から底部が回転ヘラケズリ調整される。1・2・4の特徴から、本住居跡の年代は8世紀前半～中頃と考えられる。

S129 敷穴住居跡 (第30・31図、図版7)

[位置] W240・S60～70 グリッド上に位置する。

[重複関係] 小溝状遺構II-3、IV-2、P58・59と重複関係にあり、本遺構が古い。

[規模・形態] 東西2.07m、南北2.15mである。平面形は方形である。周溝は検出されていない。

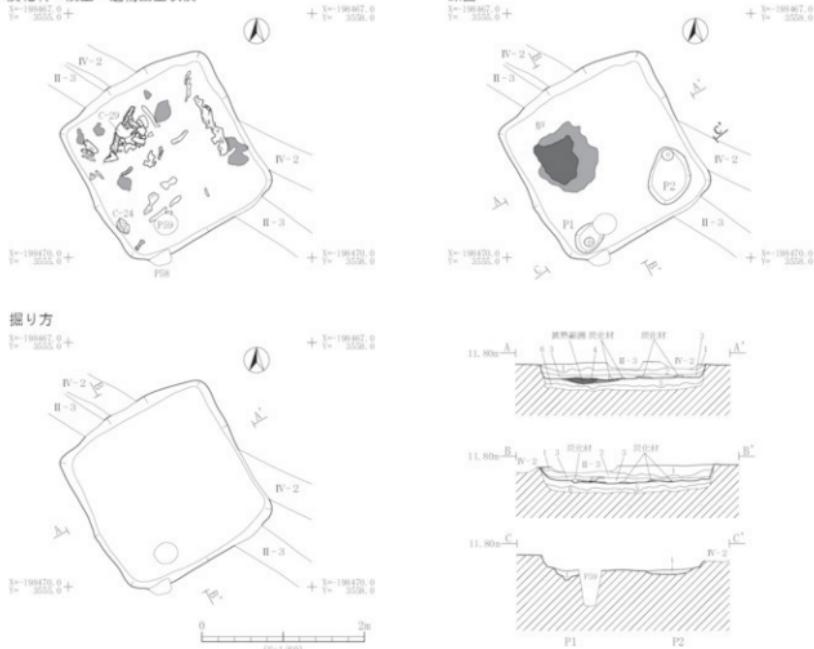
[主軸方位] 西壁基準でN=30°-Wである。

[堆積土・構築土] 6層に分層した。1～4層は住居内堆積土、5・6層は掘り方理土である。3層中の床面直上から多くの炭化材・焼土が出土している。炭化材は住居の壁に平行または直行した状態で出土したものが多く、火災にあって倒壊した住居の部材と考えられる。

[壁面] 底面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から15～18cmである。

[床面] 5層上面を床面としている。ほぼ平坦で中央付近に硬化面がある。

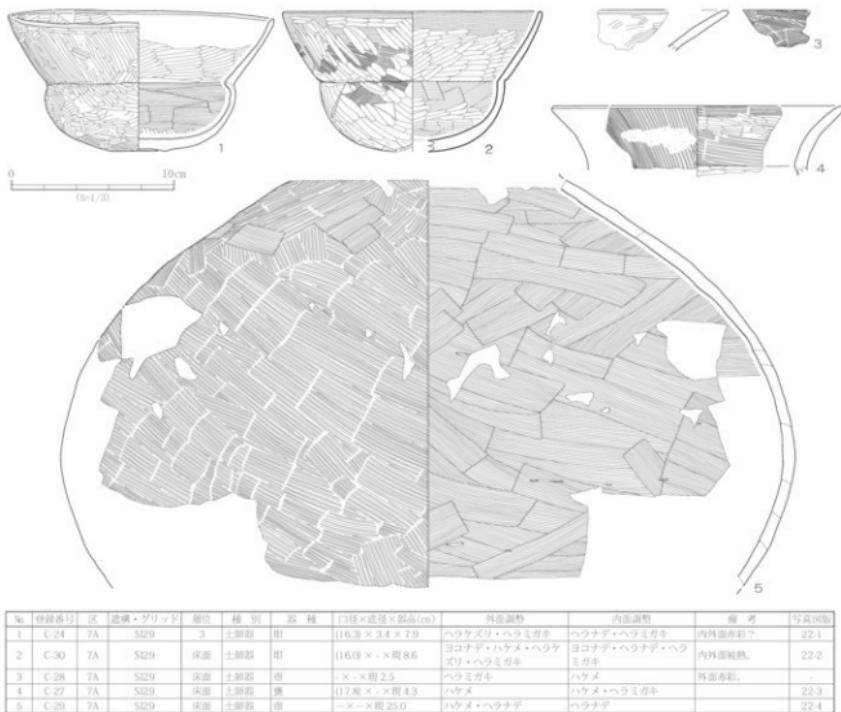
炭化材・焼土・遺物出土状況



遺構	層位	土色	土性	備考	遺構	層位	土色	土性	備考
S29	1	10YR2/7 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物を多量含む。	S29	5	10YR4/6 黒褐色	シルト	固化物を含む。暗褐色シルトブロックをわずかに含む。中の土は泥炭質であり。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物を多量含む。焼土を含む。		6	10YR4/4 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック・固化物をわずかに含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物を多量含む。固化材・地上を含む。	P1	1	10YR3/4 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。固化物を含む。
	4	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・固化物を多量含む。焼土を含む。	P2	1	10YR3/2 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・固化物を多量含む。

第30図 S129 敷穴住居跡平面図・断面図

第4節 下ノ内遺跡7A区



第31図 S1 29堅穴住居出土遺物

[柱穴] 床面で2基のピット(P1・2)を検出した。規模は径30~71cm、深さ6~14cmである。いずれもコーナー付近に位置しており、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

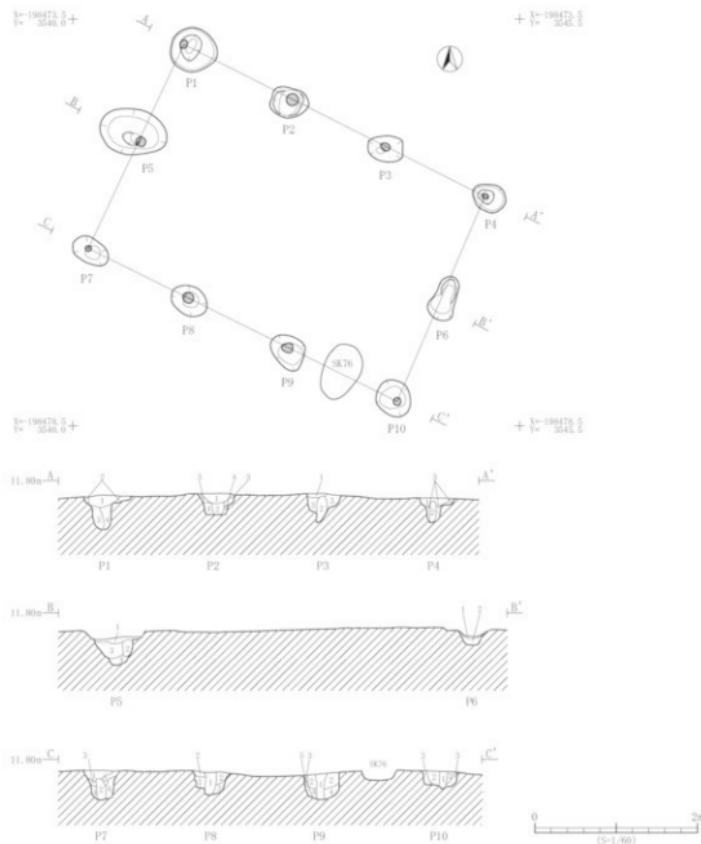
[炉] 住居内北西に位置する地床炉である。被熱で変色した範囲は、長軸80cm、幅72cmで、中央部から西側は熱を強く受けて橙色に硬化している。

[掘り方] 深さ11~15cmである。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] 堆積土及び床面より縄文土器片・土師器が出土している。そのうち土師器5点を第31図に図示した。1・2は壇で、器面の最終調整にハラミガキ調整されるが、簡略化されそれ以前の調整が残る。1は内外面赤彩されている可能性がある。3は壇の口縁部片で外表面が赤彩されている。5は土師器壇胴部で、外表面ハケメ・ヘラナデ調整、内面ヘラナデ調整される。本住居跡の年代は地床炉を作ることや出土遺物の特徴から、4世紀後半~末頃と考えられる。

2) 挖立柱建物跡

SB21 挖立柱建物跡(第32図、図版8) W250・S70 グリッドに位置する。桁行3間(北列西から1.50m+1.29m+1.36m、総長4.15m、南列西から1.37m+1.38m+1.47m、総長4.22m)、梁行2間(西列北から1.30m+1.45m、総長2.75m、東列北から1.30m+1.42m、総長2.72m)の東西棟側柱建物跡である。桁行柱列方向は北列基準でN-63°-Wである。柱穴掘り方の規模は径57cmの円形または長軸43~85cm、短軸35~55cmの楕円形で、深さ22~43cmである。P6を除く9基から径8~16cmの柱痕跡が認められた。遺物は堆積土・掘り方埋土から縄文土器片・土師器片・打製石器が出土している。



第32図 SB 21 挖立柱建物跡平面図・断面図

3) 土坑

SK3 土坑（第33図、図版8）W240～250・S60 グリッドで検出した。SD22と重複関係にあり、本遺構が古い。北側を搅乱し削平されるが、平面形は不整橿円形を基調としたものと考えられ、長軸方向はN-30°-Wである。検出した規模は長軸 1.90m、短軸 89cm、深さ 35～77cm で、壁面は西側が緩やかに、東側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、長軸の底面は凹凸や段があり、南東から北西に傾斜する。堆積土は10層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土したほか、4層から炭化物がまとまって出土している。

SK4 土坑（第33図、図版8）W240・S70 グリッドで検出した。SI5と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は橿円形で、長軸方向はN-71°-Wである。規模は長軸 1.16m、短軸 1.06m、深さ 30 cm で、壁面は急角度に立ち上がり、底面から16cm付近で段を持つ。断面形は逆台形状で、底面は凹凸がある。堆積土は5層に分層される。遺物は堆積土から土器片・須恵器片が出土している。

SK6 土坑（第33図、図版8）W250・S70 グリッドで検出した。SD22と重複関係にあり、本遺構が古い。西半部をSD22によって削平されているため、平面形は不明である。検出した規模は東西 96cm、南北 2.64m、深さ 44

第4節 下ノ内遺跡7A区

S821 土師目裏面

遺構	解説	土色	土性	標本
P1		1 10YR3/2 黒褐色	シルト	灰褐色上部ロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
		2 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粘・鉄分をわずかに含む。
		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルト粘・ブロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。(柱頭)
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P2		1 10YR3/2 黒褐色	シルト	灰褐色上部ロック・褐色シルトブロックをわずかに含む。
		2 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粘・鉄分をわずかに含む。(柱頭)
		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	マンガニク粘・鉄分を多量含む。
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。
P3		1 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガニク粘をわずかに含む。
		2 10YR3/2 黑褐色	シルト	マンガニク粘をわずかに含む。(柱頭)
		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰褐色上部ロック・鉄分をわずかに含む。
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P4		1 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガニク粘をわずかに含む。
		2 10YR3/2 黑褐色	シルト	マンガニク粘をわずかに含む。(柱頭)
		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰褐色上部ロック・鉄分をわずかに含む。
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。
P5		1 10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガニク粘をわずかに含む。
		2 10YR3/2 黑褐色	シルト	マンガニク粘をわずかに含む。(柱頭)
		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰褐色上部ロック・鉄分をわずかに含む。
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	鉄分・マンガニク粘を多量含む。

~50cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は凹凸がある。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK35 土坑（第33・34図、図版8） W250～260・S70 グリッドで検出した。SR1、P94と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-35°-Eである。検出した規模は長軸95cm、短軸51cm、深さ27cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片、底面から、ロクロ使用で内面黒色処理された土師器杯と土師器高台付耳が出土しており、そのうち土師器杯1点を第34図に図示した。1は底部が回転糸切り無調整で、口径に対する底径の比が小さい。出土遺物の特徴から、本遺構の年代は9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

SK36 土坑（第33図、図版8） W250・S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向はN-26°-Eである。規模は長軸69cm、短軸44cm、深さ13cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK37 土坑（第33図、図版8） W250・S70～80 グリッドで検出した。SK41、SD22と重複関係にあり、SK41より新しく、SD22より古い。平面形は梢円形で、長軸方向はN-56°-Wである。検出した規模は長軸72cm、短軸63cm、深さ33cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

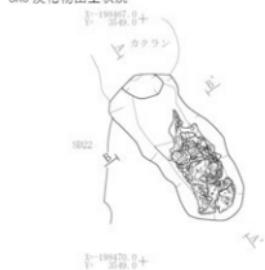
SK38 土坑（第33図、図版9） W260・S70 グリッドで検出した。SK37と重複関係にあり、本遺構が古い。南東側をSK37に削平されるが、平面形は削れ長方形を基調としたものと考えられ、長軸方向はN-62°-Wである。検出した規模は長軸73cm、短軸55cm、深さ30cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

4) 河川跡

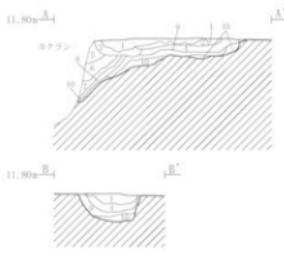
SR1 河川跡（第27・35図、図版5） W230～270・S70～90 グリッドで検出した。調査区内で大きく蛇行しており、東側と西側で検出した。SK35・38、SX43、SD15・16・22・31・34・39・40、小溝状遺構I-1～4、II-3・4、IV-1・2、P28・29・47・76～78・91・93・94・96～98・100・122と重複関係にあり、SD22より古く、

遺構	解説	土色	土性	備考
P6		1 10YR2/2 黒褐色	シルト	灰褐色上部ロック・褐色シルト粘をわずかに含む。マンガニク粘を多量含む。
		2 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルトロックを多量含む。
P7		1 10YR3/1 黒褐色	シルト	灰褐色上部ロックを多量含む。鉄分・マンガニク粘を多量含む。
		2 10YR2/1 黒褐色	シルト	灰褐色シルト粘・鉄分を多量含む。(底面)
P8		3 10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトロック・鉄分を多量含む。
		4 10YR3/3 喀喇色	シルト	褐色シルト粘・鉄分を多量含む。
P9		1 10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルトロック・鉄分を多量含む。
		2 10YR3/1 黑褐色	シルト	灰褐色上部ロックを多量含む。鉄分を多量含む。
P10		3 10YR3/3 喀喇色	シルト	鉄分を多量含む。
		4 10YR3/1 喀喇色	シルト	褐色シルトロックを多量含む。
P11		1 10YR2/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粘を多量含む。(底面)
		2 10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色上部ロックを多量含む。鉄分・マンガニク粘を多量含む。
P12		3 10YR3/1 喀喇色	シルト	マンガニク粘を多量含む。
		4 10YR3/2 黑褐色	シルト	灰褐色上部ロックを多量含む。鉄分を多量含む。
P13		5 10YR3/3 喀喇色	シルト	マンガニク粘を多量含む。
		6 10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルト粘を多量含む。
P14		7 10YR3/3 喀喇色	シルト	鉄分・マンガニク粘を多量含む。
		8 10YR3/1 喀喇色	シルト	褐色シルトロックを多量含む。

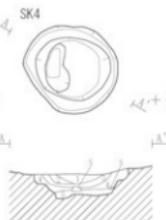
SK3炭化物出土状況



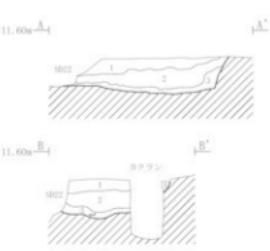
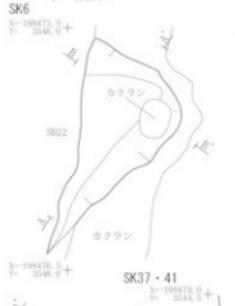
SK3先掘



SK4



SK5



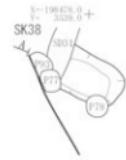
SK35



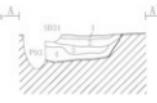
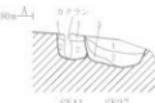
SK36



SK37・41



SK3



SK3

遺構	土色	土性	備考
1 10YR2/2 黒色	粘土シルト	炭化物を多量含む。褐色シルトブロック・地上をわずかに含む。	
2 10YR2/2 黑褐色	粘土シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。	
3 10YR4/2 反黄褐色	粘土シルト	炭化物をわずかに含む。	
4 10YR2/2 黒色	粘土シルト	炭化物。	
5 10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	
6 10YR3/3 黑褐色	シルト	鉢分を含む。	
7 10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
8 10YR4/1 黑褐色	シルト	鉢分・炭化物をわずかに含む。	
9 10YR4/0.5 黑褐色	砂質シルト	鉢分を多量含む。炭化物をわずかに含む。	
10 10YR4/7 反黄褐色	シルト	鉢分を多量含む。炭化物をわずかに含む。	
11 10YR5/5 黑褐色	シルト	炭化物を含む。	
12 10YR4/6 黑褐色	シルト	炭化物シルトを含む。	
13 10YR4/4 黑褐色	シルト	鉢分をわずかに含む。	
14 10YR4/4 黑褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。	
15 10YR3/4 反黄褐色	シルト	褐褐色シルトブロックをわずかに含む。	
16 10YR4/1 黑褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを多量含む。	
17 10YR4/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。	
18 10YR4/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	

SK4

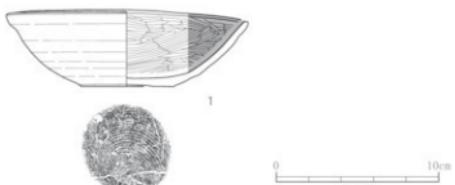
遺構	土色	土性	備考
1 10YR4/6 黑褐色	シルト	炭化物シルトを含む。	
2 10YR4/4 黑褐色	シルト	鉢分を含む。	
3 10YR4/4 黑褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを含む。	
4 10YR4/4 黑褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを含む。	
5 10YR3/4 反黄褐色	シルト	褐褐色シルトブロックを含む。	

SK6

遺構	土色	土性	備考
1 10YR4/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粉をわずかに含む。	
2 10YR3/3 反黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粉を多量含む。	
3 10YR4/1 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。	

遺構	位相	土色	土性	備考
SK35	1	10YR4/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・鉢分をわずかに含む。
	2	10YR4/2 反黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。鉢分をわずかに含む。
SK36	1	10YR4/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉢分・マンガン粉をわずかに含む。炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 反黄褐色	シルト	鉢分・炭化物を含む。
SK37	1	10YR2/1 黒色	シルト	鉢分・炭化物を多量含む。鉢上ブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	炭化物を含む。
	3	10YR3/1 黑褐色	シルト	鉢分・炭化物を含む。
	4	10YR3/3 黑褐色	シルト	鉢分・マンガン粉を含む。
SK38	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粉を含む。
	2	10YR3/3 反黄褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガン粉を含む。
SK41	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン粉をわずかに含む。
	2	10YR3/3 反黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。

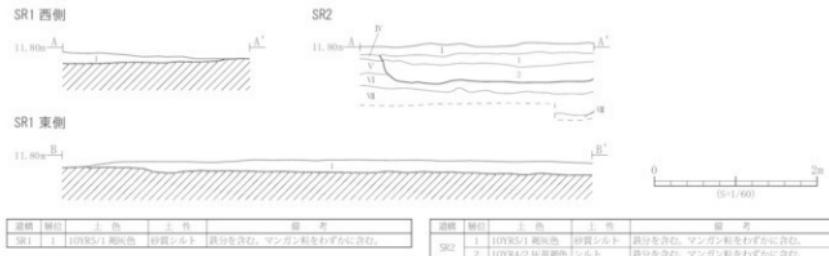
第33図 SK 3・4・6・35～38・41 土坑平面図・断面図



第34図 SK 35 土坑出土遺物

他より新しい。東側・西側の調査区外に延び、西側は本遺跡6区 SR408と連続する。規模は東側が検出長16.36m、幅6.05m、深さ15cm以上、西側が検出長12.68m、幅2.93m、深さ15～40cm以上である。堆積土は本調査区では掘削深度が浅く単層であるが、6区では10層以上に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

SR2 河川跡（第27・35図、図版5） W250・S50～60 グリッドで検出した。検出面はV層であるが、壁面の観察で基本層IV層上面から掘り込まれていることが確認された。SD22・42、小溝状遺構III-1・8、VI-1と重複関係にあり、SD42、小溝状遺構III・VI群より新しく、SD22より古い。北西側の調査区外に延びるが、西側に隣接する本遺跡6区では検出されなかった。規模は検出長4.55m、幅2.56m、深さ37cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片・土師器片が出土している。



第35図 SR1・2河川跡断面図

5) 性格不明遺構

SX43 性格不明遺構（第36・37図、図版9） W240・S70 グリッドで検出した。SR1、SD11・12・23、小溝状遺構II-1・2、IV-1・5・6と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不整形で、長軸方向は北東から南西である。規模は長軸7.65m、短軸2.80～3.52m、深さ24cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整逆台形で、底面は凹凸や段がある。堆積土は2層に分層される。遺構の状況から、倒木痕の可能性がある。遺物は堆積土から繩文土器片・土師器片・打製石器・繪石器が出土しており、そのうち土師器鉢1点を第37図に図示した。体部から外傾しながら立ち上がり、口縁部で直立する。

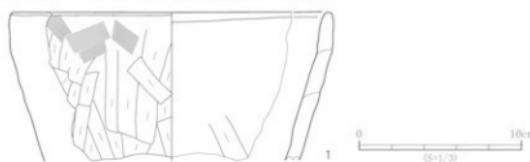
6) 溝跡

SD11 溝跡（第27・38図、図版5） W240・S60～70 グリッドで検出した。SX43、小溝状遺構II-2、P1・3・27と重複関係にあり、SX43より新しく、他より古い。方向はN-45°-Wで、長さ7.12m、幅29～35cm、深さ9cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SD12 溝跡（第27・38図、図版5） W240・S70 グリッドで検出した。SX43と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-48°-Wで、長さ2.37m、幅18～24cm、深さ8cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第36図 S X 43 性格不明遺構平面図・断面図



名	登録番号	区	遺構・グリッド	層位	種 別	断 種	口幅×底径×高さ(cm)	内面調整	内面調整	備 考	写真回数
	C-23	7A	SX43	1	土壌层	疊	119cm × × × 0.1	チテ・ヘラケズリ	ヘラケズリ		22-6

第37図 S X 43 性格不明遺構出土遺物

SD13溝跡（第27・38図、図版5）W250・S60グリッドで検出した。SD42と重複関係にあり、本遺構が新しい。方向はN-76°-Wで、長さ2.00m、幅25～28cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。

第4節 下ノ内遺跡7A区

遺物は出土していない。

SD15 溝跡（第27・38図、図版5）W240・S80 グリッドで検出した。SR1、P29と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-85°-Wで、検出長1.40m、幅29～80cm、深さ4cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD16 溝跡（第27・38図、図版5）W240・S70 グリッドで検出した。SR1と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-78°-Wで、検出長2.26m、幅30～41cm、深さ14cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD19 溝跡（第27・38図、図版5）W250・S60 グリッドで検出した。P55と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-67°-Wで、検出長1.29m、幅25cm、深さ5cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD22 溝跡（第27・38図、図版5）W250・S50～80 グリッドで検出した。SK3・6・37、SR1・2、小溝状遺構II-1・3、III-1～4・7・8、P32・34・53・54と重複関係にあり、本遺構が新しい。南北の調査区外に延びる。方向はN-7°-Eで、検出長26.40m、幅1.54～2.66m、深さ1.34mである。断面形は逆台形である。堆積土は7層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

SD23 溝跡（第27・38図、図版5）W240・S70 グリッドで検出した。SX43、小溝状遺構II-1、IV-6と重複関係にあり、SX43、小溝状遺構IV群より新しく、II群より古い。方向はN-23°-Eで、長さ3.65m、幅26～34cm、深さ9cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD31 溝跡（第27・38図、図版5）W250～260・S70 グリッドで検出した。SK38、SR1、P77・91・93・111と重複関係にあり、SK38、P93・111より新しく、SR1、P77・91より古い。方向はN-21°-Eで、検出長4.25m、幅23～50cm、深さ13cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片が出土している。

SD32 溝跡（第27・38図、図版5）W260・S70 グリッドで検出した。方向はN-28°-Eで、長さ80cm、幅15cm、深さ10cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SD33 溝跡（第27・38図、図版5）W260・S70 グリッドで検出した。P73・74・107・108と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-30°-Eで、長さ2.00m、幅29～35cm、深さ8cmである。断面形はU字形である。堆積土は2層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SD34 溝跡（第27・38図、図版5）W260・S70 グリッドで検出した。SR1、SD39と重複関係にあり、SD39より新しく、SR1より古い。方向はN-6°-Eで、検出長1.75m、幅16～26cm、深さ4cmである。断面形はU字形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SD39 溝跡（第27・38図、図版5・9）W260・S60～70 グリッドで検出した。SR1、SD34、P49・69～72と重複関係にあり、本遺構が古い。南北の調査区外に延び、北側は本遺跡6区SD467に連続する。方向はN-5°-Eで、検出長3.35m、幅90～96cm、深さ92cmである。断面形はU字形である。堆積土は6層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・打製石器が出土している。

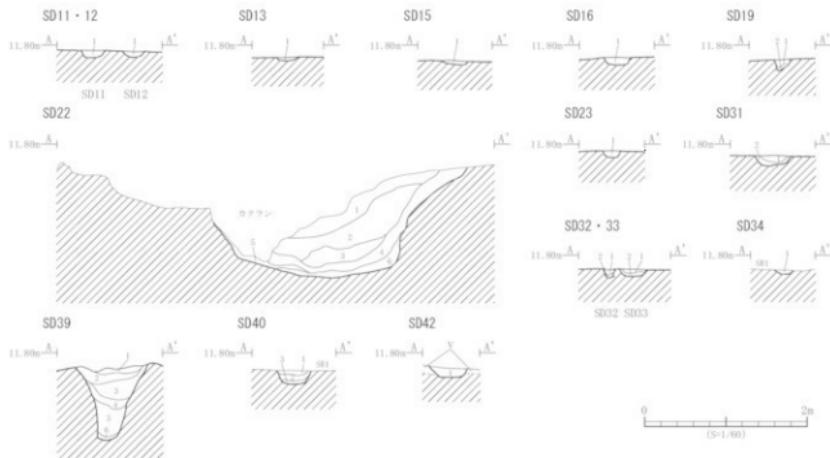
SD40 溝跡（第27・38図、図版5）W250～260・S70 グリッドで検出した。SR1と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-46°-Eで、検出長2.46m、幅40～59cm、深さ16cmである。断面形はU字形である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SD42 溝跡（第27・38図、図版5）W250・S50～60 グリッドで検出した。SR2、SD13、小溝状遺構III-9と重複関係にあり、本遺構が古い。方向はN-4°-Eで、検出長1.90m、幅32～36cm、深さ10cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

7) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係からI～VI群に分けられる。また、重複関係からV・VI群→IV群→III群→II群の変遷が考えられる。

I群（第27・39図、図版5）W250・S70～80 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、4条の小溝



遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SD11	1	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SD12	1	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックに高い黄褐色シルトブロックを多量含む。
SD13	1	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。マンガン粒を多量含む。
SD15	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	マンガノ・リオライトをわずかに含む。
SD16	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD19	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
SD22	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD39	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
SD40	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。
SD42	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。

遺構	層位	土 色	土 性	備 考
SD32	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SD33	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分をわずかに含む。
	2	10YR4/4 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。
SD34	1	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分を多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
SD39	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR4/2 黄褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SD40	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/4 嗅褐色	シルト	鉄分を多量含む。
SD42	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	鉄分・マンガン粒を多量含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	マンガン粒を多量含む。

第38図 SD 11～13・15・16・19・22・23・31～34・39・40・42 溝跡断面図

で構成される。方向はN-51°～75°-Wで、検出長0.58～2.12m、幅4～23cm、深さ2～10cmである。小溝の間隔は、30～35cmである。堆積土は単層である。遺物はI-3から縄文土器片が出土している。

II群（第27・39図、図版5） W230～250・S60～70 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、4条の 小溝で構成される。方向はN-53°～62°-Wで、検出長9.33～18.68m、幅20～37cm、深さ4～15cmである。 小溝の間隔は、2.05～2.55mである。堆積土は2層に分層される。遺物はII-1・4から縄文土器片・土師器片が出土している。

III群（第27・39図、図版5） W240～250・S50～60 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、9条の 小溝で構成される。方向はN-40°～50°-Wで、検出長0.89～6.59m、幅15～25cm、深さ3～8cmである。 小溝の間隔は、14～37cmである。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

IV群（第27・39図、図版5） W230～240・S60～70 グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、6条の 小溝で構成される。方向はN-57°～66°-Wで、検出長2.65～11.00m、幅20～40cm、深さ6～12cmである。 小溝の間隔は、0.98～1.24mである。堆積土は2層に分層される。遺物はIV-5・6から縄文土器片・土師器片が出土している。

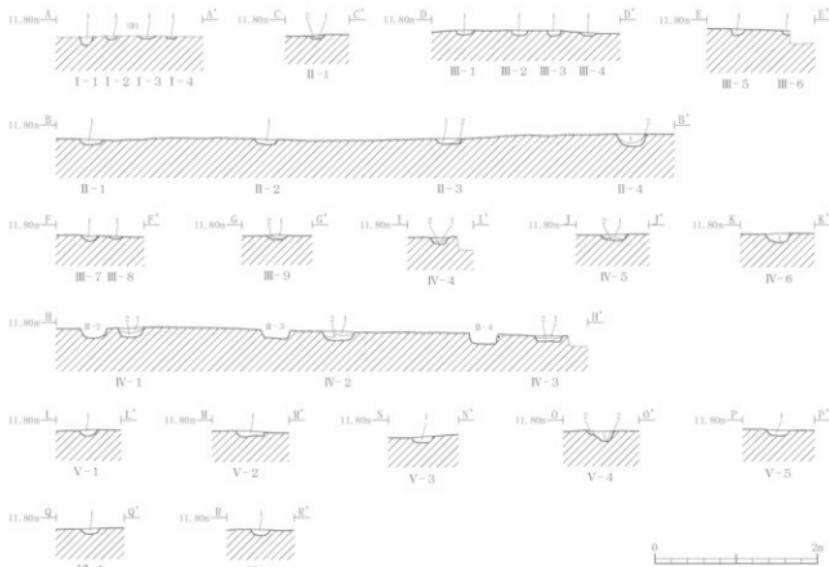
V群（第27・39図、図版5） W230～240・S50～70 グリッドで検出した北東から南西方向の遺構群で、5条

第4節 下ノ内遺跡7A区

の小溝で構成される。方向はN-20°～30°-Eで、検出長1.58～2.36m、幅22～36cm、深さ7～12cmである。小溝の間隔は、1.97～4.20mである。堆積土は1層ないし2層に分層される。遺物はV-2・4から縄文土器片・土師器片が出土している。

VI群(第27・39図、図版5) W250・S50～60グリッドで検出した北西から南東方向の遺構群で、2条の小溝で構成される。位置が離れているが、方向からV群と同群の可能性がある。方向はN-15°～21°-Eで、検出長2.83～3.43m、幅22～25cm、深さ6～7cmである。小溝の間隔は、43cmである。堆積土は単層である。遺物はVI-1・2から土師器片が出土している。

小溝状遺構群の年代は、IV群が8世紀前半～中頃のSI5より新しいことから、II～IV群は8世紀後半以降に機能し、V・VI群はそれ以前に機能していたと考えられる。I群は他群との重複関係は無いが、方向が類似するII～IV群と同時期の可能性がある。



遺構	編号	土色	土性	備考
I-1 -4	1	10YR4/1 嗅褐色	シルト	褐色シルト・マンガン鉄をわずかに含む。
II-1 -2	1 2	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
II-3 -4	1 2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
III-1 -2	1 2	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
III-3 -4	1 2	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
IV-1 -4	1 2 3 4	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。箇分を斑状に含む。
V-1 -4	1 2 3 4	10YR3/3 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。箇分を斑状に含む。
VI-1 -2	1 2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。マンガン鉄をわずかに含む。
VI-3 -8	1 2	10YR3/4 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。黒褐色シルトブロックをわずかに含む。
VI-9	1	10YR3/4 嗅褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。黒褐色シルトブロックをわずかに含む。

第39図 小溝状遺構群断面図

B) ピット(第27図)

108基のピット(P1～21・23～55・57～78・81～84・90・91・93～114・120・122・123)を検出した。遺物は堆積土から縄文土器片・土師器片・須恵器片・打製石器が出土している。

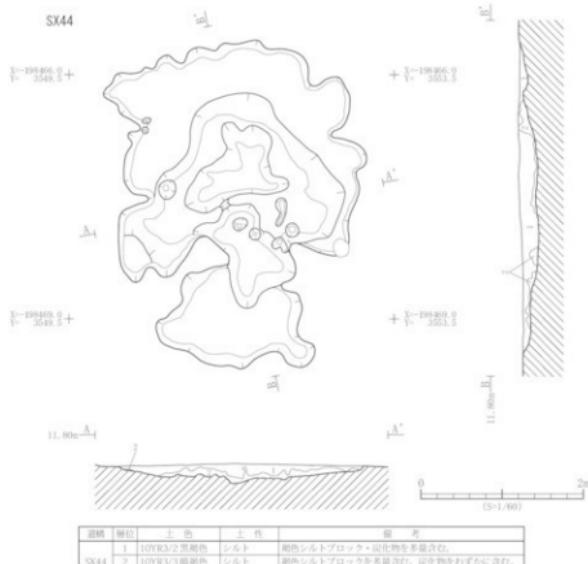


第40図 下ノ内道路7 A区VI層遺構配置図、SX18・45 遺物包含層断面図

(2) VI層検出の遺構と遺物(第40図)

1) 性格不明遺構

SX44 性格不明遺構(第41図、図版9) W240・S60 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は南北方向である。規模は長軸 3.94m、短軸 1.58 ~ 2.97m、深さ 22 ~ 24cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整逆台形で、底面は凹凸や段がある。遺構の状況から、倒木痕の可能性がある。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。



第41図 S X 44 性格不明遺構平面図・断面図

2) 遺物包含層

SX18・45 遺物包含層(第40図、図版9) W240 ~ 260・S60 ~ 80 グリッドで検出した。基本層VI層中で遺物が集中して出土した部分で、位置関係や出土遺物の内容から連続した遺物包含層と考えられる。上層遺構の搅乱によって東西に分断されているため、便宜的に西側をSX18、東側をSX45として調査を行った。層厚は 25 ~ 47cm である。遺物は縄文土器・土製品・打製石器・礫石器・石製品が多量に出土している。そのうち縄文土器 154 点、土製品 15 点、打製石器 25 点、礫石器 5 点、石製品 3 点を第42 ~ 60 図に図示した。遺物の説明は SX18 と 45 に分け、さらに土器・土製品と石器に分けて行う。

SX18 遺物包含層出土土器・土製品(第42 ~ 49図、図版22 ~ 25)

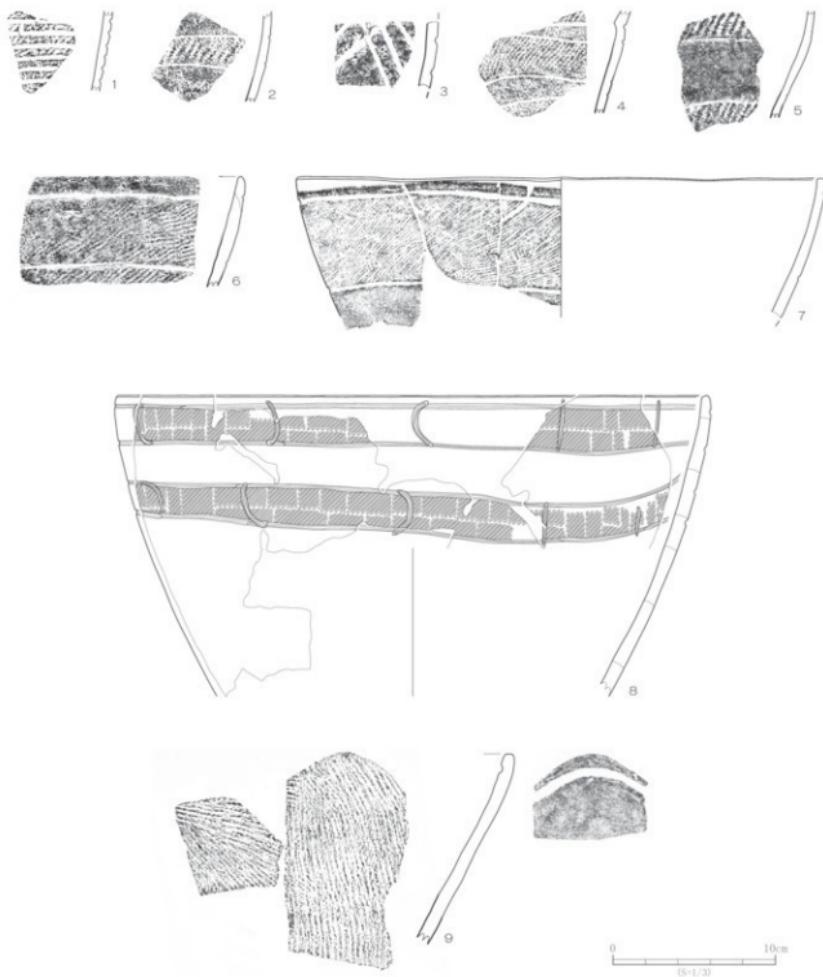
縄文土器 100 点、土製品 9 点を図示した。第42 ~ 46図は深鉢である。第42図1は3単位波状口縁の波頂部に團扇状小突起が付くと考えられ、SX45出土A-167(第55図5)およびVII層SX47出土A-140(第69図1)と同一個体の可能性がある。口縁部は内外面とも口縁部に平行する沈線文が施文される。胴部外面は6条の横走る平行沈線文が縱向ないし弧状の沈線文で連結される。5 ~ 7は沈線文のみが施文される口縁部片で、5・6は平口縁である。7は波状口縁で波頂部内面に小突起を持つ。8 ~ 11は横位の平行沈線文内に地文が施文される口縁部片で、いずれも平口縁である。8・9は弧状の短沈線で平行沈線が連結される。10・11も同様の意匠と考えられる。12 ~ 18は

第4節 下ノ内遺跡7A区



番号	埋蔵番号	区	遺物・グリッド	部位	種別	断面	文様等	備考	写真回数
1	A-64	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁一部・波状口縁・深底小突起・沈殿文区画・LR 織文	鉄土に金属接着部、A-140・167 と同一?	22-7
2	A-105	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	突起	沈殿文・LR 織文	-
3	A-119	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・突起	沈殿文	22-8
4	A-196	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	突起	沈殿文	-
5	A-38	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・沈殿文	-	22-9
6	A-42	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部	沈殿文	22-10
7	A-49	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈殿文・内底に小突起	-	22-11
8	A-111	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部	沈殿文区画・沈殿文・LR 織文	22-12
9	A-61	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・波状文区画・沈殿文・LR 織文	-	22-13
10	A-112	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・沈殿文区画・LR 織文	-	22-14
11	A-115	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・沈殿文区画・LR 織文	-	22-15
12	A-103	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁一部・沈殿文区画・LR 織文	-	22-16
13	A-41	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・沈殿文区画・「ランク」状文・LR 織文	下ノ内遺跡8区VI層出土A-76と 同一?	22-17
14	A-79	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・沈殿文区画・LR 織文	A-150と同一?	22-18
15	A-130	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁一部・波状口縁・沈殿文・LR 織文	A-63と同一?	22-19
16	A-63	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈殿文区画・LR 織文	鉄部穿孔・A-130と同一?	-
17	A-81	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁一部・波状口縁・沈殿文区画・LR 織文	-	22-20
18	A-40	7A	SX18	-	繩文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈殿文区画・LR 織文	-	22-21

第42図 S X 18 遺物包含層出土土器 (1)



第43図 S X 18 遺物包含層出土土器 (2)

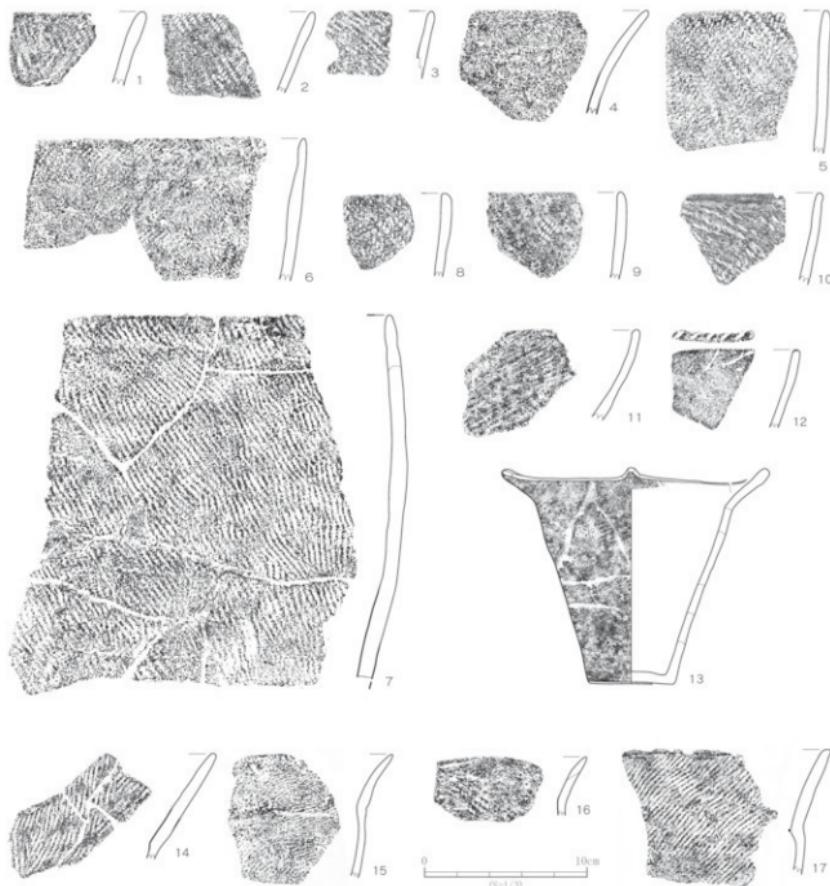
番号	標記番号	区	遺物・グリッド	部位	種別	面種	文様等	参考	写真箇所
1	A-72	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	側面-[クラシク]状文・L葉文		22-22
2	A-92	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	側面-[クラシク]状文・L葉文		22-23
3	A-99	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	側面-[クラシク]状文・L葉文?	内外面摩滅。	22-24
4	A-76	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	側面-[クラシク]状文・L葉文		22-25
5	A-91	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	側面-[クラシク]状文・L葉文		22-26
6	A-54	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	[口]横筋・沈腹文・L葉文		23-1
7	A-82	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	[口]横筋・沈腹文・L葉文・胸筋・三ガ牛		23-2
8	A-123	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	[口]横筋・沈腹文・L葉文・胸筋・三ガ牛		23-3
9	A-71	7A	SX18	-	陶文土器	深鉢	[口]横筋・深鉢口縁・L葉文・口縁部内面に沈腹文		23-4

第4節 下ノ内遺跡 7A区



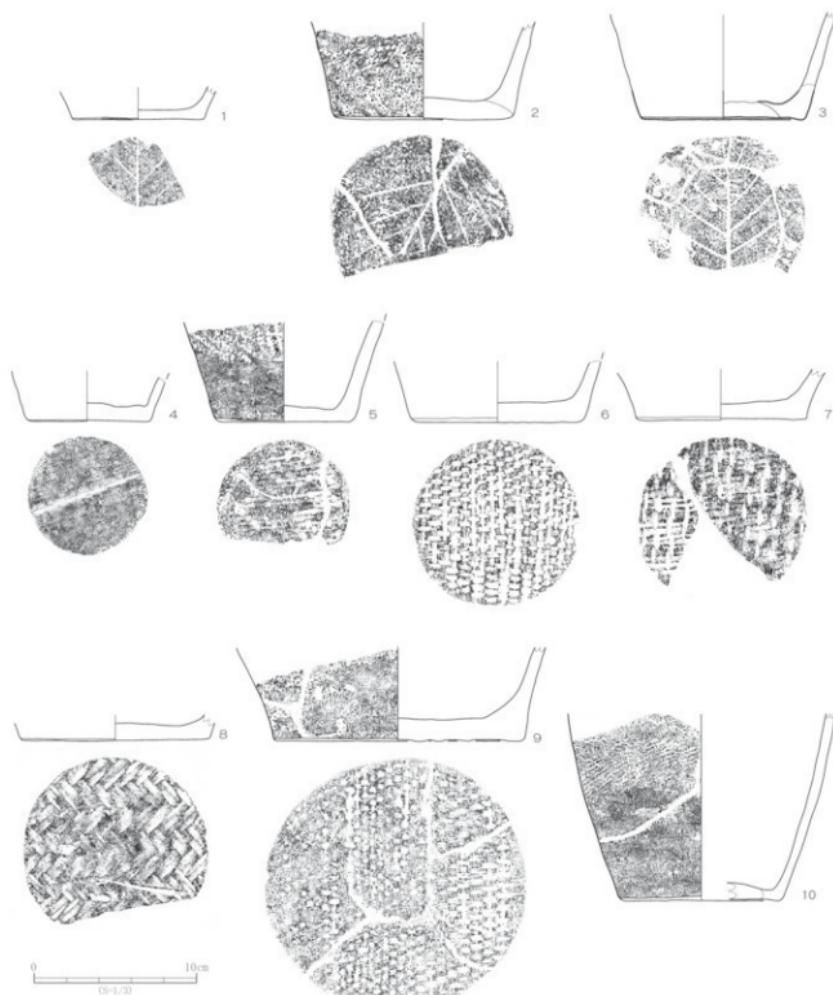
番号	性質	区	遺物・ダリッド	部位	種類	形種	文様等	備考	写真箇所
1 A-44	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢・李型	縄彌文・沈彌文	内外面施色付着。	23.5
2 A-62	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・柱状突起・横状把手・斜彌文・沈彌文	貫通孔 1ヶ所あり。胎土に金留母混入。	23.6
3 A-50	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅折口縁・円盤状突起・縄彌文・口縫部・越後彌文	外表面化物付着。	23.7
4 A-85	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅折口縁・円盤状突起・縄彌文・斜突起・沈彌文・LR彌文・口縁部内面に斜彌文。	胎土に金留母混入。A-124と同一。	23.8
5 A-124	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	側部・疣突部区域・縄彌文・沈彌文・斜突起・沈彌文・LR彌文	胎土に金留母混入。A-85と同一。	23.9
6 A-89	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・外側・筒彌文・沈彌文・内面・沈彌文	内表面化物付着。	23.10
7 A-80	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・側部・縄彌文・斜彌文・LR彌文	-	23.11
8 A-106	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅折口縁・沈彌文区域・斜突起・沈彌文・斜突起・沈彌文・LR彌文	外表面化物付着。	23.12
9 A-83	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	側部・斜彌文・沈彌文・LR彌文	-	23.13
10 A-109	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁・側部・LR彌文・沈彌文・斜彌文・押付	-	23.14
11 A-100	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁・側部・LR彌文・沈彌文・斜彌文・押付	-	23.15
12 A-69	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁・側部・LR彌文・LR彌文・斜彌文・押付	-	23.16
13 A-118	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部・LR彌文・斜彌文・押付	-	23.17
14 A-68	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁・側部・波状口縁・LR彌文	-	23.18
15 A-87	陶	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁・側部・波状口縁・LR彌文・波頂部・有刺	-	-

第44図 S X 18 遺物包含層出土土器 (3)



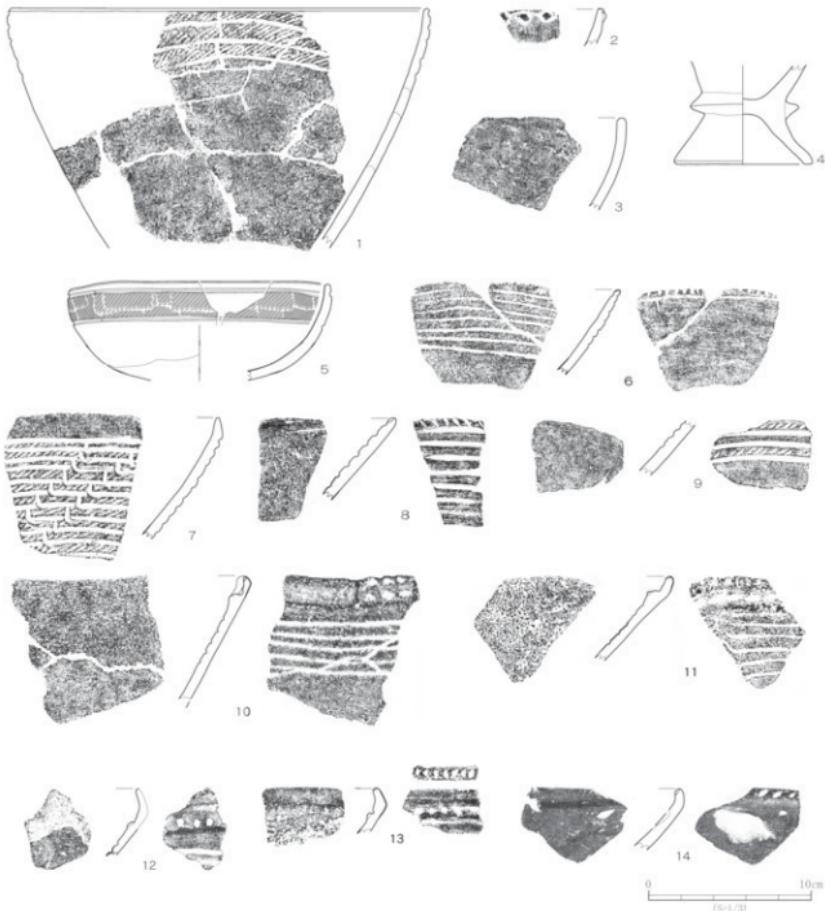
№	登録番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	文様等	類考	写真回数
1	A-88	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		23-19
2	A-107	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		23-20
3	A-93	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		23-21
4	A-78	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 不明		23-22
5	A-70	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 RL 縄文		23-23
6	A-74	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 LR 縄文		23-24
7	A-127	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 RL 縄文		24-1
8	A-73	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		24-2
9	A-114	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		24-3
10	A-155	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 L 燃文	内外面摩滅	24-4
11	A-90	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 LR 縄文		24-5
12	A-90	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 L 燃文	動物に合骨母頭人 A-158 と同一	24-6
13	A-132	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 滑付口縫 口唇突起 LR 縄文?	外面部摩滅	24-7
14	A-104	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 滑付口縫 LR 縄文		24-8
15	A-97	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 LR 縄文		24-9
16	A-80	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 RL 縄文		24-10
17	A-116	7A	SX18	-	縄文土器	深鉢	口縁部 倒部 LR 縄文		24-11

第45図 S X 18 遺物包含層出土土器 (4)



番号	区	遺物・ダリット	部位	種別	断面	文様等	参考	写真類
1	A-58	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模		
2	A-133	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: くぼ確定、底面: 木型模		
3	A-131	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 不明、底面: 木型模		
4	A-129	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模		
5	A-73	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: くぼ確定、底面: 木型模		
6	A-128	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模	24-12	
7	A-47	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模		
8	A-48	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模		
9	A-110	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: 三刀牛、底面: 木型模		
10	A-113	7A	SX18	陶文土器	深鉢	側面: くぼ確定、底面: 木型模?	24-13	

第46図 SX 18 遺物包含層出土土器 (5)



No.	件目番号	区	遺構・グリッド	部位	種	型	面	種	文様等		備考	当真例
									外	内		
1	A-34	7A	SX18	-	陶文土器	鉢	口縁部・外側文区画・L型彫文・胸部・玉方舟					24.16
2	A-67	7A	SX18	-	陶文土器	鉢	口縁部・玉方舟・粘土刮削印					24.14
3	A-95	7A	SX18	-	陶文土器	鉢	口縁部・玉方舟					
4	A-120	7A	SX18	-	陶文土器	円筒鉢	胸・口縁部・周縁文					24.15
5	A-59	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側文区画・L型彫文・側・一部・玉方舟					24.17
6	A-121	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側；沈彫文・口縁文					24.18
7	A-33	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部；L型彫文・伏文・L型彫文					24.19
8	A-56	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側；玉方舟・内面；沈彫文・口縫部・有刷					24.20
9	A-52	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	胸部・外側；玉方舟・内面；沈彫文・L型彫文					24.21
10	A-136	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁・側部・浅底口縁？・周縁彫刻；沈彫文・刺突文・口縫部・有刷					24.22
11	A-43	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁・側部・外側；玉方舟・内面；有刷彫文区画・沈彫文・刺突文・口縫部・有刷					24.23
12	A-53	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側；玉方舟・内面；周縁彫文区画・沈彫文・刺突文					24.24
13	A-55	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側；玉方舟・内面；周縁彫文区画・刺突文・口縫部・有刷					24.25
14	A-57	7A	SX18	-	陶文土器	浅鉢	口縁部・外側；玉方舟・口縫部・有刷					24.26

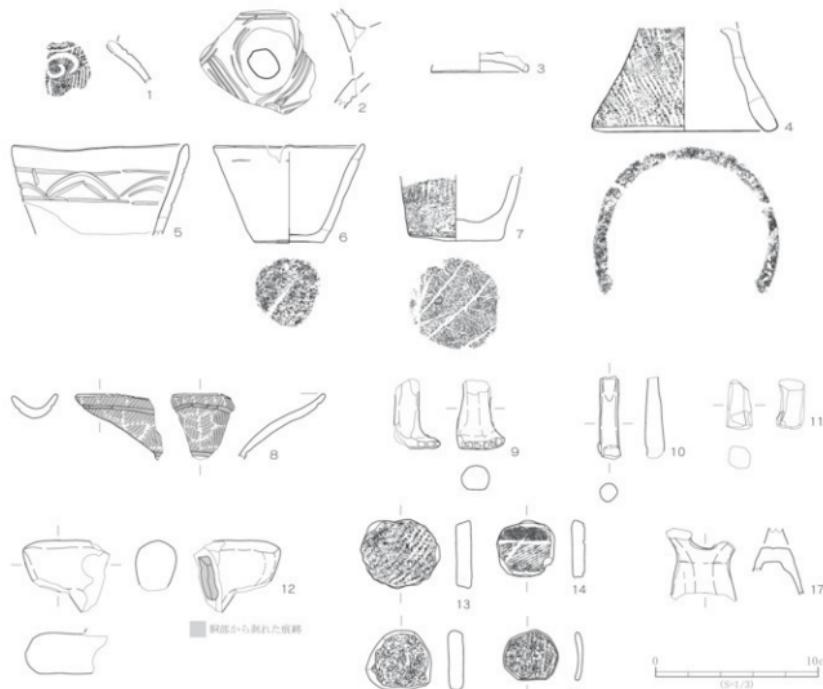
第47図 S X 18遺物包含層出土土器 (6)



No.	標記番号	区	遺物・グリッド	部位	種別	基種	文様等	備考	写真番号
1	A-117	7A	SX18	-	縄文土器	側	口縁一側縁・沈線文区画・追5字状文・U字縄文・底部・ナデ	内外面摩滅	24-27
2	A-65	7A	SX18	-	縄文土器	側	側部・沈線文区画・横円形文・U字縄文・底部・側代瓶	内面摩滅	24-28
3	A-35	7A	SX18	-	縄文土器	側	側部・沈線文区画・S字状・三角状文・U字縄文		25-1
4	A-24	7A	SX18	-	縄文土器	側	側部・沈線文区画・U字縄文		25-2
5	A-61	7A	SX18	-	縄文土器	側	側部・沈線文		25-3
6	A-84	7A	SX18	-	縄文土器	側?	側部・U字縁・底部・側代瓶		
7	A-106	7A	SX18	-	縄文土器	脚付土器	脚部・丸刃手		25-4
8	A-36	7A	SX18	-	縄文土器	脚付土器	脚部・U字縄文		25-5
9	A-122	7A	SX18	-	縄文土器	底	ナデ	内部中央に擦面あり、内外面規則性・摩滅。	25-6

第48図 SX18 遺物包含層出土土器（7）

充填繩文手法により文様が施文されている口縁部・胴部で、13～18は口縁部と胴部の境が括れ、口縁部が外反する。口縁部形態は、12～14が平口縁、15～18が波状口縁である。13は横位に展開する「クランク」状文が施文されている。15・16は同一個体で、16の胴部には径5mmの穿孔がある。第43図1～5は沈線文間に地文が施



No.	件目番号	区	遺物・ダリッド	部位	種別	面・縁	文様等		備考	写真箇所
							輪郭	内部		
1	A-59	7A	SX18	-	陶文土器	口部・沈線文・条彫文				25-7
2	A-60	7A	SX18	-	陶文土器	口部・沈線文				25-8
3	A-66	7A	SX18	-	陶文土器	口部・土器				
4	A-125	7A	SX18	-	陶文土器	口部・土器				25-9
5	A-102	7A	SX18	-	陶文土器	小字土器	口縁・側面・沈線文・区画・沈線文		内面環状炭化物付着。	25-10
6	A-94	7A	SX18	-	陶文土器	小型土器	口縁・側面・底部・木型版		底土に金雲母混入。	25-11
7	A-126	7A	SX18	-	陶文土器	小型土器	側面・口縁・底面・木型版		側面に金雲母混入。	-
8	A-45	7A	SX18	-	陶文土器	不明	口縁・側面・沈線文・L形彫文			25-12
9	P-8	7A	SX18	-	土製品	土偶	脚部・瓦刀字			25-13
10	P-9	7A	SX18	-	土製品	土偶	脚部・ナデ			25-14
11	P-10	7A	SX18	-	土製品	土偶	脚部・ナデ			25-15
12	P-19	7A	SX18	-	土製品	土偶	胸・脚部・ナデ・ミガキ	右胸部深、脚部から剥れた部分に炭化物付着。	右胸部深、脚部から剥れた部分に炭化物付着。	25-16
13	P-5	7A	SX18	-	土製品	土偶円盤	L形彫文	43 × 49 × 9mm 22.2g		25-17
14	P-6	7A	SX18	-	土製品	土偶円盤	沈線文・L形彫文	35 × 35 × 8mm 14.2g		25-18
15	P-7	7A	SX18	-	土製品	土偶円盤	不明 摩滅彫文	37 × 39 × 10mm 16.7g		25-19
16	P-18	7A	SX18	-	土製品	土偶円盤	不明 新土に金雲母混入	30 × 34 × 4mm 5.1g		25-20
17	P-4	7A	SX18	-	土製品	脚部土製品 or 土器	ミガキ			25-21

第49図 S X 18 遺物包含層出土土器 (8)・土製品

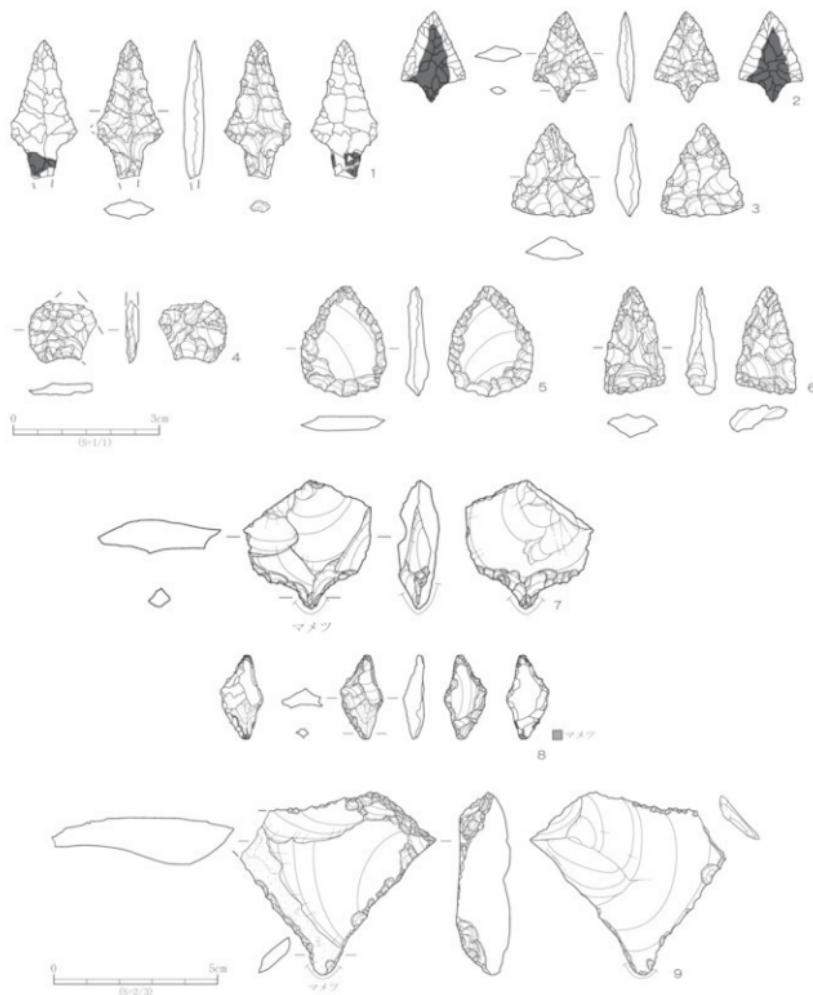
文される胸部片である。6～8は口縁部が横位の平行沈線で幅広く区画される一群である。いずれも平口縁である。7・8は地文が丁寧に磨り消されている。9は波状口縁で、内面には口縁端部に平行する沈線文が施文される。第44図1～3は突起で、1は内外面を環状に巡る降線文、2は柱状突起・橋状把手、3は円盤状突起・鱗状降線文などの立体装飾がみられる。4・5は同一個体片で、降線文上に平行した長い刺突文のほか、意匠は不明だが磨消彫文による文様が施文される。6は降線文上に沈線文が施文される。7は口縁部と胸部を区画する降線文上と口縁部に刺突文が

第4節 下ノ内遺跡7A区

施文される。8は沈線文で区画された口縁部に刺突文、口唇部にL R 縄文が回転施文される。9は沈線文上に刺突文が施文される。10～15及び第45図は沈線文や隆線文、刺突文が施文されない群で第45図2を除き、外面は地文のみが施文される。第44図10～13は口縁部と胴部の境に縄文原体が押圧され、口縁部は無文となる。第44図15は波頂部に2個の刻目がある。第45図12は外面無文で口唇部に刻目を持つ。SX45出土A-158（第57図3）と同一個体である。第45図13は4単位の波状口縁で、波頂部には山形突起が付く。第46図は底部で、1～3に木葉痕、4～9に網代痕がみられる。第47図1～3は鉢である。1は底径の小さい深鉢の可能性もある。2は口縁部直下に粘土粒が貼付される。4は台付鉢の胴部から台部で、胴部と台部の境に隆線文が施文される。5～14は浅鉢である。5は丸底の底部から緩やかに内湾して立ち上がる。口縁部は沈線文で区画され、L R 縄文が回転施文される。6～12は平行沈線文が施文される一群である。器形は体部から口縁部まで直線的に外傾するもの、体部は直線的に外傾して口縁部が短く直立気味に屈曲するもの、口縁部が内傾するものに三大別される。文様は沈線文のみが施文されるもののほかに口唇部に刻目を持つもの、内面に沈線文のほかに隆線文や刺突文が施文されるものがあり、これらの器形・文様には多様な組み合わせが認められる。第48図1～5は壺である。1～3はいずれも沈線文で区画された文様帯を胴部上半に持つ。1には逆S字状文、2には梢円形状文、3にはS字状文と三角状文の組み合せが、それぞれ3単位施文される。4・5の詳細は不明だが、いずれも横位に平行する沈線文が施文され、5は円形の沈線文が組み合わされる。第48図6は底部に網代痕がみられる壺の可能性がある。第48図7・8は脚付土器の脚部で、8の外面には地文がみられる。第48図9は皿で、片口状を呈し、底部内面中央には磨面がみられる。第49図1・2は注口土器である。3・4は台付土器の台部片である。4は端部に網代痕がみられる。5～7は小型土器である。5は平行沈線文による区画内に、横位に展開する弧状の沈線文が施文される。6は1もしくは2単位の山形小突起を持つ。7は底部に木葉痕がみられる。8は器種不明の口縁部片で、片口の可能性があり、地文と沈線文が施文される。9～12は土偶片である。9は右脚と考えられ、刻目により足指を表現している。10は腕、11は左脚と考えられる。12は胴から右肩で、胴側の欠損部に接合痕と考えられる窪みがある。13～16は土製円盤である。いずれも繩文土器の胴部片を素材としている。17は鐸形土器品もしくは土鈴の鉗部片と考えられる。

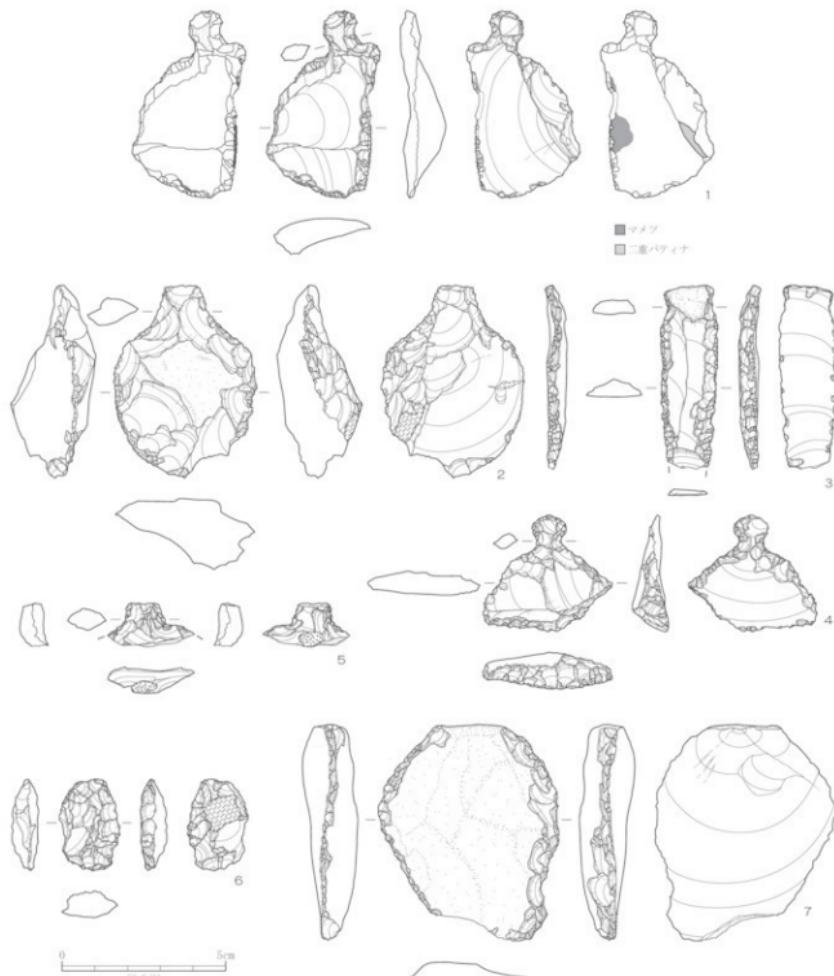
SX18 遺物包含層出土石器（第50～54図、図版25・26）

打製石器20点、礫石器3点、石製品3点を図示した。第50図1～6は石礫である。1・2は有茎礫で、1は基部に、2は身部の表裏面中央に黒色付着物がみられる。3は平基礫である。4は凹基礫で、基部の抉りは浅く、尖端部と右脚部を欠損している。5は円基礫で、周縁にのみ二次加工が施されており、表裏面に素材剥片の剝離面が残存している。6は素材剥片の下半部の厚さが影響し、身部は二等辺三角形状に整形されているものの、基部の製作が途中の未成品と考えられる。7～9は石錐である。7は表裏面の複数縁辺に二次加工を施し、下端部に錐部が作出されている。錐部は断面形が菱形で、全体的にマツツしている。8は上下の尖端部にマツツがみられることから、どちらも錐部として使用された可能性がある。9は厚みのある素材剥片の複数縁辺に二次加工を施し錐部が作出されている。第51図1～5は石匙である。1～3は縦型で、2はつまみの抉りが浅く、撫拭状となっている。未成品と考えられる。3は石刃状の縦長剥片を素材としている。つまみは抉りが浅く、表面には自然が残存している。4は横型石匙である。5は身部の大部分を欠損している。第51図6・7は削器である。6は表裏面の複数縁辺に二次加工が施され、右側縁に刃部が形成されている。7は自然が広く残存する。素材剥片の両側縁から形状を大きく変えない程度に二次加工が施されている。左側縁の下半部には微細剝離痕が観察される。第52図1は搔器で、裏面からの剝離によって刃部が形成されている。裏面右側の剝離は素材剥片の打面を除去した際のものと考えられる。第52図2はRFで、表面の下半部が火ハネした後、下端縁の一部に二次加工が施される。第52図3は楔形石器で、周縁に剝離調整が施される。第52図4は石核で、5面で剥片剝離作業が行われている。第53図1・2は凹痕が観察される礫石器、第53図3は凹痕と敲打痕が複合して観察される礫石器である。いずれも二面の中央部が主に使用されている。第53図4は石錐である。扁平な梢円錐の短軸両側縁に敲打と剝離調整による浅い抉りが作出されている。第53図5・第54図1は敲打により縁を持つ成形石皿である。



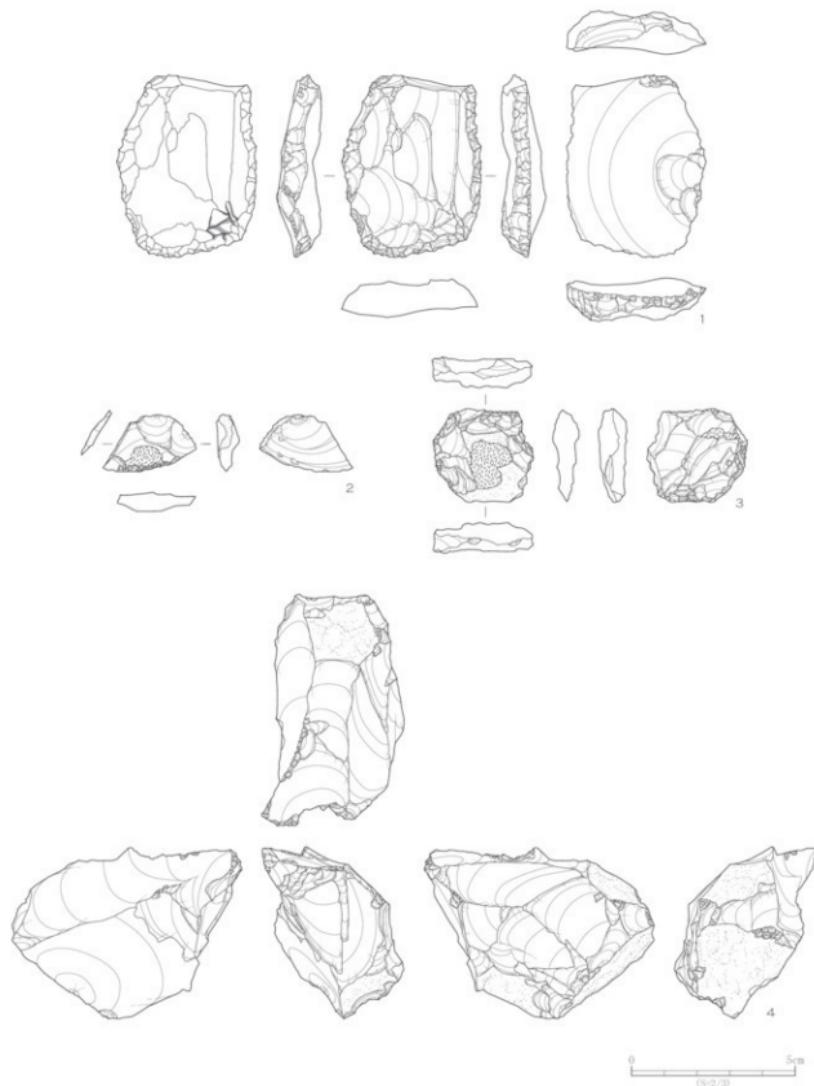
No.	層級番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考	写真回数
1	Kaa-1-2	7A	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	(2.9) × 1.4 × 0.4 (1.12)		有茎部、基部端部欠損。	25-22
2	Kaa-1-3	7A	SX18	-	打撲石器	石器	南須羽	1.9 × 1.4 × 0.4 0.47		有茎部、黒色付青物あり。	25-23
3	Kaa-2-1	7A	SX18	-	打撲石器	石器	上藤	1.9 × 1.7 × 0.6 1.23		有茎部。	25-24
4	Kaa-3-1	7A	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	(1.3) × (1.4) × 0.3 (0.49)		有茎部、尖端部及び右脚部欠損。	25-25
5	Kaa-4-1	7A	SX18	-	打撲石器	石器	南須羽	2.3 × 1.8 × 0.5 1.62		有茎部。	25-26
6	Kaa-4-2	7A	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	2.2 × 1.3 × 0.6 1.36		未完成品。	25-27
7	Kac-2-1	7B	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	3.0 × 3.0 × 1.0 6.13		摩滅あり。	25-28
8	Kac-3-1	7B	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	2.6 × 1.3 × 0.7 1.63		摩滅あり。	25-29
9	Kac-3-2	7B	SX18	-	打撲石器	石器	月賀日野	5.6 × 6.0 × 1.7 36.06		摩滅あり。	25-30

第50図 S X 18 遺物包含層出土石器 (1)



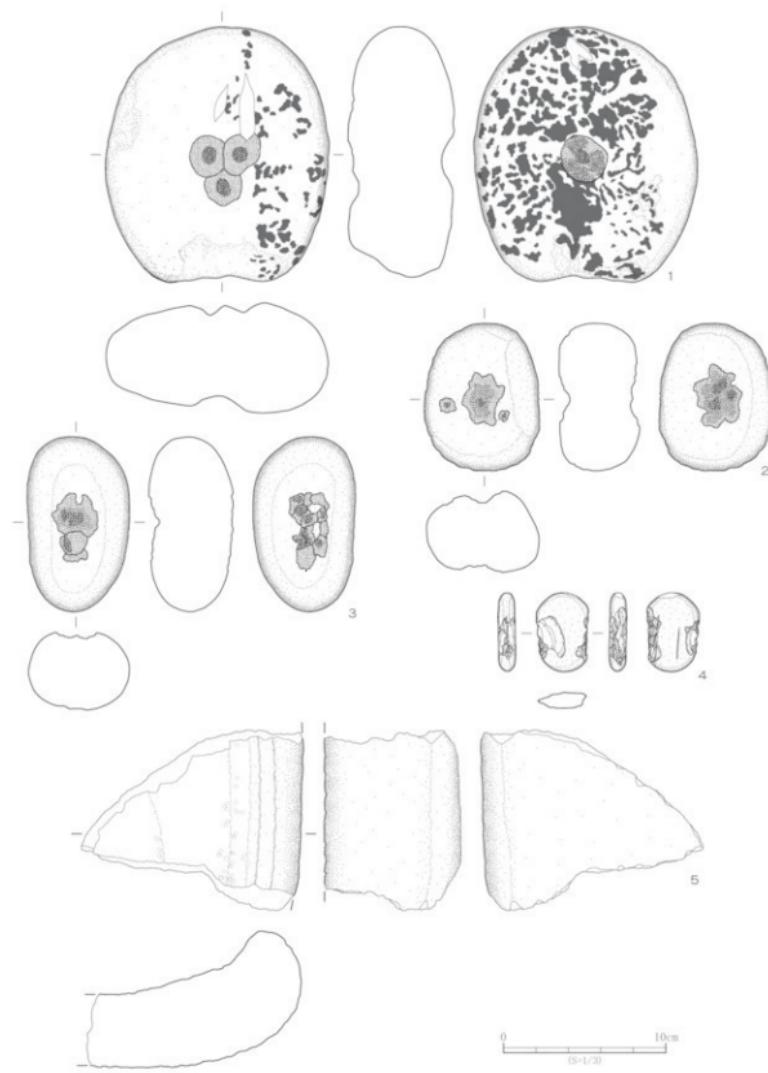
第51図 S X 18 遺物包含層出土石器 (2)

No.	發現番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真回数
1	Ka-d1-1	7A	SX18	-	打製石器	G形	珪質頁岩	5.8 × 3.5 × 1.4	14.22	圓型、二重バティナあり、摩滅あり。	25-31
2	Ka-d1-2	7A	SX18	-	打製石器	石靴	珪質頁岩	5.0 × 4.4 × 2.6	42.03	圓型、未成品。	26-1
3	Ka-d11-1	7A	SX18	-	打製石器	石靴	珪質頁岩	(5.7) × 1.8 × 0.7 (7.8)	26-2	圓型、末端部欠損。石刃状剥片有。	26-2
4	Ka-d2-2	7A	SX18	-	打製石器	石靴	珪質頁岩	3.6 × 4.0 × 1.1	9.98	楕円型。	26-3
5	Ka-d3-1	7A	SX18	-	打製石器	石靴	珪化木灰岩	(1.4) × (2.7) × 0.9	(2.09)	つまみ部分のみ残存。	26-4
6	Ka-e1-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	2.8 × 1.9 × 0.8	4.15	削器。	26-5
7	Ka-e1-2	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	6.6 × 5.6 × 1.8	60.39	削器。	26-6



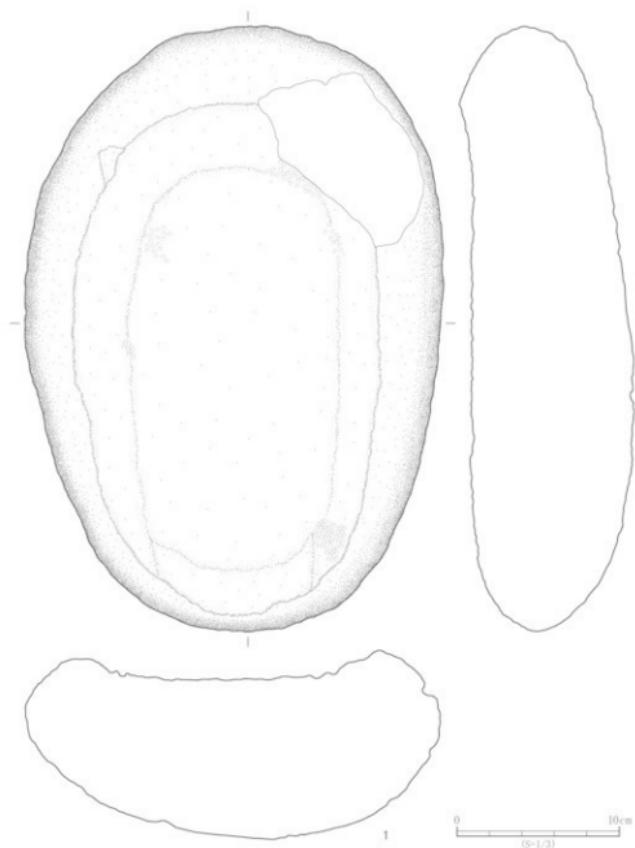
第52図 Sx18遺物包含層出土石器（3）

No.	發現番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	石 材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備 考	写真回数
1	Ka-e-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	珪質頁岩	5.6×4.3×1.4	34.4	凹凸、摩滅あり。	26-7
2	Ka-e-5-1	7A	SX18	-	打製石器	不定形石器	白鈍	1.8×2.9×0.7	2.61	鋸歯。	26-8
3	Ka-h-1	7A	SX18	-	打製石器	複合石器	珪質頁岩	2.9×3.1×0.9	8.44		26-9
4	Ka-m-1	7A	SX18	-	打製石器	石核	珪化頁岩	5.3×4.4×7.0	30.78		26-10



No.	発見番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	形種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考	写真枚数
1	Kc-61-2	7A	SX18	-	磨石器	円	石英安山岩質凝灰岩	15.7 × 13.8 × 6.7	132.26	凹面3e・裏1、黒色付箋あり。	26-11
2	Kc-61-4	7A	SX18	-	磨石器	円	石英安山岩	9.3 × 7.2 × 2.0	435.03	凹面3e・裏1,	26-12
3	Kc-62-1	7A	SX18	-	磨石器	円+楕	石英安山岩	10.8 × 6.3 × 5.1	471.94	凹面1、裏表2+裏11,	26-13
4	Kd-1	7A	SX18	-	石製品	石錐	石英安山岩質凝灰岩	4.9 × 3.3 × 1.1	23.29		26-14
5	Kd-2	7A	SX18	-	石製品	石錐	石英安山岩	11.1 × 13.7 × 8.4	1033.860	透明石錐、鏡片。	26-15

第53図 S X 18 遺物包含層出土石器 (4)



第54図 SX18遺物包含層出土石器(5)

SX45 遺物包含層出土土器・土製品（第55～58図、図版27・28）

繩文土器54点、土製品6点を図示した。第55・56図及び57図1～11は深鉢である。第55図1～19は沈線文が施される口縁部片で、5は波頂部の口唇部に繩文原体が押圧される。SX18出土A-64（第42図1）及びVII層SX47出土A-140（第69図1）と同一個体の可能性がある。第56図1～4は充填繩文手法により文様が施された胴部片である。5は團扇状小突起が付く口縁部片で、左側面に刺突文、口唇部右側に刻目が施される。6は波状口縁に平行する隆線文上に長い刺突文が施される。7は口縁部と胴部の境に2条の平行沈線文が施される。8・9は口縁部と胴部の境に、10は胴部下端の無文部と地文部を区画する繩文原体が押圧される。第57図6・7は底部に木葉痕、8～10は底部に網代痕がみられる。12～14は浅鉢である。12は半球形で口縁部直下に穿孔がある。13・14は口縁部片で、13は平行沈線文が施される。14は外面が無文で、口唇部に刻目、口縁部内面直下に沈線文、隆線文、刺突文が施される。第58図1～3は壺である。3は胴部片で沈線文の変化点に刺突文が施される。4

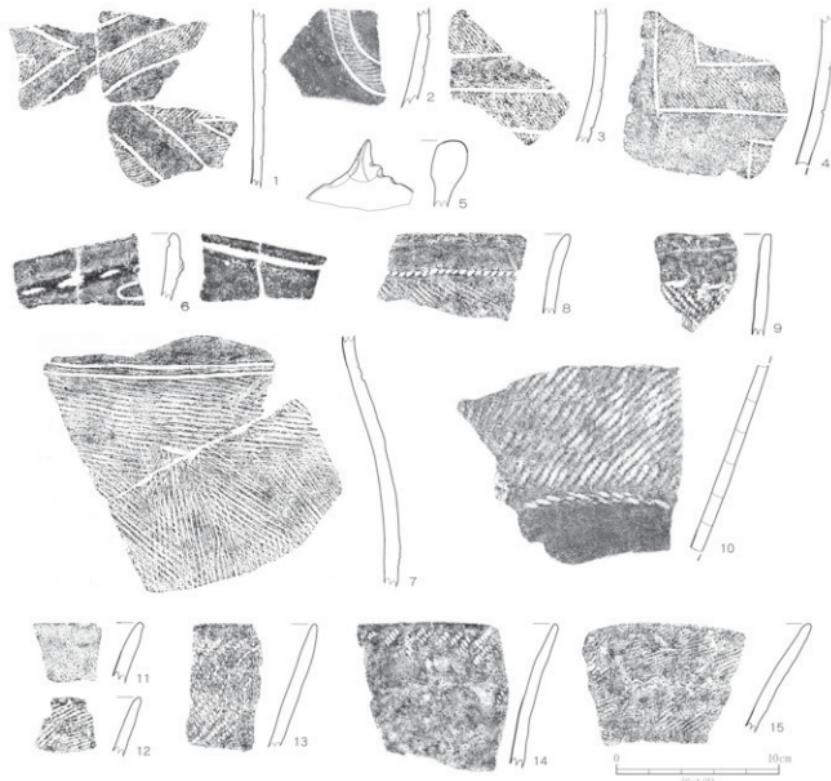
No.	発見番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	G	材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
5	K6-1	7A	SX18	-	石製品	石皿	90山野	石	37.7×25.7×12.0	12,200	鏡面石皿	26-16

第4節 下ノ内遺跡7A区



番号	件組番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	部種	文様等	備考	写真図版
1	A-143	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文	口縁部・有刺	27.1
2	A-166	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文	-	-
3	A-174	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文	-	27.2
4	A-154	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文・内部に沈継文	-	27.3
5	A-167	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・側柱・浅鉢・沈継文区画・L形縦文	口縁部・L形縦文側面 斜面部に含蓄母趾入。波加斯突起倒 落、A-64・140と同一?	27.4
6	A-182	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文区画・横継文・L形縦文	-	27.5
7	A-191	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文	-	27.6
8	A-144	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文区画・横継文・L形縦文	-	27.7
9	A-141	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・側柱・沈継文区画・L形縦文	-	27.8
10	A-101	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・側柱・沈継文区画・L形縦文	新土に含蓄母趾入。	27.9
11	A-151	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文	-	27.10
12	A-175	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文?	-	27.11
13	A-161	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文	-	27.12
14	A-159	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文	-	27.13
15	A-145	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅鉢・側柱・変形・沈継文・L形縦文	内部に摩滅。	27.14
16	A-149	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅鉢・側柱・沈継文・L形縦文	-	27.15
17	A-150	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文区画・L形縦文	A-79と同一?	27.16
18	A-147	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文	-	27.17
19	A-156	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・沈継文・L形縦文	内面に生物付着。	-

第55図 S X 45 遺物包含層出土土器 (1)

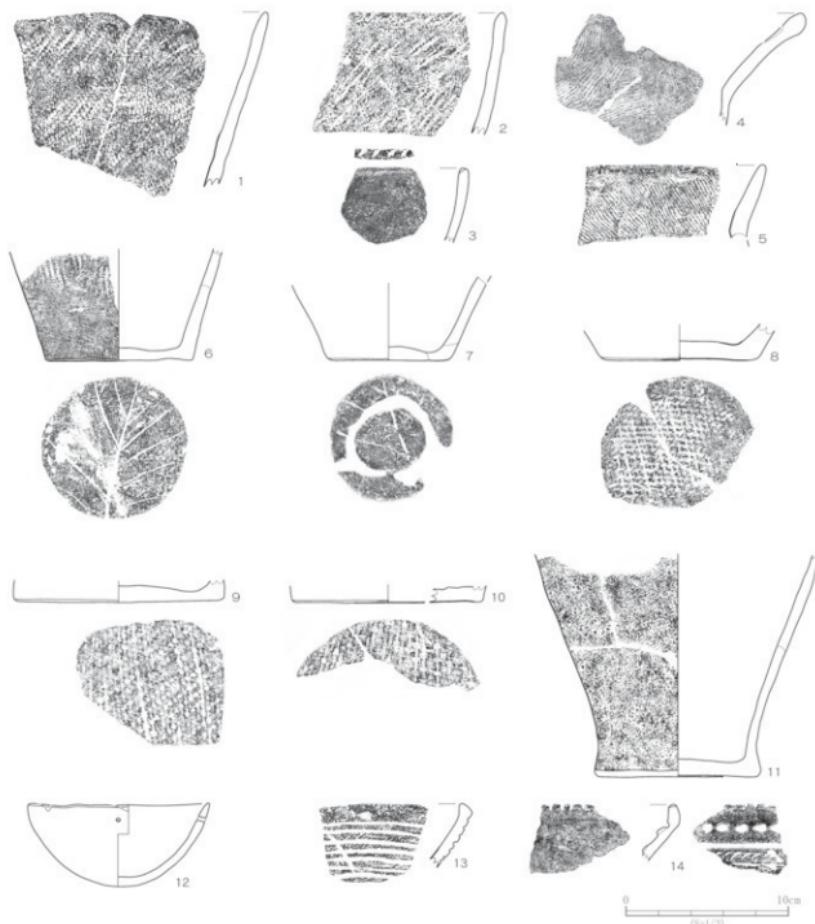


番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	断面	文様等	備考	写真回数
1	A-181	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	側部・浅鉢文区画・L葉縞文	27-17
2	A-146	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	側部・浅鉢文区画・L葉縞文	27-18
3	A-171	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	側部・浅鉢文区画・L葉縞文	
4	A-193	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	側部・「クランク」状文・RL葉縞文	27-19
5	A-186	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅鉢・口縁部小突起・変形網目・網文・有孔 口縁部・浅鉢・浅鉢文・網文・網縞文・網文・沈縞文・L葉縞文・口縫部内面 有孔に金留母記入。	27-20
6	A-160	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・有孔 口縁部・有孔・網文	27-21
7	A-190	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・浅鉢文・L葉縞文	27-22
8	A-177	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・RL葉縞文・L葉縞文	27-23
9	A-142	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・RL葉縞文・L葉縞文	27-24
10	A-162	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	側部・LR葉縞文・RL葉縞文	27-25
11	A-138	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・不明	内外面摩滅。
12	A-183	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・LR葉縞文	-
13	A-179	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・LR葉縞文	27-26
14	A-152	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・LR葉縞文	外表面摩滅。
15	A-157	7A	SX45	-	縄文土器	深鉢	口縁部・LR葉縞文	27-28

第56図 S X 45 遺物包含層出土土器（2）

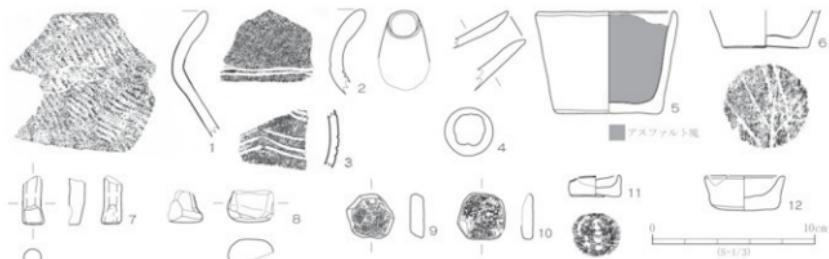
は注口土器の注口部片である。5・6は小型土器である。5は内面にアスファルト塊が遺存しており、アスファルトを入れる容器として使用されていたことがわかる好資料である。7・8は右側片である。7は右腕、8は右脚である。9・10は土製円盤である。いずれも縄文土器の胸部片を素材としている。11・12はミニチュア土器である。11は底部に網代痕がみられる。

第4節 下ノ内遺跡7A区



No.	標記番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	文様等		備考	写真回数
							外縁	内縁		
1	A-187	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	口縁一側部・LR 織文			27.29
2	A-153	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	口縁部・LR 織文			27.30
3	A-158	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	口縁部・ミガキ・口縁部・有孔			
4	A-188	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	口縁部・波打口縁・山形雲起・LR 織文		新土に金雲母混入、A-90七四一。	
5	A-170	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	口縁部・RL 織文			27.31
6	A-173	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	側面・RL 織文・底面・木型模			
7	A-185	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	側面・ナラ・底面・木型模			
8	A-139	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	側面・ミガキ・底面・織代版			
9	A-184	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	底面・織代版			
10	A-176	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	底面・織代版			
11	A-192	7A	SX45	-	獨立土器	深鉢	側面・LR 織文・底面・織代版		内外並摩滅。	27.32
12	A-163	7A	SX45	-	獨立土器	浅鉢	口縁一側部・無文		普通孔子ヶ田あり。丸底。	27.33
13	A-194	7A	SX45	-	獨立土器	浅鉢	口縁部・沈織文・LR 織文			27.34
14	A-148	7A	SX45	-	獨立土器	浅鉢	口縁部・ミガキ・有孔			27.35

第57図 S X 45 遺物包含層出土土器 (3)

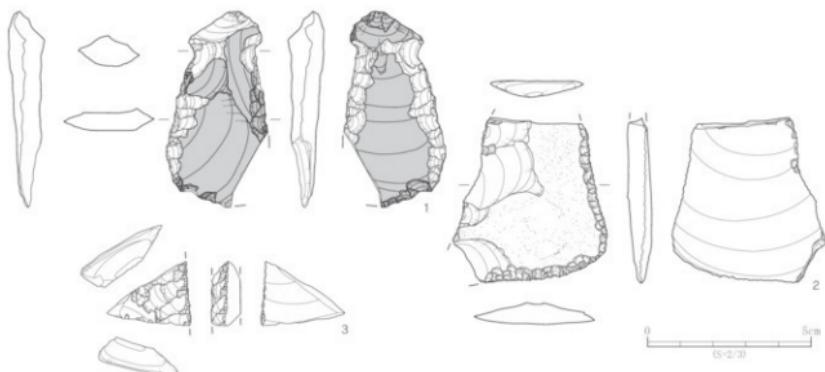


No.	標記番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	文様等	備考	写真回数
1	A-172	7A	SX45	-	縄文土器	壺	口縁部・R内・縄文		28.1
2	A-168	7A	SX45	-	縄文土器	壺	口縁部・波状・R内・沈縄文		-
3	A-169	7A	SX45	-	縄文土器	壺	側面・沈縄文・刻文・LR縄文		-
4	A-164	7A	SX45	縄文土器	口付土器	往口・土器	往口部・彫刻		28.2
5	A-178	7A	SX45	-	縄文土器	小型土器	口縁・胴部・ナデ・底部・ナデ	土器内にアスファルト塊遺存 (101.01g)	28.3
6	A-165	7A	SX45	-	縄文土器	小型土器	側面・土ガタ・底部・木葉痕		-
7	P-14	7A	SX45	-	土製品	土偶	側面・ナデ		28.4
8	P-16	7A	SX45	-	土製品	土偶	側面・ナデ		-
9	P-13	7A	SX45	-	土製品	土偶・竹縛	土手	27×29×8mm 7.7g	28.5
10	P-15	7A	SX45	-	土製品	土偶・竹縛	不規・内外面摩滅	29×28×8mm 8.2g	28.6
11	P-21	7A	SX45	-	土製品	ミニチュア	口縁・側面・ナデ	底部・側面・ナデ	-
12	P-20	7A	SX45	-	土製品	ミニチュア	口縁・底面・ナデ		-

第58図 SX45遺物包含層出土土器(4)・土製品

SX45 遺物包含層出土石器 (第59・60図、図版28)

打製石器5点、礫石器2点を図示した。第59図1は縦型の石匙である。2・3、第60図1は器削である。第59図2は表面に自然面が残存している。右側縁と下端縁に裏面からの連続する剥離調整によって刃部が作出されている。3は大部分を欠損している。右側縁の刃部には使用による微細剥離痕が観察される。第60図1は横長削片を素材としており、表裏面の複数縁片に二次加工が施されている。2はRFである。3は磨面と凹痕と敲打痕が複合して観察

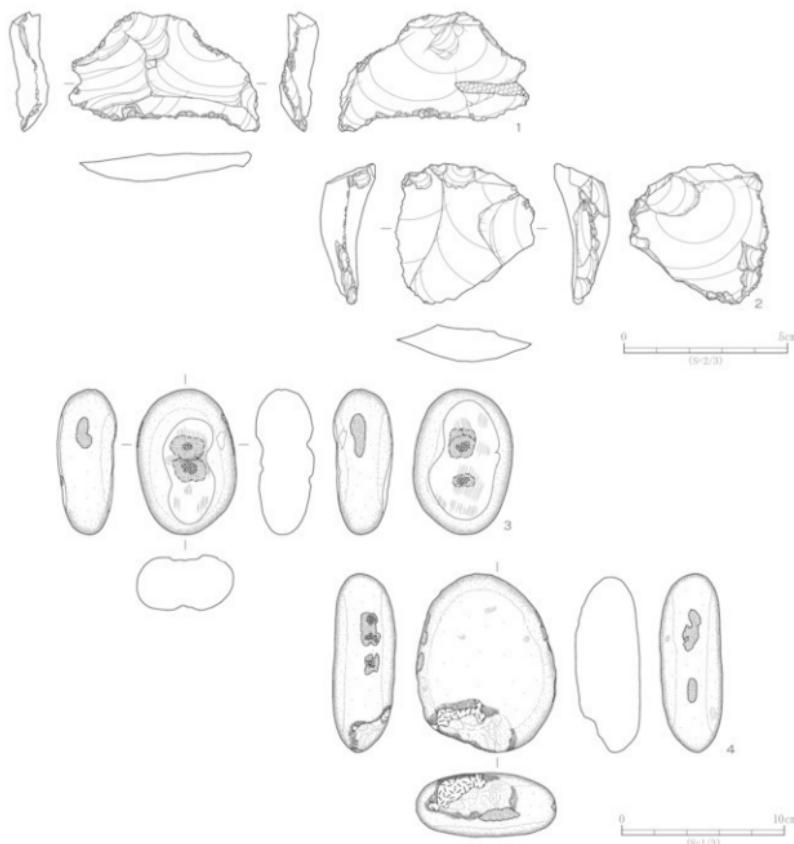


No.	標記番号	区	遺構・グリッド	部位	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
1	Ka-d1-3	7A	SX45	-	打製石器	石匙	凹窓	6.0×(3.2)×1.1 (14.84)		縦型・端部欠損・二重バティナ あり。	28.7
2	Ka-e1-3	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	研磨面	5.2×4.8×0.8 20.11		所存。	28.8
3	Ka-e1-4	7A	SX45	-	打製石器	不定形石器	研磨面	(0.0)×(2.6)×0.9 (3.96)		所存。表面加欠損。	28.9

第59図 SX45 遺物包含層出土石器(1)

第4節 下ノ内遺跡 7A区

される疊石器である。第60図4は敲打痕のみが観察される疊石器で、端部と両側面に敲打痕がみられる。端部の敲打痕は被熱により変色している部分を切っているが、被熱と使用の関連性は不明である。

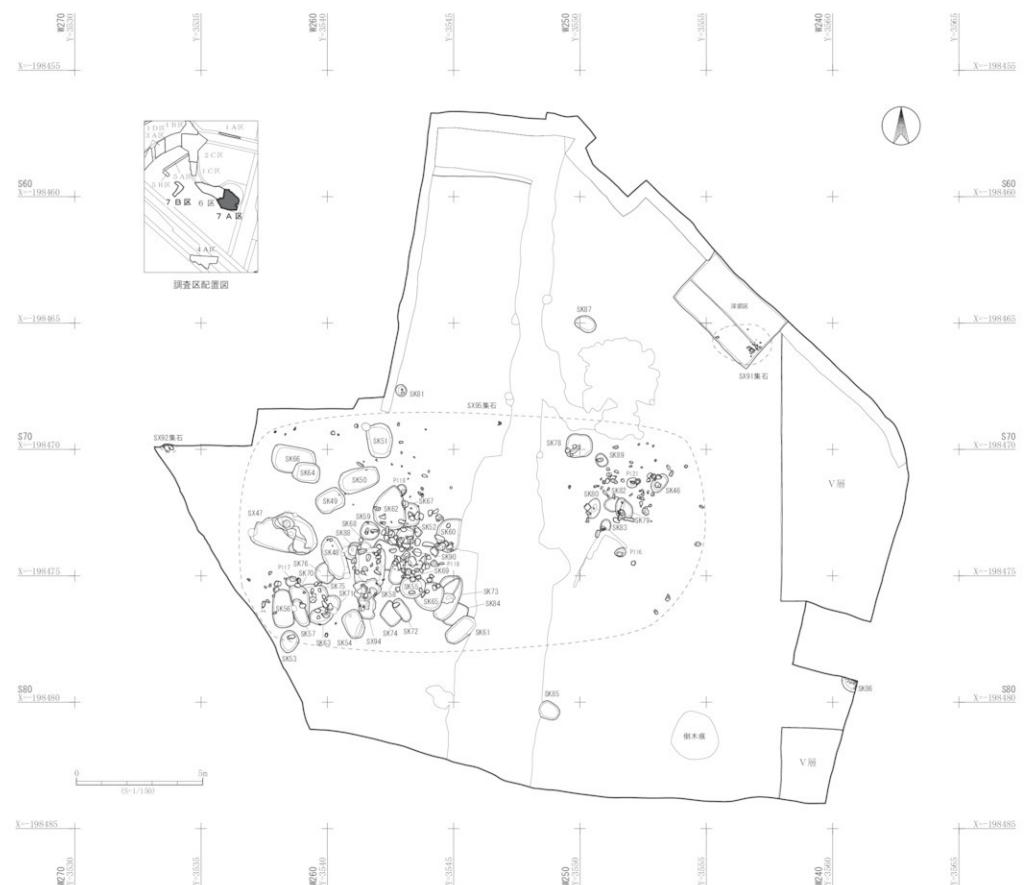


第60図 SX45 遺物包含層出土石器（2）

(3) VII層検出の遺構と遺物（第61図）

1) 集石

SX91・92・95集石（第61図、図版10）W240～260・S60～70グリッドで検出した。VI層からVII層を調査する過程で検出した自然疊の集中部である。W245～260・S70～75グリッド付近で検出したものをSX95、SX95



第61図 下ノ内遺跡7 A区VI層遺構配置図

からやや離れた北東側で検出したものを SX91、同じく西側で検出したものを SX92 とした。礫の大きさは径 5 ~ 50cm と様々である。これらの集石は、VI 層の形成により原位置を留めていない可能性があり、礫を円形や梢円形に配置したと判断できるものや、明確な立石等は認められなかった。また、集石の一部は下部で検出した土坑プラン内にまとまるものがみられたことから、両者の関係を精査しながら掘り下げたが、礫と土坑の明確な関係は把握できなかった。

2) 土坑

SK46 土坑（第 62 図、図版 11） W240・S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-45°-E である。規模は長軸 82cm、短軸 49cm、深さ 15cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK48 土坑（第 62・66・67 図、図版 11） W250 ~ 260・S70 グリッドで検出した。SK76 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整梢円形で、長軸方向は N-21°-W である。規模は長軸 1.77m、短軸 85cm、深さ 15 cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片・打製石器が出土しており、第 66・67 図に繩文土器 1 点、打製石器 1 点を図示した。第 66 図 1 は繩文土器壺で口縁部に RL 繩文、胴部の沈線文区画内に口縁部に施文されたものと原体の異なる RL 繩文が施文される。第 67 図 1 は有茎鐵で基部を欠損している。

SK49 土坑（第 62 図、図版 11） W250 ~ 260-S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-61°-E である。規模は長軸 1.13m、短軸 84cm、深さ 14cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土している。

SK50 土坑（第 62 図、図版 11） W250・S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-70°-E である。規模は長軸 1.62m、短軸 92cm、深さ 20cm で、壁面は西側は緩やかに、東側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土している。

SK51 土坑（第 62 図、図版 11） W250・S60 ~ 70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-4°-W である。規模は長軸 1.36m、短軸 99cm、深さ 17cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土している。

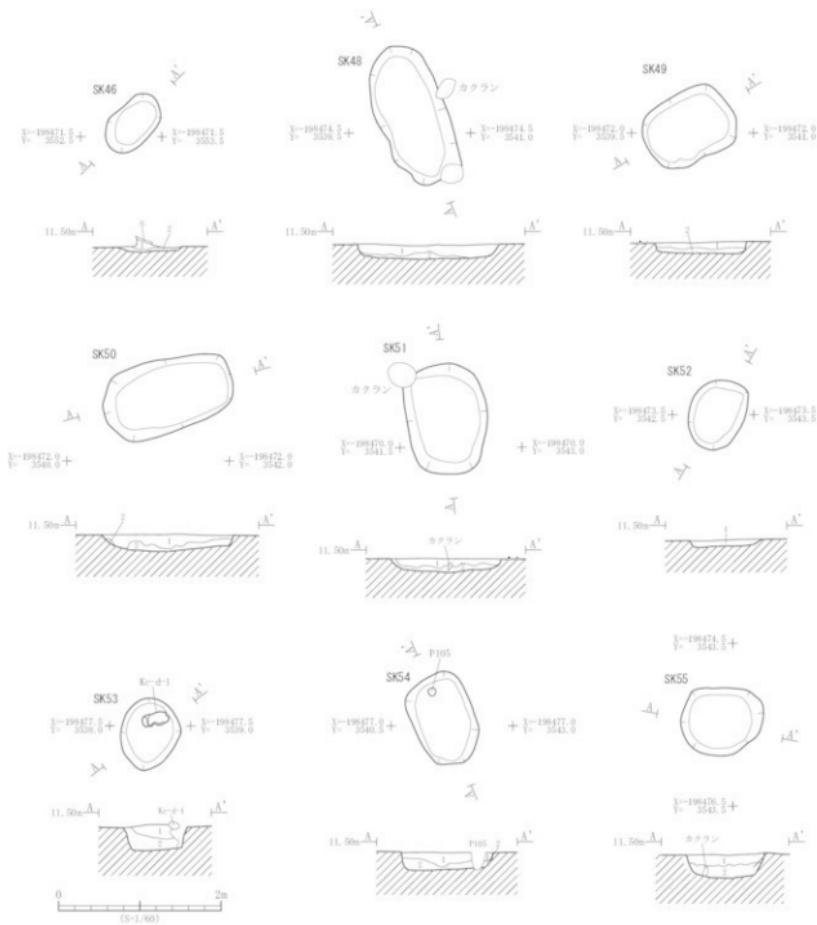
SK52 土坑（第 62 図、図版 11） W250・S70 グリッドで検出した。SK90 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向は N-19°-E である。規模は長軸 88cm、短軸 66cm、深さ 8cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は单層である。遺物は堆積土から繩文土器片が出土している。

SK53 土坑（第 62・67 図、図版 11） W260・S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-10°-E である。規模は長軸 90cm、短軸 69cm、深さ 30cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片・礫石器が出土しており、そのうち礫石器 1 点を第 67 図に図示した。2 は砾石で、底面はわずかに窪んでいる。表面は一部被熱により変色しているが、使用に伴うものかは不明である。

SK54 土坑（第 62-66 図、図版 11） W250・S70 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-28°-W である。規模は長軸 1.12m、短軸 75cm、深さ 21cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土しており、そのうち 1 点を第 66 図に図示した。2 は波状口縁の繩文土器深鉢である。胴部には地文上縦位に平行する鋸歯状の沈線文が施文される。

SK55 土坑（第 62 図、図版 12） W250・S70 グリッドで検出した。SK58・65・69 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向は N-73°-E である。規模は長軸 1.03m、短軸 85cm、深さ 27cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味をもつ。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土器片が出土している。

SK56 土坑（第 63 図、図版 12） W260・S70 グリッドで検出した。SK57・70 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は梢円形で、長軸方向は N-4°-W である。規模は長軸 1.50m、短軸 83cm、深さ 15cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から繩文土



遺構	単位	土 色	土 性	備 考
SK46	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック、白色粒、炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒、炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK50	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK51	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK52	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒、炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。
SK53	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒、炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK54	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK55	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロック、炭化粘土ブロック、炭化物をわずかに含む。

遺構	単位	土 色	土 性	備 考
SK52	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒、炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロック、炭化物を多量含む。
SK53	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK54	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。
SK55	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック、炭化粘土ブロック、炭化物を多量含む。
	2	10YR3/3 噴褐色	シルト	褐色シルトブロック、炭化物を多量含む。

第62図 S K 46・48～55 土坑平面図・断面図

器片が出土している。

SK57 土坑（第63図、図版12）W260・S70グリッドで検出した。SK56・70と重複関係にあり、SK70より新しく、SK56より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-25°-Wである。規模は長軸1.15m、短軸51cm、深さ16cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK58 土坑（第63図、図版12）W250・S70グリッドで検出した。SK55・69・90、P119と重複関係にあり、SK69・90、P119より新しく、SK55より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-14°-Eである。規模は長軸1.08m、短軸59cm、深さ9cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK59 土坑（第63図、図版12）W250・S70グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径72cm、深さ24cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦であるが、長軸27～33cm、短軸12cm、深さ10cmの落ち込みが2箇所ある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK60 土坑（第63図、図版12）W250・S70グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-6°-Eである。検出した規模は長軸1.32m、短軸93cm、深さ24cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK61 土坑（第63図、図版12）W250・S70グリッドで検出した。SK84と重複関係にあり、本遺構が新しい。東側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形で、長軸方向はN-47°-Eである。規模は長軸1.39m、短軸70cm、深さ29cmで、壁面は南側は直立気味に立ち上がり、北側は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK62 土坑（第63図、図版12）W250・S70グリッドで検出した。SK67、P118と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-9°-Eである。規模は長軸1.75m、短軸1.28m、深さ20cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・打製石器が出土している。

SK63 土坑（第63図、図版13）W250～260・S70グリッドで検出した。SK71・75と重複関係にあり、本遺構が新しい。V層SB21-P7に北東側を削平されるが、平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-72°-Eである。検出した規模は長軸90cm、短軸67cm、深さ14cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK64 土坑（第63図、図版13）W260・S70グリッドで検出した。SK66と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-78°-Wである。規模は長軸1.04m、短軸78cm、深さ17cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

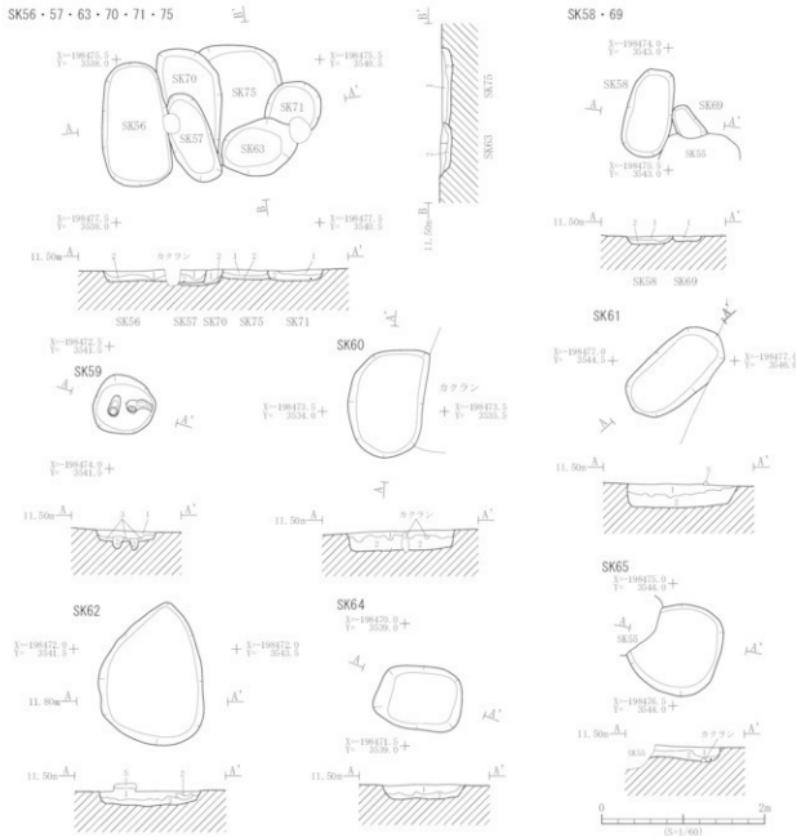
SK65 土坑（第63図、図版13）W250・S70グリッドで検出した。SK55・73と重複関係にあり、SK73より新しく、SK55より古い。北西側をSK55に削平されるが、平面形はほぼ円形と考えられる。規模は径1.12m、深さ17cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はわずかに起伏がみられる。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・骨片が出土している。

SK66 土坑（第64図、図版13）W260・S60～70グリッドで検出した。SK64と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-81°-Wである。規模は長軸1.75m、短軸1.04m、深さ16cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片・礫石器が出土している。

SK67 土坑（第64図、図版13）W250・S70グリッドで検出した。SK62と重複関係にあり、本遺構が古い。西側をSK62に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西60cm、南北94cm、深さ10cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK68 土坑（第64図、図版13）W250・S70グリッドで検出した。上部の集石が遺構範囲内にほぼ重なること

第4節 下ノ内遺跡7A区



遺構	解説	土 色	土 性	備 考
SK56	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/3 紅褐色	シルト 粘土シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。	
SK57	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/3 紅褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト 粘土シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。	
SK58	1 10YR3/4 紅褐色 2 10YR3/2 黒褐色 3 10YR3/2 黑褐色	粘土置シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。	
SK59	1 10YR2/2 黒褐色 2 10YR3/2 黑褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	白色粒・褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。褐色色粘土質シルトブロック・炭化物をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。	
SK60	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK61	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK62	1 10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK64	1 10YR3/0 + 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK65	1 10YR3/0 + 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。 褐色シルトブロックを多量含む。白色粒をわずかに含む。	
SK66	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/3 紅褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK67	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/3 紅褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK68	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/3 紅褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK69	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/3 紅褐色 3 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。 褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	

遺構	解説	土 色	土 性	備 考
SK63	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。	
SK64	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。	
SK65	1 10YR3/2 黒褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロック・炭化物をわずかに含む。	
SK66	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。	
SK67	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物を含む。	
SK68	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒を含む。	
SK69	1 10YR3/2 黑褐色 2 10YR3/4 單褐色	シルト 粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粒・炭化物を含む。	

第63図 SK 56 ~ 65 ~ 69 ~ 71 ~ 75 土坑平面図・断面図

から、本遺構に伴う可能性がある。SK88・90、SX94と重複関係にあり、SK88・90より新しく、SX94より古い。北側をV層SB21-P1、南側をSX94に削平されるが、平面形は隅丸長方形で、長軸方向はN-6°-Eである。検出した規模は長軸1.63m、短軸1.20m、深さ29cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は7層に分層され、炭化物を多量に含む。遺物は堆積土から縄文土器片・打製石器・骨片が出土している。

SK69 土坑（第63図、図版13） W250・S70 グリッドで検出した。SK55・58と重複関係にあり、本遺構が古い。南側をSK55に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-31°-Wである。検出した規模は長軸45cm、短軸29cm、深さ5cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK70 土坑（第63図、図版13） W260・S70 グリッドで検出した。SK56・57・75と重複関係にあり、SK75より新しく、SK56・57より古い。南側をSK57に削平され、平面形は楕円形を基調としたものと考えられ、長軸方向はN-9°-Wである。検出した規模は長軸1.32m、短軸70cm、深さ16cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK71 土坑（第63図、図版14） W250～260・S70 グリッドで検出した。SK63・75と重複関係にあり、SK75より新しく、SK63より古い。南東側を上層のピット、南側をSK63に削平されるが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。規模は東西66cm、南北55cm、深さ14cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK72 土坑（第64図、図版14） W250・S70 グリッドで検出した。SK74と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-36°-Wである。規模は長軸98cm、短軸64cm、深さ14cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK73 土坑（第64図、図版14） W250・S70 グリッドで検出した。SK65・84と重複関係にあり、SK84より新しく、SK65より古い。平面形は楕円形で、長軸方向はN-18°-Eである。検出した規模は長軸1.85m、短軸65cm、深さ22cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は不整U字形で、底面は中央から北側が不整形に約10cm落ち込む。堆積土は4層に分層され、2・3層は焼土ブロックを多量に含む。遺物は堆積土から縄文土器片・骨片が出土している。

SK74 土坑（第64図、図版14） W250・S70 グリッドで検出した。SK72と重複関係にあり、本遺構が古い。東側をSK72に削平されるが、平面形は不整長方形と考えられ、長軸方向はN-48°-Wである。検出した規模は長軸85cm、短軸80cm、深さ8cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

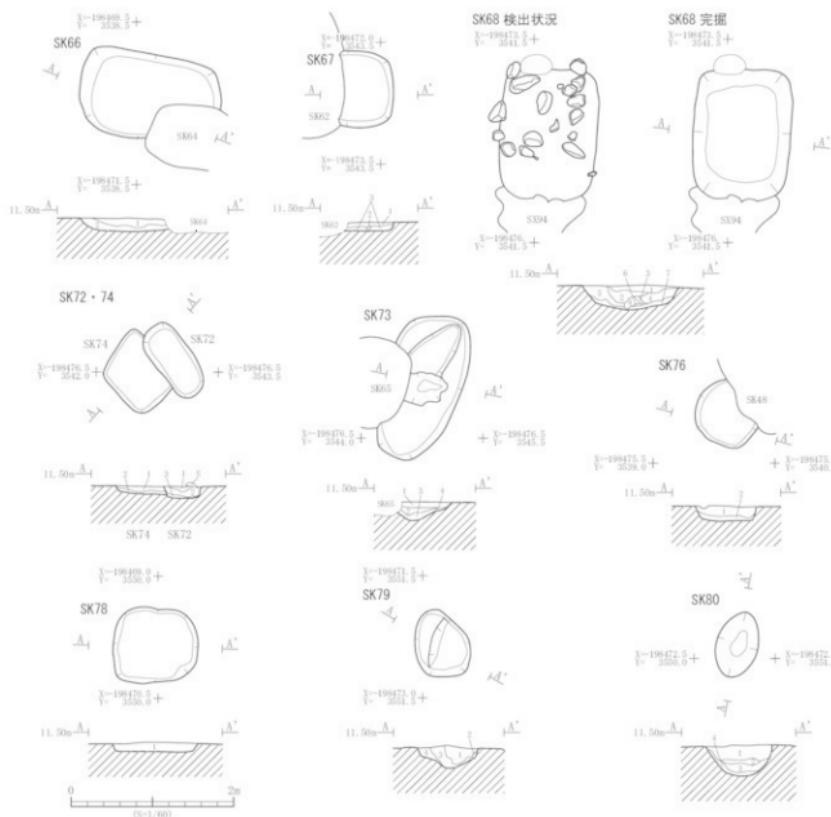
SK75 土坑（第63図、図版14） W250～260・S70 グリッドで検出した。SK57・63・70・71と重複関係にあり、本遺構が古い。南側をSK57・63・70・71に削平されるため、平面形は不明である。検出した規模は東西1.00m、南北1.49m、深さ11cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は不明で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SK76 土坑（第64図、図版14） W250～260・S70 グリッドで検出した。SK48と重複関係にあり、本遺構が古い。東側をSK48に削平されるが、平面形は円形を基調としたものと考えられる。検出した規模は北西・南東81cm、北東・南西54cm、深さ19cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は縄文土器片が出土している。

SK78 土坑（第64図、図版14） W240～250・S60 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形で、長軸方向は東西正方位である。規模は東西1.05m、南北93cm、深さ11cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK79 土坑（第64図、図版14） W250・S70 グリッドで検出した。SK82と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-32°-Wである。規模は長軸88cm、短軸68cm、深さ27cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は丸味を持ち、中央西寄りに約10cmの段がある。堆積土は4層に分層される。

第4節 下ノ内遺跡7A区



遺構	編号	土色	土性	備考
SK66	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・マンガニウムを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 喀斯特	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
SK67	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粘土を多量含む。褐色シルトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR4/2 黄褐色	粘土質シルト	白色粘土を多量含む。褐色シルトブロックを含む。
	3	10YR3/4 喀斯特	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を多量含む。褐色シルトブロック・白色粘土を多量含む。褐色シルトブロックを含む。白色粘土をわずかに含む。
SK68	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粘土を含む。白色粘土をわずかに含む。
	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を多量含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。白色粘土をわずかに含む。
	4	10YR4/4 黒褐色	シルト	白色粘土を含む。炭化物を多量含む。
	5	10YR3/3 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	6	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物を含む。
	7	10YR3/3 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。
SK72	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	炭化物を含む。
	2	10YR3/3 喀斯特	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を含む。
	3	10YR3/4 喀斯特	粘土質シルト	褐色シルトブロックを含む。

遺構	編号	土色	土性	備考
SK73	1	10YR3/4 喀斯特	シルト	褐色シルトブロック・白色粘土をわずかに含む。炭化物を含む。
	2	10YR3/4 喀斯特	粘土質シルト	褐色シルト・ホワイトブロックを含む。炭化物をわずかに含む。
SK74	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。炭化物を含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。
	3	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
SK76	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
SK78	1	10YR3/4 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	2	10YR3/4 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	3	10YR3/4 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	4	10YR3/4 喀斯特	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
SK79	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。白色粘土を含む。
SK80	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘土を含む。

第64図 SK 66 ~ 68 · 72 ~ 74 · 76 · 78 ~ 80 土坑平面図・断面図

遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK80 土坑（第64図、図版15）W240・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-15°-Eである。規模は長軸81cm、短軸50cm、深さ36cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形はU字形で、底面は丸味を持つ。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK81 土坑（第65図、図版15）W250・S60 グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径46cm、深さ27cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であるが、径8~12cm、深さ5cmのビット状の落ち込みが2箇所ある。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK82 土坑（第65図、図版15）W240・S70 グリッドで検出した。SK79と重複関係にあり、本遺構が古い。東側をSK79に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-37°-Eである。検出した規模は長軸65cm、短軸55cm、深さ9cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK83 土坑（第65図、図版15）W240・S70 グリッドで検出した。南東側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形と考えられ、長軸方向はN-15°-Eである。検出した規模は長軸50cm、短軸40cm、深さ10cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK84 土坑（第65図、図版15）W250・S70 グリッドで検出した。SK61・73と重複関係にあり、本遺構が古い。西側をSK73、南東側をSK61に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は北東・南北98cm、北西・南東56cm、深さ16cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK85 土坑（第65図）W250・S70~80 グリッドで検出した。北西側を上層の遺構に削平されるが、平面形は楕円形で、長軸方向はN-62°-Wである。検出した規模は長軸83cm、短軸66cm、深さ10cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK86 土坑（第65・66図、図版15）W230・S70 グリッドで検出した。北東側の調査区外に延びる。上部で集石と口縁部を下にした状態の縄文土器壺が出土しており、本遺構に伴う可能性がある。平面形は円形を基調としたものであると考えられる。検出した規模は東西60cm、南北45cm、深さ53cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器が出土しており、そのうち前述の縄文土器壺1点を第66図3に図示した。ほぼ完形で、平底の底部から緩やかに外傾しながら立ち上がり、胴部上半で強く内弯する。頸部から直立気味に立ち上がり口縁部は外反し口唇部にいたる。横位の平行沈線文で区画された胴部上半に「波頭」状文と「J」字状文が4単位施文される。

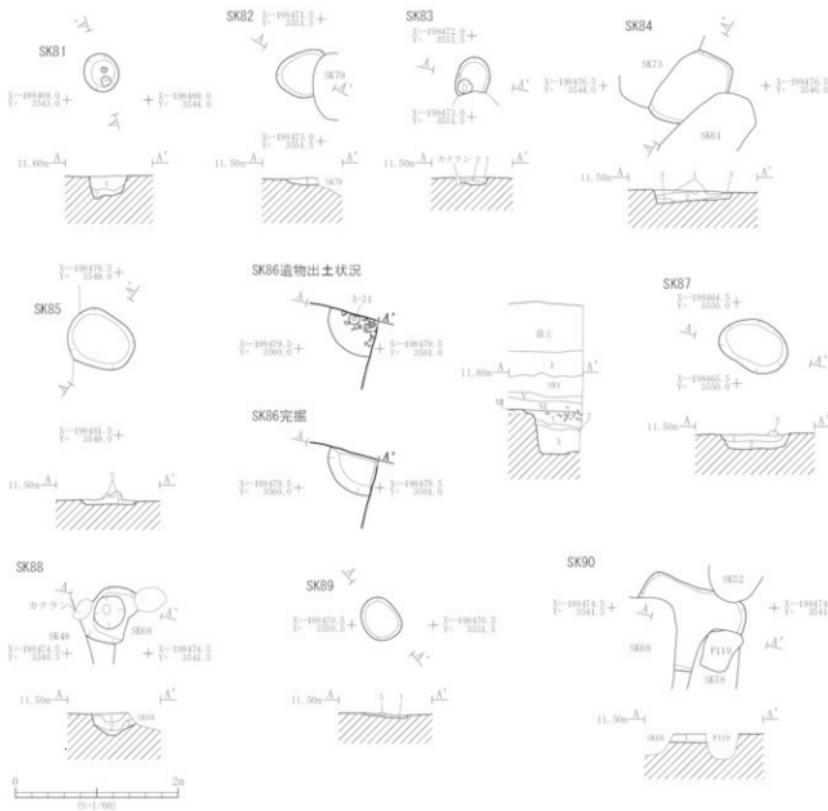
SK87 土坑（第65図、図版15）W240~250・S60 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-64°-Wである。規模は長軸85cm、短軸60cm、深さ18cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は堆積土から縄文土器片が出土している。

SK88 土坑（第65図、図版16）W250・S70 グリッドで検出した。SK48・68と重複関係にあり、本遺構が古い。北東側を上層のビット、東側をSK68、西側をSK48に削平されており、平面形は不明である。検出した規模は東西48cm、南北71cm、深さ26cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は中央に径40cm、深さ6cmのビット状の落ち込みがある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK89 土坑（第65図、図版16）W240・S70 グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向はN-34°-Wである。規模は長軸55cm、短軸44cm、深さ3cmで、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は逆台形状で、底面はわずかな起伏がみられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK90 土坑（第65図、図版16）W250・S70 グリッドで検出した。SK52・58・68、P119と重複関係にあり、本遺構が古い。北東側をSK52、南東側をSK58、P119、南西側をSK68に削平されるが、平面形は隅丸長方形と考えられ、長軸方向はN-71°-Wである。規模は東西1.36m、南北1.05m、深さ10cmで、壁面は急角度に立ち上がる。

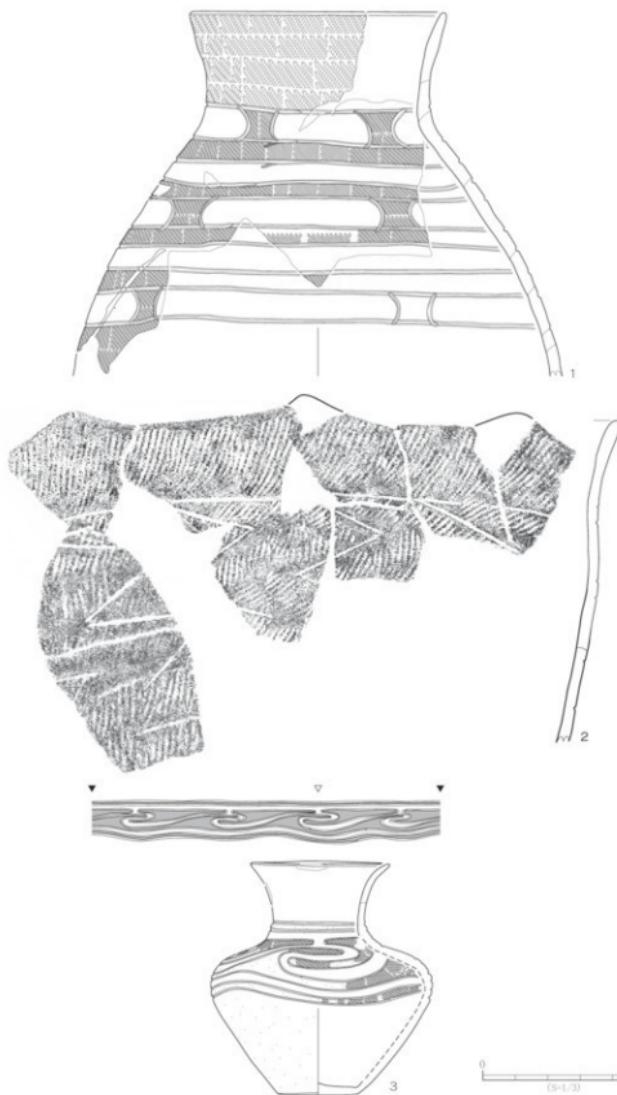
第4節 下ノ内遺跡7A区



遺構	編目	土 色	土 性	備 考
SK81	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。マガカルを多量含む。
SK82	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。
SK83	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘・炭化物をわずかに含む。
SK84	2	10YR3/4 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・白色粘をわずかに含む。褐色シルトブロック・白色粘・炭化物をわずかに含む。
SK85	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/4 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
SK86	1	10YR3/3 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
SK87	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/4 喬褐色	シルト	白色粘・褐色シルトブロックを多量含む。
	3	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘・炭化物をわずかに含む。
SK88	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
SK89	1	10YR3/4 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/3 喬褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
SK90	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。

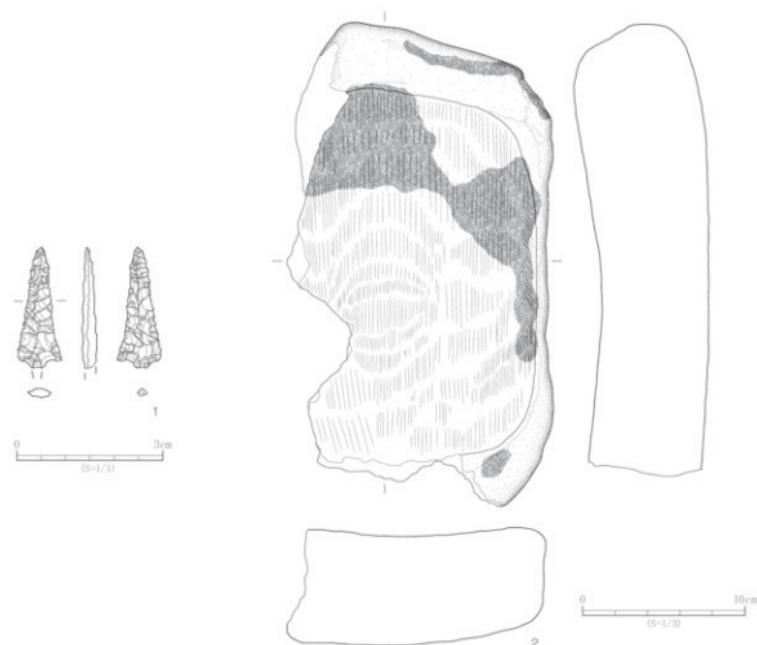
第65図 SK 81～90 土坑平面図・断面図

遺構	編目	土 色	土 性	備 考
SK87	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	白色粘を多量含む。褐色シルトブロックをわずかに含む。
	2	10YR3/4 喬褐色	シルト	白色粘・褐色シルトブロックを多量含む。
SK88	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘・炭化物をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
SK89	1	10YR3/4 喬褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。
	3	10YR3/3 喬褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。白色粘をわずかに含む。
SK90	1	10YR3/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。灰色粘上ブロック・炭化物をわずかに含む。



第66図 VII層土坑出土遺物（1）

番	井経番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	器種	文様等	備考	写真回数
1	A-37	7A	SK48 SK18	1	埴輪土器	壺	口縁部・R1. 圓文・網目・沈腹文・圓文・R2. 圓文(1段多集)		28-14
2	A-29	7A	SK54	2	埴輪土器	深鉢	口縁～胸部・波状文・網目・沈腹文・「長頸文」	内面焼付有り	29-2
3	A-31	7A	SK86	1	埴輪土器	壺	口縁～胸部・沈腹文・圓文・「長頸文」状・「丁」字状文・R1. 純文 底部・ナデ		28-16



第67図 VII層土坑出土遺物（2）

断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

3) 性格不明遺構

SX47 性格不明遺構（第68・69図） W260・S70 グリッドで検出した。平面形は不整形で、長軸方向は N-77°-W である。規模は長軸 2.55m、短軸 1.16～1.55m、深さ 30cm で、壁面は急角度に立ち上がり、北壁中央と南西壁隅はオーバーハングする。断面形は逆台形状で、底面は北壁中央から南西壁にかけて深さ約 10cm の不整形な溝状の落ち込みがあり、起伏がある。堆積土は 4 層に分層される。遺構の状況から倒木痕の可能性がある。遺物は堆積土から縄文土器片が出土しており、そのうち 1 点を第69図に示した。1 は波状口縁の縄文土器深鉢片で、VI層 SX18 出土 A-64（第42図1）及びVI層 SX45 出土 A-167（第55図5）と同一個体の可能性がある。

SX94 性格不明遺構（第68図、図版16） W250・S70 グリッドで検出した。SK68 と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形で、長軸方向はほぼ南北正方位である。規模は長軸 1.56m、短軸 0.56～1.02m、深さ 11～20cm で、壁面は緩やかに立ち上がる。断面形は不整形で、底面は深さ 5～10cm の不整形な溝状・ビット状の落ち込みによる起伏がある。堆積土は 3 層に分層され、1 層は炭化物・焼土を多量に含む。遺物は出土していない。

4) ビット（第61図）

5 基のビット（P116～119・121）を検出した。遺物は P119・121 の堆積土から縄文土器片・打製石器が出土している。

（4）遺構外出土遺物（第70～73図）

基本層V層から縄文土器・土師器・須恵器・磁器・打製石器・石製品・金属製品、基本層VI・VII層から縄文土器が

SX47



SX94



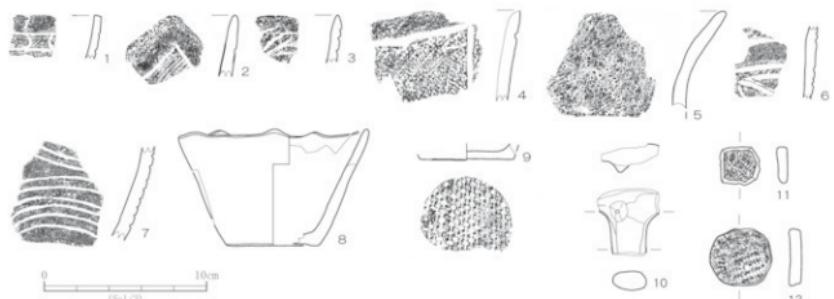
遺構	層位	土色	上性	圖考
1	10YR3/2 黑褐色	シルト	アンダーリーフを多量含む。炭化物を含む。	
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐色シルト粘土を含む。炭化物をわずかに含む。	
3	10YR3/3 黒褐色	シルト	褐色シルト粘土を含む。炭化物をわずかに含む。粘性あり。	
4	20YR3/4 順褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘性あり。	

遺構	層位	土色	上性	圖考
5894	2	10YR3/2 黑褐色	シルト	炭化物・根を多量含む。縫りあり
	3	10YR3/3 黒褐色	シルト	縫土をわずかに含む。縫土・炭化物をわずかに含む。

第68図 S X 47・94 性格不明遺構平面図・断面図

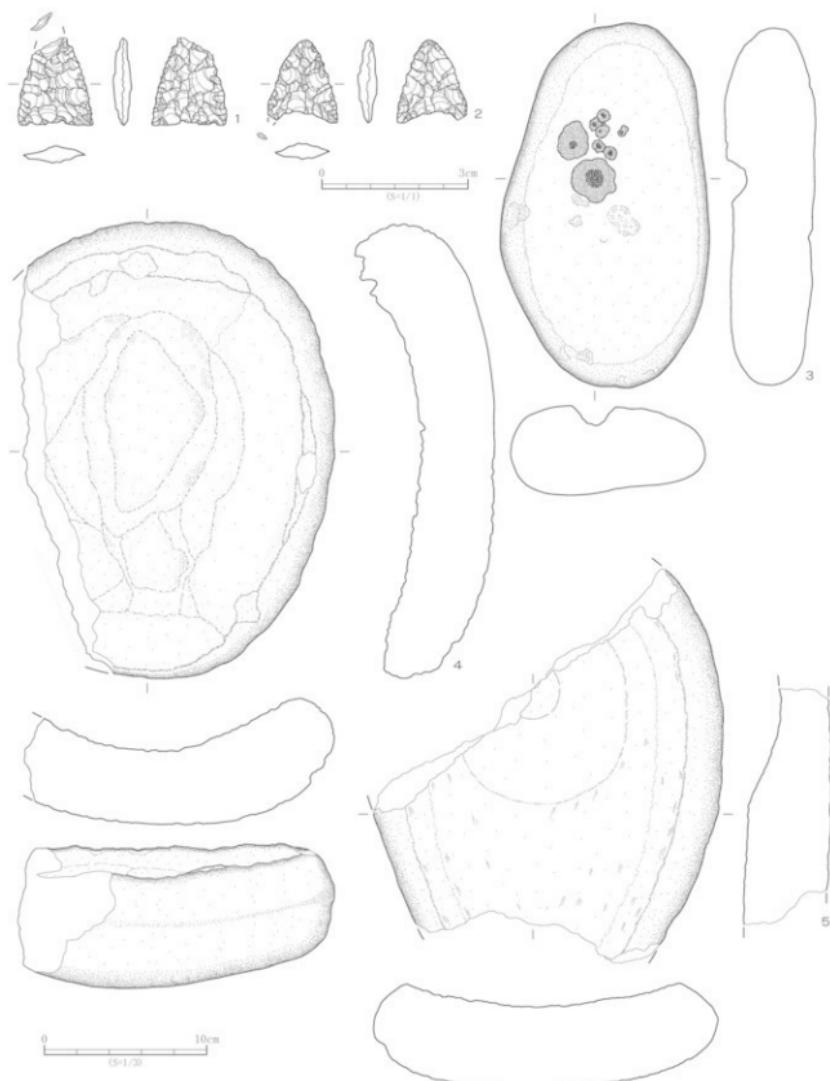


第69図 S X 47出土遺物



№	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	断面種	文様等	備考	写真回数
1	A-140	7A	SX47	1	圓文土器	深鉢	口縁部・波状口縁・沈縄文区画・LR 圓文、内部に沈縄文	新土に金母銀入、A-64・167 と同一?	29-3
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									

第70図 VI・V層・出土層位不明土器・土製品



名	発見番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	部種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
1	Ka-a2-2	7A	V	SIS	打製石器	石器	玉髓	(1.8) × 1.5 × 0.4	0.84	平基盤、尖端部欠損。	29-14
2	Ka-a3-2	7A	V	-	打製石器	石器	碧玉質	(1.7) × (1.4) × 0.4	0.67	凹基盤、左脚部欠損。	29-15
3	Kc-b2-3	7A	-	-	磨石器	圓・範	石英安山岩質凝灰岩	22.4 × 12.9 × 5.8	1371.34	凹表2、扁表7。	29-16
4	Kd-1-3	7A	-	-	石製品	石器	安山岩	23.1 × (9.3) × 8.9	(4503.09)	成形石器、縁辺部欠損。	29-17
5	Kd-1-5	7A	-	-	石製品	石器	安山岩	(24.2) × (21.5) × 6.9	(3009.34)	成形石器、両端部欠損。	29-18

第71図 V層出土石器・出土層位不明石器(1)

出土した。以下、縄文時代の遺物から説明する。

縄文時代

VI・V層・層位不明出土土器・土製品（第70図、図版29）

縄文土器9点、土製品3点を第70図に図示した。1～5は深鉢の口縁部片である。6・7は深鉢の胴部片である。8は無文の鉢で、底部は平底で胴部はほぼ直線的に外傾し、丸味を持つ口唇部へといたる。口縁部形態は5単位の波状口縁である。9は鉢の底部破片で、網代痕がみられる。10は土偶の胴部破片で、右乳房部が残存している。11・12は土製円盤で、いずれも縄文土器胴部片を素材としている。

V層・層位不明出土石器（第71・72図、図版29）

打製石器2点、礫石器1点、石製品3点を第71・72図に図示した。第71図1は平基盤で、尖端部を欠損して



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	石材	長さ×幅×厚さ(cm)	重さ(g)	備考	写真回数
2	KdJ-4	7A	-	-	石製品	石器	安山岩	(25.0) × 19.2 × 9.0	(4760.45)	成形石器、未成品、一端部欠損	29-19

第72図 出土層位不明石器（2）

第4節 下ノ内遺跡7B区

いる。2は凹基盤で、左脚部を欠損している。第71図3は凹痕が観察される砾石器である。第71図4・5、第72図1は有縁の成形石皿である。第72図1は表面中央部の状況から未成品と考えられる。

古代（第73図、図版29）

基本層V層出土の古代の遺物である。土師器1点を第73図に図示した。ロクロ使用の环で、内面黒色処理される。底部の切り離し技法は摩滅のため判然としないが、系切り痕がわずかに観察される。



No.	登録番号	区	層位	遺構・グリッド	種別	器種	口径×底径×高さ(cm)	外周調査	内面調査	備考	写真回数
1	D-2	7A	V		土師器	环	× 5.4 × 高 3.5	ロクロナメ 底部斜切り	ヘラミガキ・黒色処理		20-20

第73図 古代出土遺物

3.7 B区の調査

B区の調査では、基本層V層上面（古墳時代～古代の遺構検出面）において、堅穴住居跡1軒、土坑11基、ピット7基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。また、調査区南西側に1箇所深掘区を設定してVI層以下の調査を行った。遺構は検出されなかつたが、基本層VI・VII層から遺物が出土している。

（1）V層検出の遺構と遺物（第74図）

1 堅穴住居跡

SI2a・b 堅穴住居跡（第75～79図、図版17）

2時期の建て替えを確認した。新しい時期をa期、古い時期をb期として報告する。b期の床面はa期の掘り方によつて削平されるが、a期の掘り方理土と異なる堆積土で埋まつたピットを複数検出したため、古い床面が存在したと判断した。

SI2a 堅穴住居跡

[位置] W310・S50 グリッドに位置し、南東側の調査区外に延びる。

[重複関係] SK1・13、P7と重複関係にあり、SK13、P7より新しく、SK1より古い。

[規模・形態] 東西6.50m、南北5.80mである。b期から西・南側を拡張している。平面形は方形と考えられる。

[主軸方位] カマド基準でN-16°・Eである。

[堆積土・構築土] 23層に分層した。1～5層は住居跡堆積土、6～11層はカマド内堆積土、12層は周溝内堆積土、13～22層はカマド周辺層位である。23層は掘り方理土である。

[壁面] 周溝底面または床面から直立気味に立ち上がる。壁高は床面から20～34cmである。

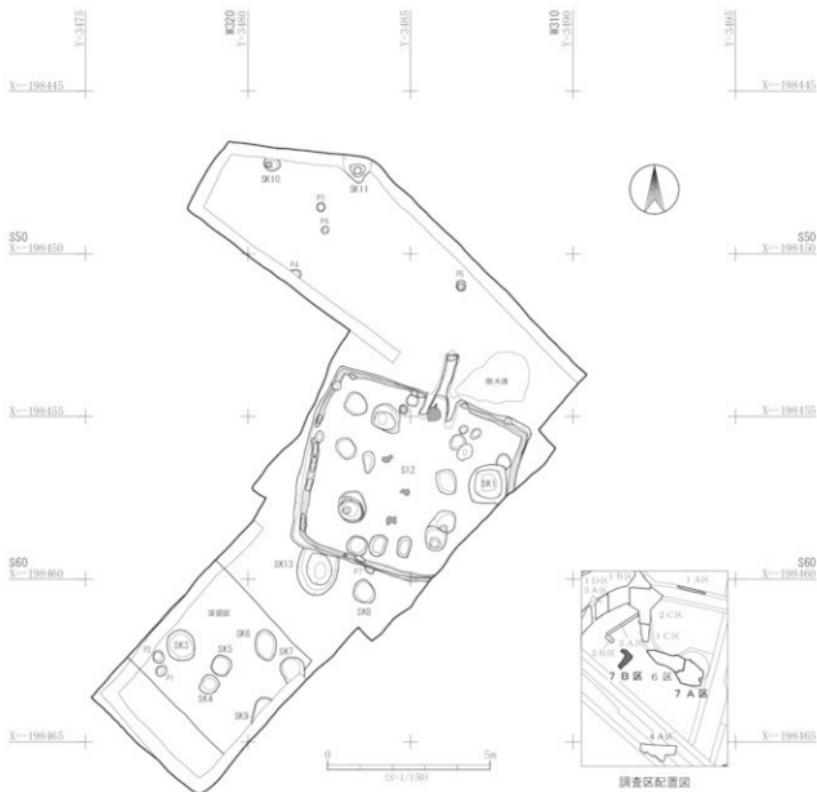
[床面] 23層上面を床面としている。わずかな起伏があり、目立った硬化面はみられなかつた。

[柱穴] 床面で18基のピット（P1～4・6～17・20・27）を検出した。配置・規模から北西側はP2、北東側はP3、南西側はP1、南東側がP4またはP27が主柱穴と考えられ、規模は径40～99cm、深さ47～70cmである。柱材はすべて抜き取られている可能性がある。その他のピットの規模は径27～77cm、深さ5～25cmで、補助的な柱の可能性がある。

[周溝] カマド周辺と西壁の一部を除き全周する。断面形はU字形で、規模は幅6～22cm、深さ6～19cmである。

[カマド] 北壁に位置し、壁の中央に付設されている。袖の規模は、東袖が長さ89cm、幅30cm、床面からの高さ35cmで、西袖は長さ80cm、幅22～29cm、床面からの高さ35cmである。燃焼部の規模は、奥行90cm、幅59cmで、掘り方は南北に軸を持つ不整形で、長軸90cm、短軸70～79cm、深さ10cmである。煙道部は長さ1.35m、幅27～33cm、深さ19～42cmで、掘り方は長さ1.45m、幅37～53cm、深さ2～10cmである。底面にはわずかな起伏があり、先端部に向かって傾斜している。先端部に長さ39cm、幅20cm、深さ15cmのピット状に落ち込む部分があり、煙出しのピットと考えられる。

[その他の施設] 北東隅に位置するP5は、貯蔵穴と考えられる。平面形は梢円形で、規模は長軸74cm、短軸66cm、深さ20cmである。その他に床面の中央部に3箇所の焼面（焼面1～3）が確認された。平面形はいずれも不整形で、



第74図 下ノ内遺跡7B区V層遺構配置図

規模は焼面1が長軸29cm、短軸12~20cm、焼面2が長軸38cm、短軸15~30cm、焼面3が長軸35cm、短軸11~29cmである。

[掘り方] 深さ8~25cmである。底面は起伏があり、中央から西側にかけて多数の掘削工具痕を検出した。

[出土遺物] 堆積土から縄文土器片・土焼器・須恵器・打製石器・礫石器・石製品・金属製品・鉄滓が出土しており、そのうち土焼器1点、須恵器7点、礫石器1点、石製品2点を第78・79図に図示した。第78図1は土焼器長胴甕で、丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり、口縁部で屈曲して短く聞く寸胴である。2~5は須恵器環で、いずれも底部切り離し技法は回転ヘラ切り無調整である。6~8は須恵器環胴部片で、外面に平行タタキ目がみられる。第79図1は凹痕と敲打痕が複合して観察される礫石器である。第79図2は面取り加工された砥石で、表裏面に砥面より新しい敲打痕がみられる。裏面・左侧面・下面の一部は被熱により黒化している。一端部は被熱後に折損しているが、溝状痕が観察されることから折損後も使用されたと考えられる。表面と右側面には被熱の痕跡が認められないが、これは元々被熱しなかったのか、黒化後にも使用されたことによるものなのか不明である。第79図3は瑪瑙製の勾玉である。図化した土焼器はロクロ不使用で、須恵器環は口径に対する底径の比率が大きく底部の切り離し技法に糸切りがみられないものの、b期からロクロ使用の土焼器が出土しており、ロクロ使用の土焼器と不使用の土焼器が混在することから、本住居跡の年代は8世紀後葉~9世紀初頭頃と考えられる。

第4節 下ノ内遺跡7B区

SI2a床面

$\Sigma x = 198453.0$

$\Sigma y = 3481.0$

$\Sigma x = 198453.0$

$\Sigma y = 3489.0$

$\Sigma x = 198460.0$

$\Sigma y = 3481.0$

$\Sigma x = 198460.0$

$\Sigma y = 3489.0$

11.80m-E4

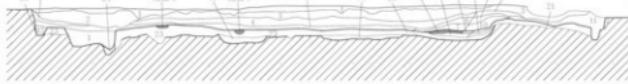
11.80m-C4

カマド

F4'



11.80m-B4



P15

F4'

11.80m-B4



11.50m-K4

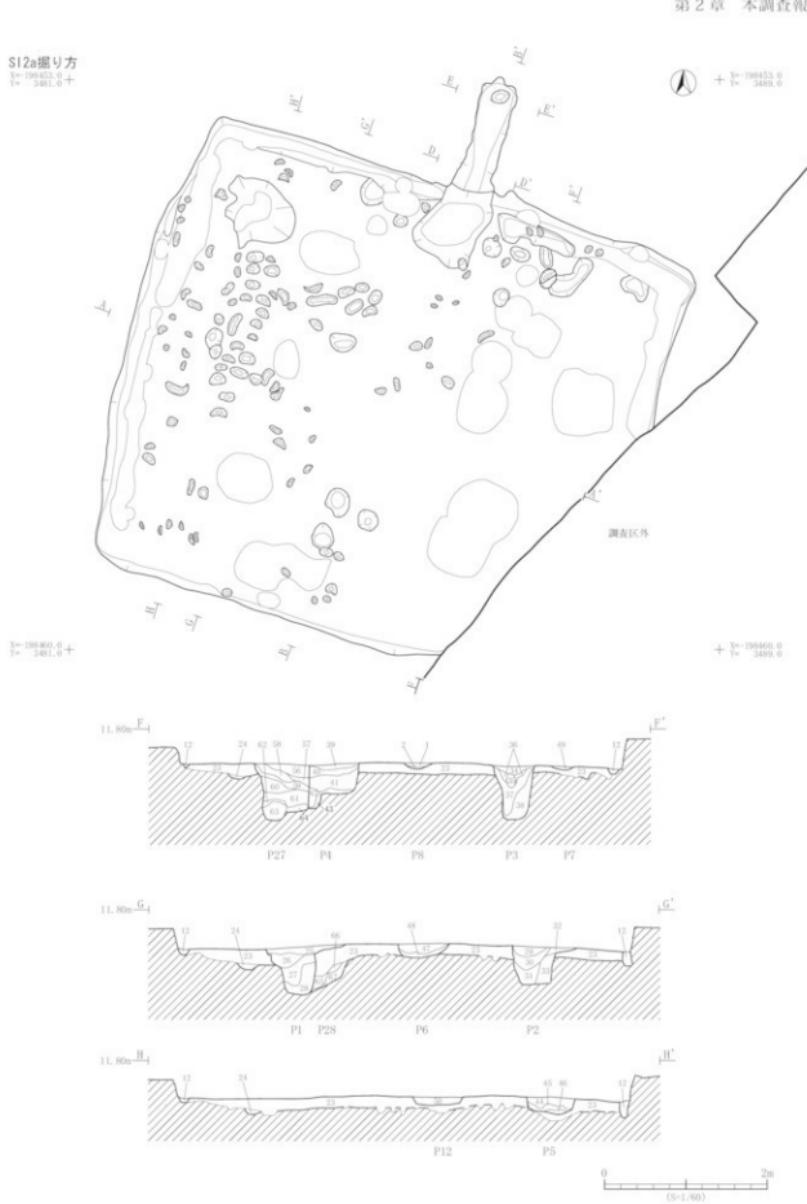


0
1m
(5'-1.66')

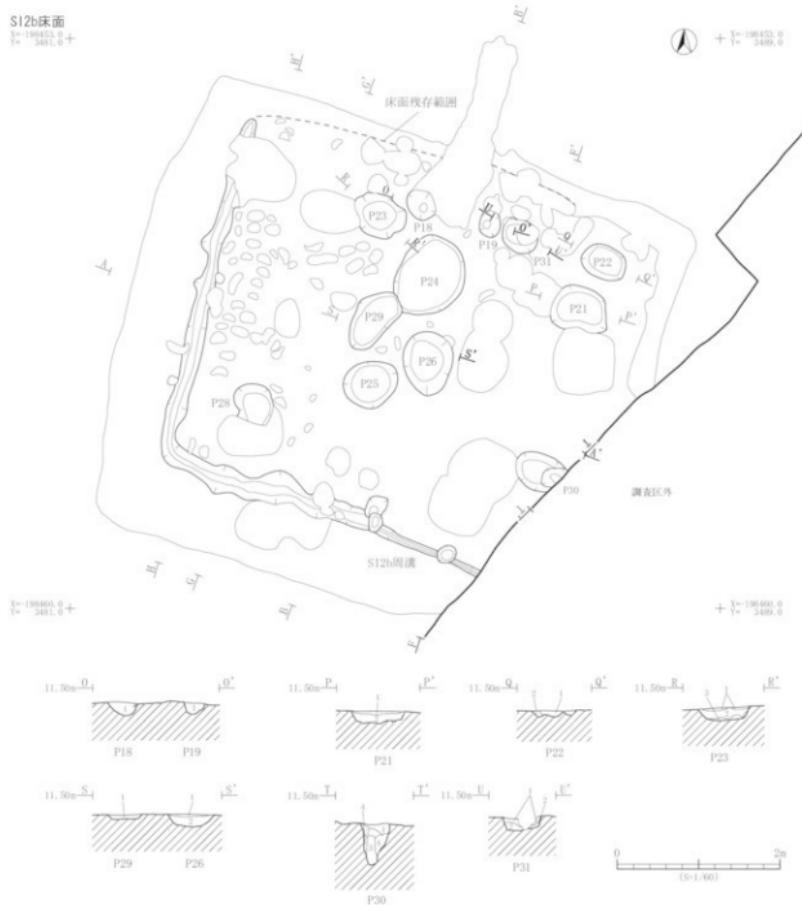
第75図 SI2a 穴室住居跡平面図・断面図(1)

S12a掘り方
 $\Sigma x = 199453.0$
 $\Sigma y = -3481.0$

(A) + $\Sigma x = 199453.0$
 $\Sigma y = -3489.0$



第76図 S12a 積穴住居跡平面図・断面図(2)



第77図 S12b堅穴住居跡平面図・断面図

S12b堅穴住居跡

[位置] a期と同じ。南東側の調査区外に延びる。

[重複関係] S12aより古い。

[規模・形態] 東西 5.64m、南北 4.75m である。平面形は方形と考えられる。

[主軸方位] 西側周溝基準で N-15°-E である。

[堆積土・構築土] 本期の堆積土は a期の掘り方によって削平され、検出されなかった。24層は周溝内堆積土である。

[壁面] 残存していない。

[床面] a期の掘り方で部分的に削平されるが、掘り方の底面を直接床面としている。

[柱穴] 12基のビット (P18・19・21～26・28～31) を検出した。配置・規模から P28・30は主柱穴の可能性

S2 土層目録

順位	土 色	土 性	備 考	順位	解説	土 色	土 性	備 考	
1	10YR4/1 黒褐色	粘土質シルト	鉄分を多く含む。	P12	50	10YR2/3 黒褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多く含む。	
2	10YR4/1-2 黒褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。地上土を含む。	P15	51	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。地上土を含む。	
3	10YR3/1 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロックを多量含む。鉄分を現れる。褐色シルトブロックを含む。	P16	52	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・炭化物を多量含む。	
4	10YR3/4 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロックを含む。鉄分を現れる。	P17	53	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルト・炭化物を多量含む。	
5	10YR4/1-2 黒褐色	シルト	炭化物を多量含む。炭化物をわずかに含む。鉄分を現れる。	P18	54	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	
6	10YR4/4 黑褐色	シルト	炭化物を多量含む。地上土を含む。鉄分をわずかに含む。	P19	55	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	
7	10YR6/1 黑褐色	シルト	炭化物を多量含む。鉄分を含む。	P20	56	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	
8	10YR3/3 黑褐色	シルト	炭化物・鉄分・風化を多量含む。	P21	57	10YR3/3 黑褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。	
9	10YR3/4 黑褐色	シルト	炭化物・鉄分・風化を多量含む。	P22	58	10YR3/3 黑褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物を含む。	
10	10YR2/3 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロックを多量含む。赤褐色シルトブロック・炭化物・地上土をわずかに含む。	P23	59	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物を含む。地上土をわずかに含む。	
11	10YR2/2 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルト・赤褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・地上土をわずかに含む。	P24	60	10YR4/3 黑褐色	シルト	鉄分を多量含む。炭化物をわずかに含む。	
12	10YR3/2 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロック・炭化物を含む。鉄分をわずかに含む。	P25	61	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	
13	25YR3/6 増粘土色	シルト		P26	62	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。	
14	10YR4/6 黑褐色	シルト	鉄分をわずかに含む。	P27	63	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。	
15	10YR4/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	P28	64	SY3/1 オリーブ緑色	シルト	鉄分をわずかに含む。ダイライ化。	
16	10YR4/4 黑褐色	シルト	鉄分・炭化物をわずかに含む。	P29	65	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分を多量含む。	
17	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。地上土をわずかに含む。	P30	66	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分を多量含む。	
18	10YR4/6 黑褐色	シルト	鉄分・地上土をわずかに含む。	P31	67	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。	
19	25YR3/6 増粘土色	シルト	細りあり。	P32	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	高黒シルト・シルトブロックを含む。褐色シルトブロック・鉄分・炭化物を多量含む。	
20	25YR4/6 黑褐色	シルト		P33	2	10YR4/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。赤黒シルト・シルトブロックを含む。鉄分・炭化物を含む。	
21	10YR3/4 黑褐色	シルト	赤黒シルトブロック・鉄分・炭化物・地上土をわずかに含む。	P34	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。鉄分を含む。	
22	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	鉄分・炭化物・地上土をわずかに含む。	P35	2	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。鉄分を含む。	
23	25YR4/4 オリーブ黒褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロック・鉄分を現れる。鉄分を多量含む。細りあり。(駆除床土上)	P36	1	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。鉄分を含む。	
24	10YR3/2 黑褐色	シルト	に、淡褐色シルトブロック・鉄分を現れる。鉄分を現れる。	P37	2	10YR4/3 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	
25	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。	P38	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。褐色シルトブロック・鉄分を含む。	
P1	26	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分をわずかに含む。	P39	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。炭化物・地上土を含む。
26	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。	P40	1	10YR3/1 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。鉄分を含む。	
27	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P41	2	10YR2/1 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。鉄分を含む。	
28	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P42	3	10YR4/3 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	
29	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P43	1	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。褐色シルト・鉄分を含む。	
30	10YR3/3 黑褐色	シルト	鉄分を多量含む。	P44	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
P2	31	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。	P45	1	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物・地上土を含む。
32	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを多量含む。鉄分を含む。	P46	2	10YR2/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。炭化物・地上土を含む。	
33	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	P47	3	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
34	10YR3/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	P48	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
35	10YR3/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	P49	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
P3	36	10YR2/2 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	P50	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。
37	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物を多量含む。	P51	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
38	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P52	3	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
39	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P53	4	10YR3/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	
40	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P54	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
41	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。	P55	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
42	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P56	3	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
43	10YR4/1-2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。	P57	4	10YR3/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	
P5	44	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P58	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。
45	10YR2/2 黑褐色	シルト	鉄分を含む。	P59	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
46	10YR4/2 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・鉄分を含む。	P60	3	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
P6	47	10YR3/4 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P61	4	10YR3/4 黑褐色	シルト	鉄分を含む。
48	10YR4/2 黑褐色	シルト	鉄分を多量含む。	P62	1	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
49	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロックを含む。	P63	2	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。	
P7	50	10YR2/3 黑褐色	シルト	褐色シルトブロック・炭化物・地上土を多量含む。	P64	3	10YR3/3 黑褐色	シルト	褐色シルト・鉄分を含む。

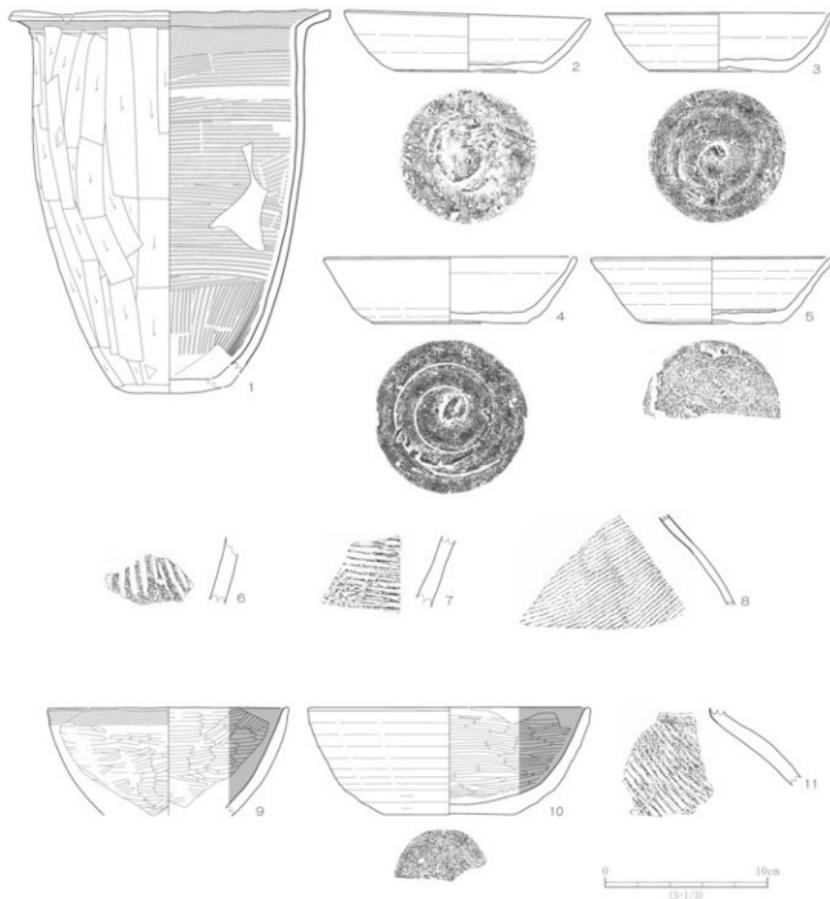
がある。規模は径 45 ~ 58cm 以上、深さ 43cm である。その他のビットの規模は径 0.25 ~ 1.01m、深さ 5 ~ 50cm で、補助的な柱や貯蔵穴の可能性がある。

[周溝] 西・南辺で検出した。断面形は U 字形で、規模は幅 10 ~ 42cm、深さ 10cm である。

[カマド] a 期の掘り方に削平されており、検出されなかった。

[出土遺物] 堆積土及びビットから土師器・須恵器・鉄滓が出土しており、そのうち土師器 2 点、須恵器 1 点を第 78 図 9 ~ 11 に図示した。9 は底部から口縁部まで緩やかに外傾しながら立ち上がり、口縁部でわずかに外反する

第4節 下ノ内遺跡7B区



番号	性質番号	区	遺構・グリッド	層位	種別	面種	口径×底径×深度(cm)	外面部形	内部部形	調査	写真回数
1	C-25	7B	S12a-P16	1	土壠器	横	20.0 × 7.0 × 23.5	ヨコナデ・ヘラキズリ	ヨコナデ・ハケメ	内外面焼熱。	30-1
2	E-21	7B	S12a	4	直壺器	环	15.2 × 9.1 × 3.7	ロクロナデ 低部凹輪へフ 切り内	ロクロナデ	-	30-2
3	E-22	7B	S12a	4	直壺器	环	13.8 × 8.5 × 3.6	ロクロナデ 低部凹輪へフ 切り内	ロクロナデ	-	30-3
4	E-23	7B	S12a	4	直壺器	环	15.6 × 9.5 × 4.1	ロクロナデ 低部凹輪へフ 切り内	ロクロナデ	-	30-4
5	E-24	7B	S12a	5	直壺器	环	(14.8 × 8.5 × 4.1)	ロクロナデ 低部凹輪へフ 切り内	ロクロナデ	-	30-5
6	E-19	7B	S12a	9	直壺器	横	× × 約 4.1	平行タキシ	ハラナデ	-	-
7	E-20	7B	S12a	3	直壺器	横	× × 約 5.8	平行タキシ	ハラナデ	-	-
8	E-25	7B	S12a	12	直壺器	横	× × 約 5.9	平行タキシ	当て貝殻・ナデ	-	-
9	C-20	7B	S12b	23	土壠器	环	(14.8 × × 約 6.6)	ヨコナデ・ヘラミガホ	ハラミガホ・黒色処理	-	30-6
10	D-7	7B	S12b-P18	1	土壠器	环	(17.0 × (8.4) × 6.6 ケズリ)	ロクロナデ 低部凹輪へフ ヘラミガホ	外面底部削盡。 ヘラミガホ・黒色処理	外面部削盡。	30-10
11	E-26	7B	S12b-P25	1	直壺器	横	× × 約 4.7	平行タキシ	当て貝殻・ナデ	-	-

第78図 S12a-b 穴住跡出土遺物 (1)



第79図 SI 2a 穴立住居跡出土遺物（2）

土師器鉢である。10はロクロ使用の土師器環で、底部に刻書がみられる。11は須恵器甕胴部片で外面に平行タタキ目がみられる。ロクロ使用とロクロ不使用の土師器が混在することから、本住居跡の年代はa期とほぼ同じ8世紀後葉～9世紀初頭頃と考えられる。

2) 土坑

SK1 土坑（第80図、図版18） W310・S50 グリッドで検出した。南西の一部が調査区外に延びる。SI2と重複関係にあり、本遺構が新しい。平面形は不整形形である。規模は一辺 1.20m、深さ 55cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面から 20cm 付近に段を持ち、底面は平坦である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。本遺構の年代は SI2との重複関係から 8世紀後葉～9世紀初頭以降と考えられる。

SK3 土坑（第80図、図版18） W320・S60 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-35°-W である。規模は長軸 98cm、短軸 87cm、深さ 20cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK4 土坑（第80図、図版18） W320・S60 グリッドで検出した。平面形は不整梢円形で、長軸方向は N-38°-E である。規模は長軸 58cm、短軸 52cm、深さ 12cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

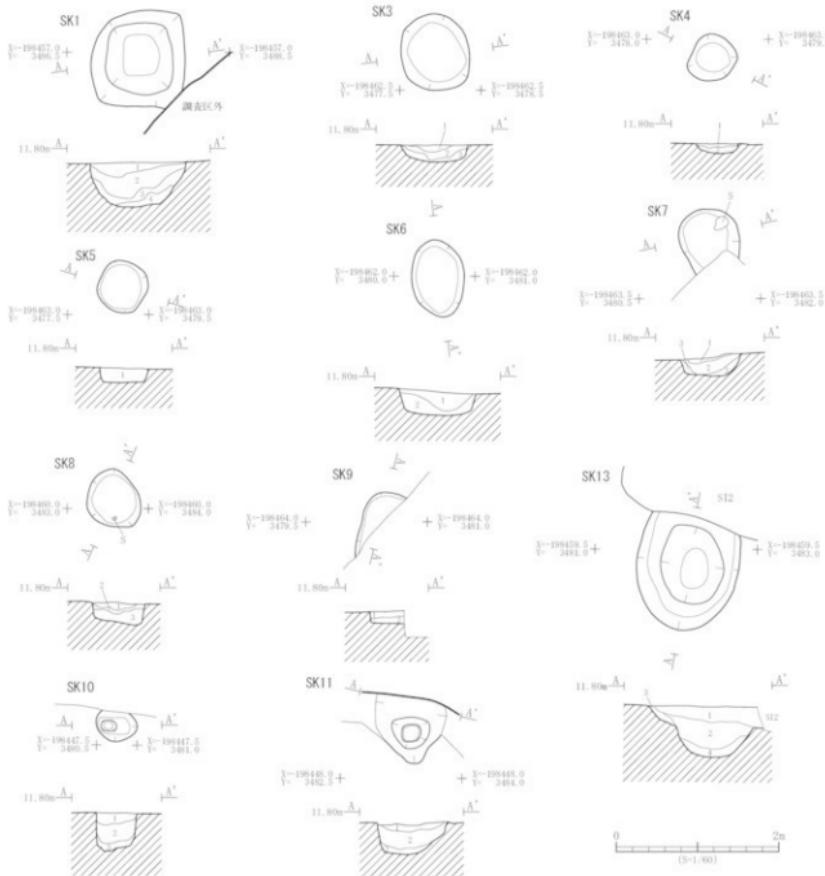
SK5 土坑（第80図、図版18） W320・S60 グリッドで検出した。平面形は円形である。規模は径 65cm、深さ 18cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面は平坦である。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SK6 土坑（第80図、図版18） W310・S60 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-12°-W である。規模は長軸 96cm、短軸 65cm、深さ 30cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。堆積土は 2 層に分層される。遺物は堆積土から土師器片が出土している。

SK7 土坑（第80図、図版18） W310・S60 グリッドで検出した。南側を側溝に削平されるが、平面形は梢円形と考えられ、長軸方向は N-12°-W である。検出した規模は長軸 73cm、短軸 68cm、深さ 25cm で、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SK8 土坑（第80図、図版18） W310・S60 グリッドで検出した。平面形は梢円形で、長軸方向は N-33°-W である。規模は長軸 74cm、短軸 63cm、深さ 25cm で、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分層される。遺物は堆積土から須恵器片が出土している。

第4節 下ノ内遺跡7B区



圖考			
編號	標高	上 頁	下 頁
SK1	1. 2SY3/1 黒褐色 2. 2SY3/2 黒褐色 3. 2SY3/2 黒褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	粘分を多量含む。 粘分をわずかに含む。 粘分をわずかに含む。
	4. 5SY3/1 オリーブ褐色	シルト	粘分を多量含む。
	1. 10YR3/3 嘴褐色 2. 10YR3/3 嘴褐色 3. 10YR4/3-5 嘴褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	粘色シルトブロック・鉄分・炭化物を多量含む。 粘色シルトブロック・鉄分・炭化物を多量含む。 粘从鉄分上にブロックをわずかに含む。
SK2	1. 10YR3/3 嘴褐色 2. 10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト 粘土質シルト	粘色シルトブロックを多量含む。褐紅色粘土ブロックとマングルをわずかに含む。
	3. 10YR2/2 黑褐色	粘土質シルト	褐紅色粘土ブロックを多量含む。褐紅色粘土ブロックをわずかに含む。
SK3	1. 10YR3/3 嘴褐色 2. 10YR3/3 嘴褐色 3. 10YR4/3-5 嘴褐色	粘土質シルト 粘土質シルト 粘土質シルト	粘色シルトブロックを多量含む。褐紅色粘土ブロックをわずかに含む。
	4. 10YR4/1 黑褐色	シルト	
	5. 10YR4/1 黑褐色	シルト	

編號	標高	土 色	土 性	調査
SK8	2 10YR4/3 嘴褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロック・鉄分を多量含む。	
SK9	3 10YR4/3 黑褐色	粘土質シルト	褐色シルトブロックをわずかに含む。鉄分を多量含む。	
SK10	1 10YR4/3 黑褐色 2 10YR3/3 嘴褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘分を多量含む。 に高い黒褐色粘土・褐色シルトブロック・鉄分・マンガルを多量含む。	
SK11	1 10YR2/2 黑褐色 2 10YR2/2 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘分を多量含む。 に高い黒褐色粘土・褐色シルトブロックをわずかに含む。	
SK12	1 10YR4/3 黑褐色 2 10YR4/3 黑褐色	シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘分を多量含む。 に高い黒褐色粘土・褐色シルトブロックをわずかに含む。	
SK13	2 10YR4/1 黑褐色 3 10YR4/1 黑褐色 4 2SY3/2 黑褐色	シルト シルト シルト	褐色シルトブロックを多量含む。粘分を多量含む。 褐色シルトブロックを多量含む。粘分を多量含む。	

第80図 SK1・3~11・13 土坑平面図・断面図

SK9 土坑（第80図、図版18）W310・S60 グリッドで検出した。南東半を側溝に削平されるが、平面形は方形を基調としたものと考えられる。検出した規模は東西23cm、南北95cm、深さ16cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形と考えられ、底面は平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

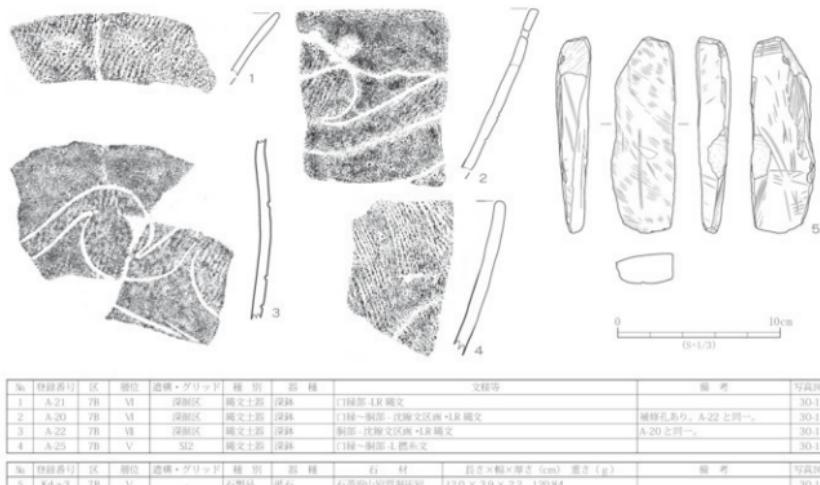
SK10 土坑（第80図、図版19）W310・S40 グリッドで検出した。北側を側溝に削平されるが、平面形は梢円形で、長軸方向はN-76°-Wである。規模は長軸52cm、短軸39cm、深さ49cmで、壁面は直立気味に立ち上がる。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦であるが、西側に径15cm、深さ5cmのピット状の落ち込みが1箇所ある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK11 土坑（第80図、図版19）W310・S40 グリッドで検出した。北側が調査区外のため、平面形は不明である。検出した規模は東西86cm、南北81cm、深さ40cmで、壁面は急角度に立ち上がる。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦であるが、南側に径48cm、深さ約10cmのピット状の落ち込みが1箇所ある。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK13 土坑（第80図）W310・S50～60 グリッドで検出した。SI2と重複関係にあり、本遺構が古い。北側をSI2に削平されるが、平面形は梢円形と考えられ、長軸方向はN-16°-Eである。検出した規模は長軸1.40m、短軸1.25m、深さ62cmで、壁面は急角度に立ち上がり、底面から35cm付近で段を持つ。断面形は逆台形状で、底面はやや丸味を持つ。堆積土は4層に分層される。遺物は堆積土から土師器片・須恵器片が出土している。

(2) 遺構外出土遺物（第81図、図版30）

基本層V層から縄文土器・土師器・須恵器・石製品、深掘区の基本層VI・VII層から縄文土器が出土している。そのうち縄文土器4点、石製品1点を第81図に図示した。1・2は南西側深掘区基本層VI層出土の縄文土器深鉢口縁部片で、2の口縁部には補修孔がみられる。3は南西側深掘区基本層VII層出土の縄文土器深鉢脛部片で、VI層出土の2と同一個体と考えられる。4は縄文土器深鉢口縁部片でL撚糸文が施文される。5は基本層V層出土の面取り加工された砥石である。



第81図 遺構外出土遺物

4.まとめ

下ノ内遺跡は仙台市南部の太白区富沢四丁目にある、自然堤防上の微高地に立地する縄文・古墳時代～古代の遺跡である。平成17年度は6区、平成18年度は7A・B区で計1,097m²の調査を行い、縄文時代以降の遺構群を検出した。

(1) 遺構について

- 1) 縄文時代の遺構は、基本層VI・VII・IX層上面で検出された。

6区IX層 - 河川跡1条

7A区VI層 - 性格不明遺構1基、遺物包含層

7A区VII層 - 集石3群、土坑43基、性格不明遺構2基、ピット5基

- 2) 7A区VII層で検出した集石群の一部は、下部土坑に伴う配石の可能性がある。

- 3) 古墳時代～古代の遺構は基本層V層上面で検出された。

6区 - 穴穴住居跡3軒、土坑5基、河川跡1条、溝跡10条、小溝状遺構群3群、ピット144基

7A区 - 穴穴住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑8基、河川跡2条、性格不明遺構1基、溝跡15条、小溝状遺構群6群、ピット108基

7B区 - 穴穴住居跡1軒、土坑11基、ピット7基

- 4) 古墳時代の遺構として6区で穴穴住居跡1軒、溝跡1条、7A区で穴穴住居跡1軒、溝跡1条を検出した。

- 5) 古代の遺構として6区で穴穴住居跡2軒、土坑1基、溝跡3条、小溝状遺構群1群、7A区で穴穴住居跡1軒、7B区で穴穴住居跡1軒を検出した。

- 6) 6区と7A区で小溝状遺構群が検出されたことから、調査区周辺には畑が広がっていたと考えられる。また、穴穴住居跡と小溝状遺構群の重複関係から、奈良時代から平安時代にかけての土地利用は、居住域と生産域が明確には分けられていなかったと考えられる。

(2) 遺物について

- 1) 下ノ内遺跡からの出土遺物は平箱35箱である。

1) 縄文時代

6区基本層IX層から中期中葉の大木8b式の深鉢が出土している。7A区VI層の遺物包含層から後期中葉の宝ヶ峯式を主体とする土器が多く出土しており、その中に後期初頭～前葉の土器も若干みられる。これらの土器と共に土製品・打製石器・礫石器・石製品が出土している。

2) 古墳時代

7A区SI29から古墳時代前期の土師器壺・壺・甕、6区SI459から古墳時代中～後期の土師器壺・甕、石製品（小玉）が出土している。また、6区基本層V層からTK47型式期の須恵器壺蓋が出土している。

3) 古代

6区SI459、7A区SI5から奈良時代の土師器壺・甕、須恵器壺・甕、6区SI417・7B区SI2から奈良～平安時代の土師器壺・甕、須恵器壺・甕が出土している。6区SK423から平安時代の土師器壺が出土している。

第1表 遺構一覧表(1)

6区V層
6号穴(28跡)

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 横(m)	方 法	時 期
SH417a	W270・550～60	N 65°・W	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.16	東壁中央	8世紀後半～9世紀初期
SH417b	W270・550～60	N 65°・W N 22°・E	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.24	東壁中央・西壁中央	8世紀初期
SH417c	W270・550～60	N 65°・W	東西 4.07 ×南北 4.14 ×壁高 0.27	-	-
SI458	W250～260・560	N 56°・E	東西 5.03 ×南北 4.31m ×壁高 0.34	東壁中央	9世紀後半～8世紀初期
SI459	W250～260・550～60	N 56°・E N 5°・E	東西 5.15 ×南北 4.70m ×壁高 0.56	北壁中央	8世紀後半～9世紀初期

手筋

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 横(cm)	平面形・断面形	時 期
SK409	W280・550	N 14°・E	長軸 85 ×幅 49 ×深さ 12	楕円形・逆台形	-
SK410	W280・550	N 16°・W	長軸 172 ×幅 168 ×深さ 3 44	不整形・逆台形	-
SK422	W270・550	N 52°・E	長軸 75 ×幅 61 ×深さ 17	不整形・逆台形	-
SK423	W250・550	N 38°・W	長軸 [66] ×幅 55 ×深さ 20	楕円形・楕形	9世紀後半～8世紀初期
SK457	W270・550	-	一辺 58 ×深さ 22	方形・逆台形	10世紀前半

岡川跡

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 横(m)	平面形・断面形	時 期
SK408	W270～290・550～60	長さ[208] ×幅 5.15 ×深さ 13[30]	-	-	-

通路

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 横(m)	平面形・断面形	時 期
SD412	W280・540～50	N 67°・E	長さ 15.87 ×幅 0.40 ×高さ 0.05	空手筋形・逆台形	-
SD413	W280・540～50	N 17°・E	長さ [7.22] ×幅 2.27 ×高さ 0.20	法延直線・逆台形	-
SD416	W260・550	N 15°・E	長さ [3.34] ×幅 0.59 ×高さ 0.15	直線・逆台形	-
SD418	W260～270・550	N 52°・E	長さ [8.79] ×幅 0.65 ×高さ 0.10	直線・逆台形	-
SD421	W280・540～50	N 7°・E	長さ [3.08] ×幅 0.56 ×高さ 0.25	法延直線・逆台形	-
SD424	W250～260・550	N 4°・E	長さ [4.94] ×幅 0.70 ×高さ 0.05	直線・逆台形	-
SD443	W260・550	N 13°・E	長さ [3.07] ×幅 0.19 ×高さ 0.02	直線・逆台形	8世紀後半～9世紀前半
SD461	W260・550～60	N 7°・E	長さ 4.56 ×幅 0.48 ×高さ 0.10	直線・逆台形	8世紀後半～9世紀前半
SD467	W260・560	N 4°・E	長さ [6.23] ×幅 0.69 ×高さ 0.62	直線・不整 U字形	8世紀後半～9世紀以前
SD470	W260～270・550	N 61°・W	長さ [5.93] ×幅 0.74 ×高さ 0.15	法延直線・逆台形	-

小遺構(造痕類)

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 横(m)	平面形・断面形	時 期
I - 1	W290・540	N 58°・W	長さ 2.12 ×幅 0.23 ×深さ 0.06	法延直線・U字形	-
I - 2	W290・540	N 77°・W	長さ 1.60 ×幅 0.27 ×高さ 0.02	法延直線・U字形	-
I - 3	W280～290・540～50	N 52°・W	長さ 2.03 ×幅 0.21 ×高さ 0.02	法延直線・U字形	-
I - 4	W280・550	N 27°・W	長さ [3.24] ×幅 0.26 ×高さ 0.09	直線・U字形	-
I - 5	W260～270・550	N 45°・W	長さ [3.72] ×幅 0.13 ×高さ 0.04	法延直線・U字形	-
I - 6	W270・550	N 44°・W	長さ [2.74] ×幅 0.14 ×高さ 0.04	直線・U字形	-
I - 7	W270・550	N 45°・W	長さ [10.82] ×幅 0.10 ×高さ 0.06	直線・U字形	-
I - 8	W260・550	N 86°・E N 56°・W	長さ 3.53 ×幅 0.14 ×深さ 0.04	空手筋形・U字形	-
I - 9	W260・550	N 52°・W	長さ [4.86] ×幅 0.17 ×高さ 0.02	直線・U字形	9世紀後半
I - 10	W260・550	N 62°・W	長さ 2.23 ×幅 0.19 ×深さ 0.05	直線・U字形	-
I - 11	W260・550	N 54°・W	長さ [3.10] ×幅 0.17 ×深さ 0.13	直線・U字形	-
I - 12	W260・550～60	N 21°・W	長さ 1.25 ×幅 0.09 ×深さ 0.06	直線・U字形	-
I - 13	W260・550～60	N 76°・W N 58°・W	長さ 4.25 ×幅 0.05 ×深さ 0.05	空手筋形・U字形	-
I - 14	W260・550～60	N 57°・W	長さ 3.86 ×幅 0.12 ×深さ 0.02	空手筋形・U字形	-
I - 15	W260・560	N 52°・W N 76°・W	長さ 4.25 ×幅 0.04 ×深さ 0.04	空手筋形・U字形	-
II - 1	W260～270・550	N 61°・W	長さ [4.90] ×幅 0.28 ×深さ 0.24	空手筋形・U字形	-
II - 2	W260～270・550	N 58°・W	長さ [5.75] ×幅 0.41 ×深さ 0.19	法延直線・U字形	-
II - 3	W260・550～60	南 N 65°・W	長さ 8.25 ×幅 0.17 ×深さ 0.08	逆 L字・U字形	9世紀後半
II - 4	W260・550～60	南 N 67°・W	長さ 10.24 ×幅 0.09 ×深さ 0.06	逆 L字・U字形	-
III - 1	W280・540～50	N 24°・E	長さ [3.10] ×幅 0.19 ×高さ 0.07	直線・U字形	-
III - 2	W280・540～50	N 26°・E	長さ [6.68] ×幅 0.24 ×高さ 0.08	直線・U字形	-
III - 3	W270～280・550	N 22°・E N 32°・E	長さ [6.74] ×幅 0.14 ×高さ 0.03	法延直線・U字形	-
III - 4	W270・550	N 30°・E	長さ 15.48 ×幅 0.10 ×高さ 0.11	法延直線・U字形	-
III - 5	W270・550	N 48°・E	長さ [3.95] ×幅 0.49 ×高さ 0.25	直線・逆台形	-
III - 6	W270・550	N 26°・E	長さ [2.57] ×幅 0.25 ×高さ 0.04	法延直線・U字形	-
III - 7	W270・550	N 22°・E	長さ [2.24] ×幅 0.13 ×高さ 0.04	法延直線・U字形	-
III - 8	W260～270・550	N 21°・E	長さ 16.42 ×幅 0.25 ×高さ 0.02	空手筋形・U字形	-
III - 9	W260・550	N 28°・E	長さ 11.35 ×幅 0.15 ×高さ 0.06	直線・U字形	-
III - 10	W260・550～60	N 31°・E	長さ 0.80 ×幅 0.18 ×深さ 0.03	直線・U字形	-
III - 11	W260・550～60	N 22°・E	長さ 5.19 ×幅 0.14 ×深さ 0.07	法延直線・U字形	-
III - 12	W260・550	N 16°・E	長さ 11.98 ×幅 0.16 ×深さ 0.02	直線・U字形	8世紀後半
III - 13	W260・550	N 23°・E	長さ [2.61] ×幅 0.24 ×高さ 0.12	法延直線・U字形	-
III - 14	W250～260・550	N 26°・E	長さ 1.80 ×幅 0.26 ×深さ 0.12	直線・U字形	-
III - 15	W250・550～60	N 12°・E N 26°・E	長さ 5.80 ×幅 0.18 ×深さ 0.12	空手筋形・U字形	-
III - 16	W270・550	N 21°・E	長さ 10.85 ×幅 0.20 ×深さ 0.44	直線・U字形	-
III - 17	W270・550	N 10°・E	長さ 10.83 ×幅 0.20 ×深さ 0.25	直線・逆台形	-
III - 18	W260・550	N 23°・E	長さ 11.20 ×幅 0.16 ×深さ 0.06	法延直線・U字形	-
III - 19	W250・550～60	N 26°・E	長さ 11.42 ×幅 0.22 ×深さ 0.08	直線・U字形	-
III - 20	W250～260・560	N 26°・E	長さ 5.93 ×幅 0.27 ×深さ 0.10	直線・U字形	-
III - 21	W260・550～60	N 26°・E	長さ 4.36 ×幅 0.35 ×深さ 0.23	法延直線・U字形	-
III - 22	W260・550	N 23°・E	長さ 6.88 ×幅 0.20 ×深さ 0.16	直線・U字形	-

第4節 下ノ内遺跡

第2表 遺構一覧表(2)

7.A区V層					
壁穴の跡跡					
遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(m)	カマフ	時 期
S15	W240~250+S70	N32°E	東西 3.40 ×南北 3.35 ×深さ 0.21	北壁中央面削り	8世紀後半
S29	W240~260+70	N30°W	東西 2.07 ×南北 2.15 ×深さ 0.18	住居北西(廻転形)	4世紀後半~末
部立の跡跡					
遺構番号	位置(グリッド)	主軸方位	柱間数	建物面積(m)	時 期
SB21	W250+S70	[N63°W]	和行3間×梁行2間	4.22 × 2.75	
柱跡					
遺構番号	位置(グリッド)	柱軸方向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SK3	W240~250+S60	N30°W	長軸1100×短軸89×深さ 35 ~ 77	(不整柱内)・逆台形	
SK4	W240~S70	N71°W	長軸116×短軸106×深さ 30	柱門・逆台形状	
SK6	W250+S70		東西 [96] ×南北 [264] ×深さ 44 ~ 50	不明・逆台形	
SK35	W250~260+S70	N35°E	長軸[93] ×短軸51×深さ 27	柱門・輪形	
SK36	W250+S70	N26°E	長軸69×短軸44×深さ 13	柱門・逆台形状	
SK37	W250~S70+80	N56°W	長軸[72] ×短軸63×深さ 33	柱門・逆台形	
SK38	W260~S70	N42°W	長軸[73] ×短軸55×深さ 30	(腰丸柱形)・逆台形	
SK41	W250+S70	N56°W	長軸[60] ×短軸46×深さ 30	(輪柱形)・輪形	
圓柱跡					
遺構番号	位置(グリッド)	柱軸方向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SR1東	W20~250+S70~90		長さ [16.36] ×幅 36.05 ×深さ 0.15	転行・逆台形	
SR1西	W250~270+S70~90		長さ [12.68] ×幅 29.93 ×深さ 0.14 ~ 0.40	転行・逆台形	
SK2	W250~S60+60		長さ 14.55 ×幅 [2.56] ×深さ 0.37	転行・逆台形	
柱跡の遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SN43	W240+S70	北東・南西	長軸765×短軸280 ~ 352 ×深さ 24	不整柱・不整逆台形	
通路					
遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SD11	W240~S60+70	N45°W	長さ 7.12 ×幅 0.29 ~ 0.35 ×深さ 0.09	ほほ延繩・U字形	
SD12	W240~S70	N48°W	長さ 2.37 ×幅 0.18 ~ 0.24 ×深さ 0.08	直縫・U字形	
SD13	W250~S60	N76°W	長さ 2.00 ×幅 0.25 ~ 0.28 ×深さ 0.10	直縫・逆台形	
SD15	W240~S80	N85°W	長さ 11.43 ×幅 0.29 ~ 0.80 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
SD16	W240~S70	N78°W	長さ [2.26] ×幅 0.30 ~ 0.41 ×深さ 0.14	中空面・U字形	
SD17	W250~S60	N67°W	長さ [1.29] ×幅 0.25 ×深さ 0.05	中空面・U字形	
SD22	W250~S50+80	N77°E	長さ [26.40] ×幅 1.34 ~ 2.66 ×深さ 1.34	ほほ延繩・逆台形	
SD23	W240~S70	N23°E	長さ 3.65 ×幅 0.26 ~ 0.34 ×深さ 0.09	中空面・U字形	
SD31	W250~260+S70	N21°E	長さ [14.25] ×幅 0.23 ~ 0.50 ×深さ 0.13	直縫・U字形	
SD33	W260~S70	N28°E	長さ 0.80 ×幅 0.15 ×深さ 0.10	直縫・U字形	
SD33	W260~S70	N30°E	長さ 2.00 ×幅 0.29 ~ 0.35 ×深さ 0.08	直縫・U字形	
SD34	W260~S70	N6°E	長さ [1.73] ×幅 0.16 ~ 0.26 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
SD39	W260~S60+70	N5°E	長さ [3.33] ×幅 0.90 ~ 0.96 ×深さ 0.92	直縫・U字形	5世紀後半~6世紀初期以前
SD40	W250~260+S70	N46°E	長さ [24.46] ×幅 0.40 ~ 0.59 ×深さ 0.16	直縫・U字形	
SD42	W250~S50+60	N4°E	長さ [1.90] ×幅 0.32 ~ 0.36 ×深さ 0.10	直縫・逆台形	
小圓柱の遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(m)	平面形・断面形	時 期
I-1	W250~S80	N57°W	長さ 10.58 ×幅 0.15 ×深さ 0.10	直縫・U字形	
I-2	W250~S80	N75°W	長さ 2.12 ×幅 0.14 ~ 0.20 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
I-3	W250~S80	N70°W	長さ 1.87 ×幅 0.19 ~ 0.23 ×深さ 0.03	直縫・U字形	
I-4	W250~S70+80	N51°W	長さ 1.36 ×幅 0.15 ~ 0.23 ×深さ 0.02	中空面・U字形	
H-1	W240~250+S60	N62°W N56°W	長さ 1.22 ×幅 0.29 ~ 0.35 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
H-2	W240~S60+70	N56°W	長さ 0.93 ×幅 0.20 ~ 0.37 ×深さ 0.15	中空面・U字形	
H-3	W230~250~560+70	N53°W 56°W	長さ 18.68 ×幅 0.20 ~ 0.30 ×深さ 0.07	ほほ延繩・U字形	
H-4	W230~240~560	N50°W	長さ 12.90 ×幅 0.29 ~ 0.37 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
H-1	W240~250~560+60	N48°W	長さ [15.08] ×幅 0.17 ~ 0.23 ×深さ 0.05	ほほ延繩・U字形	
H-2	W240~250~560	N49°W	長さ [4.20] ×幅 0.19 ~ 0.22 ×深さ 0.06	直縫・U字形	
H-3	W240~250~560+60	N50°W	長さ [3.32] ×幅 0.18 ~ 0.23 ×深さ 0.06	直縫・U字形	
H-4	W240~250~560+60	N47°W	長さ [6.59] ×幅 0.16 ~ 0.24 ×深さ 0.04	直縫・U字形	
H-5	W240~S60	N40°W	長さ 5.05 ×幅 0.15 ~ 0.22 ×深さ 0.08	直縫・U字形	8世紀後半以降
H-6	W240~S60	N41°W	長さ [11.95] ×幅 0.16 ~ 0.20 ×深さ 0.05	直縫・U字形	
H-7	W250~S60+60	N43°W	長さ [11.19] ×幅 0.24 ×深さ 0.06	直縫・U字形	
H-8	W250~S50+60	N50°W	長さ [10.89] ×幅 0.18 ~ 0.28 ×深さ 0.03	直縫・U字形	
H-9	W250~S60	N50°W	長さ 3.18 ×幅 0.18 ~ 0.25 ×深さ 0.05	ほほ延繩・U字形	
H-10	W240~S70	N64°W	長さ 14.15 ×幅 0.29 ~ 0.34 ×深さ 0.12	直縫・U字形	
H-2	W230~240~560+70	N63°W	長さ [8.05] ×幅 0.30 ~ 0.40 ×深さ 0.11	ほほ延繩・U字形	
H-3	W230~240~560+60	N63°W	長さ [11.00] ×幅 0.32 ~ 0.40 ×深さ 0.06	直縫・U字形	
H-4	W240~S60	N66°W	長さ [13.05] ×幅 0.20 ~ 0.32 ×深さ 0.08	直縫・U字形	8世紀後半以降
H-5	W240~S70	N64°W	長さ 4.52 ×幅 0.32 ~ 0.35 ×深さ 0.07	直縫・U字形	
H-6	W240~S70	N57°W	長さ [2.65] ×幅 0.31 ×深さ 0.12	ほほ延繩・U字形	
V-1	W240~S60	N23°E	長さ 2.36 ×幅 0.22 ×深さ 0.08	直縫・U字形	
V-2	W240~S50+60	N20°E	長さ [11.86] ×幅 0.28 ~ 0.36 ×深さ 0.07	直縫・U字形	
V-3	W240~S60	N23°E	長さ 1.58 ×幅 0.27 ×深さ 0.07	直縫・U字形	
V-4	W240~S60	N21°E	長さ [2.22] ×幅 0.30 ~ 0.36 ×深さ 0.12	直縫・U字形	
V-5	W230~240~570	N30°E	長さ 1.76 ×幅 0.32 ×深さ 0.07	直縫・U字形	
M-1	W250~S50+60	N21°E	長さ 3.43 ×幅 0.22 ~ 0.28 ×深さ 0.06	ほほ延繩・U字形	8世紀後半以前
M-2	W250~S60	N15°E	長さ 3.43 ×幅 0.25 ×深さ 0.07	直縫・U字形	8世紀後半以前
7.A区V層					
柱跡の遺構					
遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SN44	W240~S60	南北	長軸 304 ×幅 158 ~ 297 ×深さ 22 ~ 24	不整柱・不整逆台形	

第3表 遺構一覧表（3）

遺物

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SX18	W250～260×S60～80				縄文後期
SX45	W240～250×S60～80				縄文後期

7A区Ⅵ層

生石

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SX91	W240×S60				縄文後期
SX92	W260×S60～70				縄文後期
SX95	W240～260×S60～70				縄文後期

前

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SK45	W240×S70	N45° E	長軸 82 × 短軸 49 × 深さ 15	楕円形・逆行形	縄文後期
SK48	W250～260×S70	N21° W	長軸 177 × 短軸 85 × 深さ 15	不整丸形・逆行形	縄文後期
SK49	W250～260×S70	N61° E	長軸 113 × 短軸 84 × 深さ 14	楕円形・範形	縄文後期
SK50	W250×S70	N70° E	長軸 162 × 短軸 92 × 深さ 20	楕円形・逆行形	縄文後期
SK51	W250×S60～70	N4° W	長軸 136 × 短軸 99 × 深さ 17	楕円形・逆行形	縄文後期
SK52	W250×S70	N19° E	長軸 88 × 短軸 66 × 深さ 8	楕円形・範形	縄文後期
SK53	W260×S70	N10° E	長軸 90 × 短軸 69 × 深さ 30	楕円形・範形	縄文後期
SK54	W250×S70	N28° W	長軸 112 × 短軸 75 × 深さ 21	楕円形・逆行形	縄文後期
SK55	W250×S70	N73° E	長軸 103 × 短軸 85 × 深さ 27	楕円形・逆行形	縄文後期
SK56	W260×S70	N4° W	長軸 159 × 短軸 83 × 深さ 15	楕円形・逆行形	縄文後期
SK57	W260×S70	N25° W	長軸 115 × 短軸 51 × 深さ 16	楕円形・逆行形	縄文後期
SK58	W250×S70	N14° E	長軸 108 × 短軸 59 × 深さ 9	楕円形・範形	縄文後期
SK59	W250×S70	後 72 × 深さ 24		円形・範形	縄文後期
SK60	W250×S70	N6° E	長軸 132 × 短軸 193 × 深さ 24	楕円形・逆行形	縄文後期
SK61	W250×S70	N47° E	長軸 139 × 短軸 70 × 深さ 29	楕円形・逆行形	縄文後期
SK62	W250×S70	N9° E	長軸 175 × 短軸 78 × 深さ 29	不整丸形・逆行形	縄文後期
SK63	W250～260×S70	N72° E	長軸 106 × 短軸 67 × 深さ 14	不整丸形・逆行形	縄文後期
SK64	W260×S70	N78° W	長軸 104 × 短軸 78 × 深さ 17	圓丸形方彌・逆行形	縄文後期
SK65	W250×S70	後 112 × 深さ 17		ほぼ円形・範形	縄文後期
SK66	W260×S60～70	N81° W	長軸 175 × 短軸 104 × 深さ 16	楕円形・逆行形	縄文後期
SK67	W250×S70	N70° E	東西 100 × 南北 94 × 深さ 10	(方彌)・範形	縄文後期
SK68	W250×S70	N6° E	長軸 163 × 短軸 120 × 深さ 29	圓丸形・逆行形	縄文後期
SK69	W250×S70	N31° W	長軸 143 × 短軸 29 × 深さ 5	(楕円形)・逆行形	縄文後期
SK70	W260×S70	N9° W	長軸 112 × 短軸 70 [0] × 深さ 16	(楕円形)・逆行形	縄文後期
SK71	W250～260×S70	東西 66 × 南北 [55] × 深さ 14		(円形)・範形	縄文後期
SK72	W250×S70	N36° W	長軸 98 × 短軸 64 × 深さ 14	(楕円形)・逆行形	縄文後期
SK73	W250×S70	N18° E	長軸 183 × 短軸 65 × 深さ 22	楕円形・逆行形	縄文後期
SK74	W250×S70	N48° W	長軸 85 × 短軸 [80] × 深さ 8	不整丸形方彌・逆行形	縄文後期
SK75	W250～260×S70	東西 100 × 南北 [11] × 深さ 11		不明・不明	縄文後期
SK76	W250～260×S70	東西 81 × 南北 81 × 深さ 15		(円形)・逆行形	縄文後期
SK78	W240～250×S60	東西	東西 103 × 南北 93 × 深さ 11	圓丸形・逆行形	縄文後期
SK79	W250×S70	N32° W	長軸 88 × 短軸 68 × 深さ 27	楕円形・逆行形	縄文後期
SK80	W240×S70	N15° E	長軸 81 × 短軸 50 × 深さ 36	楕円形・U字形	縄文後期
SK81	W250×S60	後 46 × 深さ 27		円形・逆行形	縄文後期
SK82	W250×S70	N37° E	長軸 65 × 短軸 155 × 深さ 9	(楕円形)・逆行形	縄文後期
SK83	W240×S70	N15° E	長軸 150 × 短軸 40 × 深さ 10	(楕円形)・逆行形	縄文後期
SK84	W250×S70	南北 98 × 西北 98 × 深さ 10		不明・逆行形	縄文後期
SK85	W250×S70～80	N62° W	長軸 83 × 短軸 66 × 深さ 10	楕円形・逆行形	縄文後期
SK86	W250×S70	東西 160 × 南北 145 × 深さ 53		(円形)・範形	縄文後期
SK87	W240～250×S60	N64° W	長軸 85 × 短軸 60 × 深さ 18	楕円形・逆行形	縄文後期
SK88	W250×S70	東西 148 × 南北 71 × 深さ 26		不明・逆行形	縄文後期
SK89	W240×S70	N34° W	長軸 85 × 短軸 44 × 深さ 3	楕円形・逆行形	縄文後期
SK90	W250×S70	N71° W	長軸 136 × 短軸 105 × 深さ 10	圓丸形・逆行形	縄文後期

性別不詳遺構

遺構番号	位置(グリッド)	方 向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期
SX47	W260×S70	N77° W	長軸 255 × 短軸 16 × 深さ 30	不整丸・逆行形	縄文後期
SX84	W250×S70	東西南北	長軸 156 × 短軸 56 × 102 × 深さ 11～20	不整・不整形	縄文後期

7B区Ⅴ層

壁穴式土坑

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	カマド	時 期
SK1	W310×S50	N46° E	東西 6.50 × 南北 5.80 × 高さ 0.20～0.34	北摺中古	東周初期後葉～	東周初期後葉
SL2a	W310×S50	N15° E	東西 [5.64] × 南北 14.75	不明	西周初期	

前

遺構番号	位置(グリッド)	長軸方向	幅 稲(cm)	平面形・断面形	時 期	
SK1	W310×S50	後 120 × 深さ 55		不整方彌・逆行形	東周初期後葉～	東周初期後葉
SK3	W320×S60	N35° W	長軸 98 × 短軸 87 × 深さ 20	楕円形・逆行形		
SK4	W320×S60	N38° E	長軸 58 × 短軸 52 × 深さ 12	不整圓形・逆行形		
SK5	W320×S60	後 65 × 深さ 18		法隆円形・範形		
SK6	W310×S60	N12° W	長軸 96 × 短軸 65 × 深さ 30	楕円形・逆行形		
SK7	W310×S60	N22° W	長軸 175 × 短軸 68 × 深さ 25	(楕円形)・逆行形		
SK8	W310×S60	N33° W	長軸 74 × 短軸 63 × 深さ 25	楕円形・範形		
SK9	W310×S60	N35° E	東西 [23] × 南北 [95] × 深さ 16	(方彌)・(範形)		
SK10	W310×S40	N76° W	長軸 52 × 短軸 [59] × 深さ 49	楕円形・範形		
SK11	W310×S40	後 110 × 深さ 40		不明・逆行形		
SK13	W310×S50～60	N16° E	長軸 [140] × 短軸 125 × 深さ 62	(楕円形)・逆行形	西周初期後葉～	西周初期後葉

下ノ内遺跡写真図版



6区V層全景（西より）



6区V層全景（南より）

写真図版1 下ノ内遺跡（1）

第4節 下ノ内遺跡



6区V層SI417a（西より）



6区V層SI417a 遺物出土状況（南より）



6区V層SI417a カマド遺物出土状況（西より）



6区V層SI417a カマド（西より）



6区V層SI417b（南より）



6区V層SI417b カマド（南より）

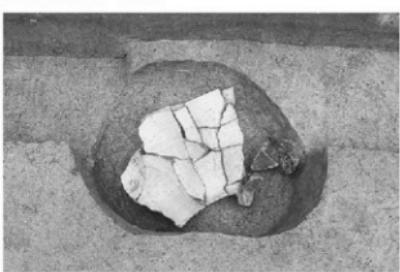


6区V層SI417c（南より）



6区V層SI459-SI458 炭化材出土状況（南より）

写真図版2 下ノ内遺跡（2）



写真図版3 下ノ内遺跡 (3)

第4節 下ノ内遺跡



6区V層SK457（東より）



6区V層SD421（南より）



6区V層SD424（南より）



6区V層SD461（南より）



6区V層SD467（南より）



6区V層SD470（東より）



6区V層西侧小溝状遺構群Ⅰ群（南より）



6区V層西侧小溝状遺構群Ⅲ群（南より）

写真図版4 下ノ内遺跡（4）



7A区V層全景（西より）



7A区V層全景（北西より）

写真図版5 下ノ内遺跡（5）



7 A 区V層SI5 (南より)



7 A 区V層SI5 カマド (南より)



7 A 区V層SI5-P5 断面 (南西より)



7 A 区V層SI5-P6 断面 (南西より)



7 A 区V層SI5 掘り方 (南より)

写真図版6 下ノ内遺跡 (6)



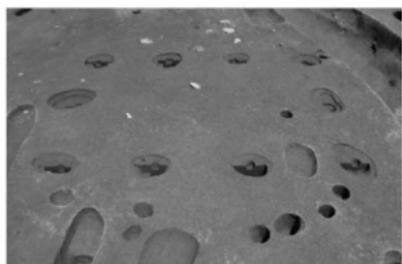
7 A 区V層SI29 炭化材・焼土・遺物出土状況 (南西より)



7 A 区V層SI29 (南西より)

写真図版7 下ノ内遺跡 (7)

第4節 下ノ内遺跡



7 A 区V層SB21 (南より)



7 A 区V層SK3 炭化材出土状況 (南西より)



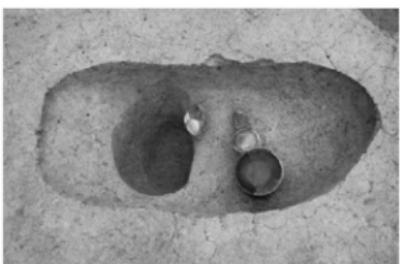
7 A 区V層SK3 (南西より)



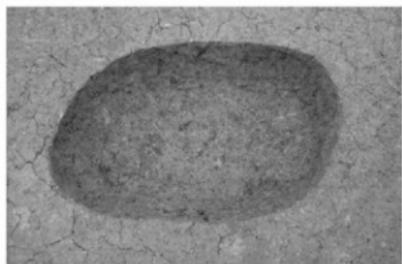
7 A 区V層SK4 断面 (南より)



7 A 区V層SK6 (西より)



7 A 区V層SK35 (南東より)



7 A 区V層SK36 (南東より)



7 A 区V層SK37 (南より)

写真図版8 下ノ内遺跡 (8)



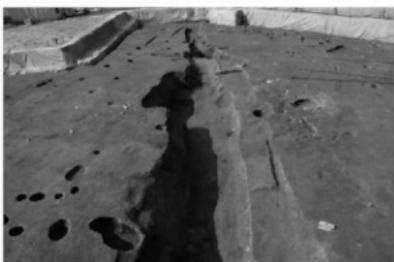
7 A 区V層SK38（南より）



7 A 区V層SK41（南より）



7 A 区V層SX43（西より）



7 A 区V層SD22（南より）



7 A 区V層SD39（南より）



7 A 区V層SD39 断面（南より）

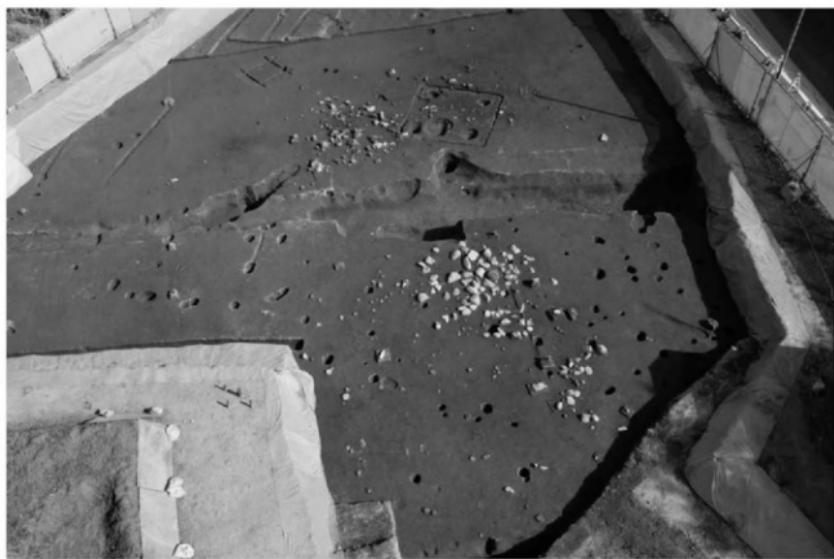


7 A 区VI層SX44（南より）



7 A 区VI層SX45 南側遺物出土状況（西より）

写真図版9 下ノ内遺跡（9）

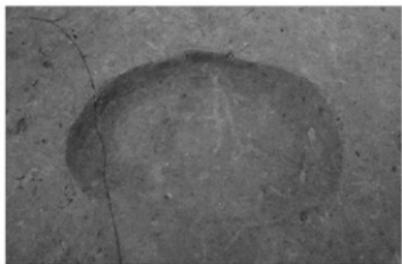


7 A 区VII層SX95 集石全景 (西より)

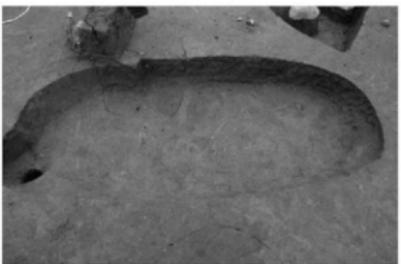


7 A 区VII層土坑群全景 (西より)

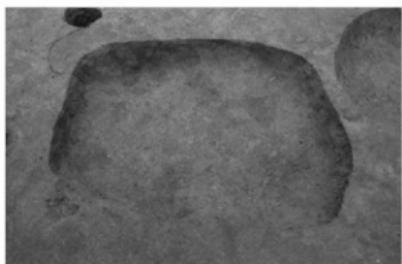
写真図版 10 下ノ内遺跡 (10)



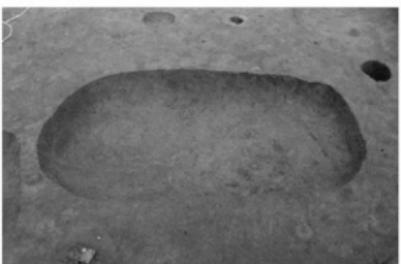
7 A 区VII層SK46 (南東より)



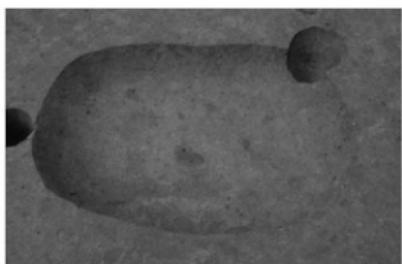
7 A 区VII層SK48 (北東より)



7 A 区VII層SK49 (南東より)



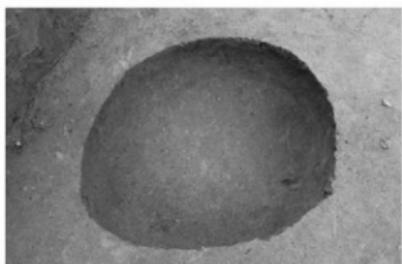
7 A 区VII層SK50 (南より)



7 A 区VII層SK51 (東より)



7 A 区VII層SK52 (南東より)



7 A 区VII層SK53 (南東より)



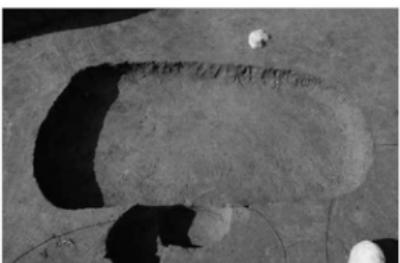
7 A 区VII層SK54 (北東より)

写真図版 11 下ノ内遺跡 (11)

第4節 下ノ内遺跡



7 A 区VII層SK55（南より）



7 A 区VII層SK56（東より）



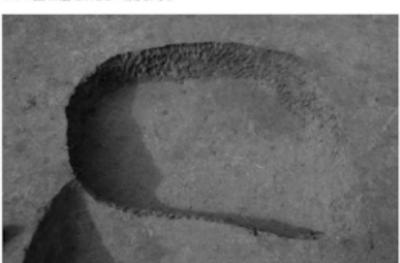
7 A 区VII層SK57（南より）



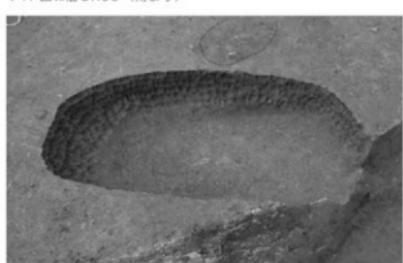
7 A 区VII層SK58（南より）



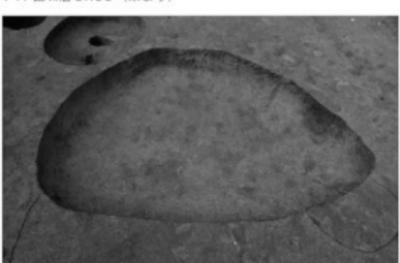
7 A 区VII層SK59（南より）



7 A 区VII層SK60（東より）

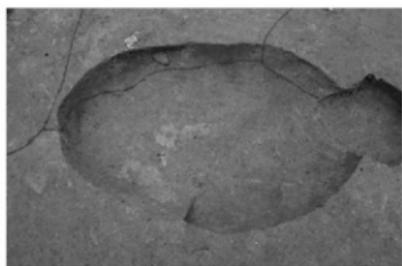


7 A 区VII層SK61（東南より）

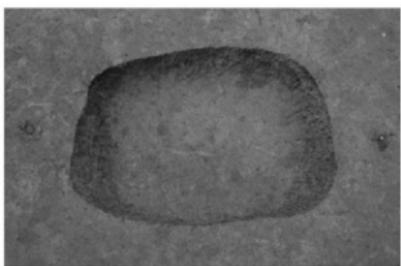


7 A 区VII層SK62（東より）

写真図版 12 下ノ内遺跡 (12)



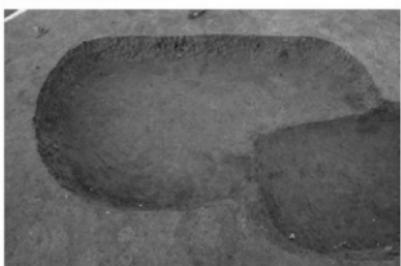
7 A 区VII層SK63（南より）



7 A 区VII層SK64（南より）



7 A 区VII層SK65（南より）



7 A 区VII層SK66（南より）



7 A 区VII層SK67（南より）



7 A 区VII層SK68（東より）



7 A 区VII層SK69（南東より）



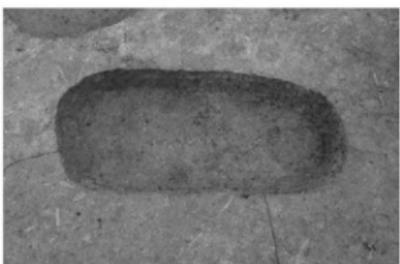
7 A 区VII層SK70（東より）

写真図版 13 下ノ内遺跡（13）

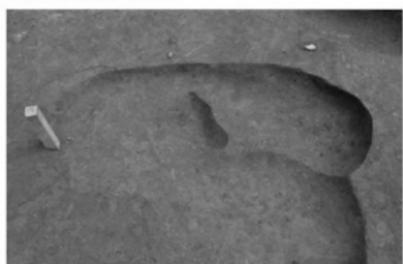
第4節 下ノ内遺跡



7 A 区VII層SK71 (南より)



7 A 区VII層SK72 (南西より)



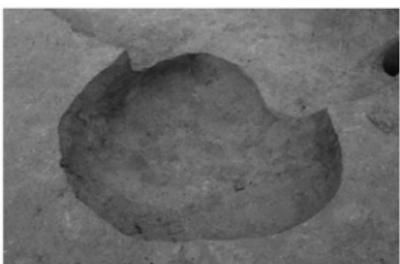
7 A 区VII層SK73 (西より)



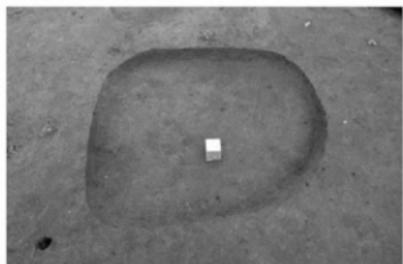
7 A 区VII層SK74 (南東より)



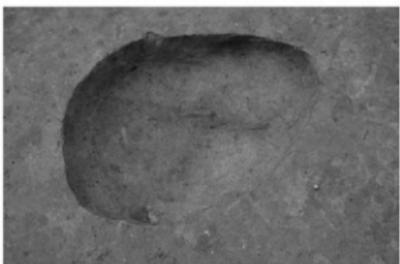
7 A 区VII層SK75 (南より)



7 A 区VII層SK76 (南より)

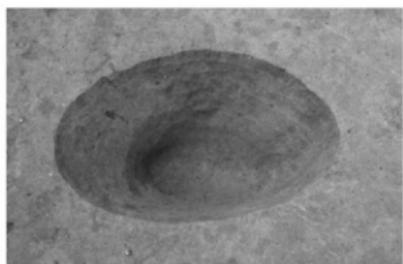


7 A 区VII層SK78 (南より)

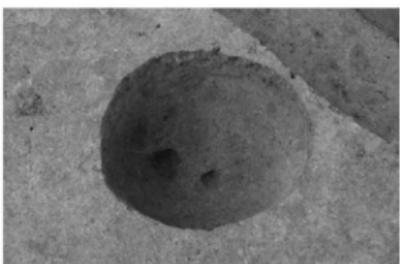


7 A 区VII層SK79 (東より)

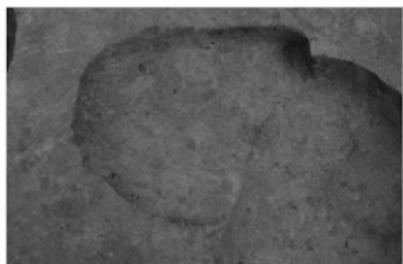
写真図版 14 下ノ内遺跡 (14)



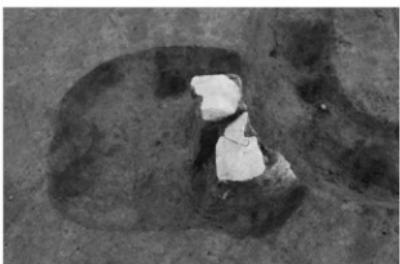
7 A 区VII層SK80 (東より)



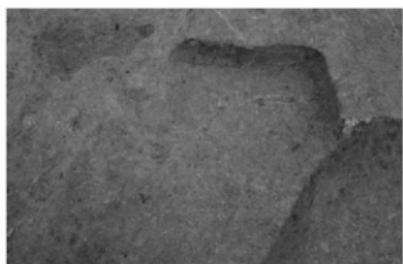
7 A 区VII層SK81 (東より)



7 A 区VII層SK82 (南西より)



7 A 区VII層SK83 (南西より)



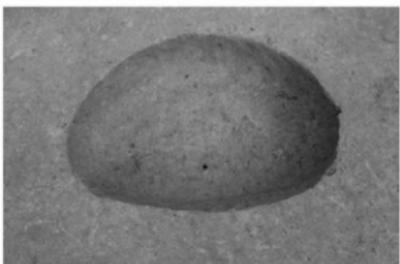
7 A 区VII層SK84 (南西より)



7 A 区VII層SK86 直上遺物出土状況 (南西より)



7 A 区VII層SK86 (南より)



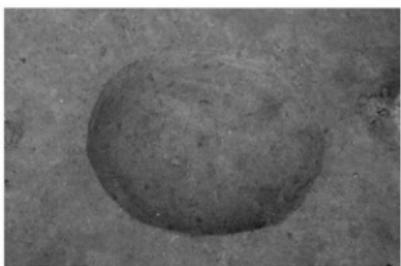
7 A 区VII層SK87 (南より)

写真図版 15 下ノ内遺跡 (15)

第4節 下ノ内遺跡



7 A 区VII層SK88 (南より)



7 A 区VII層SK89 (南西より)



7 A 区VII層SK90 (南より)



7 A 区VII層SX94 (南より)



7 B 区V層全景 (南東より)

写真図版 16 下ノ内遺跡 (16)



7B 区V層SI2a (南より)



7B 区V層SI2a カマド (南より)



7B 区V層SI2a-P16 遺物出土状況 (南より)



7B 区V層SI2a 遺物出土状況 (南より)



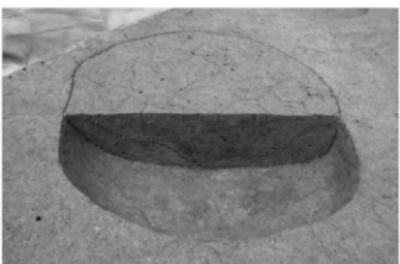
7B 区V層SI2b (南より)

写真図版 17 下ノ内遺跡 (17)

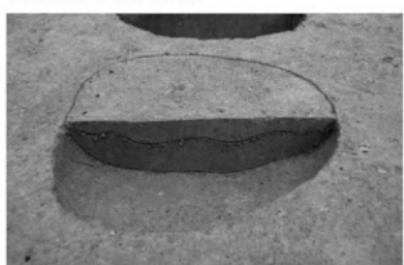
第4節 下ノ内遺跡



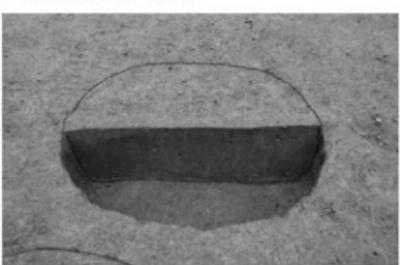
7B区V層SK1断面（南より）



7B区V層SK3断面（南より）



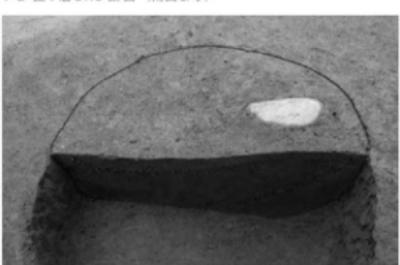
7B区V層SK4断面（南西より）



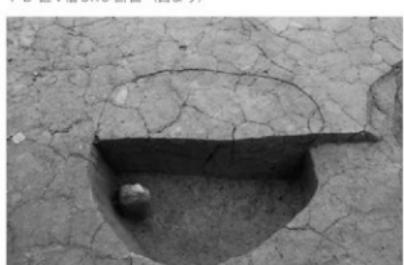
7B区V層SK5断面（南西より）



7B区V層SK6断面（西より）



7B区V層SK7断面（南より）

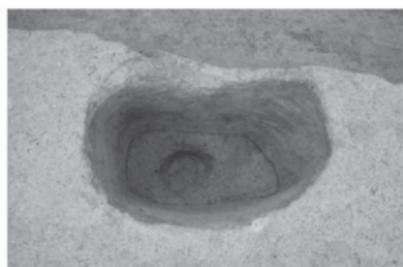


7B区V層SK8断面（東より）



7B区V層SK9（西より）

写真図版 18 下ノ内遺跡（18）



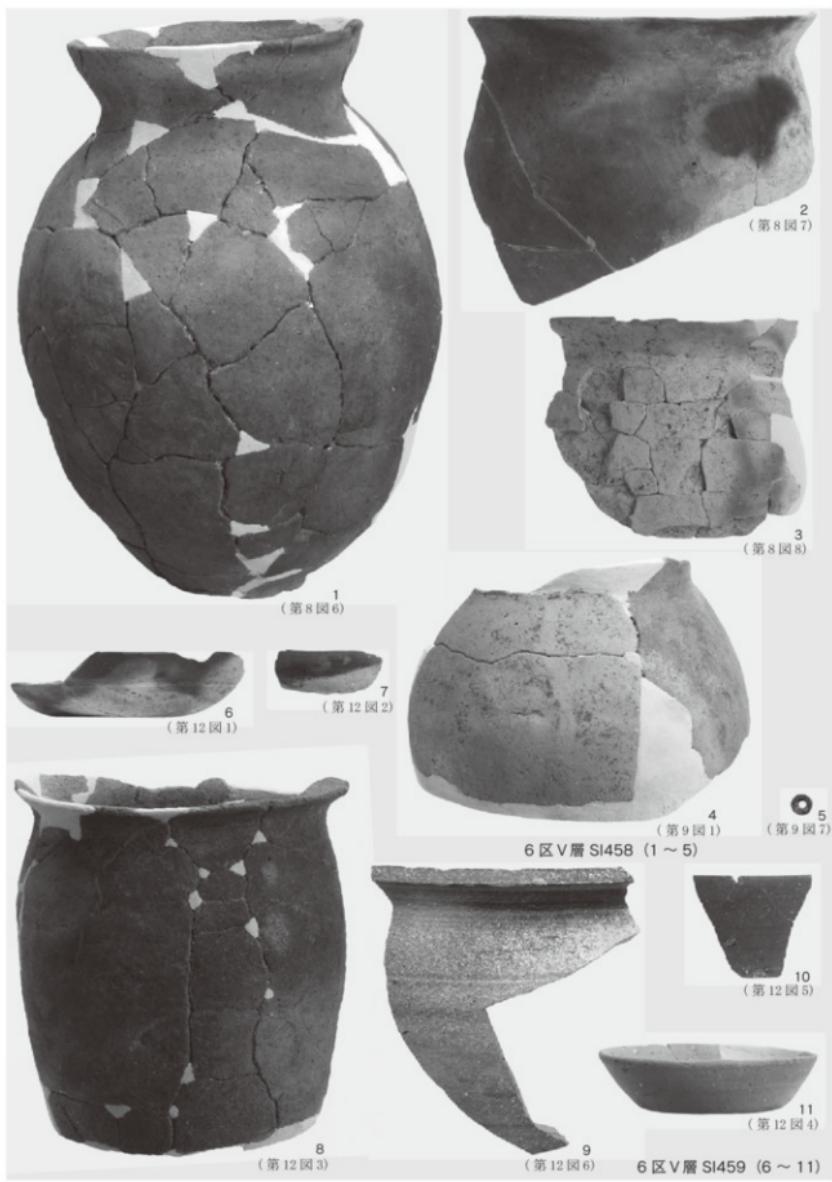
7B 区V層SK10 (南より)



7B 区V層SK11 (南より)



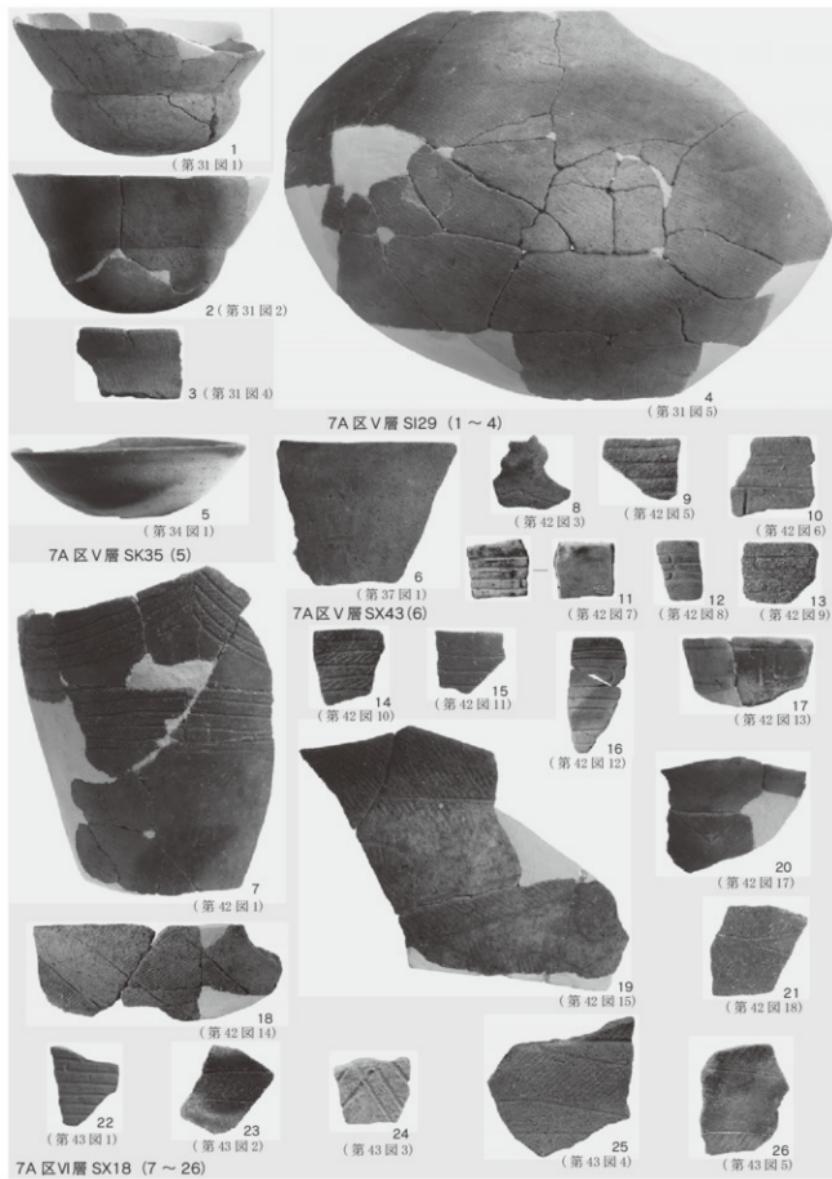
写真図版 19 下ノ内遺跡 (19)、出土遺物 (1)



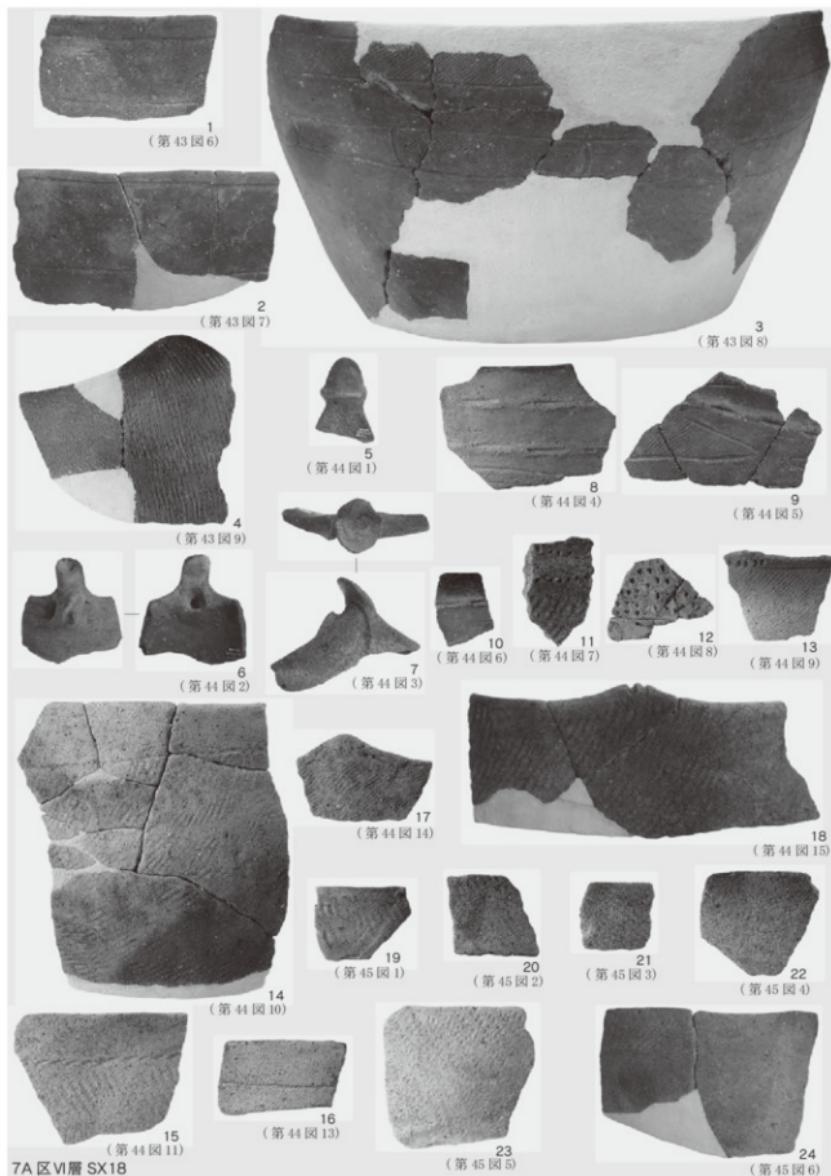
写真図版 20 下ノ内遺跡出土遺物 (2)



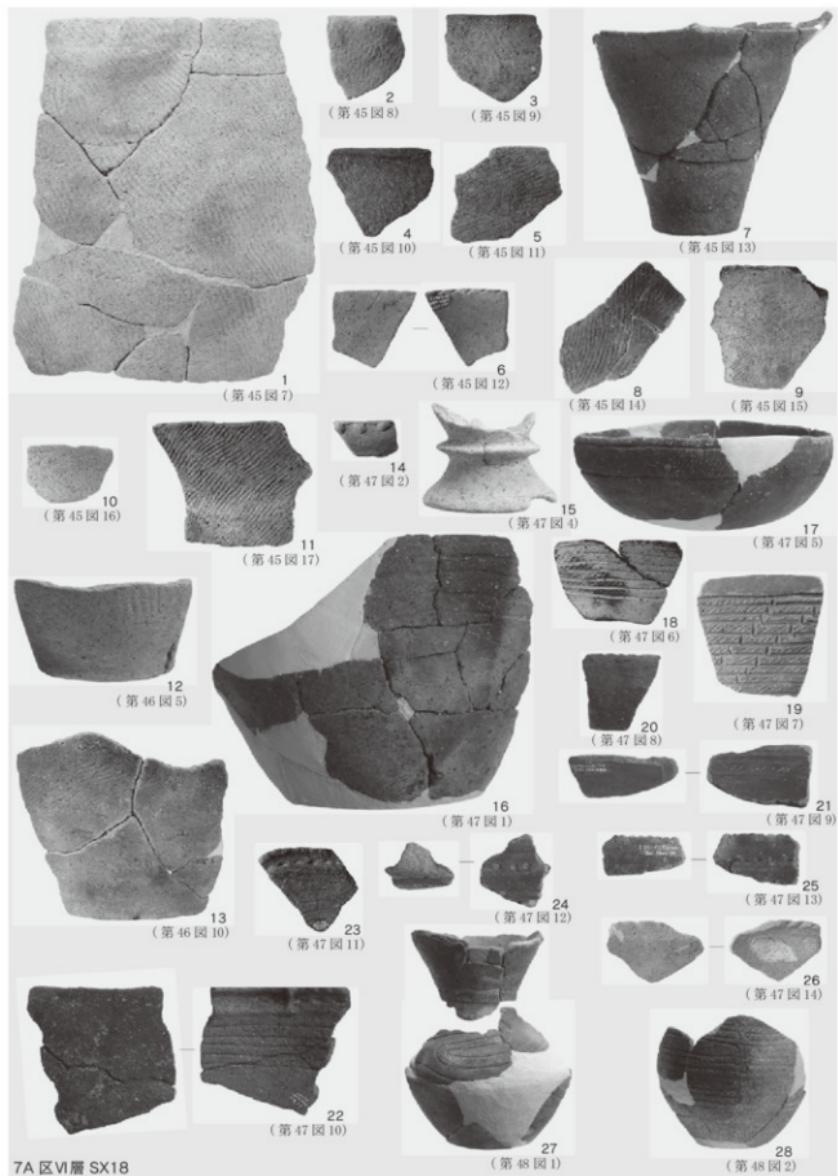
写真図版 21 下ノ内遺跡出土遺物 (3)



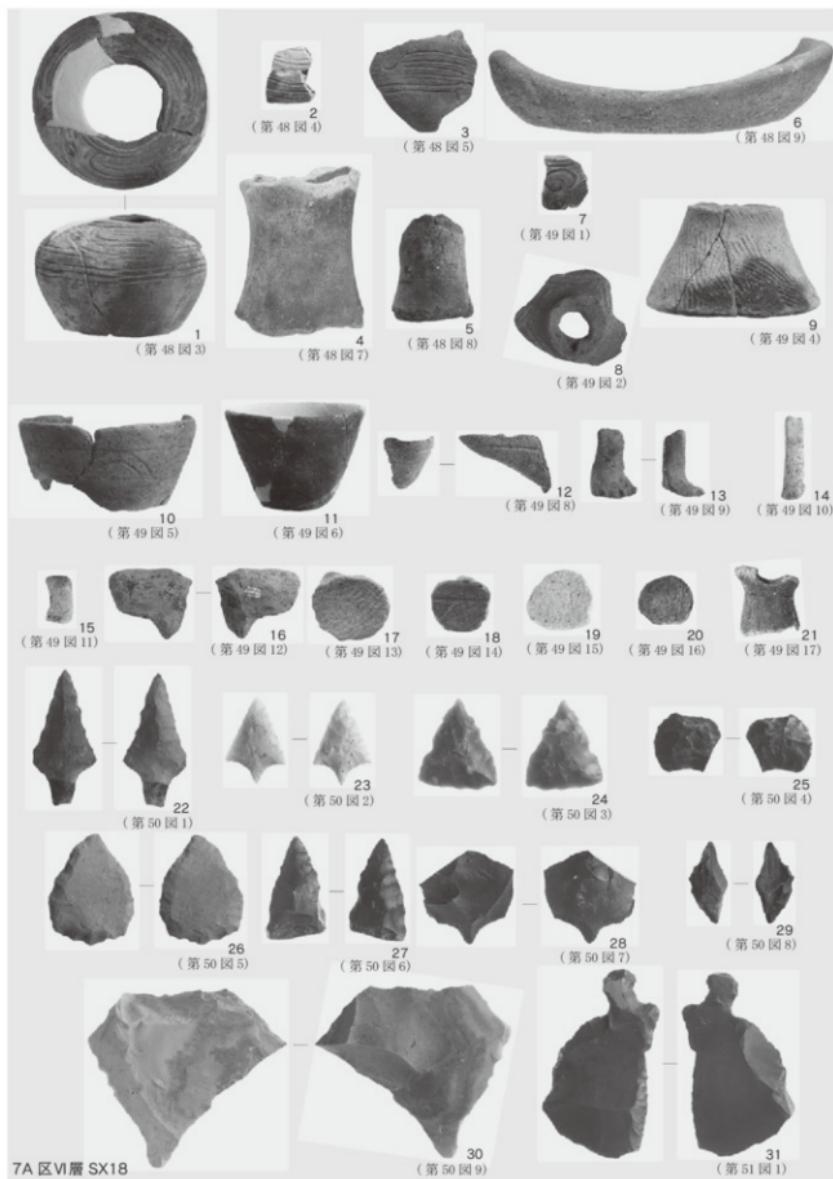
写真図版 22 下ノ内遺跡出土遺物 (4)



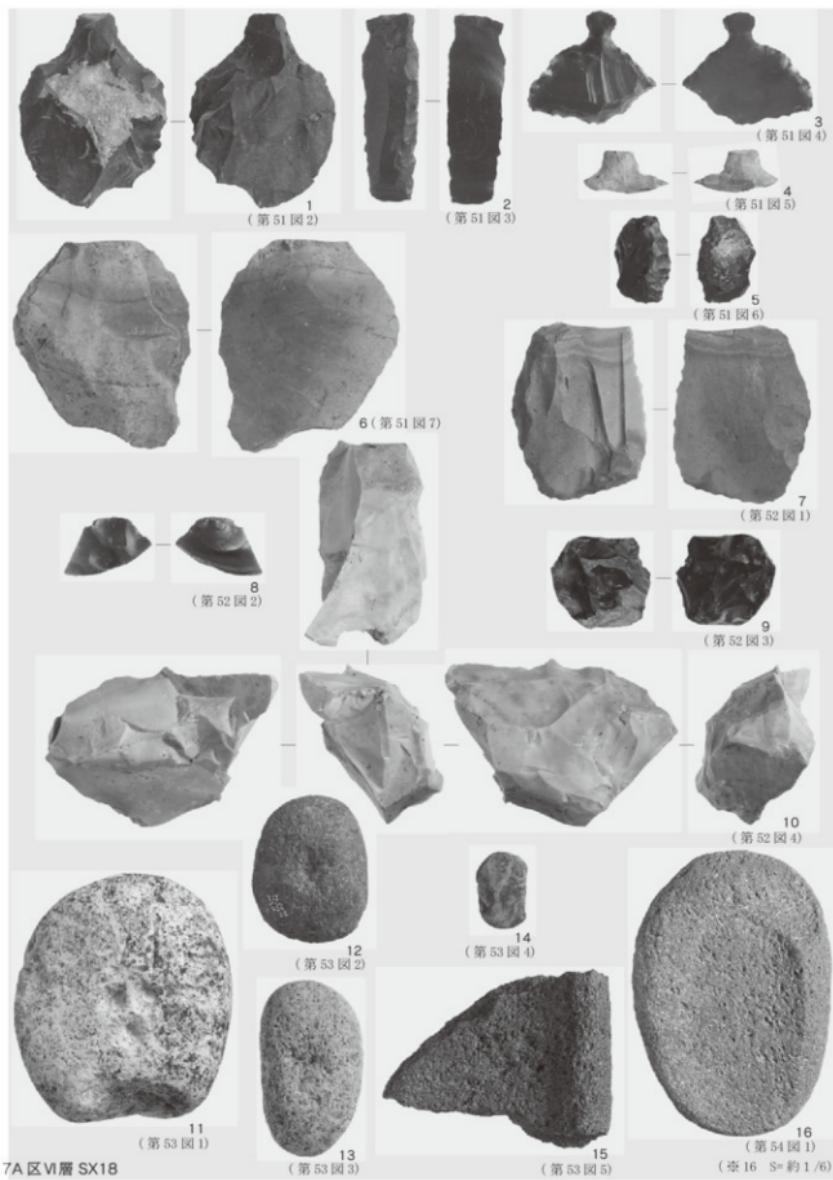
写真図版 23 下ノ内遺跡出土遺物 (5)



写真図版 24 下ノ内遺跡出土遺物 (6)

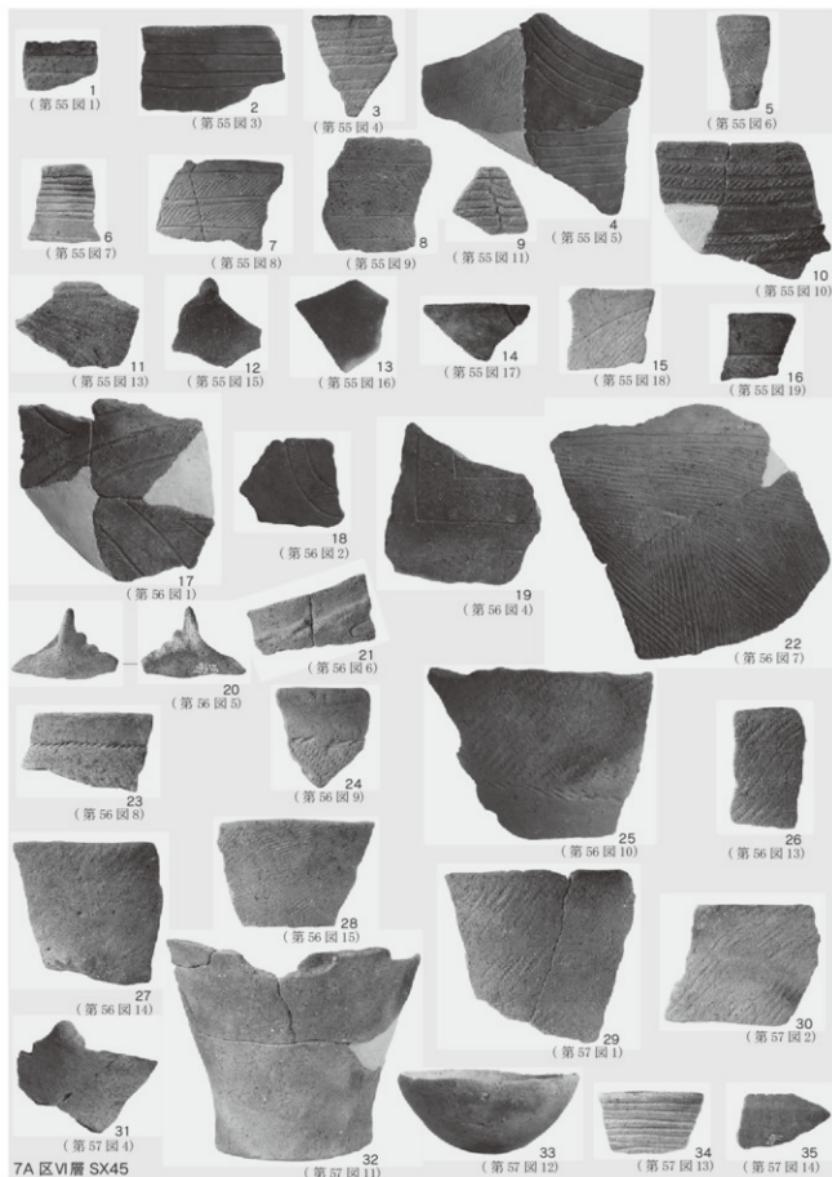


写真図版 25 下ノ内遺跡出土遺物 (7)

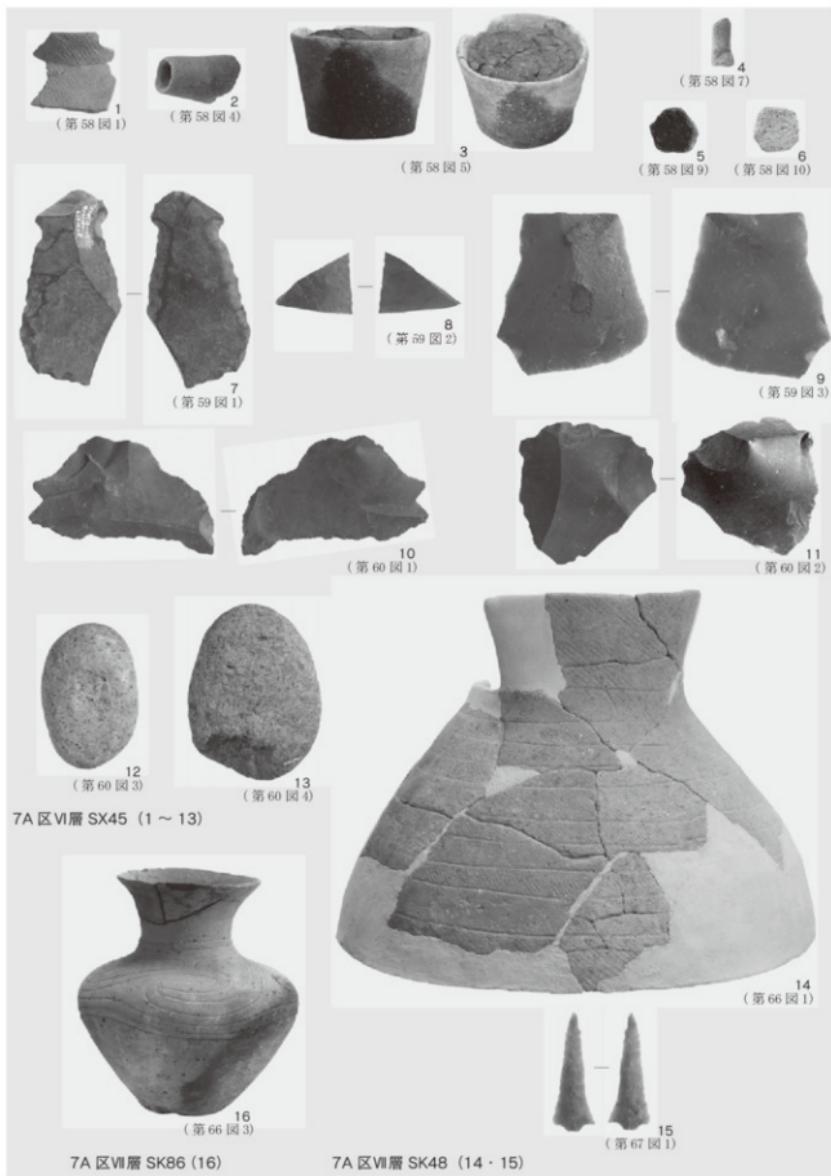


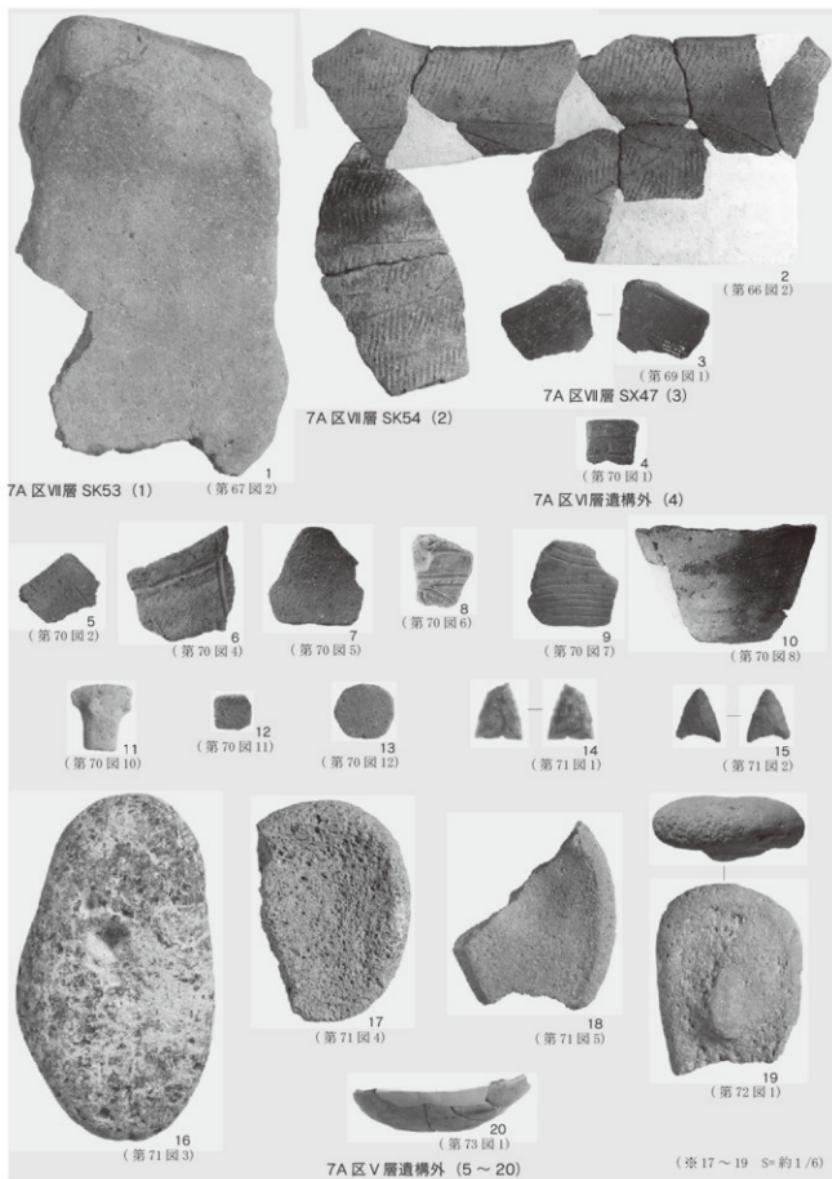
7A区VI層 SX18

写真図版 26 下ノ内遺跡出土遺物 (8)

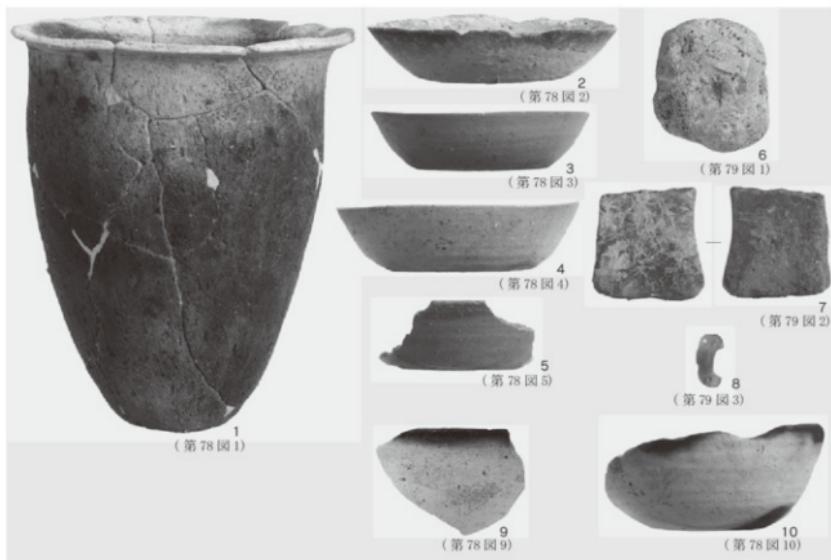


写真図版 27 下ノ内遺跡出土遺物 (9)

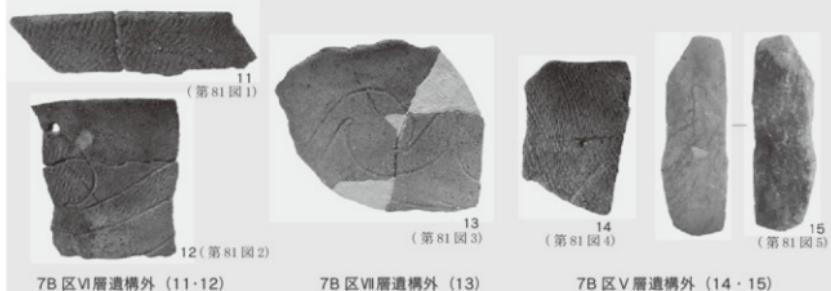




写真図版 29 下ノ内遺跡出土遺物 (11)



7B 区 V 層 SI2a (1 ~ 8) · SI2b (9 · 10)



写真図版 30 下ノ内遺跡出土遺物 (12)

第3章 総括

富沢駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査は、主に都市計画道路及び区画道路部分を対象に平成7年度から開始し、現在も継続中である。ここでは、第2章で報告した平成17年度から18年度にかけての調査成果について時代毎に概観し、総括としたい。

(1) 繩文時代

これまでの調査により、本事業地内南西に位置する下ノ内遺跡では中期前葉から後期中葉までの継続的な人々の活動の痕跡が確認されている（仙台市教委 2011 b ほか）。今回の調査でも下ノ内遺跡6区IX層から中期中葉の大木8D式土器の深鉢片が出土したほか、7A区VI層のSX18・45は宝ヶ峯式期の遺物包含層であることが確認され、その下層の7A区VII層上面で後期中葉の宝ヶ峯式期の遺構群が検出された。今回の調査成果は、過去の調査内容を追認し、遺跡東側の空間的な空白を埋める結果となった。

(2) 古墳時代

前期の竪穴住居跡は、下ノ内遺跡7A区で1軒、中期は下ノ内遺跡6区で1軒検出されており、本事業地内南西侧における居住域の広がりが確認された。

(3) 古代

竪穴住居跡は、伊古田遺跡1区で1軒、2B区で2軒、下ノ内遺跡6区で2軒、7A区で1軒、7B区で1軒を検出したことにより、本事業地南西側は居住域として利用されていたことが確認された。

畑耕作痕と考えられる小溝状遺構群は大野田古墳群10区、下ノ内遺跡6区および7A区のV層上面で検出され、これらの調査区周辺における生産域の存在が確認された。下ノ内遺跡6区では、竪穴住居跡より古いものと新しいものの両方が検出され、生産域から居住域、また生産域へと変化していく状況が確認された。

引用・参考文献

- 氏家 和典 1988 『東北古代史の基礎的研究』東北プリント
- 小林 達雄編 2008 『總覽 繩文土器』『總覽 繩文土器』刊行委員会
- (財)青藤報恩会編 1991 『宝ヶ峯』東北プリント
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報IV』仙台市文化財調査報告書第 82 集
- 1990 『下ノ内遺跡』仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書II - 』仙台市文化財調査報告書第 136 集
- 1995 『伊古田遺跡』仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書III - 』仙台市文化財調査報告書第 193 集
- 1996 『下ノ内浦・山口遺跡』仙台市高速鉄道関係遺跡調査報告書V - 』仙台市文化財調査報告書第 207 集
- 2000a 『高田B遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集
- 2000b 『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡』仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I - 』仙台市文化財調査報告書第 243 集
- 2000c 『王ノ壇遺跡・都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書I - 』仙台市文化財調査報告書第 249 集
- 2001 『大野田遺跡第 2 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 252 集
- 2004a 『元袋遺跡 - 都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書II』仙台市文化財調査報告書第 272 集
- 2004b 『鴻ノ巣遺跡第 7 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 280 集
- 2010a 『西台烟遺跡第 1・2 次調査』仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書V - 』仙台市文化財調査報告書第 359 集
- 2010b 『沼向遺跡 4 ~ 34 次調査』宮城県仙台港後背地土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書III - 』仙台市文化財調査報告書第 360 集
- 2010c 『沓形遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書III - 』仙台市文化財調査報告書第 363 集
- 2010d 『上野遺跡 第 6・7 次発掘調査 - 都市計画道路「富沢山田線」関連遺跡発掘調査報告書 - 』仙台市文化財調査報告書第 365 集
- 2011a 『西台烟遺跡第 3 次調査 - 仙台市あすと長町土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書VI - 』仙台市文化財調査報告書第 388 集
- 2011b 『下ノ内遺跡・春日社古墳・大野田官衙遺跡ほか - 仙台市富沢駅周辺地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書II - 』仙台市文化財調査報告書第 390 集
- 庄子貞雄・山田一郎 1980 『宮城県に分布する灰白色火山灰』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』宮城県多賀城跡調査研究所
- 仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史 特別編2 考古資料』仙台市
- 1999 『仙台市史 通史編1 原始(改訂版)』仙台市
- 2000 『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市
- 田辺 昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 辻 秀人 1994 「東北南部における古墳出現期の土器編年 - その1 会津盆地 - 」「東北学院大学論集」第 26 号
- 1995 「東北南部における古墳出現期の土器編年 - その2 - 」「東北学院大学論集」第 27 号
- 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究(課題番号: 15320111)』平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書 東北学院大学文学部
- 中村 浩・望月幹夫編 2001 『土師器と須恵器』普及版季刊考古学 雄山閣
- 山内 清男 1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

報 告 書 抄 錄